

科目一覽

最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

総合教育科目_外国語科目	[M0070]	総合英語 I (a) [齋藤 元治] 春学期	1
総合教育科目_外国語科目	[M0077]	総合英語 I (b) [齋藤 元治] 秋学期	2
総合教育科目_外国語科目	[M0010]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [齋藤 元治] 通年	3
総合教育科目_外国語科目	[M0071]	総合英語 I (a) [衣川 清子] 春学期	4
総合教育科目_外国語科目	[M0078]	総合英語 I (b) [衣川 清子] 秋学期	5
総合教育科目_外国語科目	[M0011]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [衣川 清子] 通年	6
総合教育科目_外国語科目	[M0072]	総合英語 I (a) [松下 晴彦] 春学期	7
総合教育科目_外国語科目	[M0079]	総合英語 I (b) [松下 晴彦] 秋学期	8
総合教育科目_外国語科目	[M0012]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [松下 晴彦] 通年	9
総合教育科目_外国語科目	[M0073]	総合英語 I (a) [村井 三千男] 春学期	10
総合教育科目_外国語科目	[M0080]	総合英語 I (b) [村井 三千男] 秋学期	11
総合教育科目_外国語科目	[M0013]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [村井 三千男] 通年	12
総合教育科目_外国語科目	[M0074]	総合英語 I (a) [石井 麻璃絵] 春学期	14
総合教育科目_外国語科目	[M0081]	総合英語 I (b) [石井 麻璃絵] 秋学期	15
総合教育科目_外国語科目	[M0014]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [石井 麻璃絵] 通年	16
総合教育科目_外国語科目	[M0075]	総合英語 I (a) [山本 五郎] 春学期	17
総合教育科目_外国語科目	[M0082]	総合英語 I (b) [山本 五郎] 秋学期	18
総合教育科目_外国語科目	[M0015]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [山本 五郎] 通年	19
総合教育科目_外国語科目	[M0076]	総合英語 I (a) [桑原 洋] 春学期	20
総合教育科目_外国語科目	[M0083]	総合英語 I (b) [桑原 洋] 秋学期	21
総合教育科目_外国語科目	[M0016]	総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】 [桑原 洋] 通年	22
総合教育科目_外国語科目	[M0084]	総合英語 II (a) [式町 眞紀子] 春学期	23
総合教育科目_外国語科目	[M0091]	総合英語 II (b) [式町 眞紀子] 秋学期	24
総合教育科目_外国語科目	[M0020]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [式町 眞紀子] 通年	25
総合教育科目_外国語科目	[M0085]	総合英語 II (a) [相馬 美明] 春学期	27
総合教育科目_外国語科目	[M0092]	総合英語 II (b) [相馬 美明] 秋学期	28
総合教育科目_外国語科目	[M0021]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [相馬 美明] 通年	29
総合教育科目_外国語科目	[M0086]	総合英語 II (a) [浦川 智子] 春学期	30
総合教育科目_外国語科目	[M0093]	総合英語 II (b) [浦川 智子] 秋学期	31
総合教育科目_外国語科目	[M0022]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [浦川 智子] 通年	32
総合教育科目_外国語科目	[M0087]	総合英語 II (a) [蒔田 裕美] 春学期	33
総合教育科目_外国語科目	[M0094]	総合英語 II (b) [蒔田 裕美] 秋学期	34
総合教育科目_外国語科目	[M0023]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [蒔田 裕美] 通年	35
総合教育科目_外国語科目	[M0088]	総合英語 II (a) [北出 広子] 春学期	36
総合教育科目_外国語科目	[M0095]	総合英語 II (b) [北出 広子] 秋学期	37
総合教育科目_外国語科目	[M0024]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [北出 広子] 通年	38
総合教育科目_外国語科目	[M0089]	総合英語 II (a) [小川 真也] 春学期	39
総合教育科目_外国語科目	[M0096]	総合英語 II (b) [小川 真也] 秋学期	40
総合教育科目_外国語科目	[M0025]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [小川 真也] 通年	41
総合教育科目_外国語科目	[M0090]	総合英語 II (a) [渡辺 廣人] 春学期	42
総合教育科目_外国語科目	[M0097]	総合英語 II (b) [渡辺 廣人] 秋学期	43
総合教育科目_外国語科目	[M0026]	総合英語 II 【2017 年度以前入学生対象】 [渡辺 廣人] 通年	44
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (a) [松下 晴彦] 春学期	45
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (b) [松下 晴彦] 秋学期	46
総合教育科目_外国語科目	[M0030]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [松下 晴彦] 通年	47
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (a) [石井 麻璃絵] 春学期	48
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (b) [石井 麻璃絵] 秋学期	49
総合教育科目_外国語科目	[M0031]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [石井 麻璃絵] 通年	50
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (a) [衣川 清子] 春学期	51
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (b) [衣川 清子] 秋学期	52
総合教育科目_外国語科目	[M0032]	総合英語 III 【2017 年度以前入学生対象】 [衣川 清子] 通年	53
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (a) [山本 五郎] 春学期	54
総合教育科目_外国語科目		総合英語 III (b) [山本 五郎] 秋学期	55

総合教育科目_外国語科目	[M0033] 総合英語Ⅲ	[2017 年度以前入学生対象] [山本 五郎] 通年	56
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (a) [齋藤 元治]	春学期	57
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (b) [齋藤 元治]	秋学期	58
総合教育科目_外国語科目	[M0034] 総合英語Ⅲ	[2017 年度以前入学生対象] [齋藤 元治] 通年	59
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (a) [村井 三千男]	春学期	60
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (b) [村井 三千男]	秋学期	61
総合教育科目_外国語科目	[M0035] 総合英語Ⅲ	[2017 年度以前入学生対象] [村井 三千男] 通年	62
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (a) [桑原 洋]	春学期	64
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ (b) [桑原 洋]	秋学期	65
総合教育科目_外国語科目	[M0036] 総合英語Ⅲ	[2017 年度以前入学生対象] [桑原 洋] 通年	66
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [蒔田 裕美]	春学期	67
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [蒔田 裕美]	秋学期	68
総合教育科目_外国語科目	[M0040] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [蒔田 裕美] 通年	69
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [北出 広子]	春学期	71
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [北出 広子]	秋学期	72
総合教育科目_外国語科目	[M0041] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [北出 広子] 通年	73
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [小川 真也]	春学期	75
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [小川 真也]	秋学期	76
総合教育科目_外国語科目	[M0042] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [小川 真也] 通年	77
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [式町 眞紀子]	春学期	78
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [式町 眞紀子]	秋学期	79
総合教育科目_外国語科目	[M0043] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [式町 眞紀子] 通年	80
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [渡辺 廣人]	春学期	82
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [渡辺 廣人]	秋学期	83
総合教育科目_外国語科目	[M0044] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [渡辺 廣人] 通年	84
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [相馬 美明]	春学期	85
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [相馬 美明]	秋学期	86
総合教育科目_外国語科目	[M0045] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [相馬 美明] 通年	87
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (a) [浦川 智子]	春学期	88
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅳ (b) [浦川 智子]	秋学期	89
総合教育科目_外国語科目	[M0046] 総合英語Ⅳ	[2017 年度以前入学生対象] [浦川 智子] 通年	90
総合教育科目_外国語科目	[M0130] 英語コミュニケーションⅠ (a)	[2018 年度以降入学生対象] [伊藤 真紀]	
	春学期		91
総合教育科目_外国語科目	[M0131] 英語コミュニケーションⅠ (b)	[2018 年度以降入学生対象] [伊藤 真紀]	
	秋学期		92
総合教育科目_外国語科目	[M0050] 英語コミュニケーションⅠ	[2017 年度以前入学生対象] [伊藤 真紀] 通年	93
総合教育科目_外国語科目	[M0060] 英語コミュニケーションⅡ	[2017 年度以前入学生対象] [Nemes Roland] 通年	95
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	[M330] スポーツ健康学入門 [平野 裕一、泉 重樹、伊藤 真紀、荻部 俊二、鬼頭 英明、瀬戸 宏明、高見 京太、吉田 政幸]	春学期	96
総合教育科目_視野形成科目 (必修)	[M0320] スポーツとキャリア形成 [伊藤 真紀]	春学期	97
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0530] 経営学 [新海 貴弘]	春学期	98
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0540] 法学 (日本国憲法) [森 浩寿]	春学期	99
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0550] コミュニケーション論 [佐塚 元章]	春学期	100
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0600] 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘]	春学期	101
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0601] 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘]	春学期	102
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0602] 情報リテラシーⅠ [新海 貴弘]	春学期	103
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0680] 統計学Ⅰ [笹井 浩行]	春学期	104
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0700] 保健体育概論 [2017 年度以前入学生対象] [永木 耕介]	春学期	105
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0710] 障害者福祉論 [山岸 倫子]	春学期	106
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0720] 音楽文化論 [関野 直樹]	春学期	107
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0750] キャリアデザイン論 [加藤 寛之]	春学期	108
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0751] キャリアデザイン論 [加藤 寛之]	春学期	109
	[M0760] オリンピック・パラリンピックを考える [荒井 弘和、吉田 康伸]	春学期	110
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0610] 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘]	秋学期	111
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0611] 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘]	秋学期	112
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0612] 情報リテラシーⅡ [新海 貴弘]	秋学期	113
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0560] 人間とスポーツ [成田 道彦]	秋学期	114

総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0630]	スポーツレクリエーション論 [谷本 都栄] 秋学期	115
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0690]	統計学Ⅱ [笹井 浩行] 秋学期	116
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0570]	女性とスポーツ [伊藤 真紀] 秋学期	117
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0670]	生命倫理 [尾崎 恭一] 秋学期	118
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0520]	数学 [坂本 寛] 秋学期	119
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0730]	基礎科学 [瀬戸 宏明] 秋学期	120
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0660]	哲学 [尾崎 恭一] 秋学期	121
総合教育科目_視野形成科目 (必修選択)	[M0740]	多摩地域形成論 [関司 直也] 秋学期	122
[M0770]		アスリートキャリア論 [成田 道彦] 春学期	123
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1150]	生理学 【2018年度以降入学生対象】 [高見 京太] 春学期	124
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1010]	生理学A 【2017年度以前入学生対象】 [高見 京太] 春学期	125
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1160]	機能解剖学A 【2018年度以降入学生対象】 [泉 重樹] 春学期	126
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1020]	機能解剖学 【2017年度以前入学生対象】 [泉 重樹] 春学期	127
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1040]	スポーツ哲学 [早瀬 健介] 春学期	128
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1630]	スポーツ社会学 [吉田 毅] 春学期	129
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1170]	ヘルスデザイン論 【2018年度以降入学生対象】 [林田 はるみ] 秋学期	130
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1130]	健康科学 【2013~2017年度入学生対象】 [林田 はるみ] 秋学期	131
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1050]	スポーツ運動学Ⅰ [工藤 裕仁] 秋学期	132
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1070]	スポーツ心理学A [立谷 泰久] 秋学期	133
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1140]	スポーツ史 [山本 浩] 秋学期	135
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1750]	スポーツビジネス論Ⅰ 【2018年度以降入学生対象】 [井上 尊寛] 秋学期	136
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1080]	運動生理学概論 [高見 京太] 春学期	137
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1120]	スポーツマネジメント論 [川崎 登志喜] 秋学期	138
専門教育科目_専門基礎科目 (講義科目)	[M1730]	スポーツリスクマネジメント [木下 訓光] 春学期	139
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1460]	スポーツ実習入門 [井上 尊寛] 春学期	141
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1461]	スポーツ実習入門 [清雲 栄純] 春学期	142
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1462]	スポーツ実習入門 [清雲 栄純] 春学期	143
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1463]	スポーツ実習入門 [永木 耕介] 春学期	144
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1464]	スポーツ実習入門 [成田 道彦] 春学期	145
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1465]	スポーツ実習入門 [成田 道彦] 春学期	146
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1466]	スポーツ実習入門 [Nemes Roland] 春学期	147
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1467]	スポーツ実習入門 [Nemes Roland] 春学期	148
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1420]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 春学期	149
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1421]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 春学期	150
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1422]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 春学期	151
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1423]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 春学期	152
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1424]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 秋学期	153
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1425]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 秋学期	154
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1426]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 秋学期	155
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1427]	陸上競技実習 [荻部 俊二、坪田 智夫] 秋学期	156
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1440]	ラケットスポーツ実習 [升 佑二郎] 春学期	157
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1441]	ラケットスポーツ実習 [植村 直己] 春学期	158
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1442]	ラケットスポーツ実習 [升 佑二郎] 春学期	159
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1443]	ラケットスポーツ実習 [植村 直己] 春学期	160
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1444]	ラケットスポーツ実習 [升 佑二郎] 秋学期	161
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1445]	ラケットスポーツ実習 [植村 直己] 秋学期	162
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1446]	ラケットスポーツ実習 [升 佑二郎] 秋学期	163
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1447]	ラケットスポーツ実習 [植村 直己] 秋学期	164
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1440]	スイミング実習 [八塚 明憲] 春学期	165
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1441]	スイミング実習 [金田 和也] 春学期	166
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1442]	スイミング実習 [八塚 明憲] 春学期	167
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1443]	スイミング実習 [金田 和也] 春学期	168
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1444]	スイミング実習 [八塚 明憲] 秋学期	169
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1445]	スイミング実習 [金田 和也] 秋学期	170
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目)	[M1446]	スイミング実習 [八塚 明憲] 秋学期	171

専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1447】 スイミング実習 [金田 和也] 秋学期	172
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1480】 ボールスポーツ実習 [山口 良博] 春学期	173
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1481】 ボールスポーツ実習 [清雲 栄純] 春学期	174
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1482】 ボールスポーツ実習 [山口 良博] 春学期	175
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1483】 ボールスポーツ実習 [清雲 栄純] 春学期	176
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1484】 ボールスポーツ実習 [山口 良博] 秋学期	177
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1485】 ボールスポーツ実習 [清雲 栄純] 秋学期	178
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1486】 ボールスポーツ実習 [山口 良博] 秋学期	179
専門教育科目_専門基礎科目 (実技科目) 【M1487】 ボールスポーツ実習 [清雲 栄純] 秋学期	180
専門教育科目_専門基幹科目 【M1790】 スポーツコーチング論 A 【2018 年度以降入学生対象】 [平野 裕一] 秋学期	181
専門教育科目_専門基幹科目 【M1610】 スポーツコーチング論 I 【2017 年度以前入学生対象】 [平野 裕一] 秋学期	182
専門教育科目_専門基幹科目 【M1620】 スポーツトレーニング論 I [平野 裕一] 春学期	183
専門教育科目_専門基幹科目 【M1750】 スポーツビジネス論 I 【2017 年度以前入学生対象】 [井上 尊寛] 秋学期	184
専門教育科目_専門基幹科目 【M1670】 生理学 B [高見 京太] 秋学期	185
専門教育科目_専門基幹科目 【M1030】 衛生学 [鬼頭 英明] 秋学期	186
専門教育科目_専門基幹科目 【M1760】 スポーツ法学 I [森 浩寿] 秋学期	187
専門教育科目_専門基幹科目 【M1800】 機能解剖学 B [加藤 基] 秋学期	188
専門教育科目_専門基幹科目 【M1100】 スポーツ栄養学 [長谷川 祐子] 春学期	189
専門教育科目_専門基幹科目 【M1110】 スポーツバイオメカニクス [工藤 裕仁] 春学期	190
専門教育科目_専門基幹科目 【M1770】 体力測定・評価論 [高見 京太、泉 重樹] 春学期	191
専門教育科目_専門基幹科目 【M1770】 体力測定・評価論 [高見 京太、泉 重樹] 春学期	193
専門教育科目_専門基幹科目 【M1740】 学校保健 [鬼頭 英明] 春学期	194
専門教育科目_専門基幹科目 【M1780】 予防医学概論 [瀬戸 宏明] 秋学期	195
専門教育科目_専門基幹科目 【M1700】 公衆衛生学 [鬼頭 英明] 秋学期	196
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2010】 運動療法総論 [林田 はるみ] 秋学期	197
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M1680】 スポーツコンディショニング論 I [春日井 有輝] 秋学期	198
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2040】 アスレティックトレーナー概論 [泉 重樹] 秋学期	199
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2330】 Health and Exercise Sciences [笹井 浩行] 秋学期	200
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2020】 リハビリテーション概論 [昇 寛] 春学期	201
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2230】 健康と疾患 [昇 寛] 春学期	202
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2050】 スポーツコンディショニング論 II [春日井 有輝] 春学期	203
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 テーピング・コンディショニング指導論 I 【2018 年度以降入学生対象】 [春日井 有輝] 通年	204
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 テーピング・コンディショニング指導論 II 【2018 年度以降入学生対象】 [春日井 有輝] 通年	205
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2240】 テーピング・コンディショニング指導論 【2017 年度以前入学生対象】 [春日井 有輝] 通年	206
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2060】 運動処方・負荷テスト [木下 訓光] 春学期	207
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2250】 スポーツ医学 (内科系) [瀬戸 宏明] 春学期	209
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2080】 生活習慣病と身体活動 [木下 訓光] 春学期	210
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2090】 運動生理学 [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期	211
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2110】 アスレティックリハビリテーション [泉 重樹] 秋学期	213
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2260】 スポーツ医学 (外科系) [瀬戸 宏明] 秋学期	214
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2130】 ジョギング・ウォーキング実習 [成田 道彦] 春学期	215
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2140】 フィットネス・トレーニング実習 [泉 重樹、春日井 有輝] 春学期	216
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2140】 フィットネス・トレーニング実習 [泉 重樹] 春学期	217
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2141】 フィットネス・トレーニング実習 [泉 重樹、春日井 有輝] 春学期	218
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2141】 フィットネス・トレーニング実習 [泉 重樹] 春学期	219
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2150】 エアロビック運動実習 [林田 はるみ] 秋学期	220
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2270】 体力測定・評価実習 [高見 京太、泉 重樹] 秋学期	221
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2271】 体力測定・評価実習 [高見 京太、泉 重樹] 秋学期	222
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2280】 健康増進施設実習 [高見 京太] 通年	223
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2291】 スポーツ現場実習 A [泉 重樹] 通年	224
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2292】 スポーツ現場実習 B [春日井 有輝] 通年	226
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目 【M2170】 スポーツリハビリテーション実習 [安藤 正志] 春学期	228

専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2190】	運動負荷テスト実習 [木下 訓光]	秋学期	229
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2191】	運動負荷テスト実習 [木下 訓光]	秋学期	231
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2310】	運動学実習 [安藤 正志]	秋学期	233
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2321】	スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明]	秋学期	234
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2321】	スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明]	秋学期	235
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2322】	スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明]	秋学期	236
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2322】	スポーツ医科学実習 [木下 訓光、瀬戸 宏明]	秋学期	237
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3010】	レジャー論 [谷本 都栄]	春学期	238
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M1650】	スポーツ文化論 [早瀬 健介]	春学期	239
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3160】	地域スポーツ経営論 [清雲 栄純]	春学期	241
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3200】	スポーツ組織論 【2018年度以降入学生対象】 [伊藤 真紀]	秋学期	242
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M0620】	スポーツとまちづくり 【2017年度以前入学生対象】 [伊藤 真紀]	秋学期	243
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3020】	スポーツ経済論 [宮下 量久]	秋学期	244
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3080】	スポーツメディア論 [山本 浩]	秋学期	245
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3050】	スポーツと政治 [赤堀 宏幸]	春学期	247
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3060】	スポーツマーケティング論 [井上 尊寛]	春学期	248
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3170】	スポーツビジネス論Ⅱ [伊藤 真紀]	春学期	249
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3090】	スポーツ行政論 [川崎 登志喜]	秋学期	250
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3180】	スポーツ法学Ⅱ [鈴木 知幸]	秋学期	251
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3040】	スポーツ取材論 [増島 みどり]	秋学期	253
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3070】	スポーツ産業論 [吉田 政幸]	春学期	255
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3120】	スポーツジャーナリズム論 (新聞) [荻田 則夫]	春学期	257
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3130】	スポーツジャーナリズム論 (放送) [佐塚 元章]	秋学期	258
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3140】	スポーツ政策論 [鈴木 知幸]	秋学期	260
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3190】	スポーツビジネス論Ⅲ [吉田 政幸]	秋学期	262
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3100】	スポーツイベント論 [吉田 政幸]	秋学期	263
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3150】	マーケティングリサーチ実習 [井上 尊寛]	通年	264
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4010】	トップアスリート論 [増島 みどり]	春学期	265
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M0700】	保健体育概論 【2018年度以降入学生対象】 [永木 耕介]	春学期	267
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4020】	スポーツトレーニング論Ⅱ [平野 裕一]	秋学期	268
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M1690】	スポーツ心理学B [立谷 泰久]	春学期	269
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4050】	スポーツ戦略・戦術論 [熊川 大介]	春学期	271
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4030】	スポーツ運動学Ⅱ [工藤 裕仁]	春学期	272
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4040】	スポーツコーチング論Ⅱ [Nemes Roland]	秋学期	273
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4500】	ダンス実習 [町田 樹]	秋学期	274
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4250】	ダンス指導論演習 [小川 洋子]	秋学期	276
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4251】	ダンス指導論演習 [小川 洋子]	秋学期	277
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4510】	柔道実習 【2018年度以降入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	春学期	278
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4511】	柔道実習 【2018年度以降入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	春学期	279
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4260】	柔道指導論実習 【2013~2017年度以前入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	春学期	280
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4261】	柔道指導論実習 【2013~2017年度以前入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	春学期	281
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4520】	柔道指導論演習 【2018年度以降入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	秋学期	282
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4521】	柔道指導論演習 【2018年度以降入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	秋学期	283
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4270】	武道指導論演習 【2013~2017年度入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	秋学期	284
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4271】	武道指導論演習 【2013~2017年度入学生対象】 [佐藤 伸一郎]	秋学期	285
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4530】	剣道実習 【2018年度以降入学生】 [山崎 廣道]	春学期	286

専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4531】	剣道実習【2018年度以降入学生】〔山崎 廣道〕	春学期	288
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4540】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕	秋学期	290
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4541】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕	秋学期	291
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4280】	剣道指導論実習【2013～2017年度入学生対象】〔山崎 廣道〕	春学期	292
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4281】	剣道指導論実習【2013～2017年度入学生対象】〔山崎 廣道〕	春学期	294
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4290】	器械運動指導論実習〔小野田 桂子〕	秋学期	296
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4291】	器械運動指導論実習〔小野田 桂子〕	秋学期	297
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4300】	体づくり運動指導論実習〔小野田 桂子〕	春学期	298
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4301】	体づくり運動指導論実習〔小野田 桂子〕	春学期	299
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4310】	サッカー指導論実習〔川田 尚弘〕	春学期	300
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4320】	サッカー指導論演習〔井上 尊寛〕	秋学期	301
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4370】	バドミントン指導論実習〔升 佑二郎〕	春学期	302
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4380】	バドミントン指導論演習〔升 佑二郎〕	秋学期	303
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4430】	バレーボール指導論実習〔山田 稔〕	春学期	304
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4440】	バレーボール指導論演習〔山田 稔〕	秋学期	306
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4330】	テニス指導論実習〔植村 直己〕	春学期	308
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4340】	テニス指導論演習〔植村 直己〕	秋学期	309
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4390】	ソフトボール指導論実習〔大田 穂〕	春学期	310
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4400】	ソフトボール指導論演習〔大田 穂〕	秋学期	311
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4450】	バスケットボール指導論実習〔清水 貴司〕	春学期	312
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4460】	バスケットボール指導論演習〔清水 貴司〕	秋学期	313
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4350】	陸上競技指導論実習〔苅部 俊二〕	春学期	314
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4360】	陸上競技指導論演習〔苅部 俊二〕	秋学期	315
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4410】	スイミング指導論実習〔八塚 明憲〕	春学期	316
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4420】	スイミング指導論演習〔八塚 明憲〕	秋学期	317
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4470】	野外教育指導論演習(スノー)〔高見 京太〕	集中	318
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4480】	野外教育指導論演習(マリン)〔井上 尊寛〕	集中	320
専門教育科目_専門演習	【M5010】	専門演習Ⅰ〔安藤 正志〕	通年	322
専門教育科目_専門演習	【M5011】	専門演習Ⅰ〔泉 重樹〕	通年	323
専門教育科目_専門演習	【M5030】	専門演習Ⅰ〔伊藤 真紀〕	通年	324
専門教育科目_専門演習	【M5012】	専門演習Ⅰ〔井上 尊寛〕	通年	326
専門教育科目_専門演習	【M5014】	専門演習Ⅰ〔苅部 俊二〕	通年	328
専門教育科目_専門演習	【M5015】	専門演習Ⅰ〔鬼頭 英明〕	通年	329
専門教育科目_専門演習	【M5016】	専門演習Ⅰ〔木下 訓光〕	通年	330
専門教育科目_専門演習	【M5017】	専門演習Ⅰ〔清雲 栄純〕	通年	331
専門教育科目_専門演習	【M5028】	専門演習Ⅰ〔瀬戸 宏明〕	通年	333
専門教育科目_専門演習	【M5018】	専門演習Ⅰ〔高見 京太〕	通年	334
専門教育科目_専門演習	【M5019】	専門演習Ⅰ〔永木 耕介〕	通年	335
専門教育科目_専門演習	【M5020】	専門演習Ⅰ〔中澤 史〕	通年	336
専門教育科目_専門演習	【M5021】	専門演習Ⅰ〔成田 道彦〕	通年	337
専門教育科目_専門演習	【M5029】	専門演習Ⅰ〔Nemes Roland〕	通年	338
専門教育科目_専門演習	【M5022】	専門演習Ⅰ〔林 容市〕	通年	339
専門教育科目_専門演習	【M5024】	専門演習Ⅰ〔平野 裕一〕	通年	340
専門教育科目_専門演習	【M5026】	専門演習Ⅰ〔山本 浩〕	通年	342
専門教育科目_専門演習	【M5027】	専門演習Ⅰ〔吉田 政幸〕	通年	344
専門教育科目_専門演習	【M5110】	専門演習Ⅱ〔安藤 正志〕	通年	345
専門教育科目_専門演習	【M5111】	専門演習Ⅱ〔泉 重樹〕	通年	346
専門教育科目_専門演習	【M5129】	専門演習Ⅱ〔伊藤 真紀〕	通年	348
専門教育科目_専門演習	【M5112】	専門演習Ⅱ〔井上 尊寛〕	通年	350
専門教育科目_専門演習	【M5114】	専門演習Ⅱ〔苅部 俊二〕	通年	352
専門教育科目_専門演習	【M5115】	専門演習Ⅱ〔鬼頭 英明〕	通年	353
専門教育科目_専門演習	【M5116】	専門演習Ⅱ〔木下 訓光〕	通年	354
専門教育科目_専門演習	【M5117】	専門演習Ⅱ〔清雲 栄純〕	通年	355
専門教育科目_専門演習	【M5118】	専門演習Ⅱ〔高見 京太〕	通年	356
専門教育科目_専門演習	【M5119】	専門演習Ⅱ〔永木 耕介〕	通年	357

専門教育科目_専門演習	【M5120】	専門演習Ⅱ	[中澤 史] 通年	358
専門教育科目_専門演習	【M5121】	専門演習Ⅱ	[成田 道彦] 通年	359
専門教育科目_専門演習	【M5128】	専門演習Ⅱ	[Nemes Roland] 通年	360
専門教育科目_専門演習	【M5122】	専門演習Ⅱ	[林 容市] 通年	361
専門教育科目_専門演習	【M5124】	専門演習Ⅱ	[平野 裕一] 通年	363
専門教育科目_専門演習	【M5126】	専門演習Ⅱ	[山本 浩] 通年	365
専門教育科目_専門演習	【M5127】	専門演習Ⅱ	[吉田 政幸] 通年	366
専門教育科目_専門演習	【M5210】	専門演習Ⅲ	[安藤 正志] 通年	367
専門教育科目_専門演習	【M5211】	専門演習Ⅲ	[泉 重樹] 通年	368
専門教育科目_専門演習	【M5212】	専門演習Ⅲ	[井上 尊寛] 通年	369
専門教育科目_専門演習	【M5214】	専門演習Ⅲ	[荻部 俊二] 通年	371
専門教育科目_専門演習	【M5215】	専門演習Ⅲ	[鬼頭 英明] 通年	372
専門教育科目_専門演習	【M5216】	専門演習Ⅲ	[木下 訓光] 通年	373
専門教育科目_専門演習	【M5217】	専門演習Ⅲ	[清雲 栄純] 通年	374
専門教育科目_専門演習	【M5218】	専門演習Ⅲ	[高見 京太] 通年	375
専門教育科目_専門演習	【M5219】	専門演習Ⅲ	[永木 耕介] 通年	376
専門教育科目_専門演習	【M5220】	専門演習Ⅲ	[中澤 史] 通年	377
専門教育科目_専門演習	【M5221】	専門演習Ⅲ	[成田 道彦] 通年	378
専門教育科目_専門演習	【M5222】	専門演習Ⅲ	[林 容市] 通年	379
専門教育科目_専門演習	【M5224】	専門演習Ⅲ	[平野 裕一] 通年	380
専門教育科目_専門演習	【M5226】	専門演習Ⅲ	[山本 浩] 通年	381
専門教育科目_専門演習	【M5227】	専門演習Ⅲ	[吉田 政幸] 通年	382
専門教育科目_専門演習	【M5080】	英語演習Ⅰ	[相馬 美明] 通年	383
専門教育科目_専門演習	【M5090】	英語演習Ⅱ	[松下 晴彦] 通年	384
	【M9010】	保健体育科教育法Ⅰ	[林 園子] 春学期	385
	【M9011】	保健体育科教育法Ⅰ	[林 園子] 春学期	386
	【M9020】	保健体育科教育法Ⅱ	[林 園子] 秋学期	387
	【M9021】	保健体育科教育法Ⅱ	[林 園子] 秋学期	388
	【M9030】	保健体育科教育法Ⅲ	[永木 耕介] 秋学期	389
	【M9040】	保健体育科教育法Ⅳ	[林 園子] 春学期	390
	【M9120】	教育実習(事前指導)	[林 園子] 秋学期	391
	【M9121】	教育実習(事前指導)	[林 園子] 秋学期	392
	【M9310】	教育実習(高)	[林 園子] 通年	393
	【M9320】	教育実習(中・高)	[林 園子] 通年	394
	【M9120】	教職実践演習	[林 園子] 秋学期	395
	【M9121】	教職実践演習	[林 園子] 秋学期	396
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		野外教育指導論演習(マリン)	[井上 尊寛] 集中	397
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		野外教育指導論演習(スノー)	[高見 京太] 集中	398
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		体づくり運動指導論実習	[高橋 靖彦] 春学期	399
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅰ(a)	[出縄 貴良] 春学期		400
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		器械運動指導論実習	[高橋 靖彦] 秋学期	401
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ	【2017年度以前入学生】	[出縄 貴良] 通年	402
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		体づくり運動指導論演習	[高橋 靖彦] 春学期	403
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅰ(b)	[出縄 貴良] 秋学期		404
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目		器械運動指導論演習	[高橋 靖彦] 秋学期	405
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ(b)	[出縄 貴良] 秋学期		406
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅰ	【2017年度以前入学生】	[出縄 貴良] 通年	407
総合教育科目_外国語科目	総合英語Ⅲ(a)	[出縄 貴良] 春学期		408

LANe100IA

総合英語 I (a)

齋藤 元治

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804257
授業コード：M0070

高校までに習得してきた英語力をさらに拡充させ、英文をより正確に理解し、英語圏独特の思考方法や生活様式の理解を深め、英語での総合的な表現力をつける。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

「訳さず」に「解る」力をつけるために、基本的な構文と文法事項を確認する。リスニング力をつけるためにテキストの CD を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方などの説明	英語の学習方法の確認。 英文を訳すことと、理解することの違いについて
第 2 回	Unit.1-1	Alzheimer's Disease
第 3 回	Unit.1-1、Unit.1-2	Alzheimer's Disease. The Alzheimer Caregiver.
第 4 回	Unit.1-2	The Alzheimer Caregiver.
第 5 回	Unit.2-1	Floor Plan.
第 6 回	Unit. 2-1 Unit.2-1	Floor Plan Interior Decoration
第 7 回	Unit.2-1	Interior Decoration
第 8 回	Unit.3-1	Interview Special Service
第 9 回	Unit.3-2	Interview Finances
第 10 回	Unit.4-1	Mental Retardation and IQ Mental Retardation Educational Services
第 11 回	Unit.4-2	Mental Retardation Educational Services
第 12 回	Unit.5-1	Interview Child Service
第 13 回	Unit.5-1 Unit.5-2	Interview Adult Services
第 14 回	期末まとめ	既習事項の確認・評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いに意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Aiming at Improving Social Welfare 「豊かな福祉社会」

Stella Yamazaki 石川郁二

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% (1 回)

平常点 20% (毎回の小テスト、受講態度、予習発表)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者を変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

LANe100IA

総合英語 I (b)

齋藤 元治

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【その他の重要事項】
特にありません。

管理 ID：1804264
授業コード：M0077

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学、高校で習得した英語力をさらに充実させ、英文をより正確に理解することや、英語圏独特の思考方法や生活様式を理解を深め、英語の総合的な表現力をつける。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力を力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

「訳さず」に「解る」力をつけるために、基本的な構文と文法事項を確認する。リスニング力をつけるためにテキストの CD を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Unit.5-2	Interview Adult Services
第2回	Unit.6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
第3回	Unit.6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
第4回	Unit.6-2	Coping with Dangerous Situation
第5回	Unit.6-2	Coping with Dangerous Situation
第6回	Unit.7-1	Attitudes Toward Disabilities: Society and Therapists
第7回	Unit.7-1	Attitudes Toward Disabilities: Society and Therapists
第8回	Unit.7-2	Attitudes Toward Disabilities: People with Disability
第9回	Unit.7-2	Attitudes Toward Disabilities : People with disability
第10回	Unit.8-1	Interview: Duties
第11回	Unit.8-1	Interview: Duties
第12回	Unit.8-2	Interview: Education and Preparation for the job
第13回	Unit.8-2	Education and Preparation for the job
第14回	期末まとめ	既習事項の確認、評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いを意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Aiming at Improving Social Welfare「豊かな福祉社会」
Stella Yamazaki 石川郁二 成美堂

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%（最終回に期末テストを実施）
平常点 20%（毎回の小テスト、予習発表、受講態度）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

齋藤 元治

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期

高校までに習得してきた英語力をさらに拡充させ、英文をより正確に理解し、英語圏独特の思考方法や生活様式の理解を深め、英語での総合的な表現力をつける。

秋学期

中学、高校で習得した英語力をさらに充実させ、英文をより正確に理解することや、英語圏独特の思考方法や生活様式の理解を深め、英語の総合的な表現力をつける。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

「訳さず」に「解る」力をつけるために、基本的な構文と文法事項を確認する。リスニング力をつけるためにテキストの CD を利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	授業の進め方などの説明	英語の学習方法の確認。英文を訳すことと、理解することの違いについて
2	Unit.1-1	Alzheimer's Disease
3	Unit.1-1、Unit.1-2	Alzheimer's Disease. The Alzheimer Caregiver.
4	Unit.1-2	The Alzheimer Caregiver.
5	Unit.2-1	Floor Plan
6	Unit. 2-1 Unit.2-1	Floor Plan Interior Decoration
7	Unit.2-1	Interior Decoration
8	Unit.3-1	Interview Special Service
9	Unit.3-2	Interview Finances
10	Unit.4-1	Mental Retardation and IQ Mental Retardation Educational Services
11	Unit.4-2	Mental Retardation Educational Services
12	Unit.5-1	Interview Child Service
13	Unit.5-1 Unit.5-2	Interview Adult Services
14	期末まとめ	既習事項の確認・評価
15	Unit.5-2	Interview Adult Services
16	Unit.6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
17	Unit.6-1	Conflict Situations and Those with Developmental Disabilities
18	Unit.6-2	Coping with Dangerous Situation
19	Unit.6-2	Coping with Dangerous Situation
20	Unit.7-1	Attitudes Toward Disabilities: Society and Therapists

21	Unit.7-1	Attitudes Toward Disabilities:Society and Therapists
22	Unit.7-2	Attitudes Toward Disabilities: People with Disability
23	Unit.7-2	Attitudes Toward Disabilities : People with disability
24	Unit.8-1	Interview:Duties
25	Unit.8-1	Interview:Duties
26	Unit.8-2	Interview:Education and Preparation for the job
27	Unit.8-2	Education and Preparation for the job
28	期末まとめ	既習事項の確認、評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いを意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Aiming at Improving Social Welfare 「豊かな福祉社会」

Stella Yamazaki 石川郁二 成美堂

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期

期末試験 80% (1回)

平常点 20% (毎回の小テスト、受講態度、予習発表)

秋学期

期末試験 80% (最終回に期末テストを実施)

平常点 20% (毎回の小テスト、予習発表、受講態度)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者が変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

LANe100IA

総合英語 I (a)

衣川 清子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】

- ①比較的平易なスポーツ記事を、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。
- ②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

最近のスポーツ記事 (英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News) のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成 (見出し、リード、本文)	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評 ; 前置詞	記事③前半
10	時制 (現在・過去・未来)	記事③後半
11	時制 (進行形)	記事④前半
12	時制 (完了形)	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。

【テキスト (教科書)】

なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 (出席点含む) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

できれば持ち込める PC、タブレット等。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

管理 ID :
1804258
授業コード :
M0071

LANe100IA

総合英語 I (b)

衣川 清子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】

- ①比較的中平なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。
- ②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

比較的中平なスポーツ記事 (Japan News, VOA News, Breaking News English 等) のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
2	英語らしい表現とは	記事①
3	無生物主語	記事①のつづき
4	言い換え表現	記事①のつづき・読了
5	仮定法過去	記事②前半
6	仮定法過去完了	記事②後半
7	句と節	記事①・②のまとめ
8	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
9	中間テスト返却、講評	記事③前半
10	直接話法と間接話法	記事③後半
11	分詞構文	記事④前半
12	付帯状況	記事④後半
13	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。

【テキスト (教科書)】

なるべく新しい記事を読むため、教員が配布するプリントを使用する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 (出席点含む) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

できれば持込できる PC やタブレット等。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合もあります。

管理 ID:
1804265
授業コード:
M0078

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

衣川 清子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期

スポーツに関連する平易なニュースの内容を、少々の辞書の助けを借りながら読んで内容を把握するトレーニングをする。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

秋学期

インターネット上で容易に読めるスポーツ関連の英文ニュース記事を抵抗なく読めるよう、読解の訓練をする。多様な記事を読むことで、ニュース記事特有の表現やルールに慣れる。

【到達目標】

春学期

①比較的可平易なスポーツ記事や、辞書を使って正確に読み、内容を把握できるようになる。

②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

秋学期

①比較的可平易なスポーツ記事のおおまかな内容を把握できるようになる。

②時事英語特有の表現やルールに慣れ、時間をかけずにおおまかな内容を把握できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

最近のスポーツ記事 (英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA Learning English や Japan News) のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業には辞書や PC 等を持参すること。

秋学期

比較的可平易な最近のスポーツ記事 (Japan News, VOA News, Breaking News English 等) のプリント教材を使い、精読・速読を行う。指示にしたがって予習・復習をするほか、毎回の授業にはできれば PC やタブレット等を持参すること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成 (見出し、リード、本文)	記事①
3	見出しのルール	記事①の続き
4	英語の文型	記事①の続き・読了
5	品詞の種類	記事②前半
6	動詞の種類	記事②後半
7	句と節	記事①・②まとめ
8	中間テストと復習	中間テストと復習
9	中間テスト返却、講評：前置詞	記事③前半
10	時制 (現在・過去・未来)	記事③後半

11	時制 (進行形)	記事④前半
12	時制 (完了形)	記事④後半
13	時制の一致	記事③・④まとめ
14	春学期の文法まとめ・期末テスト	期末テストとまとめ
15	秋学期イントロダクション	秋学期の授業に臨む心構え、予習復習について
16	英語らしい表現とは	記事①
17	無生物主語	記事①のつづき
18	言い換え表現	記事①のつづき・読了
19	仮定法過去	記事②前半
20	仮定法過去完了	記事②後半
21	句と節	記事①・②のまとめ
22	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
23	中間テスト返却、講評	記事③前半
24	直接話法と間接話法	記事③後半
25	分詞構文	記事④前半
26	付帯状況	記事④後半
27	ニュース記事を読むのに必須の文法のまとめ	記事③・④まとめ
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュースをふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

Weblio や英辞郎を使い、授業外でも英語のニュース記事を読む努力をすること。

秋学期

日本語でもいいので、スポーツ関係のニュース記事をふだんから読む習慣をつけること。徐々に読む対象を広げること。

授業以外でも Weblio や英辞郎等を活用しながら、英字新聞やニュース記事を読むことに挑戦すること。

【テキスト (教科書)】

なるべく新しい教材を使うため、教員が配布するプリントをテキストとする。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 (出席点含む) 30 %

【学生の意見等からの気づき】

着実に力をつけられるような授業をめざします。

【学生が準備すべき機器他】

できれば持ち込める PC、タブレット等。

【その他の重要事項】

なお、授業の進展状況によってテーマや内容が変更される場合があります。

LANe100IA

総合英語 I (a)

松下 晴彦

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1年次/1単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで習得した英文読解力を駆使し、難なく英文を読み進めることができる英語力の養成を目指す。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】

学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

英字新聞に類出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ここでは、速読も練習していく。ポキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。この授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	英字新聞の読み方	プリントで演習
第3回	Unit 1	ネット・リテラシー
第4回	Unit 1	人工知能
第5回	Unit 2	日本の人口
第6回	Unit 2	少子高齢化問題
第7回	Unit 3	米国高校への中国人留学生急増
第8回	Unit 3	世界の移民
第9回	Unit 4	ジンバブエ経済
第10回	Unit 4	デフォルト
第11回	Unit 5	米国労働市場のロボット
第12回	Unit 5	失業率
第13回	Unit 6	自由主義者世界
第14回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト (教科書)】

『15章版：ニュースメディアの英語-演習と解説 2018年度版-』高橋優身 (朝日出版:2017) 本体 1,200 円+税

【参考書】

『現代用語の基礎知識』(自由国民社)
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

管理 ID：
1804259
授業コード：
M0072

LANe100IA

総合英語 I (b)

松下 晴彦

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

これまで習得した英文読解力を駆使し、難なく英文を読み進めることができる英語力の養成を目指す。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とすることも目指している。

【到達目標】

学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。

時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

英字新聞に類出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ここでは、速読も練習していく。ボキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。この授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	Unit 7	臓器移植の新しい可能性
第3回	Unit 7	iPS 細胞
第4回	Unit 8	トランプ大統領の連日のツイート
第5回	Unit 8	国際政治
第6回	Unit 9	キューバの町
第7回	Unit 9	医療大国
第8回	Unit 10	英国の EU 離脱
第9回	Unit 10	独立問題
第10回	Unit 11	韓国財閥の内側
第11回	Unit 11	北朝鮮
第12回	Unit 13	仏大統領選挙
第13回	Unit 13	ドイツの総選挙
第14回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト (教科書)】

『15 章版：ニュースメディアの英語-演習と解説 2018 年度版-』高橋優身 (朝日出版:2017) 本体 1,200 円+税

【参考書】

『現代用語の基礎知識』(自由国民社)

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

管理 ID：
1804266
授業コード：
M0079

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

松下 晴彦

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで習得した英文読解力を駆使し、難なく英文を読み進めることができる英語力の養成を目指す。また、コミュニケーションスキル、情報リテラシー、論理的な思考力を身につけ、世界を多角的に理解するための幅広い知識を習得する場とするのも目指している。

【到達目標】

学生は、英字新聞の読み方を習得し、新聞特有の単語の語彙を増やし、英字新聞を抵抗感なく読むことができる。
時事問題の背景を学び、広い視野を持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

英字新聞に頻出する語彙を身につけながら、テキストで英字新聞を読む練習をしていく。ここでは、速読も練習していく。ポキャブラリービルディングを目指し、毎回、前回の復習単語テストを行う。
この授業を通して、幅広い教養を育み、同時に、大学人としての問題意識を覚醒させる場とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の紹介等
2	英字新聞の読み方	プリントで演習
3	Unit 1	ネット・リテラシー
4	Unit 1	人工知能
5	Unit 2	日本の人口
6	Unit 2	少子高齢化問題
7	Unit 3	米国高校への中国人留学生急増
8	Unit 3	世界の移民
9	Unit 4	ジンバブエ経済
10	Unit 4	デフォルト
11	Unit 5	米国労働市場のロボット
12	Unit 5	失業率
13	Unit 6	自由主義者世界
14	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験
15	ガイダンス	授業の紹介等
16	Unit 7	臓器移植の新しい可能性
17	Unit 7	iPS 細胞
18	Unit 8	トランプ大統領の連日のツイート
19	Unit 8	国際政治
20	Unit 9	キューバの町
21	Unit 9	医療大国
22	Unit 10	英国の EU 離脱
23	Unit 10	独立問題
24	Unit 11	韓国財閥の内側
25	Unit 11	北朝鮮
26	Unit 13	仏大統領選挙
27	Unit 13	ドイツの総選挙
28	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。
毎回、前回分の確認テストを行うので、復習しておくように。

【テキスト（教科書）】

【15 章版：ニュースメディアの英語-演習と解説 2018 年度版-】高橋優身（朝日出版:2017）本体 1,200 円+税

【参考書】

【現代用語の基礎知識】（自由国民社）
必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：30 %

授業内小テスト：30 %

定期試験：40 %

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、時事問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

管理 ID：
1826553
授業コード：
M0012

LANe100IA

総合英語 I (a)

村井 三千男

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で **reading** 力の向上を目指す。そして **listening** や **reading** により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。)

【到達目標】

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる **reading** のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、相違点、共通点、誤解を招きやすいコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、**listening** 力・**reading** 力を高めていく。**written teaching materials** だけでなく DVD, CD も随時使用し、**written English** のみならず **oral English** をも重視する。**presentation** としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
3	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Writing, etc.
5	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading
6	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Reading, Cross-cultural Activities
7	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing
8	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	DVD Viewing, Reading
9	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing

11	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing Mini-Quizzes, Previewing
12	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Reading, Cross-cultural Activities
13	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Writing Unit 1-Unit 5
14	定期試験 総復習・試験問題返却・解説	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習 (vocabulary, listening, reading 等)・復習 (理解度の低かった箇所の復習等)・宿題 (レポート課題作成等) なお、次回に口頭発表が決定している学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト (教科書)】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage on DVD II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題 (授業での課題、発表、貢献などを含む) 25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。)

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

管理 ID: 1804260
授業コード: M0073

LANe100IA

総合英語 I (b)

村井 三千男

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で **reading** 力の向上を目指す。そして **listening** や **reading** により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。) Listening and Presentation A より上の英語力を目指す。

【到達目標】

重要な情報を正確に聴き取る (その上に読み取る) 訓練をするとともに、重要な **reading strategy** を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各課の Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural Activities, Writing などの作業を通じて4技能特に **listening** と **presentation** の力の向上を図る。(時間的理由等で省略する作業もありうる。) DVD, CD も随時使用し、**written English** のみならず、**oral English** をも重視する。**presentation** としては「自己紹介」

「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation (ガイダンス) Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	授業の進め方・評価方法等についての説明 Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第2回	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Reading, Cross-cultural Activities
第3回	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Writing
第4回	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第5回	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Reading, Cross-cultural Activities
第6回	Unit 7 The Pyramids(Egypt) Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第7回	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Reading, Cross-cultural Activities
第8回	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing

第9回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第10回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Reading, Cross-cultural Activities
第11回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain) Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第12回	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Reading, Cross-cultural Activities
第13回	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania) 定期試験	Writing Unit 6-Unit10
第14回	総復習・試験問題返却・解説	Unit 6-10

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習 (授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む)
復習 (前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう)
課題 (課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。)

【テキスト (教科書)】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage on DVD II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25% (「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。) 60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合には事前に提示する。辞書・電子辞書の持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。(授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。)

【その他の重要事項】

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

村井 三千男

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期
英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す
が、特にその中で reading 力の向上を目指す。そして listening や reading
により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。
(presentation は oral, written の双方がありうる。)
秋学期
(上記に加えて) Listening and Presentation A より上の英語力を目指す。

【到達目標】

春学期
4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる reading
のスキルの上達をめざす。異文化の理解も含め、相違点、共通点、誤解を招
き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を深めて行く。
秋学期
重要な情報を正確に聴き取る (その上に読み取る) 訓練をするとともに、重
要な reading strategy を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自
分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期
様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、listening 力・
reading 力を高めていく。written teaching materials だけでなく DVD,CD
も随時使用し、written English のみならず oral English をも重視する。
presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発
表や課題提出を行う。

秋学期
各課の Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural
Activities, Writing などの作業を通じて4技能特に listening と presentation
の力の向上を図る。(時間的理由等で省略する作業もありうる。) DVD,CD も
随時使用し、written English のみならず、oral English をも重視する。
presentation としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発
表や課題提出を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course guideline
2	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
3	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Writing, etc.
5	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading
6	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Reading, Cross-cultural Activities
7	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing
8	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	DVD Viewing, Reading
9	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
11	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing
	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Mini-Quizzes, Previewing

12	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Reading, Cross-cultural Activities
13	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Writing Unit 1- Unit 5 定期試験
14	総復習・試験問題返却・ 解説	Unit 1-Unit 5
15	Orientation (ガイダ ンス)	授業の進め方・評価方法等についての 説明
	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
16	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Reading, Cross-cultural Activities
17	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Writing
18	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
19	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Reading, Cross-cultural Activities
20	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	
21	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Reading, Cross-cultural Activities
22	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing
23	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
24	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Reading, Cross-cultural Activities
25	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	
26	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Reading, Cross-cultural Activities
27	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Writing Unit 6- Unit 10 定期試験
28	総復習・試験問題返却・ 解説	Unit 6-Unit 10

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期
教科書の予習 (vocabulary, listening, reading 等)・復習 (理解度の低かった
箇所の復習等)・宿題 (レポート課題作成等) なお、次回に口頭発表が決定し
ている学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

秋学期
予習 (授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。)
復習 (前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。)
課題 (課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または
Presentation の準備を行なう。)

【テキスト (教科書)】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage on DVD II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

授業で必要となる資料はプリントにて随時配布もしくは提示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期
定期試験 50%, 授業内課題 (授業での課題、発表、貢献などを含む) 25%, 授
業外課題 (課題提出等) 25%

秋学期
試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25% (「授業内課題」とは授業中の
指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味す
る。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」
とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを
含むものである。) 60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対
する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。**【学生が準備すべき機器他】**

春学期
特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは原
則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。授業中は教員
の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。)

秋学期
(上記に加えて) 必要な場合には事前に提示する。

【その他の重要事項】

春学期

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力0に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

秋学期

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

LANe100IA

総合英語 I (a)

石井 麻璃絵

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826628
授業コード：M0074
近年 EU 離脱など、なにかと話題の多いイギリスの政治、文化、歴史等を扱ったエッセイを読み、グローバルな話題への関心を高めると同時に、英語の読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

単語、熟語、構文などに注意しながら精読し、正確に英語の文章の内容をつかめるようにする。学生が長文を読むことに慣れると同時に、リスニングやディクテーションによって英語を聞き取る能力を向上させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業では現在のイギリス事情に関する長文を読みながら、重要な語彙や表現を確認する。Unit を 3 つ進めたところでそれまでの復習、小テストを適宜行い、内容に関連したフィルム (DVD) を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、年間計画のガイダンス
2	Unit1	The Brexit Referendum 国民投票が問う EU 離脱
3	Unit2	The New Mayor of London ロンドンの新市長
4	Unit3	Brits on Bikes 英国人は自転車が好き
5	Unit1~Unit3 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
6	Unit4	Oxford and Cambridge: Looking to the Future オックスブリッジの将来
7	Unit5	A Profile of Cornwall イギリス最西端、コーンウォール
8	Unit6	The Cost of Being Young Today 今日における若さの代償
9	Unit4~Unit6 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
10	Unit7	Britain and the Sea 英国と海
11	Unit8	本文和訳 Summary Conversation in Action
12	Unit9	Images of Scotland スコットランドのイメージ
13	Unit7~Unit9 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
14	学年末まとめ	春学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, 椋平淳 著、『Britain at a Watershed 鼓動するイギリス』 成美堂、2018 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業態度、宿題）：30%

小テスト：20%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子媒体、紙媒体は問わない）を持参すること。

LANe100IA

総合英語 I (b)

石井 麻璃絵

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826630
授業コード：M0081

春学期同様、イギリスの政治、文化、歴史等を扱ったエッセイを読み進め、グローバルな話題への関心を高めると同時に、英語の読解力を養う。

【到達目標】

単語、熟語、構文などに注意しながら精読し、正確に英語の文章の内容をつかめるようにする。学生が長文を読むことに慣れると同時に、リスニングやディクテーションによって英語を聞き取る能力を向上させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業では現在のイギリス事情に関する長文を読みながら、重要な語彙や表現を確認する。Unit を 3 つ、ないし 4 つ進めたところでそれまでの復習、小テストを適宜行い、内容に関連したフィルム（DVD）を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Unit10	“The New Look”: Beards and Tattoos 英国の新たな「顔」：ひげとタトゥー
2	Unit11	The Japanese in Britain 英国の日本人たち
3	Unit12	Health Matters 健康問題
4	Unit10～Unit12 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
5	Unit13	The House of Windsor: Crisis and Continuity 王室（ウィンザー家）の危機と継続
6	Unit14	The Changing London Skyline 変わりゆくロンドンの町並み
7	Unit15	Women's Rights: A Look through History 女性の権利とその歴史
8	Unit16	Women in Britain Today: A Report 今日の英国女性に関する報告
9	Unit13～Unit16 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
10	Unit17	The White Rose of York 薔薇戦争：白薔薇のヨーク家
11	Unit18	Charles Dickens: Childhood and Christmas チャールズ・ディケンズとクリスマス
12	Unit19	The Great British Bake Off 人気テレビ番組「グレート・ブリテッシュ・ベイク・オフ」
13	Unit17～19 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
14	学年末まとめ	秋学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, 椋平淳 著、『Britain at a Watershed 鼓動するイギリス』 成美堂、2018 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業態度、宿題）：30 %

小テスト：20 %

期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子媒体、紙媒体は問わない）を持参すること。

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

石井 麻璃絵

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期

近年 EU 離脱など、なにかと話題の多いイギリスの政治、文化、歴史等を扱ったエッセイを読み、グローバルな話題への関心を高めると同時に、英語の読解力を養うことを目的とする。

秋学期

春学期同様、イギリスの政治、文化、歴史等を扱ったエッセイを読み進め、グローバルな話題への関心を高めると同時に、英語の読解力を養う。

【到達目標】

単語、熟語、構文などに注意しながら精読し、正確に英語の文章の内容をつかめるようにする。学生が長文を読むことに慣れると同時に、リスニングやディクテーションによって英語を聞き取る能力を向上させることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業では現在のイギリス事情に関する長文を読みながら、重要な語彙や表現を確認する。Unit を 3 つ進めたところでそれまでの復習、小テストを適宜行い、内容に関連したフィルム (DVD) を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、年間計画のガイダンス
2	Unit1	The Brexit Referendum 国民投票が問う EU 離脱
3	Unit2	The New Mayor of London ロンドンの新市長
4	Unit3	Brits on Bikes 英国人は自転車が好き
5	Unit1~Unit3 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
6	Unit4	Oxford and Cambridge: Looking to the Future オックスブリッジの将来
7	Unit5	A Profile of Cornwall イギリス最西端、コーンウォール
8	Unit6	The Cost of Being Young Today 今日における若さの代償
9	Unit4~Unit6 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
10	Unit7	It All Began at Rugby School 全てはラグビー校から始まった
11	Unit8	Britain and the Sea 英国と海
12	Unit9	Images of Scotland スコットランドのイメージ
13	Unit7~Unit9 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト

14	学年末まとめ	春学期学習内容の確認、期末試験
15	Unit10	“The New Look”: Beards and Tattoos 英国の新たな「顔」：ひげとタトゥー
16	Unit11	The Japanese in Britain 英国の日本人たち
17	Unit12	Health Matters 健康問題
18	Unit10~Unit12 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
19	Unit13	The House of Windsor: Crisis and Continuity 王室 (ウィンザー一家) の危機と継続
20	Unit14	The Changing London Skyline 変わりゆくロンドンの町並み
21	Unit15	Women’s Rights: A Look through History 女性の権利とその歴史
22	Unit16	Women in Britain Today: A Report 今日の英国女性に関する報告
23	Unit13~Unit16 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
24	Unit17	The White Rose of York 薔薇戦争：白薔薇のヨーク家
25	Unit18	Charles Dickens: Childhood and Christmas チャールズ・ディケンズとクリスマス
26	Unit19	The Great British Bake Off 人気テレビ番組「グレート・ブリティッシュ・ベイク・オフ」
27	Unit17~19 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
28	学年末まとめ	秋学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト (教科書)】

John H. Randle、椋平淳 著、『Britain at a Watershed 鼓動するイギリス』 成美堂、2018 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (授業態度、宿題) : 30 %

小テスト : 20 %

期末試験 : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典 (電子媒体、紙媒体は問わない) を持参すること。

管理 ID :
1826555
授業コード :
M0014

LANe100IA

総合英語 I (a)

山本 五郎

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

効果的に英文を読むために必要なリーディングスキルの習得を目的とする。

【到達目標】

さまざまなトピックの英文エッセイを読み解くことで、質の高いリーディングができるようになること。

英語で新たな知識を学ぶことができるようになること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。

使用テキストに沿って、リーディング及び各種演習を行います。

テキストの他に適宜ハンドアウトで追加のリーディングテキストまたは演習問題を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材についての説明
第2回	Unit 1	pp.1-5. Entertainment & Arts
第3回	Unit 2	pp.9-13. Sports
第4回	Unit 3	pp.17-21 Education
第5回	Unit 4	pp.25-29. Technology
第6回	Unit 5	pp.33-37 Health & Mind
第7回	Unit 6	pp.41-45 Science
第8回	Unit 7	pp. 49-53 Politics & Economy
第9回	Unit 8	pp.57-61 Business
第10回	Unit 9	pp.65-69 World News: Japan
第11回	Unit 10	pp.73-77 World News: U.S.A.
第12回	Unit 11	pp.81-85 World News: Europe
第13回	Unit 12	pp.89-93 World News: Asia
第14回	Unit 13	pp.97-101 World News: Africa and Middle East

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の範囲はテキストを予習（本文の通読、演習問題等）をして授業に出席すること。

毎回小テストを行うので、語彙を中心に復習をすること。

【テキスト（教科書）】

Reading Powerhouse (金星堂)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

小テスト 30%

レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

管理 ID：
1826390
授業コード：
M0075

LANe100IA

総合英語 I (b)

山本 五郎

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語 1 で習得した基礎的なリーディングスキルを用いてさらにリーディング力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

人間の心理に関する英文のエッセイを読み、教養を深めること。
英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。
使用テキストに沿って、リーディング及び各種演習を行います。
テキストの他に適宜ハンドアウトで追加のリーディングテキストま
たは演習問題を配布します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)
の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方, 評価基準, 使用教材等の説明
第2回	Lesson 1	pp.6-11 Memory
第3回	Lesson 2	pp.12-17 Happiness
第4回	Lesson 3	pp.18-23 Intelligence
第5回	Lesson 4	pp.24-29 Fear and Politics
第6回	Lesson 5	pp.30-35 Multitasking
第7回	Lesson 6	pp.36-41 Self-diagnosis
第8回	Lesson 7	pp.42-47 Pain
第9回	Lesson 8	pp.48-53 Marriage
第10回	Lesson 9	pp.54-59 Taste
第11回	Lesson 10	pp.60-65 Crime
第12回	Lesson 11	pp.66-71 Persuasion
第13回	Lesson 12	pp.72-77 Resolution
第14回	Lesson 13	pp.78-83 The Brain

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の範囲はテキストを予習 (本文の通読, 演習問題等) をして授業に出席すること。
毎回小テストを行うので, テキストの内容を復習をすること。

【テキスト (教科書)】

Thoughts and Feelings (南雲堂)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

小テスト 30%

レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

管理 ID:
1826391
授業コード:
M0082

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

山本 五郎

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期

効果的に英文を読むために必要なリーディングスキルの習得を目的とする。

秋学期

英語 1 で習得した基礎的なリーディングスキルを用いてさらにリーディング力を伸ばすことを目的とする。

【到達目標】

春学期

さまざまなトピックの英文エッセイを読み解くことで、質の高いリーディングができるようになること。

英語で新たな知識を学ぶことができるようになること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

秋学期

人間の心理に関する英文のエッセイを読み、教養を深めること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。

使用テキストに沿って、リーディング及び各種演習を行います。

テキストの他に適宜ハンドアウトで追加のリーディングテキストまたは演習問題を配布します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方, 評価方法, 使用教材についての説明
2	Unit 1	pp.1-5. Entertainment & Arts
3	Unit 2	pp.9-13. Sports
4	Unit 3	pp.17-21 Education5
5	Unit 4	pp.25-29. Technology
6	Unit 5	pp.33-37 Health & Mind
7	Unit 6	pp.41-45 Science
8	Unit 7	pp. 49-53 Politics & Economy
9	Unit 8	pp.65-69 World News: Japan
10	Unit 9	pp.65-69 World News: Japan
11	Unit 10	pp.73-77 World News: U.S.A.
12	Unit 11	pp.81-85 World News: Europe

13	Unit 12	pp.89-93 World News: Asia
14	Unit 13	pp.97-101 World News: Africa and Middle East
15	ガイダンス	授業の進め方, 評価基準, 使用教材等の説明
16	Lesson 1	pp.6-11 Memory
17	Lesson 2	pp.12-17 Happiness
18	Lesson 3	pp.18-23 Intelligence
19	Lesson 4	pp.24-29 Fear and Politics
20	Lesson 5	pp.30-35 Multitasking
21	Lesson 6	pp.36-41 Self-diagnosis
22	Lesson 7	pp.42-47 Pain
23	Lesson 8	pp.48-53 Marriage
24	Lesson 9	pp.54-59 Taste
25	Lesson 10	pp.60-65 Crime
26	Lesson 11	pp.66-71 Persuasion
27	Lesson 12	pp.72-77 Resolution
28	Lesson 13	pp.78-83 The Brain

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内容の範囲はテキストを予習 (本文の通読, 演習問題等) をして授業に出席すること。

毎回小テストを行うので、語彙を中心に復習をすること。

【テキスト (教科書)】

春学期

Reading Powerhouse (金星堂)

秋学期

Thoughts and Feelings (南雲堂)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%

小テスト 30%

レポート・提出物課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

管理 ID:
1826658
授業コード:
M0015

LANe100IA

総合英語 I (a)

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826636
授業コード：M0076

第一にリーディング力の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いたテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な 4 技能の総合的向上を図る。

【到達目標】

スキミング、スキヤニング等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸ばし、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持つようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	Dreams	Reading Strategy, Strategy in Focus
3	Dreams	Reading Word Work, Speaking, Writing
4	Coincidences	Reading Strategy, Strategy in Focus
5	Coincidences	Reading Word Work, Writing, Speaking
6	Ambition	Reading Strategy, Strategy in Focus
7	Ambition	Reading Word Work, Speaking, Writing,
8	Review 1	Reading Strategies, Reading, Comprehension
9	How We Think	Check, Word Chunks, Speaking Reading Strategy, Strategy in Focus,
10	How We Think	Reading
11	Our Emotions	Word Work, Writing & Speaking Reading Strategy, Strategy in Focus,
12	Our Emotion	Reading Word Work, Writing, Speaking
13	定期考査	Reading Strategy, Strategy in Focus
14	Misunderstanding 定期考査返却 Misunderstanding	Reading, Word Work, Writing & Speaking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト（教科書）】

A Good Reading 2, 2017 年発行、松柏社 2,100 円

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期考査（70%）、小テスト（10%）、その他（平常点、提出物）（20%）を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英語辞典

LANe100IA

総合英語 I (b)

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826637
授業コード：M0083

第一にリーディング力の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いたテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な 4 技能の総合的向上を図る。

【到達目標】

テキスト構成等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持つようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Tough Challenges	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
2	Tough Challenges	Word Work, Speaking Writing
3	Mind Control	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
4	Mind Control	Word Work, Writing, Speaking
5	Understanding Fear	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
6	Understanding Fear	Word Work, Writing & Speaking
7	Review 3	Reading Strategy, Reading, Comprehension
8	Making Mistakes	Check, Word Chunks, Speaking Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
9	Making Mistakes	Word Work, Writing, Speaking
10	Getting Help	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
11	Getting Help	Word Work, Writing & Speaking,
12	Lessons of Life	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
13	定期考査 Lessons of Life	Writing, Speaking
14	定期考査返却	Unit 7～Unit12 までの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト（教科書）】

A Good Reading 2, 2017 年発行、
松柏社 2,100 円

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期考査（70%）、小テスト（10%）、その他（平常点、提出物）（20%）を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英語辞典

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生対象】

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第一にリーディング力の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な 4 技能の総合的向上を図る。

【到達目標】

春学期

スキミング、スキヤニング等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

秋学期

テキスト構成等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持てるようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方についての説明
2	Dreams	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
3	Dreams	Word Work, Speaking, Writing
4	Coincidences	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
5	Coincidences	Word Work, Writing, Speaking
6	Ambition	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
7	Ambition	Word Work, Speaking Writing,
8	Review 1	Reading Strategies, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Speaking
9	How We Think	How We Think Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
10	How We Think	Word Work, Writing & Speaking

11	Our Emotions	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
12	Our Emotion	Word Work, Writing Speaking
13	定期考査 Misunderstanding	Reading Strategy, Strategy in Focus
14	定期考査返却 Misunderstanding	Reading, Word Work, Writing & Speaking
15	Tough Challenges	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
16	Tough Challenges	Word Work, Speaking Writing
17	Mind Control	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
18	Mind Control	Word Work, Writing, Speaking
19	Understanding Fear	Reading Strategy, Strategy in Focus Reading
20	Understanding Fear	Word Work, Writing & Speaking
21	Review 3	Reading Strategy, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Speaking
22	Making Mistakes	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
23	Making Mistakes	Word Work, Writing, Speaking
24	Getting Help	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
25	Getting Help	Word Work, Writing & Speaking,
26	Lessons of Life	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
27	定期考査 Lessons of Life	Writing, Speaking
28	定期考査返却	Unit 7~Unit12 までの復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト (教科書)】

A Good Reading 2, 2017 年発行、松柏社 2,100 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

定期考査 (70%)、小テスト (10%)、その他 (平常点、提出物) (20%) を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞典

管理 ID: 1826557
授業コード: M0016

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

式町 眞紀子

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、リーディング・リスニング・ライティング、そしてスピーキングの基本となる「文法」を体系的に学ぶ。

【到達目標】

中学・高校レベルから、大学入学までに身につけておくべき文法事項を愚直に学習することによって、「なんとなく」で片づけてしまいがちなあいまいな状況からの脱却を目指す。毎回の演習を積み重ね、基礎を固めて表現力を磨く。最終的には、裏付けがあってわかることの楽しさと、伝わるときの感激を、英語によってできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動詞・助動詞・時制・5 文型など項目別に、一行文章題を 1 回の授業で 15～20 題を目安に取り上げる。テキストはマークシート方式による適語補充であるが、各自の予習をもとに持ち回りで板書し、正誤確認をふまえて訳を検討する。これは、ライティングによってセンテンス単位で英文を効率よく理解するためである。また、応用演習として、5 週に 1 度を目安に、スポーツの歴史に関するまとまった長さ (100～200 ワード) の英文を使い、模試形式で定着を図る。以上のことは、各自によるノートづくりを前提とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明。
2	Step 1	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Step 1 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Step 1 続きおよび Step 2	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Step 2 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
6	Review exercise	Step1 および Step2 の学習内容の確認と応用問題を解く。
7	Review exercise 講評 Step 2 続き (Step 3)	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Step 3	授業の進め方と方法を参照のこと。
9	Step 3 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
10	Review exercise	Step2 および Step3 の学習内容の確認と応用問題を解く。

11	Review exercise 講評 Step 3 続き	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
12	Step 4	授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Step 4 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
14	春学期のまとめ	春学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習が前提である。しかし、文法の場合は復習によって学習効果上がる。やりっぱなしではなく、学習事項を踏まえて定着を図ること。また、各自の関心に従い、ネットやテレビなどで英文に触れること。

【テキスト (教科書)】

小池直己『英文法の要点整理 *Step by Step English Grammar*』英光社、2009

英和辞典はテキストと同じ、必携である。

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、必要に応じて紹介、またはハンドアウトで説明する。

スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験ほか小テスト 30 % ③課題や提出物 30 % 授業での参加態度を反映するノート提出は特に重視する。以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「英語に対する考え方が変わった。」という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減することがある。

一般的なことでは、大学生となるときさまざまな場面で自己管理が求められることを各自がしっかりと認識することを望む。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

式町 眞紀子

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、リーディング・リスニング・ライティング、そしてスピーキングの基本となる「文法」を体系的に学ぶ。

【到達目標】

中学・高校レベルから、大学入学までに身につけておくべき文法事項を愚直に学習することによって、「なんとなく」で片づけてしまいがちなあいまいな状況からの脱却を目指す。毎回の演習を積み重ね、基礎を固めて表現力を磨く。最終的には、裏付けがあってわかることの楽しさと、伝わるときの感激を、英語によってできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期に引き続き、動詞・助動詞・時制・5 文型など項目別に、一行文章題を 1 回の授業で 15~20 題を目安に取り上げる。テキストはマークシート方式による適語補充であるが、各自の予習をもとに持ち回りで板書し、正誤確認をふまえて訳を検討する。これは、ライティングによってセンテンス単位で英文を効率よく理解するためである。また、応用演習として、5 週に 1 度を目安に、スポーツの歴史に関するまとまった長さ (100~200 ワード) の英文を使い、模試形式で定着を図る。以上のことは、各自によるノートづくりを前提とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期のふり返りと秋学期の授業内容の確認を中心に行う。
2	Step 5	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Step 5 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Step 5 続きおよび Step 6	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Step 6 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
6	Review exercise	授業の進め方と方法を参照のこと。
7	Review exercise 講評 Step 6 続き (Step 7)	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Step 7 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
9	Step 7 続き (Step 8)	授業の進め方と方法を参照のこと。
10	Step 8 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
11	Review exercise	Step 7 および Step 8 の学習内容の確認と応用問題を解く。

12	Review exercise 講評 Step 8 続き (Step 9)	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Step 9 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
14	まとめ	秋学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習が前提である。しかし、文法の場合は復習によって学習効果上がる。やりっぱなしではなく、学習事項を踏まえて定着を図ること。また、各自の関心に従い、ネットやテレビなどで英文に触れること。

【テキスト (教科書)】

小池直己『英文法の要点整理 Step by Step English Grammar』

英光社、2009

英和辞典はテキストと同じ必携である。

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、必要に応じて紹介、またはハンドアウトで説明する。

スマートフォンの辞書は教室内での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験ほか小テスト 30 % ③課題や提出物 30 % 授業での参加態度を反映するノート提出は特に重視する。以上 3 点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「英語に対する考え方が変わった。」「という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減することがある。

一般的なことでは、大学生となるときさまざまな場面で自己管理が求められることを各自がしっかり認識することを望む。

管理 ID:
1804278
授業コード:
M0091

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

式町 眞紀子

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、リーディング・リスニング・ライティング、そしてスピーキングの基本となる「文法」を体系的に学ぶ。

【到達目標】

中学・高校レベルから、大学入学までに身につけておくべき文法事項を愚直に学習することによって、「なんとなく」で片づけてしまいがちなあいまいな状況からの脱却を目指す。毎回の演習を積み重ね、基礎を固めて表現力を磨く。最終的には、裏付けがあってわかることの楽しさと、伝わるときの感激を、英語によってできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

動詞・助動詞・時制・5文型など項目別に、一行文章題を1回の授業で15～20題を目安に取り上げる。テキストはマークシート方式による適語補充であるが、各自の予習をもとに持ち回りで板書し、正誤確認をふまえて訳を検討する。これは、ライティングによってセンテンス単位で英文を効率よく理解するためである。また、応用演習として、5週に1度を目安に、スポーツの歴史に関するまとまった長さ（100～200ワード）の英文を使い、模試形式で定着を図る。以上のことは、各自によるノートづくりを前提とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明。
2	Step 1	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Step 1 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Step 1 続きおよび Step 2	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Step 2 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
6	Review exercise	Step1 および Step2 の学習内容の確認と応用問題を解く。
7	Review exercise 講評 Step 2 続き (Step3)	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Step 3	授業の進め方と方法を参照のこと。
9	Step 3 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
10	Review exercise	Step2 および Step3 の学習内容の確認と応用問題を解く。

11	Review exercise 講評 Step 3 続き	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
12	Step 4 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Step 4 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
14	春学期のまとめ	春学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。
15	オリエンテーション	春学期のふりかえりと秋学期の授業内容の確認を中心に行う。
16	Step 5	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
17	Step 5 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
18	Step 5 続きおよび Step 6	授業の進め方と方法を参照のこと。
19	Step 6 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
20	Review exercise	授業の進め方と方法を参照のこと。
21	Review exercise 講評 Step 6 続き (Step 7)	解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
22	Step 7 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
23	Step 7 続き (Step 8)	授業の進め方と方法を参照のこと。
24	Step 8 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
25	Review exercise	Step 7 および Step 8 の学習内容の確認と応用問題を解く。
26	Review exercise Step 8 続き (Step 9)	理解度の点検や問題点を明らかにする。授業の進め方と方法を参照のこと。
27	Step 9 続き	授業の進め方と方法を参照のこと。
28	まとめ	秋学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が前提である。しかし、文法の場合は復習によって学習効果が高まる。やりっぱなしではなく、学習事項を踏まえて定着を図ること。また、各自の関心に従い、ネットやテレビなどで英文に触れること。

【テキスト（教科書）】

小池直己『英文法の要点整理 Step by Step English Grammar』英光社、2009
英和辞典はテキストと同じ必携である。

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、必要に応じて紹介、またはハンドアウトで説明する。
スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40% 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験ほか小テスト 30% ③課題や提出物 30% 授業での参加態度を反映するノート提出は特に重視する。以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「英語に対する考え方が変わった。」という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

管理 ID：
1826558
授業コード：
M0020

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減すること
がある。

一般的なことでは、大学生となるとさまざまな場面で自己管理が求
められることを各自がしっかり

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

相馬 美明

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID: 1804272
授業コード: M0085

読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】

読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings	Film ①~②, Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③~④
6	Requesting Information	Film ④~⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤~⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧~⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1~4 まとめ	Film ⑨~⑩
13	Ex.5~8 まとめ	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング 既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト (教科書)】

To Be a Good Communicator Daily English (金星堂), およびプリントを使用

【参考書】

必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%), レポート (10%), プレゼンテーション (10%), 平常点 (20%), また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点: 出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験: 春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート: 授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに答えられる授業となるよう努力していきたい。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

相馬 美明

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】

読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①
3	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film ①
4	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ① ~②
5	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーション について指示、説明
6	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
7	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②~③
8	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
9	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
10	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③~④
11	思いを表現する	プレゼンテーション 1
12	思いを表現する	プレゼンテーション 2
13	思いを表現する	プレゼンテーション 3
14	リスニング 既習事項 確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト (教科書)】

To Be a Good Communicator Daily English (金星堂), およびプリントを使用

【参考書】

必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%), レポート (10%), プレゼンテーション (10%), 平常点 (20%), また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに答えられる授業となるよう努力していきたい。

管理 ID:
1804279
授業コード:
M0092

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

相馬 美明

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解問題のみならず、日常生活のさまざまな場面における実践的英語表現を通じ、コミュニケーション能力、表現力を養成する。様々な場面において使われる会話表現に十分なれる。

【到達目標】

読解能力養成のみならず、リスニングにおける多くの練習問題を通じ、おおよその内容が理解できるようにする。またリスニング能力の増強を行う目的で、穴埋めや書き取り、選択問題などを通じ、要約能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現に触れ、リスニング、ディクテーション、読解などを通じ、いわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、諸注意など。
2	Greetings	Exercise 1, Film ①
3	Greetings	Film ①～②, Your Song, Questions
4	Asking for Directions	Exercise 2, Chimpanzee, Film ③
5	Requesting Information	Exercise 3, Film ③～④
6	Requesting Information	Film ④～⑤, Top of the world, Questions
7	Making Things Clear	Exercise 4, Halloween, Film ⑤～⑥
8	Explaining What's Wrong	Exercise 5, A certain Story, Film ⑦
9	Going for a Job Interview	Exercise 6, Film ⑧, レポート内容説明、指示
10	Making a Phone Call	Exercise 7, The Sound of Silence, Film ⑧～⑨
11	Reporting Emergencies(1)	Exercise 8, Film ⑨
12	Ex.1～4 まとめ	Film ⑨～⑩
13	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出	Film まとめ、リスニング最終確認、レポート提出
14	リスニング 既習事項確認	Film, 学期末まとめ
15	Reporting Emergencies (2)	秋学期予定確認, Exercise 13, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Getting Invited to a party	Exercise 14, Excellent Power of Memory, Film ①

17	Getting Invited to a party	Exercise 16, Coin changer, Film ①
18	Making Complaints	Exercise 17, Diplomacy, Film ①～②
19	Asking a Favor	Exercise 18, プレゼンテーションについて指示、説明
20	Asking a Favor, Comparing Things	Exercise 18-19, Film ②, She's got a way.
21	Giving Opinions (1)	Exercise 19, Film ②～③
22	Explaining What's Wrong	Exercise 20, A certain Story, Film ⑦
23	Giving Opinions (1), (2)	Exercise 20-21, Film ③, The Story of O-TEI
24	Giving Opinions (2)	Exercise 21, Film ③～④
25	思いを表現する	プレゼンテーション 1
26	思いを表現する	プレゼンテーション 2
27	思いを表現する	プレゼンテーション 3
28	リスニング 既習事項確認	Film, 学期末まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

とくにリスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を感じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト（教科書）】

To Be a Good Communicator Daily English（金星堂），およびプリントを使用

【参考書】

必要に応じ適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）、レポート（10％）、プレゼンテーション（10％）、平常点（20％）、また授業態度などを総合的に評価する。真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生をどのようにしてやる気にさせるか、われわれ教員はつねにそれを試されているように思う。学生を通じ学ぶことは実に多い。少しでも彼らの望むものに答えられる授業となるよう努力していきたい。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

浦川 智子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804273
授業コード：M0086

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

E メールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Lesson を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語 2 つの文・1 つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	Lesson 12. How Long Can People Live?	助動詞
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013 年

【参考書】

辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、課題等）：40 %、期末試験：60 %、合計 100 % として評価する。A+: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

浦川 智子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

E メールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として 1 回の授業で一つの Lesson を扱うが、進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
2	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
3	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
4	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
5	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
6	Lesson 17. Super White	比較
7	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾
8	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
9	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
10	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
11	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
12	Lesson 23. A Letter to the Editor	it を使った構文
13	Lesson 24. The Use of Child Seats	否定文
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students (スキル統合型：英作文トレーニング)』朝日出版社、2013 年

【参考書】

辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、課題等）：40%、期末試験：60%、合計 100% として評価する。A+: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

管理 ID: 1804280

授業コード: M0093

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

浦川 智子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

Eメールや広告などの英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。原則として1回の授業で一つのLessonを扱うが、進捗によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Lesson 1. Hi Jason	英語の文の語順
3	Lesson 2. Crash Closes Bridge during Storm	主語の数と動詞の形
4	Lesson 3. Hightones Reunion Concert	いろいろな動詞（基本文型）
5	Lesson 4. Dear Sirs: A Letter of Request	目的語2つの文・1つの文
6	Lesson 5. Assembly Instructions for the XYZ Three-shelf Bookcase	目的語・補語のある文
7	Lesson 6. The Lesson of the Talking Fish	情報の伝え方（代名詞・冠詞）
8	Lesson 7. Stranded! Leaves Us Cold	現在形・現在進行形
9	Lesson 8. The Big Storm	過去形・過去進行形
10	Lesson 9. This Is Your Captain	未来表現
11	Lesson 10. Two Letters	現在完了形
12	Lesson 11. Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone?	過去完了形、未来完了形
13	Lesson 12. How Long Can People Live?	助動詞

14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
16	Lesson 13. Dear Sirs: A Letter of Complaint	条件文と仮定法
17	Lesson 14. A Farewell Speech	仮定法を使った定型表現
18	Lesson 15. Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty	受身形
19	Lesson 16. Hollingsworth State Park	動名詞と不定詞
20	Lesson 17. Super White	比較
21	Lesson 18. The Taft Television Spring Conference	後置修飾
22	Lesson 19. The Woman Who Made Cellphone Life Possible	関係代名詞
23	Lesson 20. Geology Class Field Trip	関係副詞
24	Lesson 21. Country Cottage Potato Salad	文のつなげ方
25	Lesson 22. An Open Hearing	分詞構文
26	Lesson 23. A Letter to the Editor	itを使った構文
27	Lesson 24. The Use of Child Seats	否定文
28	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

秋学期

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

野田小枝子著、『Read to Write: an Integrated Course for College Students（スキル統合型：英作文トレーニング）』朝日出版社、2013年

【参考書】

辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、課題等）：40%、期末試験：60%、合計100%として評価する。A+: 100～90、A: 89～80、B: 79～70、C: 69～60とし、60以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

管理 ID:
1826560
授業コード:
M0022

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

蒔田 裕美

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1年次/1単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語のリスニングとスピーキング力を向上させるため、音声を正しく聞き分け、発音する方法を学ぶ。

【到達目標】

学生が英語の母音と子音について、発音記号を正しく理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。また、単語だけでなく英語の音の変化やリズム、イントネーションを正しく理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	母音	英語の母音について、音声学的に説明。また、母音を正しく聞き分け、発音する練習。
2	二重母音	二重母音を正しく聞き分け、発音する練習。
3	子音	英語の子音について、音声学的に説明。また、子音を正しく聞き分け、発音する練習。
4	発音記号	発音記号を正しく理解したかを確認するエクササイズ。
5	同化	同化が起こる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
6	脱落	脱落が起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
7	リエゾン	リエゾンが起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
8	脱落+リエゾン	脱落とリエゾンが共に起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
9	弱形	アクセントが置かれない品詞について理解する。
10	短縮形	短縮形が入った英文を正しく聞き取り、発音する練習。
11	リズム	英語と日本語のリズムの違いについて理解し、英語のリズムを体得する。
12	イントネーション	英語のイントネーションについて理解する。
13	アクセント	英語の語アクセントと文アクセントについて理解する。
14	まとめと試験	発音記号から、正しい英文の読み方まで身についたかの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトで配信されている音声聞きながら、テキストのリスニング問題に取り組みこと。

【テキスト（教科書）】

杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016年
辞書は必ず持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度30%、試験70%

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くならないよう、学生の理解度に合わせる。

管理 ID：
1804274
授業コード：
M0087

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

蒔田 裕美

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804281
授業コード：M0094

英語のリスニング力を向上させるため、実践的なリスニング問題に取り組む。
英語の効果的なプレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】

学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につく、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、テキストのリスニング問題に取り組む。後半は、プレゼンテーションの構造を解説した後、テーマを自身で設定する。決めたトピックについて、クラスメートに英語でアンケートし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	英語聴解法	日本語に置き換えることなく、英語のまま理解するリスニング法を学ぶ。
2	ディクテーション	英語の文をディクテーションすることで、リスニング力を向上させる。
3	TOEIC 形式リスニング Part1	TOEIC 形式のリスニング Part1 の問題に取り組む。
4	TOEIC 形式リスニング Part2	TOEIC 形式のリスニング Part2 の問題に取り組む。
5	TOEIC 形式リスニング Part3	TOEIC 形式のリスニング Part3 の問題に取り組む。
6	TOEIC 形式リスニング Part4	TOEIC 形式のリスニング Part4 の問題に取り組む。
7	まとめと試験	リスニング力が身についたかの確認を行う。
8	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか解説。
9	英語でアンケートを行う	自分で決めたトピックに基づき、クラスメートにアンケートを行う。
10	英語でアンケートを行う	引き続き、自分で決めたトピックに基づき、クラスメートにアンケートを行う。
11	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成し、提出。
12	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
13	プレゼンテーション本番	引き続き、クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
14	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトで配信されている音声を聞きながら、テキストのリスニング問題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016 年辞書は必ず持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション50%、試験50%

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くならないよう、学生の理解度に合わせる。

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

蒔田 裕美

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期

英語のリスニングとスピーキング力を向上させるため、音声を正しく聞き分け、発音する方法を学ぶ。

秋学期

英語のリスニング力を向上させるため、実践的なリスニング問題に取り組む。

英語の効果的なプレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】

春学期

学生が英語の母音と子音について、発音記号を正しく理解することにより、正確に聞き分けて発音できるようになる。また、単語だけでなく英語の音の変化やリズム、イントネーションを正しく理解できるようになる。

秋学期

学生は効果的に情報伝達できる英語力が身につく、グローバル社会において、英語で意見を発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、英語を正しく発音するための理論を説明し、その後学生が発音練習を行う。

秋学期

前半は、テキストのリスニング問題に取り組む。後半は、プレゼンテーションの構造を解説した後、テーマを自身で設定する。決めたトピックについて、クラスメートに英語でアンケートし、そのデータを基に英語でプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	母音	英語の母音について、音声学的に説明。また、母音を正しく聞き分け、発音する練習。
2	二重母音	二重母音を正しく聞き分け、発音する練習。
3	子音	英語の子音について、音声学的に説明。また、子音を正しく聞き分け、発音する練習。
4	発音記号	発音記号を正しく理解したかを確認するエクササイズ。
5	同化	同化が起こる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
6	脱落	脱落が起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
7	リエゾン	リエゾンが起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
8	脱落+リエゾン	脱落とリエゾンが共に起きる英文を正しく聞き取り、発音する練習。
9	弱形	アクセントが置かれない品詞について理解する。

10	短縮形	短縮形が入った英文を正しく聞き取り、発音する練習。
11	リズム	英語と日本語のリズムの違いについて理解し、英語のリズムを体得する。
12	イントネーション	英語のイントネーションについて理解する。
13	アクセント	英語の語アクセントと文アクセントについて理解する。
14	まとめと試験	発音記号から、正しい英文の読み方まで身につけたかの確認。
15	英語聴解法	日本語に置き換えることなく、英語のまま理解するリスニング法を学ぶ。
16	ディクテーション	英語の文をディクテーションすることで、リスニング力を向上させる。
17	TOEIC 形式リスニング Part1	TOEIC 形式のリスニング Part1の問題に取り組む。
18	TOEIC 形式リスニング Part2	TOEIC 形式のリスニング Part2の問題に取り組む。
19	TOEIC 形式リスニング Part3	TOEIC 形式のリスニング Part3の問題に取り組む。
20	TOEIC 形式リスニング Part4	TOEIC 形式のリスニング Part4の問題に取り組む。
21	まとめと試験	リスニング力が身についたかの確認を行う。
22	プレゼンテーションの構造解説	効果的で印象に残る英語のプレゼンテーションはどのようなものか解説。
23	英語でアンケートを行う	引き続き、自分で決めたトピックに基づき、クラスメートにアンケートを行う。
24	英語でアンケートを行う	引き続き、自分で決めたトピックに基づき、クラスメートにアンケートを行う。
25	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーション原稿を英語で作成し、提出。
26	プレゼンテーション本番	クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
27	プレゼンテーション本番	引き続き、クラス全員の前で、英語プレゼンテーションを実施する。
28	プレゼンテーションの講評	プレゼンテーションの反省点をまとめ、さらに良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は予習していることを前提で進める。朝日出版社のウェブサイトにて配信されている音声を聞きながら、テキストのリスニング問題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】杉野健太郎『English Listening and Speaking Basics』朝日出版社、2016年
辞書は必ず持参すること。**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期

授業への参加度30%、試験70%

授業回数の三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

秋学期

プレゼンテーション50%、試験50%

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くならないよう、学生の理解度に合わせる。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

北出 広子

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本クラスでは、テキストとプリント教材を使用して授業を進めていきます。テキストの本文の内容を理解した後、その感想を英語で書いたりします。プリント教材ではパラグラフ・ライティングの構造や英作を学びます。

【到達目標】

まずはテキストの本文の内容を的確に捉えます。次にその内容を基に英語で感想を書けるようにします。補助教材としてプリントを使用し英作の練習を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを使用して語彙や文法の知識を確認しながら英文和訳を行います。本文の内容を理解した後、その内容に関する練習問題を解きます。テキストの問題は英文を書く作業が多いので英作の練習になります。さらに、プリント教材で英作の練習を行います。また課題として英文を提出することがあります。

初回はテキストを使いながら授業の進め方や、成績評価方法などを説明します。授業の展開によっては若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の方針や進め方、成績評価方法などについて説明します。
第 2 回	Unit 1 (前半)	Foreign Neighbors
第 3 回	Unit 1 (後半)	Foreign Neighbors
第 4 回	プリント 1	プリント教材
第 5 回	Unit 3 (前半)	Strong Women
第 6 回	Unit 3 (後半)	Strong Women
第 7 回	プリント 2	プリント教材
第 8 回	Unit 4 (前半)	Global Shopping
第 9 回	Unit 4 (後半)	Global Shopping
第 10 回	プリント 3	プリント教材
第 11 回	Unit 6 (前半)	Calligraphy
第 12 回	Unit 6 (後半)	Calligraphy
第 13 回	プリント 4	プリント教材
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験と学期の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト (教科書)】

Insights - Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times - (Karen Hill Anton) 南雲堂、2000 円 (税別)

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20 %)
- 2) 課題提出 (20 %)

3) 期末試験 (60 %)

詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

テキスト使用の日とプリント教材使用の日があります。またテキストの進め方は課ごとの順番通りではありませんので、[授業計画]の中にある「テーマ」に記載されている数字に気を付けてください。

管理 ID :
1804275
授業コード :
M0088

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

北出 広子

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本クラスでは、春学期の授業に続き、テキストとプリント教材を使用して授業を進めていきます。テキストの本文の内容を理解した後、その感想を英語で書いたりします。プリント教材ではパラグラフ・ライティングの構造や英作を学びます。

【到達目標】

まずはテキストの本文の内容を的確に捉えます。次にその内容を基に英語で感想を書けるようにします。補助教材としてプリントを使用し英作の練習を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを使用して語彙や文法の知識を確認しながら英文和訳を行います。本文の内容を理解した後、その内容に関する練習問題を解きます。テキストの問題は英文を書く作業が多いので英作の練習になります。さらに、プリント教材で英作の練習を行います。また課題として英文を提出することがあります。授業の展開によっては若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業について説明します。加えて、パラグラフの構造を確認します。
第 2 回	Unit 7 (前半)	Human Touch
第 3 回	Unit 7 (後半)	Human Touch
第 4 回	プリント 1	プリント教材
第 5 回	Unit 8 (前半)	Family Ties
第 6 回	Unit 8 (後半)	Family Ties
第 7 回	プリント 2	プリント教材
第 8 回	Unit 9 (前半)	Freedom and Love
第 9 回	Unit 9 (後半)	Freedom and Love
第 10 回	プリント 3	プリント教材
第 11 回	Unit 12 (前半)	Racism and Stupidity
第 12 回	Unit 12 (後半)	Racism and Stupidity
第 13 回	プリント 4	プリント教材
第 14 回	期末試験とまとめ	筆記試験と学期の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト (教科書)】

Insights - Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times - (Karen Hill Anton) 南雲堂、2000 円 (税別)

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20%)
- 2) 課題提出 (20%)

3) 期末試験 (60%)

詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

テキスト使用の日とプリント教材使用の日があります。またテキストの進め方は課ごとの順番通りではありませんので、[授業計画]の中にある「テーマ」に記載されている数字に気を付けてください。

管理 ID:
1804282
授業コード:
M0095

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

北出 広子

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826562
授業コード：M0024

本クラスでは、テキストとプリント教材を使用して授業を進めていきます。テキストの本文の内容を理解した後、その感想を英語で書いたりします。プリント教材ではパラグラフ・ライティングの構造や英作を学びます。

【到達目標】

まずはテキストの本文の内容を的確に捉えます。次にその内容を基に英語で感想を書けるようにします。補助教材としてプリントを使用し英作の練習を行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを使用して語彙や文法の知識を確認しながら英文和訳を行います。本文の内容を理解した後、その内容に関する練習問題を解きます。テキストの問題は英文を書く作業が多いので英作の練習になります。さらに、プリント教材で英作の練習を行います。また課題として英文を提出することがあります。初回はテキストを使いながら授業の進め方や、成績評価方法などを説明します。授業の展開によっては若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の方針や進め方、成績評価方法などについて説明します。
2	Unit 1 (前半)	Foreign Neighbors
3	Unit 1 (後半)	Foreign Neighbors
4	プリント1	プリント教材
5	Unit 3 (前半)	Strong Women
6	Unit 3 (後半)	Strong Women
7	プリント2	プリント教材
8	Unit 4 (前半)	Global Shopping
9	Unit 4 (後半)	Global Shopping
10	プリント3	プリント教材
11	Unit 6 (前半)	Calligraphy
12	Unit 6 (後半)	Calligraphy
13	プリント4	プリント教材
14	期末試験とまとめ	期末試験と学期の総括
15	ガイダンス	秋学期の授業について説明します。加えて、パラグラフの構造を確認します
16	Unit 7 (前半)	Human Touch
17	Unit 7 (後半)	Human Touch
18	プリント1	プリント教材
19	Unit 8 (前半)	Family Ties
20	Unit 8 (後半)	Family Ties
21	プリント2	プリント教材
22	Unit 9 (前半)	Freedom and Love
23	Unit 9 (後半)	Freedom and Love
24	プリント3	プリント教材
25	Unit 12 (前半)	Racism and Stupidity
26	Unit 12 (後半)	Racism and Stupidity
27	プリント4	プリント教材
28	期末試験とまとめ	筆記試験と学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト（教科書）】

Insights - Critical Thinking through Cross-Cultural Essays from The Japan Times - (Karen Hill Anton) 南雲堂、2000 円（税別）

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20%)
- 2) 課題提出 (20%)
- 3) 期末試験 (60%)

詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

テキスト使用の日とプリント教材使用の日があります。またテキストの進め方は課ごとの順番通りではありませんので、【授業計画】の中にある「テーマ」に記載されている数字に気を付けてください。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

小川 真也

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】

この授業では学生は次の 3 点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。

- ① 今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
- ② 復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
- ③ 文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1 回の授業で 1 つの Unit に取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用し、単語・熟語を問う小テストを実施する。続いてテキストを読み、今までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。また各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも 1 本エッセイを仕上げる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	What makes college students work part-time? : 非人称主語を使った構文 (1)
3	Unit 2	Staying healthy — a Japanese obsession : 非人称主語を使った構文 (2)
4	Unit 3	How I wish were at my first-choice college! : 仮定法
5	Unit1-3 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Staying with a family abroad : 発話動詞 (say, tell, talk, speak)
7	Unit 5	Japan and America : 否定詞
8	Unit 6	Drinking as part of youth culture : 形容詞構文 (1)
9	Unit 7	I don't belong here : 形容詞構文 (2)
10	Unit4-7 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	What's the purpose of work? : 名詞構文
12	Unit 9	The Japanese as half-Asian : 時制—過去と過去完了
13	Unit 10	Why few Japanese can speak English : 接続詞

14 Unit8-10 のまとめと 質疑応答とテスト
テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

初回の授業時には特に必要ないが、2 回目以降は予習を前提に小テストを実施し、授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト (教科書)】

富岡龍明、James Hill 著 Read Better to Write Better —モデル英文からのライティング— (金星堂, 2002 年, 定価 2100 円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書 (電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること)

【成績評価の方法と基準】

小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。

小テスト 10%、授業での発表 20% 課題 20% 授業内テスト 50% 授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。

学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりに練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

管理 ID:
1804276
授業コード:
M0089

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

小川 真也

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】

この授業では学生は次の3点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。

- ①今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
- ②復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
- ③文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1回の授業で1つのUnitに取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用し、単語・熟語を問う小テストを実施する。続いてテキストを読み、今までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。また各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも1本エッセイを仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクションとライティング	授業方法の説明とエッセイ・ライティング
2	Unit 11	How I wish I could live on my own! ：助動詞
3	Unit 12	The pros and cons of so-called 'exam English' : 感覚・認識動詞
4	Unit 13	As aging society : 比較級 (1)
5	Unit11-13 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 14	Do we have to live in a polluted environment? : 比較級 (2)
7	Unit 15	My view of marriage : 代名詞
8	Unit 16	Is Japan an international society? : 進行形
9	Unit 17	Job prospects for college students : 文修飾副詞
10	Unit14-17 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 18	A problem with Japan's education system : 'when' の2つの用法
12	Unit 19	High school vs. cram school : 使役動詞
13	Unit 20	Why are cars so important? : 総合演習
14	Unit18-20 のまとめとテスト	質疑応答とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時には特に必要ないが、2回目以降は予習を前提に授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

富岡龍明、James Hill 著 Read Better to Write Better ―モデル英文からのライティング― (金星堂, 2002 年, 定価 2100 円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書（電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること）

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。

授業での発表 20 % 課題 20 % 授業内テスト 60 %

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。

学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなったり難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

管理 ID :

1804283

授業コード :

M0096

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

小川 真也

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を読解することと英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。

【到達目標】

この授業では学生は次の3点を目標に置き、英語表現を中心に学習することになる。

- ①今までに学習してきた単語・熟語・文法を復習する。
- ②復習した知識を用いて、日本語と英語の表現の違いに注意しながら英作文する能力を身に付ける。
- ③文章の構成を意識して、長文を書く能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1回の授業で1つのUnitに取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用し、単語・熟語を問う小テストを実施する。続いてテキストを読み、今までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。また各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも1本エッセイを仕上げる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	What makes college students work part-time? : 非人称主語を使った構文 (1)
3	Unit 2	Staying healthy — a Japanese obsession : 非人称主語を使った構文 (2)
4	Unit 3	How I wish were at my first-choice college! : 仮定法
5	Unit1-3 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Staying with a family abroad : 発話動詞 (say, tell, talk, speak)
7	Unit 5	Japan and America : 否定詞
8	Unit 6	Drinking as part of youth culture : 形容詞構文 (1)
9	Unit 7	I don't belong here : 形容詞構文 (2)
10	Unit4-7 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	What's the purpose of work? : 名詞構文
12	Unit 9	The Japanese as half-Asian : 時制—過去と過去完了
13	Unit 10	Why few Japanese can speak English : 接続詞

14	Unit8-10 のまとめとテスト	質疑応答とテスト
15	イントロダクションとライティング	授業方法の説明とエッセイ・ライティング
16	Unit 11	How I wish I could live on my own! : 助動詞
17	Unit 12	The pros and cons of so-called 'exam English' : 感覚・認識動詞
18	Unit 13	As aging society : 比較級 (1)
19	Unit11-13 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
20	Unit 14	Do we have to live in a polluted environment? : 比較級 (2)
21	Unit 15	My view of marriage : 代名詞
22	Unit 16	Is Japan an international society? : 進行形
23	Unit 17	Job prospects for college students : 文修飾副詞
24	Unit14-17 のまとめとエッセイ・ライティング	質疑応答とエッセイ・ライティング
25	Unit 18	A problem with Japan's education system : 'when' の2つの用法
26	Unit 19	High school vs. cram school : 使役動詞
27	Unit 20	Why are cars so important? : 総合演習
28	Unit18-20 のまとめとテスト	質疑応答とテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

初回の授業時には特に必要ないが、2回目以降は予習を前提に小テストを実施し、授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト (教科書)】

富岡龍明、James Hill 著 Read Better to Write Better —モデル英文からのライティング— (金星堂、2002年、定価2100円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書 (電子辞書でも紙媒体でもどちらでも良いが、文法的な説明がなされているものを使用すること)

【成績評価の方法と基準】

春学期

小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。

小テスト10%、授業での発表20% 課題20% 授業内テスト50% 授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は2回で欠席1回となる。

学期ごとに欠席が3回を超えると成績評価の対象外となる。

秋学期

担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、授業で実施するテストで習熟度を評価する。

授業での発表20% 課題20% 授業内テスト60% 授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は2回で欠席1回となる。

学期ごとに欠席が3回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代わりの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

欠席・遅刻状況は各自が把握しておくこと。

管理 ID : 1826563
授業コード : M0025

LANe100IA

総合英語Ⅱ (a)

渡辺 廣人

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1年次/1単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804277
授業コード：M0090

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。自己紹介。
2	CHAPTER 1-1 代名詞	Grammar Review 代名詞
3	CHAPTER 1-2 代名詞	EXILE HIRO 1
4	CHAPTER 1-3 代名詞	EXILE HIRO 2
5	CHAPTER 2-1 冠詞	Grammar Review 冠詞
6	CHAPTER 2-2 冠詞	Ebizo Ichikawa 1
7	CHAPTER 2-3 冠詞	Ebizo Ichikawa 2
8	CHAPTER 3-1 強調文・倒置文	Grammar Review 強調文・倒置文
9	CHAPTER 3-2 強調文・倒置文	400M Relay Silver Medal 1
10	CHAPTER 3-3 強調文・倒置文	400M Relay Silver Medal 2
11	CHAPTER 4-1 助動詞	Grammar Review 助動詞
12	CHAPTER 4-2 助動詞	The Kimono 1
13	CHAPTER 4-3 助動詞	The Kimono 2
14	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト（教科書）】

BREAKTHROUGH JAPAN 邦題『躍進日本』JoAnn Parochetti 他著
南雲堂 2018 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならない。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

LANe100IA

総合英語Ⅱ (b)

渡辺 廣人

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。 自己紹介。
2	CHAPTER 5-1 時制	Grammar Review 時制
3	CHAPTER 5-2 時制	The Sanriku Railway 1
4	CHAPTER 5-3 時制	The Sanriku Railway 2
5	CHAPTER 6-1 完了形	Grammar Review 完了形
6	CHAPTER 6-2 完了形	Local Issue 1
7	CHAPTER 6-3 完了形	Local Issue 2
8	CHAPTER 7-1 受動態	Grammar Review 受動態
9	CHAPTER 7-2 受動態	Digital Manga 1
10	CHAPTER 7-3 受動態	Digital Manga 2
11	CHAPTER 8-1	Grammar Review 不定詞
12	CHAPTER 8-2	Stock Investment 1
13	CHAPTER 8-3	Stock Investment 2
14	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト (教科書)】

BREAKTHROUGH JAPAN 邦題『躍進日本』JoAnn Parochetti
他著 南雲堂 2018 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

管理 ID：
1804284
授業コード：
M0097

LANe100IA

総合英語Ⅱ 【2017年度以前入学生対象】

渡辺 廣人

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。自己紹介。
2	CHAPTER 1-1 代名詞	Grammar Review 代名詞
3	CHAPTER 1-2 代名詞	EXILE HIRO 1
4	CHAPTER 1-3 代名詞	EXILE HIRO 2
5	CHAPTER 2-1 冠詞	Grammar Review 冠詞
6	CHAPTER 2-2 冠詞	Ebizo Ichikawa 1
7	CHAPTER 2-3 冠詞	Ebizo Ichikawa 2
8	CHAPTER 3-1 強調文・倒置文	Grammar Review 強調文・倒置文
9	CHAPTER 3-2 強調文・倒置文	400M Relay Silver Medal 1
10	CHAPTER 3-3 強調文・倒置文	400M Relay Silver Medal 2
11	CHAPTER 4-1 助動詞	Grammar Review 助動詞
12	CHAPTER 4-2 助動詞	The Kimono 1
13	CHAPTER 4-3 助動詞	The Kimono 2
14	学期末まとめ	総復習、試験
15	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。自己紹介。
16	CHAPTER 5-1 時制	Grammar Review 時制
17	CHAPTER 5-2 時制	The Sanriku Railway 1

18	CHAPTER 5-3 時制	The Sanriku Railway 2
19	CHAPTER 6-1 完了形	Grammar Review 完了形
20	CHAPTER 6-2 完了形	Local Issue 1
21	CHAPTER 6-3 完了形	Local Issue 2
22	CHAPTER 7-1 受動態	Grammar Review 受動態
23	CHAPTER 7-2 受動態	Digital Manga 1
24	CHAPTER 7-3 受動態	Digital Manga 2
25	CHAPTER 8-1	Grammar Review 不定詞
26	CHAPTER 8-2	Stock Investment 1
27	CHAPTER 8-3	Stock Investment 2
28	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト（教科書）】

BREAKTHROUGH JAPAN 邦題『躍進日本』JoAnn Parochetti 他著 南雲堂 2018年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならない。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

松下 晴彦

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

授業にて演習をするのが主となるので、全出席が期待されている。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今までに習得した英語基礎力を充実・発展させながら、反復学習し英語力の定着を目標とする。ある程度のコミュニケーションを自力で行うための土台づくりを目指す。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで基本的な英文法を復習し、スポーツに関する平易な英文を読む。毎回、前回の復習テストを行う。反復学習をしていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	5文型	Chapter 1
第3回	Baseball	問題演習
第4回	形容詞	Chapter 2
第5回	Surfing	問題演習
第6回	副詞	Chapter 3
第7回	American Football	問題演習
第8回	動詞	Chapter 4
第9回	Tennis	問題演習
第10回	関係代名詞	Chapter 5
第11回	Golf	問題演習
第12回	不定詞	Chapter 6
第13回	Basketball	問題演習
第14回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習は必須である。ノートを用意し、未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。授業後、内容の復習をする。毎回、復習の課題を出すので、自習しておくように。

【テキスト (教科書)】

『スポーツ・パラダイス!』岡島徳昭 (南雲堂) 本体 1,500 円 + 税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30%

授業内小テスト：30%

定期試験：40%

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

管理 ID：
1804285
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

松下 晴彦

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

授業にて演習をするのが主となるので、全出席が期待されている。

管理 ID：
1804292
授業コード：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今までに習得した英語基礎力を充実・発展させながら、反復学習し英語力の定着を目標とする。ある程度のコミュニケーションを自力で行うための土台づくりを目指す。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで基本的な英文法を復習し、スポーツに関する平易な英文を読む。毎回、前回の復習テストを行う。反復学習をしていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介等
第2回	動名詞	Chapter 7
第3回	Ice Hockey	問題演習
第4回	分詞	Chapter 8
第5回	Skiing	問題演習
第6回	仮定法	Chapter 9
第7回	Soccer	問題演習
第8回	受動態	Chapter 10
第9回	Auto Race	問題演習
第10回	比較	Chapter 11
第11回	Ice Skating	問題演習
第12回	接続詞	Chapter 12
第13回	Horse Racing	問題演習
第14回	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの予習は必須である。ノートを用意し、未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。授業後、内容の復習をする。毎回、復習の課題を出すので、自習しておくように。

【テキスト (教科書)】

『スポーツ・パラダイス!』岡島徳昭 (南雲堂) 本体 1,500 円 + 税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30%

授業内小テスト：30%

定期試験：40%

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

松下 晴彦

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今までに習得した英語基礎力を充実・発展させながら、反復学習し英語力の定着を目標とする。ある程度のコミュニケーションを自力で行うための土台づくりを目指す。

【到達目標】

学生は、英語の基礎力を身につけ、辞書を使いながら、自分の力で英文を読むことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストで基本的な英文法を復習し、スポーツに関する平易な英文を読む。毎回、前回の復習テストを行う。反復学習をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の紹介等
2	5文型	Chapter 1
3	Baseball	問題演習
4	形容詞	Chapter 2
5	Surfing	問題演習
6	副詞	Chapter 3
7	American Football	問題演習
8	動詞	Chapter 4
9	Tennis	問題演習
10	関係代名詞	Chapter 5
11	Golf	問題演習
12	不定詞	Chapter 6
13	Basketball	問題演習
14	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験
15	ガイダンス	授業の紹介等
16	動名詞	Chapter 7
17	Ice Hockey	問題演習
18	分詞	Chapter 8
19	Skiing	問題演習
20	仮定法	Chapter 9
21	Soccer	問題演習
22	受動態	Chapter 10
23	Auto Race	問題演習
24	比較	Chapter 11
25	Ice Skating	問題演習
26	接続詞	Chapter 12
27	Horse Racing	問題演習
28	試験・学期末のまとめ	語彙、文法、読解の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習は必須である。ノートを用意し、未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。授業後、内容の復習をする。毎回、復習の課題を出すので、自習しておくように。

【テキスト（教科書）】

『スポーツ・パラダイス!』岡島徳昭（南雲堂）本体 1,500 円＋税

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30%

授業内小テスト：30%

定期試験：40%

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

英語に加えて、問題の背景が勉強になったという意見が多かった。学生の期待に応えられるように広く勉強していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、変更があり得る。

授業にて演習をするのが主となるので、全出席が期待されている。

管理 ID：
1826565
授業コード：
M0030

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

石井 麻璃絵

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826634
 授業コード：趣味の話から環境、社会問題まで幅広い話題の英文を精読し、読解力、文法の理解と運用能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

基本的文法の知識、語彙力を身につけることで英文の内容を正確に把握できるようにする。ディクテーションによって重要単語を聞き取って書く能力を身につけると同時に、リスニングの演習では長文の大意をつかみ、発音に慣れることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で1つのUnitを扱う。単語など予習してくることを前提とするが、授業では熟語、文法、構文などを確認しながら丁寧に英文読解を進める。Unitを3つ進めたところでそれまでの内容の復習、小テストを適宜行い、関連したフィルム（DVD）を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、年間計画のガイダンス
2	Unit1：五つの基本文型	Music: The Beatles ビートルズ
3	Unit2：進行形	Global Warming 地球温暖化
4	Unit3：助動詞（1）— can, may, will	Communication コミュニケーション
5	Unit1～3 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
6	Unit4：助動詞（2）— must, should	Water 水
7	Unit5：未来形	Alternative Energy 代替エネルギー
8	Unit6：受動態	Paper 紙
9	Unit4～Unit6 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
10	Unit7：比較	Ecotourism エコツーリズム
11	Unit8：現在完了	Smoking 喫煙
12	Unit9：過去完了	Ecology: Wolves in Yellowstone Park 生態学：世界遺産イエローストーンの狼
13	Unit7～Unit9 まとめ	プリント、フィルム（DVD）、小テスト
14	学期末まとめ	春学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト（教科書）】

登美博之、Bill Benfield 著、『Polish Up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂、2015年

【参考書】

必要に応じてプリントを用意する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（授業態度、宿題）：30%

小テスト：20%

期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典（電子媒体、紙媒体は問わない）を持参すること。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

石井 麻璃絵

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID：1826635
 授業コード：春学期に引き続き、趣味の話から環境、社会問題まで幅広い話題の英文を精読し、読解力、文法の理解と運用能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

基本的文法の知識、語彙力を身につけることで英文の内容を正確に把握できるようにする。ディクテーションによって重要単語を聞き取って書く能力を身につけると同時に、リスニングの演習では長文の大意をつかみ、発音に慣れることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で1つのUnitを扱う。単語など予習してくることを前提とするが、授業では熟語、文法、構文などを確認しながら丁寧に英文読解を進める。Unitを3つ進めたところでそれまでの内容の復習、小テストを適宜行い、関連したフィルム(DVD)を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit10 : 不定詞 (1)	Discovery: The Sea Route to India インドへの航路
2	Unit11 : 不定詞 (2)	Latitude and Longitude 緯度と経度
3	Unit12 : 分詞	Overfishing 乱獲
4	Unit10~Unit12 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
5	Unit13 : 動名詞	Time 時間
6	Unit14 : 関係代名詞 (1) — who, whom, which	Vikings バイキング
7	Unit15 : 関係代名詞 (2) — whose, what, that	New Zealand ニュージーランド
8	Unit13~Unit15 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
9	Unit16 : 関係副詞 (1) — where, when	The Industrial Revolution 産業革命
10	Unit17 : 関係副詞 (2) — why, how	Language 言語
11	Unit18 : 間接疑問文	Religion 宗教
12	Unit19 : 接続詞	Volcanoes: Krakatoa クラカタウ火山
13	Unit16~19 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
14	学期末まとめ	秋学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト (教科書)】

登美博之、Bill Benfield 著、『Polish Up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂、2015年

【参考書】

必要に応じてプリントを用意する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (授業態度、宿題) : 30 %

小テスト : 20 %

期末試験 : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典 (電子媒体、紙媒体は問わない) を持参すること。

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

石井 麻璃絵

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期

趣味の話から環境、社会問題まで幅広い話題の英文を精読し、読解力、文法の理解と運用能力を身につけることを目的とする。

秋学期

春学期に引き続き、趣味の話から環境、社会問題まで幅広い話題の英文を精読し、読解力、文法の理解と運用能力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

基本的文法の知識、語彙力を身につけることで英文の内容を正確に把握できるようにする。ディクテーションによって重要単語を聞き取って書く能力を身につけると同時に、リスニングの演習では長文の大意をつかみ、発音に慣れることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として一回の授業で1つのUnitを扱う。単語など予習しておくことを前提とするが、授業では熟語、文法、構文などを確認しながら丁寧に英文読解を進める。Unitを3つ進めたところでそれまでの内容の復習、小テストを適宜行い、関連したフィルム(DVD)を見るなどして背景への理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、年間計画のガイダンス
2	Unit1 : 五つの基本文型	Music: The Beatles ビートルズ
3	Unit2 : 進行形	Global Warming 地球温暖化
4	Unit3 : 助動詞 (1) — can, may, will	Communication コミュニケーション
5	Unit1~3 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
6	Unit4 : 助動詞 (2) — must, should	Water 水
7	Unit5 : 未来形	Alternative Energy 代替エネルギー
8	Unit6 : 受動態	Paper 紙
9	Unit4~Unit6 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
10	Unit7 : 比較	Ecotourism エコツーリズム
11	Unit8 : 現在完了	Smoking 喫煙
12	Unit9 : 過去完了	Ecology: Wolves in Yellowstone Park 生態学: 世界遺産イエローストーンの狼
13	Unit7~Unit9 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
14	学期末まとめ	春学期学習内容の確認、期末試験
15	Unit10 : 不定詞 (1)	Discovery: The Sea Route to India インドへの航路

16	Unit11 : 不定詞 (2)	Latitude and Longitude 緯度と経度
17	Unit12 : 分詞	Overfishing 乱獲
18	Unit10~Unit12 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
19	Unit13 : 動名詞	Time 時間
20	Unit14 : 関係代名詞 (1) — who, whom, which	Vikings バイキング
21	Unit15 : 関係代名詞 (2) — whose, what, that	New Zealand ニュージーランド
22	Unit13~Unit15 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
23	Unit16 : 関係副詞 (1) — where, when	The Industrial Revolution 産業革命
24	Unit17 : 関係副詞 (2) — why, how	Language 言語
25	Unit18 : 間接疑問文	Religion 宗教
26	Unit19 : 接続詞	Volcanoes: Krakatoa クラカタウ火山
27	Unit16~19 まとめ	プリント、フィルム (DVD)、小テスト
28	学期末まとめ	秋学期学習内容の確認、期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

宿題として学生はあらかじめ一度は文章を読み、分からない単語は調べ、自分なりの和訳を作っておく。

【テキスト (教科書)】

登美博之、Bill Benfield 著、『Polish Up Your English 英文法から学ぶ基本英語』成美堂、2015年

【参考書】

必要に応じてプリントを用意する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (授業態度、宿題) : 30 %

小テスト : 20 %

期末試験 : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典 (電子媒体、紙媒体は問わない) を持参すること。

管理 ID :
1826566
授業コード :
M0031

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

衣川 清子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】

- ①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する(Reading for Information)。
- ②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツや健康に関する最新の記事(海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主としてVOA News, Japan News, Breaking News English等)をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評 文法復習①五文型	答案返却、記事③前半
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

インターネット上の記事でもいいので、新聞記事(日英両方)をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。

授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。

【テキスト (教科書)】

プリント教材使用。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【その他の重要事項】

授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

管理 ID：
1804287
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

衣川 清子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID: 1804294
授業コード:
スポーツと健康と生活の質をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。

【到達目標】

- ①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる (Reading for Information)。
- ②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
- ③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツや健康に関する最新の記事 (海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等) をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	文法復習①仮定法	記事①
3	文法復習②分詞構文	記事①続き
4	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
5	文法復習④不定詞	記事②前半
6	文法復習⑤付帯状況	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
9	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
10	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
11	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
12	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

インターネット上の記事でもいいので、新聞記事 (日英両方) をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。

授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblio や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。

【テキスト (教科書)】

プリント教材使用。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【その他の重要事項】

授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

衣川 清子

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツと健康をキーワードに、こうしたトピックを扱った最新の英字新聞や英文ニュースの記事を多読することで読解力を強化する。時事英語特有の表現やルールもあわせて学習する。

【到達目標】

春学期

①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を、短時間で大意を把握できるような読み方を習得する（**Reading for Information**）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースへの抵抗がなくなるようになる。

秋学期

①スポーツや健康をテーマとした比較的平易な英文記事を大意を把握できるようになる（**Reading for Information**）。
②時事英語特有の表現やルールに慣れ、英字新聞や英語ニュースを抵抗なく読みこなせる。
③平易だが長めの記事を短時間で読み、内容を要約できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツや健康に関する最新の記事（海外発の英字新聞やインターネット上の配信記事、主として VOA News, Japan News, Breaking News English 等）をプリント教材として配布する。指示にしたがって予習・復習をすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
2	ニュース記事の構成	記事①
3	見出しのルール	記事①続き
4	リードの役割と読み方	記事①続き・読了
5	ニュース英語特有の表現	記事②前半
6	Reading for Information のコツ	記事②後半
7	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
8	中間テスト講評 改行	答案返却、記事③前半 文法復習①五文型
9	文法復習②品詞	記事③後半
10	文法復習③動詞の種類	記事④前半
11	文法復習④句と節	記事④後半
12	文法復習⑤時制	記事⑤前半
13	文法復習のまとめ	記事⑤後半
14	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ
15	イントロダクション	授業に臨む心構え、予習復習について
16	文法復習①仮定法	記事①
17	文法復習②分詞構文	記事①続き
18	文法復習③関係代名詞	記事①続き・読了
19	文法復習④不定詞	記事②前半
20	文法復習⑤付帯状況	記事②後半

21	中間テストとまとめ	中間テストとまとめ
22	文法復習⑥ it の構文	答案返却、記事③前半
23	文法復習⑦能動態と受動態	記事③後半
24	文法復習⑧修飾語句	記事④前半
25	文法復習⑨間接話法と直接話法	記事④後半
26	文法復習⑩間違いやすい文法事項	記事⑤前半
27	文法復習のまとめ	記事⑤後半
28	期末テストとまとめ	期末テストとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネット上の記事でもいいので、新聞記事（日英両方）をふだんから読む習慣をつけ、徐々に読む対象を広げていくこと。同じトピックを扱った別の新聞記事・ネット上のニュースを読み比べる、そのトピックについて掘り下げて調べてみるなど、追加的な学習を奨励したい。

授業にとどまらず、興味のわいた記事を Weblia や英辞郎などのネット辞書も活用してどんどん読んでみることを勧める。

【テキスト（教科書）】

プリント教材使用。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 35 % + 期末テスト 35 % + 平常点 30 %

【学生の意見等からの気づき】

力がついたことが実感できるようなさまざまな工夫をしたい。

【その他の重要事項】

授業の進度、使用する記事の件数、各授業の内容は変更になる場合もある。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

山本 五郎

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典

ハンドアウト用のファイル

管理 ID：
1826392
授業コード：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

総合英語Ⅰで培った英語力を礎として、ペーパーバック、英字新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英語を辞書を使いながら自分の力で読みこなし、読解力を養成する。

【到達目標】

社会、文化、時事問題などに関する評論や論文を読めるようになること。

語英語で新たな知識を学ぶことができるようになること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。

授業内で配布するハンドアウトに沿って、リーディング及び各種演習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材についての説明
2	英字新聞 1	ハンドアウト 1
第3回	英字新聞 2	ハンドアウト 2
第4回	英字新聞 3	ハンドアウト 3
第5回	英語雑誌 1	ハンドアウト 4
第6回	英語雑誌 2	ハンドアウト 5
第7回	英語雑誌 3	ハンドアウト 6
第8回	ウェブサイトの英語 1	ハンドアウト 7
第9回	ウェブサイトの英語 2	ハンドアウト 8
第10回	ウェブサイトの英語 3	ハンドアウト 9
第11回	ペーパーバックの英語 1	ハンドアウト 10
第12回	ペーパーバックの英語 2	ハンドアウト 11
第13回	ペーパーバックの英語 3	ハンドアウト 12
第14回	ペーパーバックの英語 4	ハンドアウト 13

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ハンドアウトの英文について分からない単語は前もって調べておくこと。

毎回小テストを行うので、語彙を中心に復習をすること。

【テキスト (教科書)】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

提出物 30%

平常点 (和訳、要約等の授業内活動) 40%

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

山本 五郎

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典

ハンドアウト用のファイル

管理 ID：
1826393
授業コード：**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

総合英語 III(a) で培った英語力を礎として、ペーパーバック、英字新聞、雑誌、ウェブサイトなどからより高度な英語を読みこなす読解力を養成する。

【到達目標】

社会、文化、時事問題などに関する記事・評論・論文などを読めるようになること。

語英語で新たな知識を学ぶことができるようになること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。

授業内で配布するハンドアウトに沿って、リーディング及び各種演習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材についての説明
第2回	英字新聞 1	ハンドアウト 1
第3回	英字新聞 2	ハンドアウト 2
第4回	英字新聞 3	ハンドアウト 3
第5回	英語雑誌 1	ハンドアウト 4
第6回	英語雑誌 2	ハンドアウト 5
第7回	英語雑誌 3	ハンドアウト 6
第8回	ウェブサイトの英語 1	ハンドアウト 7
第9回	ウェブサイトの英語 2	ハンドアウト 8
第10回	ウェブサイトの英語 3	ハンドアウト 9
第11回	ウェブサイトの英語 4	ハンドアウト 10
第12回	ペーパーバックの英語 1	ハンドアウト 11
第13回	ペーパーバックの英語 2	ハンドアウト 12
第14回	ペーパーバックの英語 3	ハンドアウト 13

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回小テストを行うので、配布するハンドアウトの復習をすること。

【テキスト (教科書)】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

提出物 30%

平常点 (和訳、要約等の授業内活動) 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

山本 五郎

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期

総合英語Ⅰで培った英語力を礎として、ペーパーバック、英字新聞、雑誌、ウェブサイトなどの英語を辞書を使いながら自分の力で読みこなし、読解力を養成する。

秋学期

春学期で培った英語力を礎として、ペーパーバック、英字新聞、雑誌、ウェブサイトなどからより高度な英語を読みこなし読解力を養成する。

【到達目標】

社会、文化、時事問題などに関する評論や論文を読めるようになること。

語英語で新たな知識を学ぶことができるようになること。

英語の語彙力を伸ばすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

第2回以降、毎回授業開始時に小テストを行います。

授業内で配布するハンドアウトに沿って、リーディング及び各種演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材についての説明
2	英字新聞 1	ハンドアウト 1
3	英字新聞 2	ハンドアウト 2
4	英字新聞 3	ハンドアウト 3
5	英語雑誌 1	ハンドアウト 4
6	英語雑誌 2	ハンドアウト 5
7	英語雑誌 3	ハンドアウト 6
8	ウェブサイトの英語 1	ハンドアウト 7
9	ウェブサイトの英語 2	ハンドアウト 8
10	ウェブサイトの英語 3	ハンドアウト 9
11	ペーパーバックの英語 1	ハンドアウト 10
12	ペーパーバックの英語 2	ハンドアウト 11
13	ペーパーバックの英語 3	ハンドアウト 12
14	ペーパーバックの英語 4	ハンドアウト 13
15	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、使用教材についての説明
16	英字新聞 1	ハンドアウト 1
17	英字新聞 2	ハンドアウト 2
18	英字新聞 3	ハンドアウト 3
19	英語雑誌 1	ハンドアウト 4
20	英語雑誌 2	ハンドアウト 5
21	英語雑誌 3	ハンドアウト 6
22	ウェブサイトの英語 1	ハンドアウト 7

23	ウェブサイトの英語 2	ハンドアウト 8
24	ウェブサイトの英語 3	ハンドアウト 9
25	ウェブサイトの英語 4	ハンドアウト 10
26	ペーパーバックの英語 1	ハンドアウト 11
27	ペーパーバックの英語 2	ハンドアウト 12
28	ペーパーバックの英語 3	ハンドアウト 13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

ハンドアウトの英文について分からない単語は前もって調べておくこと。

毎回小テストを行うので、語彙を中心に復習をすること。

秋学期

毎回小テストを行うので、配布するハンドアウトの復習をすること。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

提出物 30%

平常点（和訳、要約等の授業内活動）40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞典

ハンドアウト用のファイル

管理 ID：
1826656
授業コード：
M0033

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

齋藤 元治

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

管理 ID：
1804289
授業コード：**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

英文を正確に理解できる英語力を習得することを目指します。基本的な英文の構文と文法事項をきちんと把握しておくことが不可欠です。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習して授業に参加することを前提に講義を進めます。英文の構造をしっかりと把握し、内容を理解しながら英語圏の文化や社会的な慣習について理解を深めます。テキストの講読をベースに、毎回、小テストを実施して学生の理解度を確認しながら講義を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方などの説明	英語の学習方法の確認。 英文を訳すことと、理解することの違いについて
第2回	Chapter 1	My English, Your English, Our English
第3回	Chapter 1, 2	My English, Your English, Our English A Short Story of the Miniskirt
第4回	Chapter 2	A Short Story of the Miniskirt
第5回	Chapter 3	The Cutest Car Ever Made The Mini
第6回	Chapter 3, 4	Always In Fashion The Suit
第7回	Chapter 4	Always In Fashion The Suit
第8回	Chapter 4, 5	The English Gentleman Does he really Exist Anymore
第9回	Chapter 5	The English Gentleman Does he really Exist Anymore
第10回	Chapter 5, 6	Thinking Machine The Story of the Computer
第11回	Chapter 6	Thinking Machine The Story of the Computer
第12回	Chapter 7	I Get Around Transport
第13回	Chapter 7, 8	London How The Centre of the Financial World Started in Coffee shop
第14回	期末まとめ	既習事項の確認・評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いを意識して英文に接すること。

【テキスト (教科書)】

Made in Britain「イギリスの底力」

Antony Sellick, John Barton, Norio

Shimamura

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% (1回)

平常点 20% (毎回の小テスト、受講態度、予習発表)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者が変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

齋藤 元治

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を正確に理解できる英語力を習得することを目指します。基本的な英文の構文と文法事項をきちんと把握しておくことが不可欠です。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習して授業に参加することを前提に講義を進めます。英文の構造をしっかりと把握し、内容を理解しながら英語圏の文化や社会的な慣習について理解を深めます。テキストの講読をベースに、毎回、小テストを実施して学生の理解度を確認しながら講義を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方等の説明	英語の学習方法の確認。 訳すことと理解することの違いについて
第2回	Chapter 9	Issac Newton and Beyond
第3回	Chapter9,10	Titans of the English Language
第4回	Chapter 10	Titans of the English Language
第5回	Chapter 11	The British and Their Food
第6回	Chapter 11,12	A Nice Cup of Tea
第7回	Chapter 12	A Nice Cup of Tea
第8回	Chapter 13	The British Pub
第9回	Chapter 13,14	Golf
第10回	Chapter 14	Golf
第11回	Chapter 15	A Short Story of British Pop
第12回	Chapter 15,16	Football
第13回	Chapter 16	Football
第14回	期末まとめ	既習事項の確認、評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いを意識して英文に接すること。

【テキスト (教科書)】

Made in Britain「イギリスの底力」

Antony Sellick, John Barton, Norio

shimamura

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80% (最終回に期末テストを実施)

平常点 20% (毎回の小テスト、予習発表、受講態度)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

管理 ID:
1804296
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

齋藤 元治

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を正確に理解できる英語力を習得することを目指します。基本的な英文の構文と文法事項をきちんと把握しておくことが不可欠です。

【到達目標】

英語の基本構文と学校英文法を復習しながら、語順に従って、「訳す」のではなく「解る」力をつけ、英語の発想法を習得しながら、正確に英文を理解できる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

予習して授業に参加することを前提に講義を進めます。英文の構造をしっかりと把握し、内容を理解しながら英語圏の文化や社会的な慣習について理解を深めます。テキストの講義をベースに、毎回、小テストを実施して学生の理解度を確認しながら講義を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方などの説明	英語の学習方法の確認。 英文を訳すことと、理解することの違いについて
2	Chapter 1	My English, Your English, Our English
3	Chapter 1, 2	My English, Your English, Our English
4	Chapter 2	A Short Story of the Miniskirt
5	Chapter 3	The Cutest Car Ever Made The Mini
6	Chapter 3, 4	Always In Fashion The Suit
7	Chapter 4	Always In Fashion The Suit
8	Chapter 4, 5	The English Gentleman Does he really Exist Anymore
9	Chapter 5	The English Gentleman Does he really Exist Anymore
10	Chapter 5, 6	Thinking Machine The Story of the Computer
11	Chapter 6	Thinking Machine The Story of the Computer
12	Chapter 7	I Get Around Transport
13	Chapter 7, 8	London How The Centre of the Financial World Started in Coffee shop
14	期末まとめ	既習事項の確認・評価
15	授業の進め方等の説明	英語の学習方法の確認。 訳すことと理解することの違いについて
16	Chapter 9	Issac Newton and Beyond

17	Chapter 9, 10	Titans of the English Language
18	Chapter 10	Titans of the English Language
19	Chapter 11	The British and Their Food
20	Chapter 11, 12	A Nice Cup of Tea
21	Chapter 12	A Nice Cup of Tea
22	Chapter 13	The British Pub
23	Chapter 13, 14	Golf
24	Chapter 14	Golf
25	Chapter 15	A Short Story of British Pop
26	Chapter 15, 16	Football
27	Chapter 16	Football
28	期末まとめ	既習事項の確認、評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の講義内容に当たる部分の単語の意味調べと、英文理解のための文節の区切りをあらかじめつけておく。既習事項の復習の徹底。「解る」と「訳す」ことの違いに意識して英文に接すること。

【テキスト（教科書）】

Made in Britain「イギリスの底力」

Antony Sellick, John Barton, Norio

Shimamura

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

春学期

期末試験 80% (1回)

平常点 20% (毎回の小テスト、受講態度、予習発表)

秋学期

期末試験 80% (最終回に期末テストを実施)

平常点 20% (毎回の小テスト、予習発表、受講態度)

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者を変更したため、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

村井 三千男

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID: 1804290
授業コード:

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す、特にその中で **reading** 力の向上を目指す。そして **listening** や **reading** により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。) また速読用教材も適宜用いること等により総合英語Ⅰ (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【到達目標】

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる **reading** のスキルの上達を目指す。異文化の理解も含め、共通点・相違点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を高めていく。総合英語Ⅰ (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、**listening** 力・**reading** 力を高めていく。**written teaching materials** だけでなく DVD, CD 等も随時使用し、**written English** のみならず **oral English** をも重視する。**presentation** としては「自己紹介」「教材についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Guideline
2	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
3	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Writing, etc. 速読教材使用
5	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
6	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Reading, Cross-cultural Activities 速読教材使用
7	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	DVD Viewing, Reading, 速読教材使用
9	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	Cross-cultural Activities, Writing

10	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
11	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
12	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Reading, Cross-cultural Activities 速読教材使用
13	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Writing Unit 1- Unit 5 定期試験
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 1-Unit 5

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習 (vocabulary, listening, reading 等)・復習 (理解度の低かった箇所の復習等)・宿題 (レポート課題作成等) なお、次回に口頭発表が予定されている学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

【テキスト (教科書)】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

必要となる資料は授業で随時配布もしくは提示する。(速読教材等)

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50%, 授業内課題 (授業での課題・発表・貢献等を含む) 25%, 授業外課題 (課題提出等) 25%

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは予習時・復習時であり、授業中の使用は原則的に禁止する。授業中は教員の説明や他の学生の発言等注意して聴くことが重要なため。) writing 作業等でそれらを用いてもよい際には教員が指示する。

【その他の重要事項】

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力0に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

村井 三千男

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で **reading** 力の向上を目指す。そして **listening** や **reading** により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。) **Listening and Presentation A** より上の英語力を目指す。また速読用教材も適宜用いること等により総合英語Ⅰ (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【到達目標】

重要な情報を正確に聴き取る (その上に読み取る) 訓練をするとともに、重要な **reading strategy** を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。総合英語Ⅰ (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

各課の Mini-quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural Activities, Writing などの作業を通じて4技能特に **listening** と **presentation** の力を向上を図る。(時間的理由等で省略する作業もありうる。) DVD, CD も随時使用し、**written English** のみならず、**oral English** をも重視する。presentation としては「自己紹介」

「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Orientation (ガイダンス) Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	授業の進め方・評価方法等についての説明 Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第2回	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
第3回	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Writing
第4回	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用
第5回	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Reading, Cross-cultural Activities
第6回	Unit 7 The Pyramids(Egypt) Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用

第7回	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Reading, Cross-cultural Activities
第8回	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing 速読用教材使用
第9回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第10回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
第11回	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain) Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
第12回	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
第13回	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania) 定期試験	Writing Unit 6-10
第14回	総復習・試験問題返却・解説	Unit 6-10

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習 (授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。)

復習 (前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。)

課題 (課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。)

【テキスト (教科書)】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama 『Exploring World Heritage on DVD II (DVD でめぐる世界遺産 II)』 SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

授業で必要となる資料は随時プリントにて配布もしくは提示する。(速読教材等)

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25% (「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。) 60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合には事前に提示する。辞書・電子辞書の持参は構わないが、それらを用いるのは原則的に予習時・復習時であり、授業中の使用は原則禁止する。(授業中は教員の説明や学生の発言等を注意して聴く必要があるため。) writing 作業等でそれらを用いてもよい場合には教員がそのように指示する。

【その他の重要事項】

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

村井 三千男

サブタイトル：(6)
 カテゴリ：外国語科目・語学
 開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位
 曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語の4技能 (listening, speaking, reading, writing) すべての向上を目指す。特にその中で **reading** 力の向上を目指す。そして **listening** や **reading** により得られた知識をもとに、情報や思考を他者に伝える能力を育成する。(presentation は oral, written の双方がありうる。) また速読用教材も適宜用いること等により総合英語 I (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【到達目標】

春学期

4つのスキルの中でも、いろいろな情報を得るために必要とされる **reading** のスキルの上達を目指す。異文化の理解も含め、共通点・相違点、誤解を招き易いコミュニケーションなども学びながら、英語の能力を高めていく。総合英語 I (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

秋学期

重要な情報を正確に聴き取る (その上に読み取る) 訓練をするとともに、重要な **reading strategy** を修得する。そして得られた知識・情報をもとに、自分の考え等を他者に正しく伝達できるようになることを目標とする。総合英語 I (a)(b) よりも速い速度でより正しく理解する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

様々な国々の世界遺産にスポットライトを当てた教材を用いて、**listening** 力・**reading** 力を高めていく。**written teaching materials** だけでなく **DVD,CD** 等も随時使用し、**written English** のみならず **oral English** をも重視する。**presentation** としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

秋学期

各課の **Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing, Reading, Cross-cultural Activities, Writing** などの作業を通じて4技能特に **listening** と **presentation** の力の向上を図る。(時間的理由等で省略する作業もありうる。) **DVD,CD** も随時使用し、**written English** のみならず、**oral English** をも重視する。**presentation** としては「自己紹介」「教材の内容についての感想」等、随時発表や課題提出を行う。速読用教材を適宜用いることにより、速読力を高める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Guideline
2	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Introduction, Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
3	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Reading, Cross-cultural Activities
4	Unit 1 Yellowstone National Park(U.S.A.)	Writing, etc. 速読教材使用

5	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
6	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
7	Unit 2 Kakadu National Park(Australia)	Writing, etc. Mini-Quizzes, Previewing,
8	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	DVD Viewing, Reading, 速読教材使用
9	Unit 3 Venice and Its Lagoon(Italy)	Cross-cultural Activities, Writing
10	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読教材使用
11	Unit 4 Mont-Saint-Michel and Its Bay(France)	Reading, Cross-cultural Activities, Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
12	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	Reading, Cross-cultural Activities 速読教材使用
13	Unit 5 The Hiroshima Peace Memorial(Japan)	定期試験 Writing
14	総復習・試験用紙返却・解説	Unit 1-Unit 5
15	Orientation (ガイダンス)	授業の進め方・評価方法等についての説明
	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
16	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
17	Unit 6 Changdeokgung Palace Complex(Korea)	Writing
18	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用
19	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Reading, Cross-cultural Activities
20	Unit 7 The Pyramids(Egypt)	Writing
	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing 速読用教材使用
21	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Reading, Cross-cultural Activities
22	Unit 8 Galapagos Islands(Ecuador)	Writing 速読用教材使用
23	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
24	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用

管理 ID: 1826570
 授業コード: M0035

25	Unit 9 Works of Antoni Gaudi(Spain) Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Writing Mini-Quizzes, Previewing, DVD Viewing
26	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania)	Reading, Cross-cultural Activities 速読用教材使用
27	Unit 10 Serengeti National Park(Tanzania) 定期試験	Writing Unit 6-10
28	総復習・試験問題返 却・解説	Unit 6-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

教科書の予習（vocabulary, listening, reading 等）・復習（理解度の低かった箇所の復習等）・宿題（レポート課題作成等）なお、次回に口頭発表が予定されている学生はその準備をして授業に臨む必要がある。

秋学期

予習（授業内で扱う内容について十分調べてから授業に臨む。）
復習（前回の授業で扱った内容・語彙・文法等の復習を行なう。）
課題（課題が提示された場合には行ない、期日までに提出する。または Presentation の準備を行なう。）

【テキスト（教科書）】

Hisakazu Tsukano, Robert Van Benthuyzen, Kenichi Ohyama
『Exploring World Heritage II (DVD でめぐる世界遺産 II)』
SEIBIDO (2,400 円 (税別))

【参考書】

必要となる資料は授業で随時配布もしくは提示する。(速読教材等)

【成績評価の方法と基準】

春学期

定期試験 50%, 授業内課題（授業での課題・発表・貢献等を含む）
25%, 授業外課題（課題提出等） 25%

秋学期

試験 50%、授業内課題 25%、授業外課題 25%（「授業内課題」とは授業中の指示に対応し、授業中に提示する課題などに積極的に取り組むことを意味する。授業内に小テストを実施する場合の成績もそれに含める。「授業外課題」とは Oral Presentation の準備や Written Presentation のレポートなどを含むものである。）60 点以上取得の学生に対して単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

語源等、英語に関わる様々な側面の情報を適宜提示するなどして、英語に対する興味・関心を増すような授業を目指したいと考える次第である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。(辞書・電子辞書などの持参は構わないが、それらを用いるのは予習時・復習時であり、授業中の使用は原則的に禁止する。授業中は教員の説明や他の学生の発言等注意して聴くことが重要なため。) writing 作業等でそれらを用いてもよい際には教員が指示する。

【その他の重要事項】

春学期

授業に真剣・熱心に取り組むことが重要である。各自欠席・遅刻の双方を極力 0 に抑えて積極的に授業に参加することが望まれる。(常日頃から健康維持に十分留意することも必要である。)

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

秋学期

十分な予習を行ない、できる限り多く授業に出席し、授業に積極的に取り組むことが望ましい。

「より速くより正確に読み取る」(Read with fluency, read with accuracy) という目的を達成する気力で取り組むことを望む次第である。

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第一にリーディング力の一層の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いたテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な 4 技能の一層の総合的向上を図る。

【到達目標】

事実と筆者の意見の区別等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持てるようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明
2	Who's Intelligent?	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
3	Who's Intelligent?	Word Work, Writing Speaking
4	Isn't It Romantic?	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
5	Isn't It Romantic?	Word Work, Speaking & Writing
6	Two Sides to the Story	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
7	Two Sides to the Story	Word Work, Writing & Presenting
8	Review 1	Reading Strategy, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Writing
9	Money Makers	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
10	Money Makers	Word Work, Writing & Presenting
11	Advertising	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading

12	Advertising	Word Work, Speaking, Presentation
13	定期考査 The Art of Color	Reading Strategy, Strategy in Focus,
14	定期考査返却 The Art of Color	Reading, Word Work, Writing

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。さらに、ライティングについては書く内容について事前に準備を行っておくこと。復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト (教科書)】

A Good Reading 3, 2018 年発行、
松柏社 2,100 円

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期考査 (70%)、小テスト (10%)、その他 (平常点、提出物) (20%) を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書

管理 ID:
1826639
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第一にリーディング力の一層の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いたテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な 4 技能の一層の総合的向上を図る。

【到達目標】

事実と筆者の意見の区別等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持てるようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	The Social Side of Business	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
2	The Social Side of Business	Word Work, Writing, Speaking
3	People Tell Lies	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
4	People Tell Lies	Word Work, Writing, Speaking
5	School Debates	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
6	School Debates	Word Work, Writing & Speaking,
7	Review 3	Reading Strategy, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Speaking
8	Food Extremes	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
9	Food Extremes	Word Work, Speaking
10	More than a Game	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading

11	More than a Game	Word Work, Writing, Speaking
12	Economic Matters	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
13	定期考査	Word Work, Speaking & Economic Matters Writing
14	定期考査返却	Unit7~12 復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。ライティングについては、書く内容について事前に準備しておくこと。事前に復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト (教科書)】

A Good Reading 3, 2018 年発行、
松柏社 2,100 円

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期考査 (70%)、小テスト (10%)、その他 (平常点、提出物) (20%) を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書

管理 ID:
1826638
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生対象】

桑原 洋

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

第一にリーディング力の一層の向上を目指す。テキストを通して、英語の論理構造を正確に捉え、読んだ内容に関する自分の意見・考えについて意思疎通する中で、スピーキング、ライティング、リスニング力の向上を目的とする。さらに、プリント教材を適宜用いたテキストとは異なった分野の英文に接し、大学生として必要な4技能の一層の総合的向上を図る。

【到達目標】

事実と筆者の意見の区別等の多様な読解法を学び、語彙力を増強し、読解力を伸張し、自分の意見・考えを英語で書き表せる。さらに、ペアワーク、グループワーク、クラスでのプレゼンテーションなどを通して、自分の考えを口頭で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストについては、読解方略を確認した上で、内容理解を行い、読んだ内容に関して自分の考えを学生同士で話し、書き、伝え合い、多様な考えを持てるようにする。プリント教材や視聴覚教材については、内容理解を行い、何回も同じ内容について書き換えることで完成させるプロセスライティングの活動を行う。授業の展開によって、変更することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明
2	Who's Intelligent?	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
3	Who's Intelligent?	Word Work, Writing Speaking
4	Isn't It Romantic?	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
5	Isn't It Romantic?	Word Work, Speaking & Writing
6	Two Sides to the Story	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
7	Two Sides to the Story	Word Work, Writing & Presenting
8	Review 1	Reading Strategy, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Writing
9	Money Makers	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
10	Money Makers	Word Work, Writing & Presenting
11	Advertising	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
12	Advertising	Word Work, Speaking, Presentation
13	定期考査 The Art of Color	Reading Strategy, Strategy in Focus,

14	定期考査返却 The Art of Color	Reading, Word Work, Writing
15	The Social Side of Business	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
16	The Social Side of Business	Word Work, Writing, Speaking
17	People Tell Lies	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
18	People Tell Lies	Word Work, Writing, Speaking
19	School Debates	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
20	School Debates	Word Work, Writing & Speaking,
21	Review 3	Reading Strategy, Reading, Comprehension Check, Word Chunks, Speaking
22	Food Extremes	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
23	Food Extremes	Word Work, Speaking
24	More than a Game	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
25	More than a Game	Word Work, Writing, Speaking
26	Economic Matters	Reading Strategy, Strategy in Focus, Reading
27	定期考査 Economic Matters	Word Work, Speaking & Writing
28	定期考査返却	Unit7~12 復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習として、語彙を調べ、課題を自分で解いておく。さらに、ライティングについては書く内容について事前に準備を行っておくこと。復習としては、語彙を身に付け、リーディング教材などを正確に理解しておくこと。小テストを行う。

【テキスト (教科書)】

A Good Reading 3, 2018年発行、松柏社 2,100円

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期考査(70%)、小テスト(10%)、その他(平常点、提出物)(20%)を総合する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書

管理 ID: 1826571
授業コード: M0036

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

蒔田 裕美

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

海外旅行に必要な実践的な英語力を学ぶ。

【到達目標】

学生が英語での明瞭な発音を身につけることができる。

また、海外旅行中の様々な場面で相手とコミュニケーションする能力が身につく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ペアワークやリスニングのエクササイズを通して、空港、レストランやホテルなどで役立つ英語表現を体得する。

授業では、学生ができるだけ多く英語で話すことに時間をあてる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)
の実施】****【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	英語で自己紹介	Unit1, p8-10 初対面の人に英語で自己紹介する。
2	旅の計画を説明	Unit1, p11-15 旅の計画を英語で説明する練習。
3	空港で使用する英語	Unit2, p16-19 入国審査官の質問に英語で答える練習。
4	到着カードの記入	Unit2, p20-23 到着カードを英語で記入する。
5	タクシー	Unit3, p24-26 タクシーの運転手に目的地を指示し、確認する練習。
6	支払いの場面	Unit3, p25-31 英語で支払いし、チップを適切に渡す練習。
7	ホテルの予約	Unit4, p32-35 英語でホテルの予約をする練習。
8	ホテルのチェックイン	Unit4, p36-39 チェックインで使用する英語を身につける。
9	観光場所を決める	Unit5, p40-43 現地の人に英語でお勧めの観光場所を尋ねる練習。
10	観光地の情報を得る	Unit5, p44-47 観光地の詳細について英語で質問する練習。
11	レンタカー	Unit6, p50-53 英語でレンタカーを借りる練習。
12	レンタル契約	Unit6, p54-57 英語のレンタル契約書を理解し、保険に入る練習。
13	道案内	Unit7, 58-61 英語で道を尋ねる練習。
14	まとめと試験	Unit1-7 までの会話表現を覚えたかの確認を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習は、CD を聞いて声に出して英語の発音を練習する。

復習は、授業で習った単語の意味を覚える。

【テキスト (教科書)】

Michael P. Critchley 『Encounters Abroad』南雲堂、2016 年、2200 円

辞書は必ず持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のペアワークへの参加度 30%、試験 70%

三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くなり過ぎないように留意し、学生が理解できているかその都度確認する。

管理 ID: 1804299

授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

蒔田 裕美

サブタイトル：(1)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

海外旅行に必要な実践的な英語を学ぶ。
英語で効果的にプレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】

学生が英語での明瞭な発音を身につけることができる。
また、海外旅行中の様々な場面で相手とコミュニケーションする能力が身につく。
英語でのプレゼンテーション方法を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

ペアワークやリスニングのエクササイズを通して、空港、レストランやホテルなどで役立つ英語表現を体得する。

授業では、学生ができるだけ多く英語で話すことに時間をあてる。
自分の行きたい国について調査し、英語でプレゼンテーションする。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)
の実施】**

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	買い物	Unit8, p66-69 買いたい商品について店員と英語でのやりとりをする。
2	道案内	Unit7, 62-65 英語で道案内をする練習。
3	値段交渉	Unit8, p70-73 英語で値段の交渉をする練習。
4	電話での道案内	Unit9, p74-77 電話での道案内をする練習。
5	会う約束	Unit9, p78-81 待ち合わせ場所や時間を電話で決める練習。
6	レストランで注文	Unit10, p82-85 レストランで料理を注文する練習。
7	料理についてのコメント	Unit10, p86-89 料理についての感想を英語で述べる練習。
8	行きたい国について調査	自分が行きたい国について調査する。
9	行きたい国の1日旅行プラン	行きたい国の1日の旅行プランを英語で作成。
10	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーションする原稿を英語で書いて提出する。
11	プレゼンテーションの方法を学ぶ	パワーポイントを用いた英語でのプレゼンテーション方法を身につける。
12	プレゼンテーション本番	英語でのプレゼンテーションを行う。
13	プレゼンテーションの講評	より良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをもらう。
14	まとめと試験	Unit7-10 で学んだ英語表現が身についたかの確認をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習は、CD を聞いて声に出して英語の発音を練習する。
復習は、授業で習った単語の意味を覚える。

【テキスト (教科書)】

Michael P. Critchley 『Encounters Abroad』南雲堂、2016 年、2200 円
辞書は必ず持参すること。

【参考書】

授業時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 50%、試験 50%
三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くなり過ぎないように留意し、学生が理解できているかその都度確認する。

管理 ID：
1804306
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017年度以前入学生対象】

蒔田 裕美

サブタイトル：(1)
 カテゴリ：外国語科目・語学
 開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位
 曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期
 海外旅行に必要な実践的な英語力を学ぶ。
 秋学期
 海外旅行に必要な実践的な英語を学ぶ。
 英語で効果的にプレゼンテーションする技術を学ぶ。

【到達目標】

春学期
 学生が英語での明瞭な発音を身につけることができる。
 また、海外旅行中の様々な場面で相手とコミュニケーションする能力が身につく。
 秋学期
 学生が英語での明瞭な発音を身につけることができる。
 また、海外旅行中の様々な場面で相手とコミュニケーションする能力が身につく。
 英語でのプレゼンテーション方法を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期
 ペアワークやリスニングのエクササイズを通して、空港、レストラン
 やホテルなどで役立つ英語表現を体得する。
 授業では、学生ができるだけ多く英語で話すことに時間をあてる。
 秋学期
 ペアワークやリスニングのエクササイズを通して、空港、レストラン
 やホテルなどで役立つ英語表現を体得する。
 授業では、学生ができるだけ多く英語で話すことに時間をあてる。
 自分の行きたい国について調査し、英語でプレゼンテーションする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）
 の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	英語で自己紹介	Unit1, p8-10 初対面の人に英語で自己紹介する。
2	旅の計画を説明	Unit1, p11-15 旅の計画を英語で説明する練習。
3	空港で使用する英語	Unit2, p16-19 入国審査官の質問に英語で答える練習。
4	到着カードの記入	Unit2, p20-23 到着カードを英語で記入する。
5	タクシー	Unit3, p24-26 タクシーの運転手に目的地を指示し、確認する練習。
6	支払いの場面	Unit3, p25-31 英語で支払いし、チップを適切に渡す練習。
7	ホテルの予約	Unit4, p32-35 英語でホテルの予約をする練習。

8	ホテルのチェックイン	Unit4, p36-39 チェックインで使用する英語を身につける。
9	観光場所を決める	Unit5, p40-43 現地の人に英語でお勧めの観光場所を尋ねる練習。
10	観光地の情報を得る	Unit5, p44-47 観光地の詳細について英語で質問する練習。
11	レンタカー	Unit6, p50-53 英語でレンタカーを借りる練習。
12	レンタル契約	Unit6, p54-57 英語のレンタル契約書を理解し、保険に入る練習。
13	道案内	Unit7, 58-61 英語で道を尋ねる練習。
14	まとめと試験	Unit1-7 までの会話表現を覚えたかの確認を行う。
15	買い物	Unit8, p66-69 買いたい商品について店員と英語でのやりとりをする。
16	道案内	Unit7, 62-65 英語で道案内をする練習。
17	値段交渉	Unit8, p70-73 英語で値段の交渉をする練習。
18	電話での道案内	Unit9, p74-77 電話での道案内をする練習。
19	会う約束	Unit9, p78-81 待ち合わせ場所や時間を電話で決める練習。
20	レストランで注文	Unit10, p82-85 レストランで料理を注文する練習。
21	料理についてのコメント	Unit10, p86-89 料理についての感想を英語で述べる練習。
22	行きたい国について調査	自分が行きたい国について調査する。
23	行きたい国の1日旅行プラン	行きたい国の1日の旅行プランを英語で作成。
24	プレゼンテーション原稿作成	プレゼンテーションする原稿を英語で書いて提出する。
25	プレゼンテーションの方法を学ぶ	パワーポイントを用いた英語でのプレゼンテーション方法を身につける。
26	プレゼンテーション本番	英語でのプレゼンテーションを行う。
27	プレゼンテーションの講評	より良いプレゼンテーションを行うためのアドバイスをする。
28	まとめと試験	Unit7-10 で学んだ英語表現が身についたかの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は、CD を聞いて声に出して英語の発音を練習する。
 復習は、授業で習った単語の意味を覚える。

【テキスト（教科書）】

Michael P. Critchley 『Encounters Abroad』南雲堂、2016年、2200円
 辞書は必ず持参すること。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期
 授業内のペアワークへの参加度30%、試験70%
 三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。
 秋学期
 プレゼンテーション50%、試験50%
 三分の一以上欠席した場合、単位は認められない。

管理 ID：
1826572
 授業コード：
M0040

【学生の意見等からの気づき】

授業の進みが速くなり過ぎないように留意し、学生が理解できているかその都度確認する。

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

北出 広子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本クラスでは、1つ1つの文の書き方から始まり、文をいくつか集めて多様なパラグラフが書けるように段階的に学習します。その際に、英文パラグラフの構造をよく理解してパラグラフが書けるようにします。

【到達目標】

まずは文法的に誤りのないきちんとした文が書けるようにします。正しい英文の書き方を学んだ後に、英文の数を増やしていき、パラグラフ・ライティングへと進めていきます。最終的には、パラグラフを実践的に作成して英文が書けるように習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

初回の授業では、教科書を使いながら授業の進め方や、成績評価の仕方などを説明します。また、パラグラフ・ライティングの概要とその重要性をお話します。2週目からは、教科書の練習問題を中心に授業を進めていきます。その際、構文・文法に気をつけて正しい英文が書けるように訓練を行います。必要に応じて適宜英文和訳をしたりすることがあります。英文を書くことに慣れてきたらパラグラフの構造にしたがって、実際にパラグラフを英語で作成します。1年次の学習をもとに応用的に進めていく予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の方針や進め方、成績評価方法及びパラグラフの概要とその重要性などについて説明します。
第2回	節とは何だろう①	いろいろな節 (Clause) の書き方と上手な使い方
第3回	節とは何だろう②	節のよくある間違いとそれらを避けるための方法
第4回	単・重・複文、関係詞とは何だろう①	いろいろな文と文の構造
第5回	単・重・複文、関係詞とは何だろう②	関係詞を含んだ文の構造
第6回	書き留める前にすべきことは何だろう①	ブレイン・ストーミング (Brainstorming) グループわけ (Clustering)
第7回	書き留める前にすべきことは何だろう②	あらすじ作り (Outlining)
第8回	パラグラフとは何だろう①	パラグラフの構成要素 ・タイトル (Title) ・トピック・センテンス (Topic Sentence)

第9回 パラグラフとは何だろう②
パラグラフの構成要素
・主要サポート文 (Major Support)
・詳細サポート文 (Minor Support)
・結論文 (Conclusion Sentence)

第10回 校正読み、訂正、書き直しとは何だろう①
校正読み (Proof-reading)
訂正 (Correcting)

第11回 校正読み、訂正、書き直しとは何だろう②
書き直し (Rewriting)

第12回 例示パラグラフとは何だろう①
例示パラグラフ (Illustration / Example Paragraph) の書き方とその分析の方法

第13回 例示パラグラフとは何だろう②
例示パラグラフを利用したライティング

第14回 期末試験とまとめ
期末試験と学期の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト (教科書)】

『Keys to Better Paragraph Writing』、Kelly Kennedy-Isern 著、松柏社、1900円 (税別)

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20%)
 - 2) 課題提出 (20%)
 - 3) 期末試験 (60%)
- 詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

管理 ID:
1804300
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

北出 広子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本クラスでは、春学期に続いて文法的に正しい英文を書く練習を行いながら、パラグラフ・ライティングを学習します。特に本学期は、パラグラフ単位で捉えて英文を書くことに力をいれます。

【到達目標】

英文パラグラフの構成に必要な要素をきちんと取り入れながら、多様なパラグラフを実践的に作成して英文が書けるように習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

初回の授業では、春学期で学んだパラグラフ・ライティングの書き方について確認します。その後は教科書を使いながら練習問題を中心に授業を進めていきます。その際、構文・文法に気をつけて正しい英文が書けるように訓練を行いますが、必要に応じて適宜英文和訳をしたりする場合があります。パラグラフの構造をさらに深めるために、さまざまなパターンのパラグラフを書くことに重点を置きます。なお、課題として英語でパラグラフを作成することがあります。1年次の学習をもとに応用的に進めていく予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	秋学期の授業について説明します。加えて、パラグラフの構造を確認します。
第2回	説明パラグラフとは何だろう①	説明パラグラフ (Process / Narrative Paragraph) の書き方とその分析の方法
第3回	説明パラグラフとは何だろう②	説明パラグラフを利用したライティング
第4回	分類パラグラフとは何だろう①	分類パラグラフ (Classification Paragraph) の書き方とその分析の方法
第5回	分類パラグラフとは何だろう②	分類パラグラフを利用したライティング
第6回	記述パラグラフとは何だろう①	記述パラグラフ (Descriptive Paragraph) の書き方とその分析の方法
第7回	記述パラグラフとは何だろう②	記述パラグラフを利用したライティング
第8回	定義パラグラフとは何だろう①	定義パラグラフ (Definition Paragraph) の書き方とその分析の方法
第9回	定義パラグラフとは何だろう②	定義パラグラフを利用したライティング
第10回	比較パラグラフとは何だろう①	比較パラグラフ (Comparison Paragraph) の書き方とその分析の方法
第11回	比較パラグラフとは何だろう②	比較パラグラフを利用したライティング

第12回	対照パラグラフとは何だろう①	対照パラグラフ (Contrast Paragraph) の書き方とその分析の方法
第13回	対照パラグラフとは何だろう②	対照パラグラフを利用したライティング
第14回	期末試験とまとめ	筆記試験と学期の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト (教科書)】

『Keys to Better Paragraph Writing』、Kelly Kennedy-Isern 著、松柏社、1900 円 (税別)

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20%)
 - 2) 課題提出 (20%)
 - 3) 期末試験 (60%)
- 詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

管理 ID:
1804307
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017年度以前入学生対象】

北出 広子

サブタイトル：(2)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期

本クラスでは、1つ1つの文の書き方から始まり、文をいくつか集めて多様なパラグラフが書けるように段階的に学習します。その際に、英文パラグラフの構造をよく理解してパラグラフが書けるようにします。

秋学期

本クラスでは、春学期に続いて文法的に正しい英文を書く練習を行いながら、パラグラフ・ライティングを学習します。特に本学期は、パラグラフ単位で捉えて英文を書くことに力をいれます。

【到達目標】

春学期

まずは文法的に誤りのないきちんとした文が書けるようにします。正しい英文の書き方を学んだ後に、英文の数を増やしていき、パラグラフ・ライティングへと進めていきます。最終的には、パラグラフを実践的に作成して英文が書けるように習得することを目標とします。

秋学期

英文パラグラフの構成に必要な要素をきちんと取り入れながら、多様なパラグラフを実践的に作成して英文が書けるように習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

初回の授業では、教科書を使いながら授業の進め方や、成績評価の仕方などを説明します。また、パラグラフ・ライティングの概要とその重要性をお話します。2週目からは、教科書の練習問題を中心に授業を進めていきます。その際、構文・文法に気をつけて正しい英文が書けるように訓練を行います。必要に応じて適宜英文和訳をしたりする場合があります。英文を書くことに慣れてきたらパラグラフの構造にしたがって、実際にパラグラフを英語で作成します。1年次の学習をもとに応用的に進めていく予定です。

秋学期

初回の授業では、春学期で学んだパラグラフ・ライティングの書き方について確認します。その後は教科書を使いながら練習問題を中心に授業を進めていきます。その際、構文・文法に気をつけて正しい英文が書けるように訓練を行います。必要に応じて適宜英文和訳をしたりする場合があります。パラグラフの構造をさらに深めるために、さまざまなパターンのパラグラフを書くことに重点を置きます。なお、課題として英語でパラグラフを作成することがあります。1年次の学習をもとに応用的に進めていく予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の方針や進め方、成績評価方法及びパラグラフの概要とその重要性などについて説明します。
2	節とは何だろう①	いろいろな節（Clause）の書き方と上手な使い方

3	節とは何だろう②	節のよくある間違いとそれらを避けるための方法
4	単・重・複文、関係詞とは何だろう①	いろいろな文と文の構造
5	単・重・複文、関係詞とは何だろう②	関係詞を含んだ文の構造
6	書き留める前にすべきことは何だろう①	ブレイン・ストーミング（Brainstorming） グループわけ（Clustering）
7	書き留める前にすべきことは何だろう②	あらすじ作り（Outlining）
8	パラグラフとは何だろう①	パラグラフの構成要素 ・タイトル（Title） ・トピック・センテンス（Topic Sentence）
9	パラグラフとは何だろう②	パラグラフの構成要素 ・主要サポート文（Major Support） ・詳細サポート文（Minor Support） ・結論文（Conclusion Sentence）
10	校正読み、訂正、書き直しとは何だろう①	校正読み（Proof-reading） 訂正（Correcting）
11	校正読み、訂正、書き直しとは何だろう②	書き直し（Rewriting）
12	例示パラグラフとは何だろう①	例示パラグラフ（Illustration / Example Paragraph）の書き方とその分析の方法
13	例示パラグラフとは何だろう②	例示パラグラフを利用したライティング
14	期末試験とまとめ	期末試験と学期の総括
15	ガイダンス	秋学期の授業について説明します。加えて、パラグラフの構造を確認します。
16	説明パラグラフとは何だろう①	説明パラグラフ（Process / Narrative Paragraph）の書き方とその分析の方法
17	説明パラグラフとは何だろう②	説明パラグラフを利用したライティング
18	分類パラグラフとは何だろう①	分類パラグラフ（Classification Paragraph）の書き方とその分析の方法
19	分類パラグラフとは何だろう②	分類パラグラフを利用したライティング
20	記述パラグラフとは何だろう①	記述パラグラフ（Descriptive Paragraph）の書き方とその分析の方法
21	記述パラグラフとは何だろう②	記述パラグラフを利用したライティング
22	定義パラグラフとは何だろう①	定義パラグラフ（Definition Paragraph）の書き方とその分析の方法
23	定義パラグラフとは何だろう②	定義パラグラフを利用したライティング
24	比較パラグラフとは何だろう①	比較パラグラフ（Comparison Paragraph）の書き方とその分析の方法
25	比較パラグラフとは何だろう②	比較パラグラフを利用したライティング
26	対照パラグラフとは何だろう①	対照パラグラフ（Contrast Paragraph）の書き方とその分析の方法
27	対照パラグラフとは何だろう②	対照パラグラフを利用したライティング
28	期末試験とまとめ	筆記試験と学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とした授業なので、指定された教科書の範囲をよく読み、練習問題を解いて授業に臨みます。またライティングの課題は期限内に提出します。

【テキスト（教科書）】

『Keys to Better Paragraph Writing』、Kelly Kennedy-Isern 著、松柏社、1900円（税別）

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業への積極的な参加姿勢 (20 %)
- 2) 課題提出 (20 %)
- 3) 期末試験 (60 %)

詳しくはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

小川 真也

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】

この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。

- ①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
- ②上記の知識を用いて英語で表現する。
- ③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
- ④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1 回の授業で 1 つの Unit に取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用したリスニング問題と読解に取り組み、高校までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。テキストの練習問題のほかに、プリントを使用し英作文の問題を解く。また、各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも 1 本はまとまった分量のエッセイを書く。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	Unusual Weather:主語の選択
3	Unit 2	Terrorism:名詞 (1)
4	Unit 3	Vacation Abroad:名詞 (2)
5	Unit1-3 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Fame and Fortune:代名詞
7	Unit 5	Hosting the Olympics:冠詞
8	Unit 6	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles:形容詞 (1)
9	Unit 7	The perfect Export:形容詞 (2)
10	Unit4-7 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	Still Addicted to Junk Food:副詞
12	Unit 9	A Graying Society:比較
13	Unit 10	Waiting for "Mr. Right":動詞 (1)
14	Unit8-10 のまとめ	質疑応答と期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提に小テストを実施し、授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト (教科書)】

木塚晴夫、Roger Northridge 著 Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing (金星堂、2008 年、定価 1800 円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの)

【成績評価の方法と基準】

小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、期末テストで習熟度を評価する。

小テスト 10 %、授業への貢献 20 % 課題 20 % 期末テスト 50 %
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。

学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替りの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

管理 ID :
1804301
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

小川 真也

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】

この授業では学生は次の4点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。

- ①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
- ②上記の知識を用いて英語で表現する。
- ③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
- ④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1回の授業で1つのUnitに取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用したリスニング問題と読解に取り組み、高校までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。テキストの練習問題のほかに、プリントを使用し英作文の問題を解く。また、各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも1本はまとまった分量のエッセイを書く。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 11	Manners Make Us Brighter:動詞 (2)
3	Unit 12	Seeing What Isn't There:時制
4	Unit 13	Cybercrime:態
5	Unit11-13 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 14	Looking for a Job:動名詞
7	Unit 15	To Smoke or Not to Smoke:不定詞
8	Unit 16	Cats and Dogs:接続詞
9	Unit 17	World Heritage Sites:前置詞
10	Unit14-17 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 18	Keeping the Peace:関係詞
12	Unit 19	But for the Distance:仮定法
13	Unit 20	Clean, Green Cities:語順
14	Unit8-10 のまとめ	質疑応答と期末テスト
		期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提に小テストを実施し、授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。

Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト (教科書)】

木塚晴夫, Roger Northridge 著 Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing (金星堂, 2008年, 定価1800円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの)

【成績評価の方法と基準】

小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、期末テストで習熟度を評価する。

小テスト 10%、授業への貢献 20% 課題 20% 期末テスト 50%
授業開始から30分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は2回で欠席1回となる。

学期ごとに欠席が3回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替りの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

管理 ID:
1804308
授業コード:

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

小川 真也

サブタイトル：(3)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次/2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を読解することと、英作文を書くことを通して、英単語・熟語・文法を復習し、英語で自分の意見を表現する力を身に付ける。リスニングの練習問題を通して、リスニング能力を高める。

【到達目標】

この授業では学生は次の 4 点を目標に置き、英語表現を中心に勉強する。

- ①高校までに学習してきた単語・熟語・文法を総復習する。
- ②上記の知識を用いて英語で表現する。
- ③パラグラフ構成を考慮しながら、英語でエッセイを書く能力を身に付ける。
- ④リスニング能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

下記のテキストを使用し、1 回の授業で 1 つの Unit に取り組む。最初にテキストのリーディング・セクションを利用したリスニング問題と読解に取り組み、高校までに学習してきた単語や熟語、英文法事項などを復習する。続いて英語表現の練習問題を解いていく。テキストの練習問題のほかに、プリントを使用し英作文の問題を解く。また、各自がテーマを設定して、まとまった文章を書く時間を設け、半期に少なくとも 1 本はまとまった分量のエッセイを書く。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方法などの説明
2	Unit 1	Unusual Weather:主語の選択
3	Unit 2	Terrorism:名詞 (1)
4	Unit 3	Vacation Abroad:名詞 (2)
5	Unit1-3 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
6	Unit 4	Fame and Fortune:代名詞
7	Unit 5	Hosting the Olympics:冠詞
8	Unit 6	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles:形容詞 (1)
9	Unit 7	The perfect Export:形容詞 (2)
10	Unit4-7 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
11	Unit 8	Still Addicted to Junk Food:副詞
12	Unit 9	A Graying Society:比較
13	Unit 10	Waiting for "Mr. Right":動詞 (1)
14	Unit8-10 のまとめ 期末テスト	質疑応答と期末テスト
15	イントロダクション	授業方法などの説明
16	Unit 11	Manners Make Us Brighter:動詞 (2)
17	Unit 12	Seeing What Isn't There:時制
18	Unit 13	Cybercrime:態

19	Unit11-13 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
20	Unit 14	Looking for a Job:動名詞
21	Unit 15	To Smoke or Not to Smoke:不定詞
22	Unit 16	Cats and Dogs:接続詞
23	Unit 17	World Heritage Sites:前置詞
24	Unit14-17 のまとめ	質疑応答とエッセイ・ライティング
25	Unit 18	Keeping the Peace:関係詞
26	Unit 19	But for the Distance:仮定法
27	Unit 20	Clean, Green Cities:語順
28	Unit8-10 のまとめと 期末テスト	質疑応答と期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習を前提に小テストを実施し、授業を進めるので、テキストを読み、練習問題を解き、わからない語句を辞書で調べて来ること。Unit 終了後には必ずテキストを読み返し、わからなかった箇所や練習問題を見直すこと。

【テキスト (教科書)】

木塚晴夫、Roger Northridge 著 Writing Updates: A Grammar-based Approach to English Writing (金星堂、2008 年、定価 1800 円)

【参考書】

和英辞書、英和辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可だが、文法的な説明されているもの)

【成績評価の方法と基準】

小テスト、担当箇所の読解と練習問題の解答、課題提出、期末テストで習熟度を評価する。

小テスト 10 %、授業への貢献 20 % 課題 20 % 期末テスト 50 %
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻は 2 回で欠席 1 回となる。

学期ごとに欠席が 3 回を超えると成績評価の対象外となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの問題に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替りの練習問題にも取り組む。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。
各自欠席回数、遅刻回数を把握しておくこと。

管理 ID : 1826574
授業コード : M0042

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

式町 眞紀子

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ネイティブにとって標準レベルのオーセンティックな英文を用い、文の構造分析を通じて、日本語の文章とは違う英文特有のスタイルと論の展開法を学び、ライティングにつなげる。

【到達目標】

最小単位である単語 (vocabulary) 量を増やし、基本単位である文 (sentence) を組み立て、paragraph にまとめ、「Correctness — 正しさ」、「Appropriateness — 適切さ」、そして「Naturalness — (英語としての) 自然さ」と、三要素を備えたエッセイに発展・応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本文をパラグラフごとに分析しながら読み進める。毎回の演習に共通する作業は、①トピックセンテンスを見つけ、paragraph 全体が何について書かれているかを理解する。②文と文をつなぐ語句 (transitions) や表現 (paraphrase) にも注目しながら、論の展開を確認する。③フローチャート、アウトライン、表のいずれかを使って情報を再度整理し、全体的な文の流れを把握する。これらを踏まえて、Topics for Discussion and Writing、すなわち Chapter の内容に関連するテーマについて、英問英答で仕上げる。ひとつの Chapterにつき、2回 (2週) を目安とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明。
2	Chapter 1: A Family Sees America Together (前半)	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Chapter 1: A Family Sees America Together (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Chapter 2: Volunteer Vacations (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Chapter 2: Volunteer Vacations (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
6	Chapter 3: How Alike Are Identical Twins? (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
7	Chapter 3: How Alike Are Identical Twins? (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Review exercise	学習内容の確認と応用問題を解く。
9	Review exercise 講評	Review exercise について、解答例などをもとに、クラスで意見交換する。

10	Chapter 4: The Search for Happiness through Adoption (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
11	Chapter 4: The Search for Happiness through Adoption (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
12	Chapter 5: Robots: The Face of the Future (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Chapter 5: Robots: The Face of the Future (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
14	まとめ	春学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

"Vocabulary"では、本文で使用頻度の高い語句がリストアップされているので調べる。Pre-reading Preparationにおいては、各 Chapter のトピックに関連する一般的な知識について確認しておくことよい。なお、テキスト本文は、各パラグラフ毎に分けて分析するレイアウトなので、予習・復習どちらにおいても、テキスト巻末の Appendix に掲載されている full passage で全体の流れを掴むことよい。

【テキスト (教科書)】

Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama, Yasuko Okino. *Reading Access. Skills for Academic Success.*, Cengage Learning 978-1-305-07707-2

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、語彙力増強のために英英辞典も薦める。ほかは必要に応じて紹介、説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験 40 % ③課題や提出物 20 %。以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「さまざまな英文の書式がわかった」という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減することがある。

一般的なことでは、大学生となるとさまざまな場面で自己管理が求められることを各自がしっかりと認識することを望む。

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

式町 眞紀子

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ネイティブにとって標準レベルのオーセンティックな英文を用い、文の構造分析を通じて、日本語の文章とは違う英文特有のスタイルと論の展開法を学び、ライティングにつなげる。

【到達目標】

最小単位である単語 (vocabulary) 量を増やし、基本単位である文 (sentence) を組み立て、paragraph にまとめ、「Correctness — 正しさ」、「Appropriateness — 適切さ」、そして「Naturalness — (英語としての) 自然さ」と、三要素を備えたエッセイに発展・応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には春学期と同じ進め方である。本文をパラグラフごとに分析しながら読み進める。毎回の演習に共通する作業は、①トピックセンテンスを見つけ、paragraph 全体が何について書かれているかを理解する。②文と文をつなぐ語句 (transitions) や表現 (paraphrase) にも注目しながら、論の展開を確認する。③フローチャート、アウトライン、表のいずれかを使って情報を再度整理し、全体的な文の流れを把握する。これらを踏まえて、Topics for Discussion and Writing、すなわち Chapter の内容に関連するテーマについて、英問英答で仕上げる。ひとつの Chapter につき、2 回 (2 週) を目安とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期のふり返りと秋学期の授業内容の確認を中心に行う。
2	Chapter 6:A New Way to Go (前半)	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Chapter 6:A New Way to Go (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Chapter 7: Improving Lives with Pet Therapy (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Chapter 7: Improving Lives with Pet Therapy (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
6	Chapter 8: A Healthy Diet for Everyone (前半)	Step 5 および Step6 の学習内容の確認と応用問題を解く。
7	Chapter 8: A Healthy Diet for Everyone (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Review exercise	学習内容の確認と応用問題を解く。
9	Review exercise 講評	Review exercise について、解答例などをもとに、クラスで意見交換する。

10	Chapter 9: A Healthy Diet for Everyone (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
11	Chapter 9: Alfred Nobel: A Man of Peace (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
12	Chapter 10: Marie Curie: Nobel Prize Winner (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Chapter 10: Marie Curie: Nobel Prize Winner (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
14	まとめ	秋学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

"Vocabulary"では、本文で使用頻度の高い語句がリストアップされているので調べる。Pre-reading Preparation においては、各 Chapter のトピックに関連する一般的な知識について確認しておくことよい。なお、テキスト本文は、各パラグラフ毎に分けて分析するレイアウトなので、予習・復習どちらにおいても、テキスト巻末の Appendix に掲載されている full passage で全体の流れを掴むことよい。

【テキスト (教科書)】

Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama, Yasuko Okino., *Reading Access. Skills for Academic Success.*, Cengage Learning 978-1-305-07707-2

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、語彙力増強のために英英辞典も薦める。ほかは必要に応じて紹介、説明する。なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験 40 % ③課題や提出物 20 %。以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「さまざまな英文の書式がわかった」という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減することがある。

一般的なことでは、大学生となるときさまざまな場面で自己管理が求められることを各自がしっかり認識することを望む。

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017 年度以前入学生対象】

式町 真紀子

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次/2 単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ネイティブにとって標準レベルのオーセンティックな英文を用い、文の構造分析を通じて、日本語の文章とは違う英文特有のスタイルと論の展開法を学び、ライティングにつなげる。

【到達目標】

最小単位である単語 (vocabulary) 量を増やし、基本単位である文 (sentence) を組み立て、paragraph にまとめ、「Correctness — 正しさ」、「Appropriateness — 適切さ」、そして「Naturalness — (英語としての) 自然さ」と、三要素を備えたエッセイに発展・応用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

本文をパラグラフごとに分析しながら読み進める。毎回の演習に共通する作業は、①トピックセンテンスを見つけ、paragraph 全体が何について書かれているかを理解する。②文と文をつなぐ語句 (transitions) や表現 (paraphrase) にも注目しながら、論の展開を確認する。③フローチャート、アウトライン、表のいずれかを使って情報を再度整理し、全体的な文の流れを把握する。これらを踏まえて、Topics for Discussion and Writing、すなわち Chapter の内容に関連するテーマについて、英問英答で仕上げる。ひとつの Chapterにつき、2 回 (2 週) を目安とする。

秋学期

基本的には春学期と同じ進め方である。本文をパラグラフごとに分析しながら読み進める。毎回の演習に共通する作業は、①トピックセンテンスを見つけ、paragraph 全体が何について書かれているかを理解する。②文と文をつなぐ語句 (transitions) や表現 (paraphrase) にも注目しながら、論の展開を確認する。③フローチャート、アウトライン、表のいずれかを使って情報を再度整理し、全体的な文の流れを把握する。これらを踏まえて、Topics for Discussion and Writing、すなわち Chapter の内容に関連するテーマについて、英問英答で仕上げる。ひとつの Chapter につき、2 回 (2 週) を目安とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	クラスメンバーの確認、自己紹介に引き続き、テキストや辞書、参考書の紹介、試験などに関する説明。
2	Chapter 1: A Family Sees America Together (前半)	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
3	Chapter 1: A Family Sees America Together (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
4	Chapter 2: Volunteer Vacations (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
5	Chapter 2: Volunteer Vacations (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。

6	Chapter 3: How Alike Are Identical Twins? (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
7	Chapter 3: How Alike Are Identical Twins? (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
8	Review exercise	学習内容の確認と応用問題を解く。
9	Review exercise 講評	Review exercise について、解答例などをもとに、クラスで意見交換する。
10	Chapter 4: The Search for Happiness through Adoption (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
11	Chapter 4: The Search for Happiness through Adoption (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
12	Chapter 5: Robots: The Face of the Future (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
13	Chapter 5: Robots: The Face of the Future (後半)	春学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。
14	まとめ	春学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。
15	オリエンテーション	春学期のふり返りと秋学期の授業内容の確認を中心に行う。
16	Chapter 6: A New Way to Go (前半)	上記にある授業の進め方と方法に基づき、問題範囲を演習する。
17	Chapter 6: A New Way to Go (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
18	Chapter 7: Improving Lives with Pet Therapy (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
19	Chapter 7: Improving Lives with Pet Therapy (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
20	Chapter 8: A Healthy Diet for Everyone (前半)	Step 5 および Step 6 の学習内容の確認と応用問題を解く。
21	Chapter 8: A Healthy Diet for Everyone (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
22	Review exercise	学習内容の確認と応用問題を解く。
23	Review exercise 講評	Review exercise について、解答例などをもとに、クラスで意見交換する。
24	Chapter 9: A Healthy Diet for Everyone (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
25	Chapter 9: Alfred Nobel: A Man of Peace (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
26	Chapter 10: Marie Curie: Nobel Prize Winner (前半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
27	Chapter 10: Marie Curie: Nobel Prize Winner (後半)	授業の進め方と方法を参照のこと。
28	まとめ	秋学期での学習事項のふりかえりとまとめを行う。

管理 ID: 1826575
授業コード: M0043

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

"Vocabulary"では、本文で使用頻度の高い語句がリストアップされているので調べる。Pre-reading Preparationにおいては、各 Chapter のトピックに関連する一般的な知識について確認しておくことよい。なお、テキスト本文は、各パラグラフ毎に分けて分析するレイアウトなので、予習・復習どちらにおいても、テキスト巻末の Appendix に掲載されている full passage で全体の流れを掴むことよい。

【テキスト（教科書）】

Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama, Yasuko Okino.
Reading Access. Skills for Academic Success.,
Cengage Learning 978-1-305-07707-2

【参考書】

基本は、大学生レベルの英和辞典であるが、語彙力増強のために英英辞典も薦める。ほかは必要に応じて紹介、説明する。
なお、スマートフォンの辞書アプリは学習向けに不十分であることから、教室での使用を禁じる。

【成績評価の方法と基準】

①授業参加態度 40 % 演習活動が毎回の授業を形成する。したがって、欠席・遅刻はもとより、授業に出席している「だけ」では評価対象とならない。必修科目であることから、特に欠席については、任意の各種行事や実習に関わるものなども含め、厳密に対処するので連絡と相談、報告をしっかりとすること。②定期試験・中間試験 40 % ③課題や提出物 20 %。以上3点を勘案して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をていねいに説明してもらったことで、理解が深まった。」「さまざまな英文の書式がわかった」という好意的な意見を励みに、ひきつづき学生主体の授業づくりを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

授業については、毎回の演習量は、進捗状況によって増減することがある。

一般的なことでは、大学生となるとさまざまな場面で自己管理が求められることを各自がしっかり認識することを望む。

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

渡辺 廣人

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。 自己紹介。
2	Chapter 1-1 語彙、本文	訳読
3	Chapter 1-2 本文	訳読、Reading Comprehension
4	Chapter 1-3	Listening, Grammar Practice 冠詞
5	Chapter 2-1 語彙、本文	訳読
6	Chapter 2-2	訳読、Reading Comprehension
7	Chapter 2-3	Listening, Grammar Practice 動詞の現在形
8	Chapter 3-1 語彙、本文	訳読
9	Chapter 3-2	訳読、Reading Comprehension
10	Chapter 3-3	Listening, Grammar Practice 代名詞
11	Chapter 4-1 語彙、本文	訳読
12	Chapter 4-2	訳読、Reading Comprehension
13	Chapter 4-3	Listening, Grammar Practice 現在進行形
14	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト (教科書)】

Supreme Reading 1 邦題『スプリーム リーディング』宍戸 真
他著 成美堂 2016 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならぬ。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

管理 ID：
1804303
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

渡辺 廣人

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。 自己紹介
2	Chapter 5-1 語彙、本文	訳読
3	Chapter 5-2	訳読、Reading Comprehension
4	Chapter 5-3	Listening, Grammar Practice 動詞の過去形
5	Chapter 6-1 語彙、本文	訳読
6	Chapter 6-2	訳読、Reading Comprehension
7	Chapter 6-3	Listening, Grammar Practice 特殊疑問文
8	Chapter 7-1 語彙、本文	訳読
9	Chapter 7-2	訳読、Reading Comprehension
10	Chapter 7-3	Listening, Grammar Practice 過去進行形
11	Chapter 8-1 語彙、本文	訳読
12	Chapter 8-2	訳読、Reading Comprehension
13	Chapter 8-3	Listening, Grammar Practice 未来形
14	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト (教科書)】

Supreme Reading 1 邦題『スプリーム リーディング』宍戸 真
他著 成美堂 2016 年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならぬ。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

管理 ID：
1804310
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017年度以前入学生対象】

渡辺 廣人

サブタイトル：(5)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英文を正しく理解するためにはその基本的な成り立ち、つまり文法の理解が重要である。文法のリーディングとライティングへの応用を授業の主要な目的とする。

【到達目標】

文法の基本にあるのは「文の要素と基本文型」である。これらの十分な知識がなければ、英文の正しい理解と作文は難しい。これらを考慮しながら正確な内容把握と作文ができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講読を中心とする。講読した英文に関連した事柄について、できれば毎回確認テストとして作文を行う。各単元は3回に分けて行う予定であるが、学生諸君の予習と復習の程度によって変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。 自己紹介。
2	Chapter 1-1 語彙、本文	訳読
3	Chapter 1-2 本文	訳読、Reading Comprehension
4	Chapter 1-3	Listening, Grammar Practice 冠詞
5	Chapter 2-1 語彙、本文	訳読
6	Chapter 2-2	訳読、Reading Comprehension
7	Chapter 2-3	Listening, Grammar Practice 動詞の現在形
8	Chapter 3-1 語彙、本文	訳読
9	Chapter 3-2	訳読、Reading Comprehension
10	Chapter 3-3	Listening, Grammar Practice 代名詞
11	Chapter 4-1 語彙、本文	訳読
12	Chapter 4-2	訳読、Reading Comprehension
13	Chapter 4-3	Listening, Grammar Practice 現在進行形
14	学期末まとめ	総復習、試験
15	Orientation	授業の進め方、成績評価の説明。 自己紹介
16	Chapter 5-1 語彙、本文	訳読
17	Chapter 5-2	訳読、Reading Comprehension
18	Chapter 5-3	Listening, Grammar Practice 動詞の過去形
19	Chapter 6-1 語彙、本文	訳読

20	Chapter 6-2	訳読、Reading Comprehension
21	Chapter 6-3	Listening, Grammar Practice 特殊疑問文
22	Chapter 7-1 語彙、本文	訳読
23	Chapter 7-2	訳読、Reading Comprehension
24	Chapter 7-3	Listening, Grammar Practice 過去進行形
25	Chapter 8-1 語彙、本文	訳読
26	Chapter 8-2	訳読、Reading Comprehension
27	Chapter 8-3	Listening, Grammar Practice 未来形
28	学期末まとめ	総復習、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

意味の分からない単語は必ず英和辞典で確認し、自分なりの和訳をつけておくこと。その際には英英辞典の併用が望ましい。自分の理解が正しかったか、授業で確認すること。

【テキスト（教科書）】

Supreme Reading 1 邦題『スプリーム リーディング』 穴戸 真他著 成美堂 2016年

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

最終日の授業内試験：40% 確認テスト・発表等：30% 授業への貢献度：30%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート集計前なので、最終結果を見た上で授業に反映させることとする。

【学生が準備すべき機器他】

電子媒体・紙媒体は問わないが、必ず英和辞典を持参すること。単語の意味だけでなく、語法の解説が載っているものでなければならぬ。携帯電話・スマホを辞書代わりにすることは禁止する。

管理 ID：
1826576
授業コード：
M0044

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	イントロダクション、年間計画、年間計画、諸注意など 諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ①～②, Your Song, Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises + a, まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト (教科書)】

プリントを使用する

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60 %), レポート (10 %), 平常点 (20 %), プレゼンテーション (10 %) それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
2	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①
3	Power Exercises + a	Exercise 10, Coin changer, Film ①
4	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①~②
5	Power Exercises + a, プレゼンテーションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテーションについて指示、説明
6	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ②~③
8	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
9	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③~④
10	プレゼンテーション準備	Exercise まとめ, 力だめし
11	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
12	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
13	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
14	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト (教科書)】

プリントを使用する

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%), レポート (10%), 平常点 (20%), プレゼンテーション (10%) それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

出席・平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

管理 ID :
1804311
授業コード :

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017年度以前入学生対象】

相馬 美明

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

読解問題を基軸とし、加えて日常生活のさまざまな場面における実践的英語コミュニケーション能力を養成する。

【到達目標】

テキストの英文を通じ、英語の文法、構成、流れなどを意識しつつ、スピードを上げて読むことに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの英文の読解に加え、毎回ビデオ教材などを使用し、平易ながらも日常会話に必要とされるさまざまな表現にも触れ、リスニング、ディクテーション、スピーキング、読解などのいわゆる英語のフォー・スキルズを高めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	American and Japanese Universities	Lesson 1, Film ①
3	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ①～②, Your Song, Questions
4	What Is a 'Good College'?	Lesson 2, Chimpanzee, Film ②
5	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③
6	Mankind's Unique Sense of Humour	Lesson 3, Film ③～④, Top of the world, Questions
7	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑤
8	June Bride or Rainy Season Bride	Lesson 4, Film ⑤～⑥
9	Power Exercises + a, レポート内容説明、指示	Power Exercises, Film ⑥, レポート内容説明、指示
10	Japanese Civilization	Lesson 5, The sound of silence, Film ⑥～⑦
11	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ⑧
12	Culture in Our Lives	Lesson 6, Film ⑧～⑨
13	Power Exercises + a, まとめ	Power Exercises, Film ⑨～⑩, レポート提出
14	Film まとめ、リスニングの最終確認	Film まとめ、リスニングの最終確認、
15	秋学期予定確認	秋学期予定確認, リスニング問題, Wedding Ceremonies Expenses, We're All Alone
16	Earthquake	Lesson 7, Excellent power of memory, Film ①

17	Power Exercises + a	Exercise 10, Coin changer, Film ①
18	Human Creativity	Power Exercises, The Diplomacy, Film ①～②
19	Power Exercises + a, プレゼンテーションについて指示、説明	Power Exercises, プレゼンテーションについて指示、説明
20	The Importance of the Medical Checkup	Lesson 9, Film ②, She's got a way.
21	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ②～③
22	Is Drinking Harmful?	Lesson 10, Film ③, The Story of O-TEI.
23	Power Exercises + a	Power Exercises, Film ③～④
24	プレゼンテーション準備	Exercise まとめ、力だめし
25	プレゼンテーション 1	プレゼンテーション 1
26	プレゼンテーション 2	プレゼンテーション 2
27	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
28	まとめ、確認	まとめ、確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の予習は絶対条件となる。地味な努力を続けることで自信をつけてもらいたい。また、リスニング・スピーキングの上達には、毎日の練習が肝要である。授業中の練習に加え、教室外でも練習を行うことを心がける。課題は必ず行い、授業には全出席する。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むことが要求される。

【テキスト (教科書)】

プリントを使用する

【参考書】

必要に応じ、適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%)、レポート (10%)、平常点 (20%)、プレゼンテーション (10%) それらを総合的に評価する。また、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

平常点：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期ともに必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

プレゼンテーション：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

LANe200IA

総合英語Ⅳ (a)

浦川 智子

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

英語の表現方法とテーマごとの構成の違いを理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Chapter 1	What Is a Paragraph?
3	Chapter 2	The Topic Sentence
4	Chapter 3	Supporting Sentences
5	Chapter 1～3 まとめ	Paragraph に関するまとめ
6	Chapter 4 ①	Time Order
7	Chapter 4 ②	Time Order に関する英文とライティング演習
8	Chapter 5 ①	Space Order
9	Chapter 5 ②	Space Order に関する英文とライティング演習
10	Chapter 6 ①	Process and Direction
11	Chapter 6 ②	Process and Direction に関する英文とライティング演習
12	Chapter 4～6 まとめ	それぞれの構成の確認
13	Writing Guide	エッセイに関する確認（書式など）
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

神保尚武他著、『Get Your Message Across（効果的なパラグラフの書き方）』南雲堂、2008年

【参考書】

テキスト以外の資料はプリントして配布する。辞書を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、課題等）：40%、期末試験：60%、合計100%として評価する。A+：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60とし、60以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

管理 ID：
1804305
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅳ (b)

浦川 智子

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

英語の表現方法を理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。進度によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
2	Chapter 7 ①	Cause and Effect
3	Chapter 7 ②	Cause and Effect に関する英文とライティング演習
4	Chapter 8 ①	Examples
5	Chapter 8 ②	Examples に関する英文とライティング演習
6	Chapter 9 ①	Definition
7	Chapter 9 ②	Definition に関する英文とライティング演習
8	Chapter 10 ①	Classification
9	Chapter 10 ②	Classification に関する英文とライティング演習
10	Chapter 11 ①	Comparison and Contrast
11	Chapter 11 ②	Comparison and Contrast に関する英文とライティング演習
12	Chapter 12	Review (Chapter 7~11 のまとめ)
13	Chapter 13	From a Paragraph to a Short Essay
14	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2~14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト (教科書)】

神保尚武他著、『Get Your Message Across (効果的なパラグラフの書き方)』南雲堂、2008年

【参考書】

テキスト以外の資料はプリントして配布する。辞書を必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への積極的な参加姿勢、課題等) : 40 %、期末試験 : 60 %、合計 100 % として評価する。A+: 100~90、A: 89~80、B: 79~70、C: 69~60 とし、60 以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

管理 ID :
1804312
授業コード :

LANe200IA

総合英語Ⅳ 【2017年度以前入学生対象】

浦川 智子

サブタイトル：(7)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマの英文の内容を把握し、サンプルを参考にしつつ、自分の考えや事実を英語で表現するための力を身に付ける。

【到達目標】

英語の表現方法とテーマごとの構成の違いを理解し、これまで学習してきた英単語や文法を使ってエッセイを書くことを目標とする。また、英文の読解においてパラグラフ・リーディングによって要点を理解し、それをライティングにも活用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

短めの英文を読みながら英単語や文法を確認し、英語表現や構成を理解することに重点を置く。ライティングの演習問題では、サンプルを参考にしつつ構成に留意して英文を書く。進捗によっては授業計画に若干の変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス
2	Chapter 1	What Is a Paragraph?
3	Chapter 2	The Topic Sentence
4	Chapter 3	Supporting Sentences
5	Chapter 1~3	まとめ Paragraph に関するまとめ
6	Chapter 4 ①	Time Order
7	Chapter 4 ②	Time Order に関する英文とライティング演習
8	Chapter 5 ①	Space Order
9	Chapter 5 ②	Space Order に関する英文とライティング演習
10	Chapter 6 ①	Process and Direction
11	Chapter 6 ②	Process and Direction に関する英文とライティング演習
12	Chapter 4~6	まとめ それぞれの構成の確認
13	Writing Guide	エッセイに関する確認（書式など）
14	試験とまとめ	春学期における学習到達度をはかる
15	イントロダクション	授業の目標と計画のガイダンス、春学期の復習
16	Chapter 7 ①	Cause and Effect
17	Chapter 7 ②	Cause and Effect に関する英文とライティング演習
18	Chapter 8 ①	Examples
19	Chapter 8 ②	Examples に関する英文とライティング演習
20	Chapter 9 ①	Definition
21	Chapter 9 ②	Definition に関する英文とライティング演習
22	Chapter 10 ①	Classification

23	Chapter 10 ②	Classification に関する英文とライティング演習
24	Chapter 11 ①	Comparison and Contrast
25	Chapter 11 ②	Comparison and Contrast に関する英文とライティング演習
26	Chapter 12	Review (Chapter 7~11 のまとめ)
27	Chapter 13	From a Paragraph to a Short Essay
28	試験とまとめ	秋学期における学習到達度をはかる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期

第1回：特になし

第2~14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

秋学期

第1回：特になし

第2~14回：前回授業の復習と次回授業の予習をおこなうこと。特に分からない英単語や文法は予習の段階で調べてから授業にのぞむこと。

【テキスト（教科書）】

神保尚武他著、『Get Your Message Across（効果的なパラグラフの書き方）』南雲堂、2008年

【参考書】

テキスト以外の資料はプリントして配布する。辞書を必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加姿勢、課題等）：40%、期末試験：60%、合計100%として評価する。A+：100~90、A：89~80、B：79~70、C：69~60とし、60以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの内容だけでなく、ライティングスキル向上のための資料を授業内容に応じて提示していきたい。

管理 ID：
1826578
授業コード：
M0046

LANe100IA

英語コミュニケーション I (a) 【2018年度以降入学生対象】

伊藤 真紀

サブタイトル：

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4年次/1単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID: 1826600
授業コード: M0130

本授業の目的は、日常会話として話される英語を聞き取り、理解し、自分の意見を基本的な英語を用いて表現できるようになることである。基礎的な英語の理解を深め、単語力、表現力、実践的な会話能力を高めることを目指す。さらに、英語のプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

【到達目標】

1. 自然な速度で話される英語を聞き取り、理解できる。
2. 英文を読み、要点を理解し、自分の言葉で要点をまとめられる。
3. 英語のスピーチやプレゼンテーションにおいて、自分の意見や要点を英語らしい言い回しを用いて表現できる。
4. 大学生に必須レベルの単語を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リスニングによって会話の内容を理解し、適切な表現でコミュニケーションを図る演習を実施する。状況に応じて、適切な英語表現で、会話を行う練習をする。プレゼンテーションの基礎知識を学習し、実際にオーラルプレゼンテーションを行う。授業は基本的にすべて英語で実施されるので、常に英語を聞き取り、話すことが求められるアクティブラーニング型の授業である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Introduction Self-Introduction	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。 グループに分かれて自己紹介、他己紹介を行う。
2	Simply Speaking (SS) Chapter 1: Hi How are you?	挨拶に関する表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
3	SS chapter 2: What's your major? SS chapter 3: What does she look like?	学校で使う表現を学習し、実践する。 Appearances(外見)に関わる表現を学び、実践する。ペアワークで課題の会話を行う。
4	SS chapter 4: Let's take a trip! SS chapter 5: How about going for dinner?	旅行に関する表現を学習し、実践する。 レストランにおける表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
5	SS chapter 6: Let's go shopping! SS chapter 7: How are you feeling?	買い物に関する表現を学習し、実践する。 体調 (Feeling) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
6	Oral examination	Oral Examination をインタビュー形式とペアワーク形式で行う。

7	SS chapter 8: Hello, Can I speak to Mary? SS chapter 9: I am busy.	電話に関する表現を学習し、実践する。 Daily routine (日々のこと) についての表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
8	SS chapter 10: What do you do? SS chapter 11: Let's watch sports?	Occupations(仕事) に関する表現を学習し、実践する。 Sports に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
9	SS chapter 12: Let's celebrate! SS chapter 13: That's entertainment!	Holidays (休暇) に関する表現を学習し、実践する。 Pastime (趣味) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
10	SS chapter 14: Let's stay healthy! SS chapter 15: I heard it on the news!	Health に関する表現を学習し、実践する。 News に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
11	Presentation Skills 1	効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
12	Presentation Skills 2	前回に引き続き、効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
13	Oral Presentation	各自が選んだテーマについて、講義形式の英語のプレゼンテーションを行う。発表者以外の学生は発表者の評価を行い提出する。評価基準は授業時に提示する。
14	Presentation Feedback	プレゼンテーションの評価を行い、授業をまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基礎学習として、課題とされる単語学習や毎週2時間程度の予習・復習をしっかりと行うことが求められる。プレゼンテーションの準備にはしっかりとした準備と練習時間が必要である。

【テキスト (教科書)】

Simply Speaking - Conversations for Effective Communication - 金星堂

A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes 南雲堂

【参考書】

参考書は、クラスにおいて提示する。

【成績評価の方法と基準】

- 1.Oral Presentation (50%)
- 2.Listening Test (25 %)
- 3.Vocabulary Test (25 %)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること (携帯電話・スマートフォンを辞書代わりに使うことは不可。)

LANe100IA

英語コミュニケーション I (b) 【2018年度以降入学生対象】

伊藤 真紀

サブタイトル：

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4年次/1単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業の目的は、日常会話として話される英語を聞き取り、理解し、自分の意見を基本的な英語を用いて表現できるようになることである。基礎的な英語の理解を深め、単語力、表現力、実践的な会話能力を高めることを目指す。さらに、英語のプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

【到達目標】

1. 自然な速度で話される英語を聞き取り、理解できる。
2. 英文を読み、要点を理解し、自分の言葉で要点をまとめられる。
3. 英語のスピーチやプレゼンテーションにおいて、自分の意見や要点を英語らしい言い回しを用いて表現できる。
4. 大学生に必須レベルの単語を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リスニングによって会話の内容を理解し、適切な表現でコミュニケーションを図る演習を実施する。状況に応じて、適切な英語表現で、会話を行う練習をする。プレゼンテーションの基礎知識を学習し、実際にオーラルプレゼンテーションを行う。授業は基本的にすべて英語で実施されるので、常に英語を聞き取り、話すことが求められるアクティブラーニング型の授業である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Introduction Self-Introduction	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。 グループに分かれて自己紹介、他己紹介を行う。
2	Simply Speaking (SS) Chapter 1: Hi How are you?	挨拶に関する表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
3	SS chapter 2: What's your major? SS chapter 3: What does she look like?	学校で使う表現を学習し、実践する。 Appearances(外見)に関わる表現を学び、実践する。ペアワークで課題の会話を行う。
4	SS chapter 4: Let's take a trip! SS chapter 5: How about going for dinner?	旅行に関する表現を学習し、実践する。 レストランにおける表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
5	SS chapter 6: Let's go shopping! SS chapter 7: How are you feeling?	買い物に関する表現を学習し、実践する。 体調 (Feeling) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
6	Oral examination	Oral Examination をインタビュー形式とペアワーク形式で行う。

7	SS chapter 8: Hello, Can I speak to Mary? SS chapter 9: I am busy.	電話に関する表現を学習し、実践する。 Daily routine (日々のこと) についての表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
8	SS chapter 10: What do you do? SS chapter 11: Let's watch sports?	Occupations(仕事) に関する表現を学習し、実践する。 Sports に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
9	SS chapter 12: Let's celebrate! SS chapter 13: That's entertainment!	Holidays (休暇) に関する表現を学習し、実践する。 Pastime (趣味) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
10	SS chapter 14: Let's stay healthy! SS chapter 15: I heard it on the news!	Health に関する表現を学習し、実践する。 News に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
11	Presentation Skills 1	効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
12	Presentation Skills 2	前回に引き続き、効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
13	Oral Presentation	各自が選んだテーマについて、講義形式の英語のプレゼンテーションを行う。発表者以外の学生は発表者の評価を行い提出する。評価基準は授業時に提示する。 プレゼンテーションの評価を行い、授業をまとめを行う。
14	Presentation Feedback	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基礎学習として、課題とされる単語学習や毎週2時間程度の予習・復習をしっかりと行うことが求められる。プレゼンテーションの準備にはしっかりとした準備と練習時間が必要である。

【テキスト (教科書)】

Simply Speaking - Conversations for Effective Communication - 金星堂

A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes 南雲堂

【参考書】

参考書は、クラスにおいて提示する。

【成績評価の方法と基準】

- 1.Oral Presentation (50%)
- 2.Listening Test (25 %)
- 3.Vocabulary Test (25 %)

【学生の意見等からの気づき】

辞書を必ず持参すること (携帯電話・スマートフォンを辞書代わりに使うことは不可。)

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること (携帯電話・スマートフォンを辞書代わりに使うことは不可。)

LANe100IA

英語コミュニケーション I 【2017年度以前入学生対象】

伊藤 真紀

サブタイトル：

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1~4年次/2単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826579
授業コード：M0050

本授業の目的は、日常会話として話される英語を聞き取り、理解し、自分の意見を基本的な英語を用いて表現できるようになることである。基礎的な英語の理解を深め、単語力、表現力、実践的な会話能力を高めることを目指す。さらに、英語のプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

【到達目標】

1. 自然な速度で話される英語を聞き取り、理解できる。
2. 英文を読み、要点を理解し、自分の言葉で要点をまとめられる。
3. 英語のスピーチやプレゼンテーションにおいて、自分の意見や要点を英語らしい言い回しを用いて表現できる。
4. 大学生に必須レベルの単語を習得することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

リスニングによって会話の内容を理解し、適切な表現でコミュニケーションを図る演習を実施する。状況に応じて、適切な英語表現で、会話を行う練習をする。プレゼンテーションの基礎知識を学習し、実際にオーラルプレゼンテーションを行う。授業は基本的にすべて英語で実施されるので、常に英語を聞き取り、話すことが求められるアクティブラーニング型の授業である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Introduction Self-Introduction	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。 グループに分かれて自己紹介、他己紹介を行う。
2	Simply Speaking (SS) Chapter 1: Hi How are you?	挨拶に関する表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
3	SS chapter 2: What's your major? SS chapter 3: What does she look like?	学校で使う表現を学習し、実践する。 Appearances(外見)に関わる表現を学び、実践する。ペアワークで課題の会話を行う。
4	SS chapter 4: Let's take a trip! SS chapter 5: How about going for dinner?	旅行に関する表現を学習し、実践する。 レストランにおける表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
5	SS chapter 6: Let's go shopping! SS chapter 7: How are you feeling?	買い物に関する表現を学習し、実践する。 体調 (Feeling) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
6	Oral examination	Oral Examination をインタビュー形式とペアワーク形式で行う。

7	SS chapter 8: Hello, Can I speak to Mary? SS chapter 9: I am busy.	電話に関する表現を学習し、実践する。 Daily routine (日々のこと) についての表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
8	SS chapter 10: What do you do? SS chapter 11: Let's watch sports?	Occupations(仕事)に関する表現を学習し、実践する。 Sports に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
9	SS chapter 12: Let's celebrate! SS chapter 13: That's entertainment!	Holidays (休暇)に関する表現を学習し、実践する。 Pastime (趣味) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
10	SS chapter 14: Let's stay healthy! SS chapter 15: I heard it on the news!	Health に関する表現を学習し、実践する。 News に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
11	Presentation Skills 1	効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
12	Presentation Skills 2	前回に引き続き、効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
13	Oral Presentation	各自が選んだテーマについて、講義形式の英語のプレゼンテーションを行う。発表者以外の学生は発表者の評価を行い提出する。評価基準は授業時に提示する。
14	Presentation Feedback	プレゼンテーションの評価を行い、授業をまとめを行う。
15	オリエンテーション Introduction Self-Introduction	授業の目的、方法、評価基準などを、シラバスをもとに説明を行う。 グループに分かれて自己紹介、他己紹介を行う。
16	Simply Speaking (SS) Chapter 1: Hi How are you?	挨拶に関する表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
17	SS chapter 2: What's your major? SS chapter 3: What does she look like?	学校で使う表現を学習し、実践する。 Appearances(外見) に関わる表現を学び、実践する。ペアワークで課題の会話を行う。
18	SS chapter 4: Let's take a trip! SS chapter 5: How about going for dinner?	旅行に関する表現を学習し、実践する。 レストランにおける表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
19	SS chapter 6: Let's go shopping! SS chapter 7: How are you feeling?	買い物に関する表現を学習し、実践する。 体調 (Feeling) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
20	Oral examination	Oral Examination をインタビュー形式とペアワーク形式で行う。
21	SS chapter 8: Hello, Can I speak to Mary? SS chapter 9: I am busy.	電話に関する表現を学習し、実践する。 Daily routine (日々のこと) についての表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
22	SS chapter 10: What do you do? SS chapter 11: Let's watch sports?	Occupations(仕事)に関する表現を学習し、実践する。 Sports に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。

23	SS chapter 12: Let's celebrate!	Holidays (休暇) に関する表現を学習し、実践する。
	SS chapter 13: That's entertainment!	Pastime (趣味) に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
24	SS chapter14: Let's stay healthy!	Health に関する表現を学習し、実践する。
	SS chapter 15:I heard it on the news!	News に関わる表現を学び、実践する。 ペアワークで課題の会話を行う。
25	Presentation Skills 1	効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
26	Presentation Skills 2	前回に引き続き、効果的なプレゼンテーションを行う方法について講義を行う。
27	Oral Presentation	各自が選んだテーマについて、講義形式の英語のプレゼンテーションを行う。発表者以外の学生は発表者の評価を行い提出する。評価基準は授業時に提示する。
28	Presentation Feedback	プレゼンテーションの評価を行い、授業をまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基礎学習として、課題とされる単語学習や毎週2時間程度の予習・復習をしっかりと行うことが求められる。プレゼンテーションの準備にはしっかりとした準備と練習時間が必要である。

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking - Conversations for Effective Communication - 金星堂

A Shorter Course in Everyday Vocabulary Quizzes 南雲堂

【参考書】

参考書は、クラスにおいて提示する。

【成績評価の方法と基準】

- 1.Oral Presentation (50%)
- 2.Listening Test (25 %)
- 3.Vocabulary Test (25 %)

【学生の意見等からの気づき】

年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参すること（携帯電話・スマートフォンを辞書代わりに使うことは不可。）

LANe200IA

英語コミュニケーションⅡ 【2017年度以前入学生対象】

Nemes Roland

サブタイトル：

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4年次／2単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The main objective of this class is to help students become more comfortable with the actual use of English, especially in sport related situations. In order to accomplish this, the majority of the class will focus on group discussion, speeches and on site exercises.

【到達目標】

The goal is that students leave this class feeling more confident in their ability to speak English and learn a basic sport related vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

The class will primarily consist of group work that is followed by role-plays or speeches in front of the class. Prior to the work, I will give small lessons on the necessary vocabulary and grammar for the topic. During the sports topics and interest topic sections of the class, students will learn the vocabulary that is necessary for sports coaching, management, and basic science. Students will also choose and present a sports related theme, in which they are interested.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introductions and class outline
2	Asking Questions	We will focus on how to ask a question about something you don't understand so you can be prepared for this class.
3	Self-introductions	Vocabulary, grammar, reading/listening activity, Formal situation practice
4	Self-introductions	Reading/listening activity, Informal situation practice, Informal situation practice, class self-introduction
5	Speeches	First class speech
6	Describing people, places, and things	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
7	Describing people, places, and things	Group practice, class presentation
8	Recalling Past Experiences	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
9	Recalling Past Experiences	Group practice, class presentation

10	Making Plans	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
11	Making Plans	Group practice, class presentation
12	Job Interview	Vocabulary, grammar, reading/listening activity
13	Job Interview	Group practice, class presentation
14	Speeches	Second class speech
15	Sports Topics	About sports in general Vocabulary and discussion
16	Sports Topics	Basic anatomy and physiology of the human body Vocabulary and discussion
17	Sports Topics	Nutrition, health, fitness and injuries Vocabulary and discussion
18	Sports Topics	International sports organizations, and tournament systems Vocabulary and discussion
19	Speeches, presentations	Third class speech
20	Sports Topics	Sports training Vocabulary and discussion
21	Sports Topics	Individual sports Vocabulary and discussion
22	Sports Topics	Ball sports Vocabulary and discussion
23	Sports Topics	Water sports Vocabulary and discussion
24	Sports Topics	Winter sports Vocabulary and discussion
25	Speeches, presentations	Fourth class speech
26	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
27	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion
28	Student Interest Topic	Group presentations followed by class discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to do most of the work for their speeches outside of class. The homework will often be designed to help with preparing for speeches, reviewing past classes, or preparing for the next class.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used for this class.

【参考書】

Reference materials will be handed out during class. Various learning websites will be used throughout the year. Students will be directed to the website at the time it is to be used.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 40%, Homework: 20%, Speeches: 40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to bring a notebook, loose paper, and a writing utensil to every class. Also, students need a Japanese-English dictionary (book or digital). Phone dictionaries will not be allowed.

管理 ID：
1826580
授業コード：
M0060

BSP100IA

スポーツ健康学入門

平野 裕一、泉 重樹、伊藤 真紀、苅部 俊二、鬼頭 英明、瀬戸 宏明、高見 京太、吉田 政幸

カテゴリ：視野形成科目 (必修)・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・1

管理 ID：
1826272
授業コード：
M330**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

新聞紙面もテレビ番組もスポーツに対する扱いが分厚くなってきた。社会がスポーツに対する関心を高めている証だろう。これまで当たり前存在に感じていたはずのスポーツ。それをあらためて受容し、理解し、そこで得たものを自らのメッセージとして発信する。求められるのは見識とノウハウだ。スポーツはどんな構造を持っているのか。プログラムは誰によって組まれているのか。どこにどう書いてあるのか。何を引き出せば疑問が解けるのか。どう書けば伝わるのか。相手を説得できるプレゼンテーションとは何か。仕組みを知り、人を知る。わかったことを表現する手立てを身につける。この授業にはそのために理解しておかなければならないことを網羅している。

【到達目標】

スポーツに関わる要素は極めて多様だ。法、世界観、国民性、政治、経済、化学、物理、医学、生理学。授業の目標は、さまざまな角度から見ることで、スポーツの概要をつかむこと。もうひとつは、次年度以降の研究の入り口を越えるため、情報のやりとりに関わる能力を身につけることが狙いである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

調査、情報の取得、分析、研究。一連の活動は、自分ペースで進めながら、演習の同僚との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。可能な限りアクティブに授業に参加し、定期的に発表の機会を手にするようにする。フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。文章作法、文献引用の常識、プレゼンテーションの方法、ディベートのペース。それぞれが技術習得を目的とするのではなく、どこかに自分のテーマを設定しながら取り組むこと。関心のあるスポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深めてもらう。大局観をもった研究姿勢を追求できるようにする。学年全体での講習とクラス毎の講習を併用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス (クラス毎講習)	自己紹介・これからの講義の進め方・求められる姿勢
2	栄養 (全体講習)	大学生としての食生活 学部食堂の利活用法
3	飲酒・薬物 (全体講習)	大学生としての飲酒に対する考え方、行動 薬物の理解、対処法
4	学部で取得できる資格 (全体講習)	教員免許資格、健康運動指導士および指導者、アスレティックトレーナー、スポーツリーダー、トレーニング指導者等の資格取得法
5	文章の書き方 (クラス毎講習)	大学生の文章・論文のあり方・図表や注の挿入・データの保存
6	資料の調べ方 (クラス毎講習)	図書館の協力を得て文献検索
7	プレゼンテーションとは (クラス毎講習)	プレゼンテーションのイロハ・「パワーポイント」の作り方
8	人に話を聞く (クラス毎講習)	インタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか関する知識を獲得する
9	ディベートの考え方 (クラス毎講習)	ディベートの要素・その展開の仕方
10	教育と研究：ヘルスデザインコース (全体講習)	コースにおける学びと研究法の理解
11	教育と研究：スポーツビジネスコース (全体講習)	コースにおける学びと研究法の理解
12	教育と研究：スポーツコーチングコース (全体講習)	コースにおける学びと研究法の理解
13	スポーツイベントとインターンシップ (全体講習)	スポーツイベントの意義、実施による遺産 インターンシップへの準備と実施でのマナー
14	留学・院進学 (全体講習)	学部卒業後の進路 留学に関する情報提供 大学院の概要

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと

【テキスト (教科書)】

なし (その都度、用意します)

【参考書】

個別に紹介します

【成績評価の方法と基準】

全体講習は平常点 (5点 × 8回 = 40点) とし、クラス毎講習は、平常点ではあるが、クラス毎の課題に応じて積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなどで60点とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブに授業参加できるチャンスを増やす

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある

CAR1001A

スポーツとキャリア形成

伊藤 真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わる職業について理解を深め、受講者が自身のキャリア形成というテーマのもと、大学での学び、そして学んだことをいかに仕事につなげていくか、その手掛かりとなるキャリアプランを立てる。キャリア形成において重要な、21 世紀型スキルに代表される現代のグローバル社会を生き抜くために全ての人に必要とされる基本的能力（ジェネリックスキル）をアクティブラーニング形式の授業を通して、実践的に学ぶ。

【到達目標】

日本のスポーツ界の現状を理解し、スポーツに関わるキャリアについて知る。講義を通じて、キャリア形成に関する基礎知識を学習する。グループワーク、ペアワークを通じて自分のキャリアをイメージし、基本的なスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 4 回の授業を通して、スポーツ界の現状を理解し、スポーツ関わるキャリアについて探求する。授業の講義、課題を通して自身のキャリア形成プランを行い、キャリア形成に必要なスキルとは何か、スキルを高めるにはどうしたらよいかをアクティブラーニング形式（グループワーク、ペアワーク、発表）で学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業ガイダンス	自己紹介 授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	日本のスポーツ界の現状 を理解する 1	日本のスポーツ界の歴史を振り返る 1
3	日本のスポーツ界の現状 を理解する 2	日本のスポーツ界の歴史を振り返る 2
4	日本のスポーツ界の現状 を理解する 3	国際的メガイイベント、ワールドカップ、オリンピックを中心としてスポーツの発展をスポーツビジネス的観点からみていく
5	日本のスポーツ界の現状 を理解する 4	諸外国のスポーツ事情、政策をみていく
6	スポーツのキャリア形成 1	スポーツに関わる職業とは 各自、興味のある職業について考える
7	スポーツのキャリア形成 2	スポーツに関わる各自のキャリアプランを発表する。
8	キャリアプランニング 自分を知らう	キャリア形成プランをたてるために、まずは自分について考える ・仕事観と人生観 ・マインドマッピング ・ライフラインの作成 ・キャリアアンカー
9	キャリアスキル 1	コミュニケーションスキルについて PDCA サイクルの説明
10	キャリアスキル 2	仮説の設定と課題発見力（未来分析）
11	キャリアスキル 3	未来分析（表現と質疑応答のコツ） 表現力 ・未来予想プレゼンテーションを文章化する（1500 字）
12	キャリアスキル 4	創造性とコラボレーション ・自分の調べた未来の産業や技術とグループメンバーが調べた未来を掛け合わせて、将来必要となる新しいサービスを提案する。 ・ブレインストーミングで拡散思考の練習 ・マップ化で収束思考の練習 ・グループプレゼンテーション

13	キャリアスキル 5	構想力（広い観点から解決策を考え、現実味のある解決策を考える） ・他人コンサル（ペアワーク） 未来にやりたいことを叶えるために、ペアで話し合いながら相手のマトリックス・ロジックツリー・行動計画表を作成する。
14	総括	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後には講義内容並びに課題を十分復習し、次回の授業に生かすこと。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

特になし。資料はその都度配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価項目は以下の 5 項目からなる。

- ①出席（ワークシートの提出）10%
- ②提出課題 20%
- ③グループ・ワーク 10%
- ④個人プレゼンテーション 30%
- ⑤最終レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業を通して、個人・ペア・グループでワークに積極的に取り組むことで、自ら発言し、自己表現の場を多くつくることで、社会生活において必要なコミュニケーション能力を高める。

MAN100IA

経営学

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学をはじめて学ぶ学生に対して、経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものがどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。

【到達目標】

経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、その動きは非常に身近な学問です。このような経営学を実際に身近に感じてもらうながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。

今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。

具体的には、基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養っていきます。また経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらうことも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。

また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。

「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。

講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常にめまぐるしく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。

メディアなど身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つりますので、講義に以外にも常に意識してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら解説
5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係
6	経営戦略(1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略をたてる必要性
7	経営戦略(2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念
8	経営戦略(3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法
9	経営戦略(4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメント
10	経営組織論(1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響
11	経営組織論(2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性。その論理と手法
12	経営組織論(3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。

【テキスト（教科書）】

講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

加護野忠雄・吉村典久編『1からの経営学 第2版』硯学舎、2012年4月。

伊丹敏之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社、2003年2月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (40%)、(2) 課題の提出 (30%)、(3) 期末レポート (30%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。講義毎に経営学に関する用語を調べてもらい提出してもらいます。講義終了時に講義内容への「感想・意見」として各人の意見を提出してもらいます。春学期に5回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義の進行にあわせて3回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。

(3) 講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。

経営学またはその主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるようにしていきます。

管理 ID：
1813385
授業コード：
M0530

LAW100IA

法学（日本国憲法）

森 浩寿

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の特徴について、特に基本的人権に関するテーマを中心に取り上げる。また、教育現場に必要な法知識の習得を目指し、加えて、日常生活に関係する法律問題として、人の生死、契約、罪と罰などについても対象とする。

【到達目標】

まずは、法律に関する意識を高めることを目標とし、法に関する一般的な知識を習得するとともに、人権の理解と人権尊重に基づく行動の実践ならびに社会で必要な法化意識に基づいた行動の実践を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

実際に発生している身近な事例を題材に、どういう法律が整備されているのか、なぜその規定が必要なのか、何が問題なのかなどについて学習する。なお、積極的に議論を行い、自分の考えを言語化することおよび他者との考えを知ることを取り入れていく（ディスカッション・小レポート）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 法令の基礎知識	授業の進め方、テキスト、評価について 憲法、法律、条例、規則、条理について
2	近代憲法の誕生と発展	憲法とは、立憲の意味の憲法の特徴
3	日本国憲法について	日本憲法史と立憲主義、明治憲法、日本国憲法、憲法改正
4	基本的人権・1	人権宣言の歴史、人権の内容、法の下での平等
5	基本的人権・2	精神的自由、経済的自由、人身の自由
6	基本的人権・3	生存権、教育を受ける権利、労働基本権
7	教育と法・1	教育関連法規、学校教育法、教科書裁判
8	教育と法・2	子どもの権利、いじめ問題、体罰問題、教師の権利
9	ライフステージと法	出生、結婚、認知、離婚、死
10	契約	契約の種類、性格
11	労働問題	就職、退職、転職、労働災害補償
12	罪と罰・1	犯罪の種類、成立
13	罪と罰・2	罰則の種類、適用
14	紛争解決手段	裁判と裁判外紛争解決、裁判制度、仲裁と調停

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：シラバスの理解

第2～3回：日頃から新聞を読む

第4～9回：社会の出来事から、人権問題をさがす

第10～14回：日頃からニュースに接し、社会の出来事に関心を持つ

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点としての小レポート（30%）及び試験（70%）で評価し、合計60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

管理 ID：
1804317
授業コード：
M0540

SOC100IA

コミュニケーション論

佐塚 元章

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において「なぜコミュニケーションの大切さが叫ばれるのか？」その問題提起こそがこの授業のテーマである。
 生物は生来 コミュニケーション手段を有している。中でも人類は「言語」という手段を駆使して 他の生物を凌駕し地球上に君臨してきた。しかし現在「言語能力の低下」「コミュニケーション能力の低下」が叫ばれ 人と人の意思の疎通の不完全さに困惑している。その社会的背景を考えながら 実践としてのコミュニケーション能力を身につけよう。

【到達目標】

人間のコミュニケーションの歴史をふりかえる。次に明治維新からの現代日本語の成り立ちを考える。「読む」「書く」「聞く」「発表する」「インタビューする」「会話する」など総合的にコミュニケーションの手段の本質を考える。しかし理論を学べばコミュニケーション能力がつくものでもない。実践訓練も並行して行わなければ意味がない。どのようにしたら自分の意思を他人に伝えられるのか。他人の意見をどうしたら正しく理解できるのか。声の出し方からスタートし 方法論を考える。こうしたプロセスがコミュニケーション能力を高め 今後 社会人として人間集団の中を生きていくことに役立つようにするのがこの授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業こそコミュニケーションの実験的授業と考えている。つまり学生と先生が、先生と学生がコミュニケーションを深め 双方向の授業を成功させたいのです。主役は学生です。先生はナビゲーターです。
 まず10人程度の班を編成しリーダーを決めます。テーマを決め、ある時はインタビューし、インタビューされ、ある時はプレゼンテーションをし、それが理解されたか教室の全員で批評しあいます。
 基本講義に加えて、アナウンサー45年 現役スポーツジャーナリストとして 日本語の今日的課題やビッドなニュースを取り上げ常に学生に問いかけ、意見を求め授業をすすめていきます。私がストックしている映像、音声資料をふんだんに使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コミュニケーション論への誘い	授業のオリエンテーション。成績評価の考え方を説明する。半期の講義の概論。班編成リーダーを選出する。 さっそく自己紹介をしてもらい人前で話し伝えるノウハウを考えます。
2	生物のコミュニケーションと人間のコミュニケーションの歴史をたどります。 <大テーマ コミュニケーションの歴史>	言葉の誕生 印刷機の発明・瓦版から新聞の誕生・読む言葉の発達・弁論の発達・言葉と民主主義について考えます
3	明治維新の日本語政策 <大テーマ コミュニケーションの歴史>	言文一致運動・放送で奨励された標準語について考えます。
4	ラジオ テレビそしてIT時代へ <大テーマ コミュニケーションの歴史>	コミュニケーションがどう変わってきたかを考えます。
5	SNS時代をどう生き抜く コードレス時代の光と影 <大テーマ コミュニケーションの歴史>	現代の多様なメディアの長所・短所を整理し どう向き合うべきかを考えます。
6	「声の出し方」「声質」「トーン」「強弱」「口調」「母音の大切さ」など <大テーマ コミュニケーション手段と実践>	音声のコミュニケーションについて考えます。
7	読む力 書く力 <大テーマ コミュニケーション手段と実践>	読解力・論理を整理しまとめる方法論について考えます

8	聞く力 <大テーマ コミュニケーション手段と実践>	聞くためには何が必要か・どのように人の話を受け入れたいのか・どのように反応すべきか・会話がはずむ人はずまない人どこが違うのかなどを考えます。
9	マスコミに取材されるインタビューされる <大テーマ コミュニケーション手段と実践>	心構え・言葉の選択・パフォーマンスはどうあるべきか・どのようなスポーツインタビューがファンを感動させるのかを考えます。
10	スポーツ指導者の言葉 <大テーマ コミュニケーション手段と実践>	言葉による技術指導・言葉のベンチワーク・試合におけるタイムアウト/ハーフタイムの言葉を研究します。
11	実践プレゼンテーション(1)	テーマを決める・話の構成・演出・原稿・メモの作成法・表情・パフォーマンスを指導する・限られた時間で発表する・時間感覚を大切にします。

12	実践プレゼンテーション(2)	4週にわたり 全員にプレゼンテーションをしてもらいます。みんなで批評しあいます。 これを成績評価の対象とします。 テーマを決める・話の構成・演出・原稿・メモの作成法・表情・パフォーマンスを指導する・限られた時間で発表する・時間感覚を大切にします。
----	----------------	---

13	実践プレゼンテーション(3)	4週にわたり 全員にプレゼンテーションをしてもらいます。みんなで批評しあいます。 これを成績評価の対象とします。 テーマを決める・話の構成・演出・原稿・メモの作成法・表情・パフォーマンスを指導する・限られた時間で発表する・時間感覚を大切にします。
----	----------------	---

14	実践プレゼンテーション(4)	4週にわたり 全員にプレゼンテーションをしてもらいます。みんなで批評しあいます。 これを成績評価の対象とします。 テーマを決める・話の構成・演出・原稿・メモの作成法・表情・パフォーマンスを指導する・限られた時間で発表する・時間感覚を大切にします。
----	----------------	---

		4週にわたり 全員にプレゼンテーションをしてもらいます。みんなで批評しあいます。 これを成績評価の対象とします。
--	--	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- ・IT全史(祥伝社 中野 明)
- ・国家とインターネット(講談社選書メチエ 和田伸一郎)
- ・月刊journalism フェイクニュースとネット言論(朝日新聞社)
- ・誰からも好かれるNHKの話し方(NHK日本語センター)
- ・「コミュ障」だった僕が学んだ話し方(集英社新書 吉田照美)
- ・2020東京五輪招致プレゼンテーション DVD
- ・歴史秘話ヒストリア・明治標準語ことばはじめ(NHK総合TV)

【成績評価の方法と基準】

毎回授業内におけるレポート(50%)と全員参加のプレゼンテーションの取り組み(50%)で評価します。ペーパー試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次/2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことができるようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。

3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。

3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次/2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。

コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。コンピュータおよびインターネットの仕組みへの理解、メールの送受信から始まり、ワープロソフトによりレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作・表現の習得、またそれを基本としてプレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法を理解することを目的とする。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、プレゼンテーションソフトの操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習する。

情報化社会といわれる現代において不可欠なものとなっているコンピュータおよびネットワークの基本知識を理解してもらいます。例えばコンピュータの仕組みやネットワークの構成など今後個々に対応することができる基礎能力を身につけてもらいます。

さらにそれらを理解したうえでインターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービス、WEB による検索や電子メールの送受信など基本的操作を学習します。

また日本語ワープロソフトによる文章作成の能力、プレゼンテーションソフトによる情報・意見の表現ができるようにその基本的操作を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。

3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。
5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール送受信の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	パワーポイントの基本操作（1）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	パワーポイントの基本操作（2）文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	パワーポイントの基本操作（3）オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。春学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日の話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用についても触れていきます。

ECN1001A

統計学 I

笹井 浩行

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・3

旧うか科目名：統計学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、統計的分析手法の初歩的な実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

図表や数値によってデータの特徴や傾向を把握する方法を習得し、初級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 3 割、演習 7 割程度であり、演習を重視する。演習では Excel および統計ソフト SPSS を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学の概要	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学の概要を解説する。
2	記述統計（1）	平均値や中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点などデータの特徴を表す指標の意味や算出法を学ぶ。
3	記述統計（2）	度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図等でデータの特徴を表現する方法やその読み方を学ぶ。
4	推測統計・仮説検定	母集団と標本、平均と偏差、正規分布、大数の法則と中心極限定理等、推測統計の基礎について学ぶ。尺度水準、仮説検定の手順や、帰無仮説と対立仮説、有意水準、第 1 種の過誤と第 2 種の過誤等について学ぶ。
5・6	小テスト 1・対応のない t 検定	1~4 回目までの内容に関して小テストをおこなう。対応がない独立した 2 群間に、統計学的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。
7・8	対応のある t 検定	対応がある 2 群間に統計的に意味のある差があるか否か、間隔・比率尺度による検定方法について学ぶ。

9・10	散布図・相関係数	間隔・比率尺度を用いて、2 つの変数の関係を図や指標で表現する方法や、指標の解釈について学ぶ。また、第 3 の指標の影響をとり除いた 2 つの変数間の関連の分析（偏相関分析）について学ぶ。
11・12	小テスト 2・単回帰分析	5~10 回目までの内容に関して小テストをおこなう。一方の変数から他方の変数を予測する分析手法を学ぶ。
13	カイ二乗検定	2×2 分割表による比率の差の検討について学ぶ。
14	総括・期末テスト	1~14 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。
・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、出村慎一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）

※本書はスポーツ健康学部の図書室に所蔵があるが、ほぼ常に貸出し中であるため、購入を勧める。

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。
・Bellcurve 社 統計 WEB | 統計学の時間 <https://bellcurve.jp/statistics/course/>
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40%：20%×2 回）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。しっかりと復習・準備して臨むこと。2017 年度の実績では、受講生の大半がテストの難易度を高いと報告している。主にサンプルデータセットを用いた統計解析を通じて、実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

・情報実習室にて演習をおこなう。

【その他の重要事項】

・教科書が受講生全員の手元にあることを前提に授業を進める。
・資料は配布しないため、ノートやメモを適宜取ること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。エクセルやワードの使い方、メールソフトの使い方などは本授業の範囲外であり、原則としてそれらを指導する機会を設けない。
・本授業の履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。

HSS100IA

保健体育概論 【2017年度以前入学生対象】

永木 耕介

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4年次／2単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方について考える。

【到達目標】

保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

保健体育とはどのようなものかについて以下の観点から解説し、受講生が今後のあり方について考察できるように導く。①現代に至るまでのスポーツ／教材（主に西洋スポーツと日本武道）の歴史を概観し、さらに現代スポーツの特徴と課題について指摘する。②教科の目標論を踏まえ、各内容領域の実際を確認することで今日の教科の状況を把握する。なおその際、一部に受講生参加型の演習を採り入れる。また、毎授業においてリアクションペーパーの提出を求め、次授業で振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバルゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体づくり運動」の内容と特性	「体づくり運動」の実際的内容と特性について、運動、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
9	「水泳」＋「野外活動」の内容と特性	「水泳」＋「野外活動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める

11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（＋思考・判断）の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業後に感想やコメント（リアクションペーパー）の作成を求める。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
 最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

保健体育科教育法（大修館書店）
 新版・体育科教育学入門（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度、リアクションペーパーによる平常点（60%）、テスト点（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もリアクションペーパーの結果を授業内に採り入れ、各学生の参加感をあげる。

【学生が準備すべき機器他】

部分的に参加型演習を行う場合があるので、運動可能な服装等を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

SOC100IA

障害者福祉論

山岸 倫子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：土・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての一般的なイメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるかを学ぶ。

【到達目標】

- ・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
- ・障害者の生活実態について知ることができる。
- ・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
- ・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
- ・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1～3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関係する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。

10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようなになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的現象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加 30%：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が3分の2以下のものは不可とする。

課題の提出 30%：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを3回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

期末試験 40%：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】

障害者スポーツについて興味があるものが複数いたが、対応しきれなかったため、30年度講義においては、随所で触れることとしたい。

管理 ID：
1813394
授業コード：
M0710

ART100IA

音楽文化論

関野 直樹

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・4

【成績評価の方法と基準】

学年末レポート:50%
授業内での小レポート:50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID: 1826279
授業コード: M0720

社会における音楽、主に西洋音楽が形成した文化を多方面から考察してゆく。現役ピアニストであるからこそ体感してきた、音楽を表現すること、そしてそれらを実現する際の具体的な身体的な訓練、実際のコンサートとその裏舞台など、音楽、演奏の文化を多角的な視点から学ぶ。

【到達目標】

音楽がもたらした社会における役割や時代背景を理解した上で、いろいろな分野に応用可能とされる、演奏家の身体の使い方、リズム感の訓練、さらにはセルフマネージメントまでの幅広い領域の専門的知識を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

音楽という分野であるからこそ、映像録音資料を多用しながら講義を進める。必要に応じては、実際の演奏なども取り入れながら、ライブでの音を体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	現代社会における西洋（クラシック）音楽とは何かを各々意識した上で、今後の展望を確認する。
2	西洋音楽の歴史	西洋音楽の起源、そして映像資料とともに時代の流れの中で大きく変化した音楽の足跡を追う。
3	ピアノの歴史	ピアノという楽器の成立の歴史、更には演奏スタイルを実際の演奏とともに体感する。
4	スポーツと音楽	スポーツ界においても音楽、更には表現ということとはかかせない要素の一つである。具体例を挙げ、スポーツにおける音楽の役割を認識する。
5	演奏家の身体の使い方①	ピアニストの体の使い方と、そこから見える表現手段について、身体の使い方の重要性を議論する。
6	演奏家の身体の使い方②	効率の良い奏法を獲得することに欠かせない、「脱力」について、演奏家の視点から提示する。
7	リズム論①	音楽におけるリズムとは何か、その重要性を感じた上で実際に体験する。
8	リズム論②	音楽のリズムだけではなく、スポーツ界でも重要とされるリズムについて、エクササイズとともに学ぶ。
9	コンサート文化①	クラシック音楽の中の様々なジャンルのコンサートスタイルを映像資料から読み解く。
10	コンサート文化②	コンサートにおける集中力とはどのようなものかを定義し、各自の分野と比較しながら議論する。
11	ソリスト	ソリスト（独奏者）の役割、すなわち1人で舞台に立つそのあり方を検証する。
12	室内楽とオーケストラ	アンサンブル、ソロとは違い集団での演奏に関して、ソリストとの違いを映像とともに考える。
13	指揮者	指揮者の役割、なぜ指揮者が必要なのか、実際に指揮をしながら体感する。
14	講義総括	今後の音楽の展望を考え、自身にとって音楽とは何かを思い描く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のために準備が必要な際はその都度指示する。実際にライブで演奏を聴く機会を紹介するので、積極的に参加していただきたい。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配布。

【参考書】

特になし

CAR100EA

キャリアデザイン論

加藤 寛之

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～年次/2 単位

曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827123
授業コード：M0750

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を選ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
- ②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代1（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代2（斎藤）	自分をつかむ1可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは1（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは2（長谷川）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは3（斎藤）	自分をつかむ2 関わり合いの中で
6	企業を知る1（坂本）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
7	企業を知る2（竹口）	企業情報を読み解く
8	企業を知る3（井上）	スポーツビジネスの実際について
9	職場社会で積極的に生きるために1（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために2（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために3（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる1（岡司）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する。）

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する。（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回出席をとる。遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなす。

【受講上の注意】

1・3限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

CAR100EA

キャリアデザイン論

加藤 寛之

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827124
授業コード：M0751

キャリアデザインというテーマのもと、どのように自分らしさを磨き、どのように大学で学び、どのように大学で学んだことを仕事につなげるか、どのように仕事を学ぶか、どのように就職活動に臨むか、その手がかりを探る。

【到達目標】

- ①グループワークを通じて、自分のキャリアを具体的にイメージする。
- ②講義を通じて、キャリアデザインに関する基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本学の教職員と外部講師によるオムニバス形式で行われる。主な内容は①大学で学ぶための指針の提供②大学で学んだことを仕事につなげるための情報の提供③働き方の視野を広げる情報の提供。講義に加え、適宜グループワークやディスカッションも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	キャリアデザインと大学時代1（加藤）	イントロダクション・大学時代の過ごし方、グローバルに生きる
2	キャリアデザインと大学時代2（斎藤）	自分をつかむ1 可能性を広げるために
3	職場で求められる力とは1（中谷）	国際ビジネスコミュニケーション
4	職場で求められる力とは2（長谷川）	雇用のための法律知識と労働者の権利、ブラック企業
5	職場で求められる力とは3（斎藤）	自分をつかむ2 関わり合いの中で
6	企業を知る1（坂本）	自分をつかむ 2 関わり合いの中で
7	企業を知る2（竹口）	企業情報を読み解く
8	企業を知る3（井上）	スポーツビジネスの実際について
9	職場社会で積極的に生きるために1（斎藤）	就活と採用を知る 新卒採用と就職基礎知識
10	職場社会で積極的に生きるために2（長山）	職場のコミュニケーション
11	職場社会で積極的に生きるために3（眞保）	ライフワークバランス、ダイバーシティ
12	キャリアデザインの視野を広げる1（岡司）	多摩地域の企業を知る
13	キャリアデザインの視野を広げる2（北原）	農業への新規就農
14	キャリアデザインの視野を広げる3（OB・OG）	先輩のキャリアから学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則なし（ある場合は、適宜指示する。）

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

講義の中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末試験により評価する。（100 %）（試験内容は講義に沿ったものとする）。

【学生の意見等からの気づき】

資料の配布方法を改善する。またグループワークの回数を増やしたい。

【その他の重要事項】

毎回出席をとる。遅刻、早退は2回で1回の欠席とみなす。

【受講上の注意】

1・3限ともに同じ授業を行うので、いずれかの時限を選択して履修すること。

HSS145LB

オリンピック・パラリンピックを考える

荒井 弘和、吉田 康伸

カテゴリ：

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際オリンピック委員会はオリンピック競技大会を開催し、国際パラリンピック委員会はパラリンピック競技大会を開催しています。2020 年 7 月 24 日～8 月 9 日、東京で第 32 回オリンピック競技大会が開催されます。つづいて、2020 年 8 月 25 日～9 月 6 日に東京 2020 パラリンピック競技大会も開催されます。以下、2 つの大会をまとめて「東京 2020 大会」と呼びます。本学は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下、組織委員会）と協定を締結し、連携してゆく方針を定めています。そこで、科学と文化としてのスポーツの理解を目指す SSI では、本科目を開講し、東京 2020 大会のビジョンと概要を学びます。そして、大会にどのように参画し（アクション）、大会をきっかけにしたアクションの成果をどうやって未来に継承するか（レガシー）について考えます。アクション&レガシーの 5 本の柱とは、「スポーツ・健康」、「街づくり・持続可能性」、「文化・教育」、「経済・テクノロジー」、「復興・オールジャパン・世界への発信」です。

なお本科目は、公開科目（履修できる学年は所属学部によって異なる）にもなっています。そして、本学の 3 つの付属高生の聴講も認めています。

【到達目標】

1. 東京 2020 大会のビジョンを説明することができる。
2. 東京 2020 大会のアクション&レガシーについて理解し、説明することができる。
3. 東京 2020 大会と自らのキャリアとの関連について考え、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本学教員をはじめとして、各回のテーマに最適な講師（ゲストスピーカー）が、授業を担当します。毎回の講師は、自身の専門とするテーマについて、東京 2020 大会と関連させながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像や進め方を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	東京 2020 大会の概要	東京 2020 大会の概要を理解して、説明できるようになる。
第 3 回	「スポーツ・健康」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 4 回	「文化・教育」(1)：オリンピックの平和運動	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 5 回	「文化・教育」(2)：オリンピックの文化プログラム	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 6 回	オリンピック・パラリンピックの歴史	オリンピック・パラリンピックの歴史を理解して、説明できるようになる。
第 7 回	「街づくり・持続可能性」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 8 回	「街づくり・持続可能性」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 9 回	「スポーツ・健康」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 10 回	「経済・テクノロジー」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 11 回	「経済・テクノロジー」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 12 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(1)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。
第 13 回	「復興・オールジャパン・世界への発信」(2)	講師（ゲストスピーカー）による講義内容に対して、自分の考えを説明できるようになる。

第 14 回 まとめ

到達目標に到達したことを認識することができる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマについて事前に調べて、論点を考えた上で出席してください。各回の授業で学んだことについて、自分で調べることで、学びを深めてください。

東京 2020 大会に関連するイベントが学内外で開催される場合は、授業内で随時告知しますので、積極的に参加してください。

【テキスト（教科書）】

テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】

授業時間内に、各回の講師から紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2/3 の出席を成績評価の条件とした上で、「毎回の授業レポート 50%」「期末レポート 50%」で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、ありません。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

ゲストスピーカーの都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。教室の収容人数の関係で、SSI 生以外の学生の履修は制限される場合があります。受講者の選抜を行う可能性がありますので、初回の授業には、必ず出席してください。

この授業で学んだことと、学部での学びとの関連を模索することで、あなたにしかできない東京 2020 大会への関わり方を探して欲しいと思います。そのことが、「スポーツの文化的価値を発信できる人材の育成を目指す」という SSI のポリシーを体現することになると考えています。

PRI100IA

情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシー I により学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシー II において利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。

6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
11	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
12	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
13	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などの操作。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
 きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
 涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習多変量解析入門』技術評論社、2011 年 11 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れた学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

PRI100IA

情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシー I により学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシー II において利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。

6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおいてのデータ操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
11	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
12	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
13	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などの操作。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 11 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れた学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

PRI100IA

情報リテラシー II

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシー I の応用編となる講義です。情報リテラシー I において習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

【到達目標】

情報リテラシー I により学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシー II において利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。

またデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。

6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	表計算ソフトにおけるデータの操作の基本を確認。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
9	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
10	表計算ソフトの応用操作（定量的データの解析）	定量的データの解析。
11	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
12	表計算ソフトの応用操作（カテゴリーデータの解析）	カテゴリーデータの解析。
13	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などの操作。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

岡本敏雄 監修『よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2012 年 12 月。
 きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。
 涌井良幸、涌井貞美 著『初歩からしっかり学ぶシリーズ 実習 多変量解析入門』技術評論社、2011 年 11 月。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50%)、(2) 課題の提出 (50%)
 (1) 積極的な講義への参加が評価対象です。秋学期に 5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。
 (2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れた学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

HSS100IA

人間とスポーツ

成田 道彦

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツに関わる諸問題について幅広く講義する。スポーツに関する幅広い知識を身につけ問題の背景と現状を把握し、現代社会が求めるスポーツの役割、指導者の資質について考える。

【到達目標】

スポーツの現状と問題点を理解したうえで、これからのスポーツの役割と指導者像を考えてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツの諸問題について最新のニュースや新聞記事などを教材として使用する。実際にトレーニング現場を体験した経験から、指導者の資質と役割について講義する。またスポーツの進歩の歴史からスポーツの将来も考えたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・テーマ・概要・授業方法について。
2	スポーツの起源と発展	スポーツの起源と日本の近代スポーツの歴史を学ぶ。
3	部活	部活の現状と問題点を考える。
4	大学スポーツ	大学スポーツの現状を様々な視点から分析する。
5	スポーツと体罰	スポーツ現場における体罰とその背景を考える。
6	ゲスト講師／e スポーツ 1	e スポーツの現状について。
7	ゲスト講師／e スポーツ 2	ワークショップ（未来の運動会を考える）
8	オリンピックの歴史	オリンピックの歴史と問題点。
9	ドーピング	ドーピングの歴史・背景・現状について。
10	アスリートの国籍移動	世界のアスリートの国籍移動と日本のスポーツ留学生について。
11	指導者とトレーニング	指導者の資質とは何か、指導者がアスリートに与える影響について。
12	生涯スポーツ	これからの生涯スポーツを考える。
13	箱根駅伝と法政大学	箱根駅伝の現状と法政大学の取り組み。
14	まとめ	全体を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュースや新聞記事を教材として使用するため、常にスポーツに関する情報収集に心がける。

【テキスト（教科書）】

テキスト、参考書の指定はありません。

【参考書】

授業内で、スポーツ、健康に関する本を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況・授業態度（50%）

課題レポート（30%）

授業内レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

資料等をもう少し工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

※講義の進捗状況により、内容を適宜変更する場合があります。

管理 ID：
1813387
授業コード：
M0560

SOC100IA

スポーツレクリエーション論

谷本 都栄

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レクリエーションは単なる余暇活動ではなく、一人ひとりの生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結びつけ、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。本講義では、現代社会におけるレクリエーションの意義と役割について理解を深め、レクリエーション事業を企画・実践するために必要な知識・技術を習得する。

【到達目標】

- ・現代の日本における様々な地域の課題を認識し、スポーツ・レクリエーションがどのように貢献できるかを考える。
- ・レクリエーションの事業運営に必要な知識・技術を習得し、将来家庭・職場・地域等において実践できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・各種資料、ケーススタディから具体的に内容を把握できるようにする。
- ・レクリエーション事業計画では、地域の調査及び企画書の作成を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レクリエーションの意義と役割	レクリエーションに関わる諸理論、レクリエーションの意義と役割について学ぶ。
第 3 回	レクリエーション運動の歴史①	欧米から始まるレクリエーション運動について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 4 回	レクリエーション運動の歴史②	戦後の日本におけるレクリエーション運動について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 5 回	ライフスタイルとレクリエーション①	各ライフステージにおける発達課題と人生課題について学ぶ。
第 6 回	ライフスタイルとレクリエーション②	障害者、女性、ジェンダー・マイノリティに関わる課題について学ぶ。
第 7 回	家族とレクリエーション	子育て・子育て支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 8 回	高齢者とレクリエーション	高齢者の介護予防支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 9 回	障害者とレクリエーション	障害者の自立支援におけるスポーツ・レクリエーションの取り組み事例から学ぶ。
第 10 回	レクリエーション事業計画①	レクリエーション事業の展開方法、プログラムの組み立て方について学ぶ。
第 11 回	レクリエーション事業計画②	個人及び集団を対象としたプログラム計画の実際について学ぶ。

第 12 回 レクリエーション事業計画③ グループ運営の方法、アイスブレーキングやコミュニケーションワークについて学ぶ。

第 13 回 レクリエーション事業計画④ 多様なスポーツ・レクリエーションの実践事例から学ぶ。

第 14 回 レクリエーション事業計画⑤ 事業運営における安全管理、対象に合わせたリスクマネジメントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
- ・各課題は、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】

毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパー 40 %
- ・課題Ⅰ 30 %
- ・課題Ⅱ 30 %

総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら授業を進める。

管理 ID:
1813388
授業コード:
M0630

ECN1001A

統計学Ⅱ

笹井 浩行

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次/2 単位

曜日・時限：金・3

管理 ID：
1813392
授業コード：
M0690**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

統計学は、データの特徴や規則性を数量的に見出し、要約や解釈をするための根拠を提供する実践的な学問である。その応用範囲は多岐にわたり、スポーツ健康科学においても運動生理学、スポーツ心理学、スポーツ社会学等の実証的研究では、結論を導く根拠を客観的に示すために統計学を活用している。そこで本授業では、卒業論文や就職後の仕事で役立つよう、中級レベルの統計的分析手法の実践的技術の修得を目指す。

【到達目標】

多変量解析を含む中級レベルの統計的分析手法を習得することを目標とする。本授業では、統計学の数学的理解ではなく、実践的技術の習得に主眼を置く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を交互に繰り返しながら学習を進める。配分は、講義 2 割、演習 8 割程度であり、演習を重視する。演習では統計ソフト SPSS を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・統計学Ⅱの復習	授業の進め方と成績評価について説明する。統計学Ⅱで扱った分析手法について復習する。
2	統計学Ⅱの復習	統計学Ⅱで扱った分析手法について復習する。
3・4	一元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、1つの要因により、3つ以上の群間に統計学的に意味のある（有意な）差があるか否かを検定する手法および多重比較検定を学ぶ。
5・6・7	二元配置分散分析	間隔・比率尺度を用いて、2つの要因により、3つ以上の群間に有意な差があるか否かを検定する手法を学ぶ。
8	中間テスト	1~7 回目の内容について、実践的技術の修得状況を確認する中間テストをおこなう。
9・10・11	重回帰分析	間隔・比率尺度である 1 つの変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。また、変数選択手法の概要について学ぶ。タミー変数の作成法について学ぶ。
11・12	ロジスティック回帰分析	二値変数を、複数の変数から予測する、または各変数の影響度を定量する分析手法について学ぶ。
13	統計解析プレゼンテーション	サンプルデータセットを用いて、受講生の自由な発想に基づく統計解析と発表の機会を設ける。

14 総括・期末テスト

1~13 回目までの内容について、実践的技術の修得状況を判定するテストをおこなう。ただし、統計学Ⅱでの学習内容もテストに含まれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・情報実習室の PC にインストールされている SPSS を使い、しっかり復習すること。
・宿題は、授業中に指示する。

【テキスト（教科書）】

・健康・スポーツ科学のための SPSS による統計解析入門、出村慎一監修、佐藤進・山次俊介・長澤吉則編著、杏林書院、2007。（価格：2500 円）
※一部、本書に含まれていない内容を取り扱うが、その際はプリントを配布する。

【参考書】

・統計学がわかる：ハンバーガーショップでむりなく学ぶやさしく楽しい統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2007。
・統計学がわかる：アイスクリームで味わう関係の統計学、向後千春・富永敦子著、技術評論社、2009。
・Bellcurve 社 統計 WEB | 統計学の時間 <https://bellcurve.jp/statistics/course/>
・その他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）・期末テスト（60%）とする。出席は取らないが、授業内容の理解と実践を十分積まないと及第点が得られないテスト内容・難易度となっている。テストでは主に、サンプルデータセットを用いた統計解析を通じた実践的技術の修得状況を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見、理解度に応じて講義内容や順番を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

演習は情報実習室にて行う。

【その他の重要事項】

・統計学Ⅱを履修済みであることを前提として授業を進める（統計学Ⅱを未履修であっても受講可）。小テストや期末テストで、統計学Ⅱの内容が含まれることに留意すること。
・PC やオフィスソフトの基本的な操作は修得済みであること。それらの基本操作を指導する時間はない。
・統計学ⅡおよびⅢの履修が、入ゼミの要件となっている場合があるので、各自で希望ゼミの教員に確認すること。
・ノートやメモを適宜取ること。

GDR1001A

女性とスポーツ

伊藤 真紀

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・4

管理 ID：
1826726
授業コード：
M0570

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的、社会的背景を紐解きながら、女性とスポーツについて学習する。女性の五輪への出場、活躍がもはや「当たり前」となった今日に至るまでの歴史を知るとともに、「ジェンダー（社会・文化的側面）」「セクシャリティー」（生理学的・解剖学的側面）、メディア、プロモーション、様々な角度から女性とスポーツに関わる基礎知識を学び、その概要をつかむ。さらに、日本ならびに諸外国の女性とスポーツに関連した事例を通して、今後の女性とスポーツの可能性について考える。

【到達目標】

様々な角度から女性とスポーツについて学び、今後の女性とスポーツの可能性について
自分の意見を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながらも、グループに分かれ、ディスカッションをする時間も設けます。また視覚教材（ビデオ等）も活用しながら授業テーマの理解を深めていきます。毎授業の終わりに、その日の授業内容に関するリアクションペーパーを記入してもらいます。最終講義時には、全日程を通じて学んだことをレポートしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介を交え、授業の概要を説明する。
2	女性スポーツの歴史 I 諸外国の事例	欧米を中心に女性とスポーツの歴史を学ぶ。
3	女性スポーツの歴史 II 日本における女性ス ポーツ	日本における女性とスポーツの歴史を学ぶ。
4	女性スポーツの歴史 III アメリカにおける女性 とスポーツの事例「タ イトル IX」	アメリカにおける女性とスポーツの歴史において、大きな意味を持ち、影響を与えた「タイトル IX」について学ぶ。
5	女性スポーツの現状 I	ブライトンプラスヘルシンキ宣言についてなど、現在の女性とスポーツの世界的な動きについて学ぶ。
6	女性スポーツの現状 II	諸外国並びに日本のスポーツ界における女性指導者の現状について学ぶ。
7	女性の体とスポーツ	女性アスリートのからだについて女性アスリートの3主徴“Female Athlete Triad”について学ぶ。
8	スポーツ界における多 様性について I	ジェンダー、セクシャリティー ジェンダー、セクシャリティーという側面から、スポーツにおける「男性らしさ」「女性らしさ」について考える。

- 9 スポーツ界における多 性性について II ケー ケースタディーとして、ジェンダー、セクシャリティーに関するスタディー【アメリカのスポーツ界の事例を紹介カにおけるジェンダー 介し、ディスカッションを行う。関連事項】
- 10 女性スポーツとメディ ア メディアにおけるこれまでの女性アスリートの取り上げられ方をみていく。また、近年めざましい活躍する女性アスリートのプロモーションについてもみていく。
- 11 女性スポーツの現状 Sport England “This girl can” 女性のスポーツ実施率について学ぶ。スポーツイングランドが実施した女性の運動促進キャンペーン「This Girl Can」について紹介する。
- 12 スポーツビジネスにお ける女性戦略 I 女性とスポーツをテーマとしたスポーツ界におけるマーケティング戦略について学び、スポーツにおける女性戦略の意味を考える。
- 13 スポーツビジネスにお ける女性戦略 II スポーツにおける女性戦略の事例をみていき、実際に女性をターゲットにしたビジネスプランを立案する。
- 14 期末レポートの発表 期末レポート課題について説明を行う。授業の振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業への積極的な参加態度（20%）、リアクションペーパーの内容（30%）、レポートの内容（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

PHL1001A

生命倫理

尾崎 恭一

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎基本を踏まえた、生命倫理の主な論点と基本的な考え方。

【到達目標】

まず、倫理学の基礎基本となる規範的思考を、事実の記述や欲求の主張から区別できるようになる。

次に、生命倫理の主な論点を理解し、それらについての自分なりの見方を確立する。

さらに、それらの前提となる健康や病気に関する理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、倫理及び生命倫理の諸問題について、動機づけと理解促進のために、グループ・ディスカッションを行う。それを基にした小レポートの提出を数回求める。また、希望者の校外研修も一部取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	生命倫理とは何か（1）	①倫理とは何か。行為規範と倫理原則、状況倫理。 ②公正手続きか最大幸福か。 ③慣習・規則・良心。
2	生命倫理とは何か（2）	①生命倫理学の成立史。 ②生命倫理原則と主な生命倫理関連の宣言。
3	生殖技術	生殖補助医療の発展。生殖への第三者介入、減胎手術、代理母利用、子どもの諸権利。
4	人工妊娠中絶	胎児の「生命権」と女性の権利。中絶の法的許容範囲。胎児の倫理的地位。
5	人間とは何か	「人間の本質」観の歴史。パーソン論と胎児・植物状態・動物。人命の価値と尊厳。
6	インフォームド・コンセント（1）	患者・医療者間倫理の歴史。医的侵襲と暴行・傷害罪、診療・研究における裁量・自由と同意・拒否権。
7	インフォームド・コンセント（2）	自己決定権と「生活の質」判断。インフォームド・コンセントの内容。弱者保護と代理判断・病院倫理委員会。
8	移植医療（1）	脳死は人の死か。臓器摘出の基準。臓器分配の基準。臓器移植法。
9	移植医療（2）	生体からの臓器提供。移植ツアー。臓器売買。生存くじ。
10	遺伝子技術	再生医療と受精卵・胚の地位。遺伝子改変の限度。遺伝子診断と中絶。優生学。
11	ターミナルケア	ガン治療等と緩和医療。全人的苦痛とターミナルケア。死の受容と死生観。
12	安楽死・尊厳死	安楽死分類。裁判と判決理由。世界の安楽死事情。
13	健康・病気・医療	健康・病気の定義と診断。予防・治療。近代医療の機械論的人体観。
14	今後の医療と生命倫理学	医療・福祉政策と公正基準。環境倫理における人権と公共利益。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書及び授業配布資料に基づいて前回授業を復習し、教科書掲載の設問について考える。次回授業テーマの予習として、最低限、教科書の該当箇所を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

今井道夫『生命倫理学（第3版）』産業図書、2400円＋税

教科書として常時、使用するので、必ず用意すること。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（75%）、グループ・ディスカッションとそれを基にした小レポート提出（25%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを生かし、自ら考え議論する場をしたい。また、受講生多数の場合、意識的に対話的な講義にするよう努めたい。

管理 ID：
1813390
授業コード：
M0670

MAT100IA

数学

坂本 寛

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・2

管理 ID：
1813384
授業コード：
M0520

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日常生活において、数学は様々な局面で用いられている。特に現代社会においては、いわゆる「理系・文系」などの分野を問わず、広く統計学の知見が求められている。スポーツ健康学部においてもその例外ではない。本講義の目的は、統計的分析などで数学が実際に必要とされる場面を想定して、論理的な問題解決能力を身につける。数学を一から勉強しようとする学生を講義の対象とします。

【到達目標】

統計学の学習で必要になる数学の各分野について基礎から学びます。微分・積分などについて、基本的な計算問題を解答できるようになる。また、集合や確率は、統計学の学習で必要になるため、基礎問題だけでなく応用問題に対応できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講師からの一方的な講義にならぬよう、授業内にも実習時間を設けます。数学の問題を解決するために、Maxima 等のソフトウェアを活用します。毎回、授業支援システムを通して課題の出題・提出していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/計算の有効桁数	授業の進め方と成績評価について説明をします。 統計学で必要になる計算結果の有効桁の概念を学びます。
2	Maxima 入門	数学学習を支援するソフトウェアとして Maxima の基本操作法を学びます。
3	集合と関数	確率を理解する前提となる集合の考え方を学び、更に集合と関数の関係を学びます。
4	三角関数	統計で良く用いられる基本的な関数として三角関数を学習します。
5	指数関数と対数関数	統計で良く用いられる基本的な関数として指数関数と対数関数を学習します。
6	微分	確率・統計を理解する上での必須の知識である微分の基本を学習します。
7	関数の極大・極小と微分	統計解析で欠かせない最大・最小値問題を学びます。
8	積分	確率・統計を理解する上での必須の知識である積分の基本を学習します。
9	ベクトル	統計解析で扱う多種類のデータはベクトルとして考えることができます。そのベクトルの基本を学びます。

10	行列	統計学で必須となる行列の基本演算を学びます。
11	逆行列	行列の基本演算として特に逆行列を扱います。
12	順列・組み合わせ	確率を計算する上で必要となる順列・組み合わせの計算を学びます。
13	確率	基礎的問題に取り組むことで、確率への理解を深めます。
14	まとめと期末試験	授業のまとめを行い、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業内容について十分に復習した上で、課題に対して自力で解答できることが求められます。コンピュータ実習を伴う課題については情報実習室や貸出 PC を使用出来る。

【テキスト（教科書）】

統計学のための数学教室 / 永野裕之著
ISBN:9784478028247

【参考書】

統計学を学ぶための数学入門 上 算数から数学へ / 岡本安晴著
ISBN:9784563010041
統計学を学ぶための数学入門 下 データ分析に活かす / 岡本安晴著
ISBN:9784563010058
統計学のための数学入門 30 講 / 永田靖著
ISBN:9784254116335
その他、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出 (50%)
毎回、授業支援システムにて課題を提出してもらいます。
期末試験 (50%)
この科目で学習した基本事項を問う筆記試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

各々の弱点を把握するための自己評価テストも取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にてコンピュータを使用し、数学教育用のソフトウェアを活用します。

【その他の重要事項】

統計学 I・II の履修を考えている学生には本科目を事前に履修することを強く勧めます。

HSS100IA

基礎科学

瀬戸 宏明

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813395
授業コード：M0730

スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】

科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目（実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

生理学、生化学、解剖学等の理解に必要な、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数値処理について解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	元素、原子、分子などの基本的概念の復習と応用。
3	生体を構成する物質（2）	細胞構築などの微小構造の概念の紹介する。
4	生体を構成する物質（3）	生理学、生化学、解剖学などを理解するために必要な分子細胞学の基礎。
5	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（1）	科学研究で頻繁に用いる表、グラフの理解；スポーツ科学研究の例示。
6	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（2）	基本的な統計手法の紹介；平均、分散など記述統計に必要な用語の解説する。
7	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（3）	データの表現；直線への当てはめとしての最小二乗法、三角関数の延長としての周波数解析の紹介など。
8	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（4）	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝計測に応用されている数値処理の紹介
9	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（1）	糖、アミノ酸、タンパク質の基礎。
10	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（2）	生体内の化学反応、イオンの概念
11	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（3）	呼吸生理の基礎となる、気体の圧力と体積の関係について
12	バイオメカニクス分野に必要な基礎科学	生体と関連する物理学（の基礎；物質の重量、速度、加速度や力学法則、単位系の考え方）
13	基本的な統計処理に活用するソフトウェアについて	エクセルを活用した基礎的な手法やグラフ作成や統計処理が可能なソフトウェアの紹介
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の予習と復習

【テキスト（教科書）】

イラスト 基礎からわかる生化学：構造・酵素・代謝（裳華房）

【参考書】

SPSS によるデータ分析（東京図書）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）
その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

PHL1001A

哲学

尾崎 恭一

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的枠組、三分野の基本課題と解決に向けた諸視点、及びその問題点。

【到達目標】

西洋哲学の伝統的な課題・方法について理解する。それをみずからの思索の糧とし、世界観・人生観の確立にむけての歩みを始める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体にするが、テーマごとにディスカッションし、それを踏まえた小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	(1) 哲学とは何か①	哲学の定義、および学問としての特徴
2	(1) 哲学とは何か②	科学、宗教、芸術との関係
3	(2) 存在論・形而上学①	真に在るとは：超越論と内在論
4	(2) 存在論・形而上学②	何が存在の本体か：唯心論と唯物論
5	(2) 存在論・形而上学③	どう存在しどう変化するのか：有機体論と機械論
6	(3) 知識論・認識論①	知るとは：整合説と模写説
7	(3) 知識論・認識論②	どんな能力でどんな知識がえられるのか：合理論・経験論
8	(3) 知識論・認識論③	認識の主観的構成と客観的産出：構成主義と再構成
9	(3) 知識論・認識論	自然学と人文学：再現可能性と価値関係性
10	(4) 価値論・実践論①	価値とは：価値と存在 価値の根拠とは：自然主義と理想主義
11	(4) 価値論・実践論②	倫理とは：行為規範と事実 倫理の根拠：義務と幸福
12	(4) 価値論・実践論③	倫理の3領域：習律・法規・良心
13	(5) 世界観の枠組み①	古代哲学と自然性 中世哲学と超越性
14	(5) 世界観の枠組み②	近代哲学と主観性 現代哲学と間主観性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習は必須です。その際、配布する資料に必ず目を通す。できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

小レポートの提出 (25 %)、期末試験 (75 %)

【学生の意見等からの気づき】

対話的な講義にし、昨年度始めたグループ・ディスカッションについては、講義の動機づけと思索の出発点となる問題を設定し、グループ間の意見交流を計るよう取り組みたい。

管理 ID: 1813389
授業コード: M0660

IDN100EA

多摩地域形成論

図司 直也

サブタイトル：

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・通常授業

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：年次／2単位

曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827125
授業コード：M0740

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

【到達目標】

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている〈場所〉への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、2019年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩4学部の教員と協力して実施する、4学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・学風の形成と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域(1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域(2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域(3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の近代史	自由民権運動と「絹の道」
第7回	多摩地域の現代史(1)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史(2)	多摩地域の住民運動の歴史
第9回	これからの多摩地域の形成(1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第10回	これからの多摩地域の形成(2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第11回	これからの多摩地域の形成(3)	地域の資源をエネルギーに
第12回	これからの多摩地域の形成(4)	コミュニティ文化とスポーツ
第13回	これからの多摩地域の形成(5)	支え合いの地域社会と居場所づくり
第14回	まとめと今後に向けて	振り返りのワークショップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％程度）とレポート（70％程度）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった」「地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

【その他の重要事項】

○講義の目的・運営上の必要から700人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟2階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくりに結び付けて欲しい。

HSS218LB

アスリートキャリア論

成田 道彦

カテゴリ：

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスリート及び社会人としてのキャリア意識について

【到達目標】

アスリートとしてのキャリア形成及び、「社会人になる為のキャリア意識」を持つこと。大学入学後早い時期に「キャリア意識」を真剣に考え、ワークシヨップ等をも経験し、又社会人経験者の話も良く聞き、確信あるキャリア意識を確立する事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「キャリア意識」醸成、方向、向上のために、実際に現在企業人として、アスリートとして、又アスリートを育成している指導者として、経営者等として活躍されている法政 OB・OG の方々を中心に特別講師としてお招きし、講演、担当教員によるインタビュー等により

- ① 在学中、何時頃人生における自分の生きる道、職業等を考えたか
- ② 自分の道、職業を決定づけたものは何か
- ③ 学生時代に身につけた教養、専門知識、スポーツで培った人間性等を企業や社会でどう活かせるか
- ④ 社会人として仕事をしていて先輩として学生のキャリア形成に一番アドバイスしたいこと、言いたいこと等を聞きながら授業を進める。
- ⑤ アスリートのキャリア育成についてアドバイスを頂く。又学生からの質問を受け付け、講師との質疑応答の時間も取りたい。第 2 回～13 回は講師の事情によりテーマ、内容、順番等を変更せざるを得ない場合があります。ご了承下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	到達目標、テーマ、概要、授業方法について説明する。
第 2 回	特別講師/法政大学のスポーツの現状	法政大学のスポーツに対する考え方・環境・取り組みについて
第 3 回	特別講師/世界を目指すには	オリンピック選手を育成した指導者から学生へのアドバイス
第 4 回	特別講師/オリンピックを経験して	オリンピック出場経験者から学生へのアドバイス
第 5 回	特別講師/世界を目指すには	元ラグビー日本代表コーチから世界を目指すためのアドバイス
第 6 回	指導者とは	指導者の役割と指導法について講義
第 7 回	特別講師/大学スポーツ指導者から 1	組織人としての生き方と役割について講義
第 8 回	特別講師/大学スポーツ指導者から 2	アスリートに必要な資質について講義
第 9 回	特別講師/企業が求めるアスリート	企業でアスリートを採用している立場から学生へのアドバイス
第 10 回	特別講師/企業が求めるアスリートキャリア	アスリートの経験をどのように仕事に活かすか
第 11 回	特別講師/スポーツクラブの必要性	地域スポーツクラブの現状と役割、スポーツ振興について講義
第 12 回	特別講師/心と体の栄養学	分子栄養医学管理士の立場から心と体のバランスについて講義
第 13 回	特別講師/日本スポーツ界の現状	日本体育協会の役割、国体の現状と今後の課題、指導者の役割について講義
第 14 回	まとめ	授業を総括する。自身のこれまでの振り返り将来を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講師につき受講する前に予め書物、インターネット等を活用し授業にのぞむ事が望ましい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは決りません。

【参考書】

随時必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業参画状況・授業態度 60%
- 2) 各回のレポート 30%
- 3) 課題レポート 10%

この配分とし、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際に学生が活用できる情報を提供していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・各回の授業順序、テーマ、特別講師については講師の特別な事情により変更する場合もある。
- ・授業における遅刻はないように。
- ・忌引き、競技に於ける試合の為の欠席等については配慮する。

管理 ID：
1827329
授業コード：
M0770

SOM100IA

生理学 【2018年度以降入学生対象】

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：金・4

管理 ID：
1809209
授業コード：
M1150**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べるができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。

生理学の幅広い学問領域の中でも、特に運動生理学を学ぶために理解しておくべき、からだの機能と仕組みを中心に学習する。生理学 A で扱う授業内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておいてもらいたい、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容体の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トートラ人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験(95%)：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験(マークシート(2点×30問)と論述(10点×4問))。

提出物(5%)：期限内に提出された課題等の評価。

欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

86.7%の履修者に「知識が身についた」との評価を得ることができた。また、「履修して良かった」ことに対して、知識だけでなく興味・関心が高まった、難しかったが為になったという様な肯定的なコメントが多数寄せられ、一定の質は保たれていたと思われる。

一方で、内容が困難であったという評価もあり、理解度における個人差が大きかったことが伺える。履修者の予習・復習時間が少ないことから、これらの改善を促し、基本的な知識レベルの差異を考慮しつつ、履修者の理解度を高める工夫を進めて行く必要がある。

SOM1001A

生理学 A 【2017 年度以前入学生対象】

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・4

管理 ID：1826401
授業コード：M1010

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようにすることを目的とする。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【到達目標】**

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。

生理学の幅広い学問領域の中でも、特に運動生理学を学ぶために理解しておくべき、からだの機能と仕組みを中心に学習する。生理学 A で扱う授業内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておいてもらいたい、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容体の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロンの形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」(照井直人編, 羊土社, 2012 年)
「トータル人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%) : 講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 × 30 問) と論述 (10 点 × 4 問))。

提出物 (5%) : 期限内に提出された課題等の評価。

欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

86.7%の履修者に「知識が身についた」との評価を得ることができた。また、「履修して良かった」ことに対して、知識だけでなく興味・関心が高まった、難しかったが為になったという様な肯定的なコメントが多数寄せられ、一定の質は保たれていたと思われる。

一方で、内容が困難であったという評価もあり、理解度における個人差が大きかったことが伺える。履修者の予習・復習時間が少ないことから、これらの改善を促し、基本的な知識レベルの差異を考慮しつつ、履修者の理解度を高める工夫を進めて行く必要がある。

SOM1001A

機能解剖学 A 【2018 年度以降入学生対象】

泉 重樹

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立二足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、その目的と運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】

人体の骨格と関節運動の仕組みを3次元および3面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、直立二足歩行の観点から理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配などと身体運動および機能を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	体幹部（頸部）	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
3	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
4	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、関節、筋、運動部
5	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配1
6	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
7	下肢（膝関節）	膝関節、筋、運動
8	下肢（足関節）	足関節、筋、運動
9	下肢（全体）	足部、アライメント、二関節筋、運動、神経
10	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
11	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
12	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
13	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～14回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
2 運動器の解剖と機能

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖。医道の日本社（2002/5）

工藤慎太郎：運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学。医学書院（2012/5）

坂井建雄：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系。医学書院（2016/12）

F.H.Netter(著)、相磯貞和(翻訳)：ネッター解剖学アトラス原書第6版。南江堂（2016/8）

松村譲児：イラスト解剖学。中外医学社（2014/3）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト（50%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

管理 ID：
1813396
授業コード：
M1160

SOM1001A

機能解剖学 【2017年度以前入学生対象】

泉 重樹

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1年次／2単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学では進化の過程で人類だけが獲得した直立2足歩行を可能にする人体構造を主に筋骨格系から理解し、その目的と運動と諸機能を最大限に発揮するための諸条件を学ぶ。そしてその成果から自らのパフォーマンスの向上の可能性を発見することを具体的な目標とする。

【到達目標】

人体の骨格と関節運動の仕組みを3次元および3面（矢状面・前額面・水平面）で理解する。重力に抗して立つ（下肢）人の直立二足歩行運動および体重を支える役目から解放された上肢の運動をそれぞれ構造面から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人の動作の運動学的評価、スポーツ傷害の評価・原因の同定、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造および機能について、直立二足歩行の観点から理解することを目標とする。そのために運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配などと身体運動および機能を関連づけて学習することを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、骨格、関節（可動域）、アライメント、運動面、運動方向
2	体幹部（頸部）	脊柱、頸椎、筋、靭帯、運動
3	体幹部（胸部）	胸椎、胸郭、筋、関節、運動
4	体幹部（腰部・骨盤部）	腰椎、仙椎、骨盤、関節、筋、運動部
5	骨・関節・靭帯・筋・腱の構造	解剖学総論、骨・関節・靭帯・筋・腱の構造、骨格筋の神経支配1
6	下肢（股関節）	股関節、筋、運動
7	下肢（膝関節）	膝関節、筋、運動
8	下肢（足関節）	足関節、筋、運動
9	下肢（全体）	足部、アライメント、二関節筋、運動、神経
10	上肢（肩関節）	肩甲帯、自由上肢、肩関節、肩甲上腕関節、運動、筋、血管
11	上肢（肘関節）	肘関節、運動、筋、神経、血管
12	上肢（手関節）	手関節、筋、運動、神経、血管
13	上肢（全体）	アライメント、運動、関節構造、主働筋、協働筋、トルク
14	運動器の解剖と機能概論	全体のまとめ、運動器の構造、骨格筋の神経支配

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～14回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト
2 運動器の解剖と機能

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖。医道の日本社（2002/5）

工藤慎太郎：運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学。医学書院（2012/5）

坂井建雄：プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系。医学書院（2016/12）

F.H.Netter(著)、相磯貞和(翻訳)：ネッター解剖学アトラス原書第6版。南江堂（2016/8）

松村譲児：イラスト解剖学。中外医学社（2014/3）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト（50%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

新しい用語、かつ漢字で覚えるもの多く、新しい知識を整理するのに苦労したようである。復習に力を入れ、定期的に行う小テストをバロメーターにして学習を進めてほしい。

管理 ID：
1826402
授業コード：
M1020

PHL1001A

スポーツ哲学

早瀬 健介

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：月・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育とは何かスポーツとは何であるかを考える上で必要な原理・原則について知識を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることで力を養うことを目標とする。

なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているであろうか。今後スポーツに少なからず携わろうと考えている者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られることより、スポーツとは何なのか、さらに自身にとってスポーツとはどのようなものであるのか、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについてより深く考えることがスポーツ専門職にとって重要となってくる。

【到達目標】

スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。

プレイとは何か、指導者とコーチの違い、フェアプレイとは何か、スポーツとドーピング、オリンピックとオリンピズムなどスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることでできるスキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動とおして行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。

テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。

スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日的課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日的課題について考える
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する

5	学校体育の変遷と学習指導要領①	明治から現在に至る体育で取り扱ってきた内容の変遷について学習指導要領等をもとに学ぶ
6	学校体育の変遷と学習指導要領②	現行の学習指導要領及び新学習指導要領について理解する
7	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係①	プレイとは何か、ホイジンガのプレイ論を通してスポーツの価値について考える
8	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係②	カイヨワのプレイ論及び、日本におけるプレイ論について考える
9	体育教師とコーチ	教師とは何をやる指導者か、コーチには何が求められているのか、コーチング回路等を参考に考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にはどのような行動のことをことをいうのか考える
11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動の必要性等、今現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要（なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える）
13	オリンピックとオリンピズム②	オリンピックの真の目的は何か（近代オリンピックが目指すものは何か、オリンピックの現状と課題を踏まえて考える）
14	まとめ（半期を通しての振り返り）	まとめ（半期を通しての振り返り）及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2回：体育という言葉のイメージを考える

第3回：スポーツ哲学という言葉から想像される内容を考える

第4回：体育とスポーツ、どちらが広い概念なのか考える

第5回：明治、大正、昭和と日本はどのような歴史を歩んだのか復習してくる

第6回：自らが学んできた保健体育の内容をよく思い出してくる

第7回：遊びにより培われたものは何か考える

第8回：遊びの本質は何か考える

第9回：どのような指導者になりたいか、指導されたいのか各自が考える

第10回：アンフェアに見えてもフェアなプレイ、またその逆は何か考える

第11回：なぜドーピングがいけないのか考えをまとめて授業に望む

第12回：クーベルタンについて調べる

第13回：これからのオリンピックはどうあるべきか考える

第14回：授業内試験及び、半期を通しての振り返り

【テキスト（教科書）】

「教養としての体育原理 新版 現代の体育・スポーツを考えるために」

友添秀則・岡出美則編 大修館書店 新版第1刷（2016年7月）

また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参画として評価に加味する。授業におけるレポート等（10%）に加え、定期試験の成績（90%）による総合評価を行う。授業出席回数（授業実施の2/3未満の学生については、成績評価の対象外とする）

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備しておくこと。また、従前の授業内容に関して授業終了時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

SOC100IA

スポーツ社会学

吉田 毅

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学は、我々が実際に暮らしている社会を考えるにあたって、自分の経験だけでは獲得できないような様々な視点を提供してくれる。そうしたツールを利用して、スポーツの光と影、様々な局面を多角的に検討していく。受講生がスポーツに対してより深い造詣を持つようになることを、本授業は目的としている。

【到達目標】

- 1) スポーツに関連した具体的事例を通して、社会学的理論に対する知識を深めていくことができる。
- 2) 国内外のスポーツに関連する事象に関しての知識を深め、グローバルな視点からスポーツを論じることができるようになる。
- 3) 社会学的な視点から、スポーツ関連の現象を多角的に見ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献資料およびDVDやスライド映像資料を用いて講義形式を中心に進める。グループワーク等を用いたインタラクティブな内容も取り入れる。受講生とのコミュニケーションにリアクションペーパーも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	スポーツとは、スポーツ社会学とは
2	グローバル社会の中でのスポーツ	高度化、ビジネス化等のキーワードからグローバル社会でのスポーツの変容を探る。
3	現代スポーツの臨界点	ドーピングに代表されるような現代スポーツの問題点を考える。
4	オリンピック・スタディーズ	オリンピックの発展、変遷に関して社会学的に探る。
5	スポーツと自然環境	オリンピックに代表されるメガイベント開催やスポーツに関連する開発と自然環境の問題を考える。
6	スポーツとジェンダー	スポーツにおけるジェンダーバイアスの生成に関して、国内外の事例から考える。
7	スポーツと人種・階級	スポーツによる人種や階級の分断、または融合に関して考える。
8	スポーツと政治・権力	スポーツと政治の関わり合いに関して、歴史社会学的な研究経緯を示した上で、現代的問題に関して考える。
9	スポーツと逸脱の社会学	スポーツにおける暴力、ドーピング等の逸脱行為を社会学的に考える
10	スポーツと教育	スポーツと体育の関係性、学校の課外活動におけるスポーツのあり方等を国内外の事例から考える。
11	スポーツと地域社会	地域におけるスポーツのあり方を、社会学的観点から考える。

- | | | |
|----|----------------|---|
| 12 | スポーツ政策とスポーツ振興 | 我が国のスポーツ政策とスポーツ振興に関する問題を、諸外国の事例と比較して検討する。 |
| 13 | 日本社会とスポーツ | 日本社会におけるスポーツ文化の発展形態や、その特色について考える。 |
| 14 | スポーツ社会学研究の国際比較 | スポーツ社会学研究の国際的な傾向や方法論について考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。

【テキスト（教科書）】

用いない。適宜、資料を配布する。

【参考書】

菊幸一他編著「現代スポーツのパースペクティブ」（大修館書店）他、授業時に、それぞれの単元に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、発言等）：30%

定期試験（ミニレポート含む）：70%

【学生の意見等からの気づき】

リアクション・ペーパーに書かれた質問、コメントをより有効に活かして授業を展開していく。

管理 ID：
1804336
授業コード：
M1630

HSS100IA

ヘルスデザイン論 【2018年度以降入学生対象】

林田 はるみ

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の進展と運動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は成人病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】

健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康	水分補給の重要性について講義する
4	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
5	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
6	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について講義する
7	歯と健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
8	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
9	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
12	トレーナビリティと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
13	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
14	ヘルスデザイン・まとめと試験	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】

特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40％）：学期の中間に行う

期末試験（40％）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

管理 ID：
1813399
授業コード：
M1170

HSS100IA

健康科学 【2013～2017 年度入学生対象】

林田 はるみ

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：火・3

旧うか科目名：健康科学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826403
授業コード：M1130

科学技術の進展と運動するように疾病予備軍が増加している。偏った食生活や運動不足は成人病を助長する。健康に対する知識不足や誤った生活習慣について理解する。

【到達目標】

健康に対する基本的知識を獲得し正しい生活習慣を送れる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でそれぞれのテーマに沿った問題を解説し、その現状と取組の最前線を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	ヘルスデザイン総論	ヘルスデザインの定義・各論の紹介
2	食事と健康	健康的な食事とそうでない食事について講義する
3	水と健康	水分補給の重要性について講義する
4	飲酒と健康	飲酒の善し悪しについて講義する
5	喫煙と健康	喫煙の問題点と害について講義する
6	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について講義する
7	歯と健康	歯と口腔内の病気その予防法について講義する
8	風邪症候群	風邪症候群とインフルエンザについて講義する
9	日焼けと健康	日焼けの善し悪しについて講義する
10	目の健康	目の構造と働き、近視、乱視、不同視などを引き起こす原因を理解し、これらを予防する生活習慣を学ぶ。
11	心の問題と健康	主に若者に特有な心の問題を講義する
12	トレーナビリティと健康	障害者及び女性の体力・運動能力の特徴を講義する
13	免疫機能と健康	我々の身体に備わっている免疫機能を知る。また免疫機能の異常を知る。
14	ヘルスデザイン・まとめと試験	ヘルスデザインの知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

資料を毎回授業支援システムにて提供する。

【参考書】

特に定めず、講義中に適宜支持する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40％）：学期の中間に行う

期末試験（40％）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

双方向性の授業方式の取り入れ

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを毎回講義前日までに目を通し必要な資料を各自印刷する。

HSS100IA

スポーツ運動学 I

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・2

旧うか科目名：スポーツ運動学 I

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヒトの動き」および「運動の構造」の成り立ちを理解し、運動および動きの評価の基礎を学習することによって、実践的運動理論を体育教育の実践・指導へ応用することを学ぶ。

【到達目標】

運動の質的評価の方法について、その流れ、手続き、注意点の概要を理解し、学生各自が関わるそれぞれの競技においてこれを応用し、動きの観察から考察までを行う基礎知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体運動を構成する要素について概説し、身体構造と発達、身体構造と機能、動きのとらえ方（主観と客観）を理解し、その評価方法とストラテジーを学ぶ。運動指導のための評価として、モルフォロジーとバイオメカニクスという異なる立場（観点）からの方法が存在することを知り、その概要を学ぶ。またこれらに基づいた運動指導について学ぶ（運動方法学を含む）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	授業の構成と流れを概説	授業の構成と流れを概説
2	運動の概念	運動の概念
3	運動・動きの構造	運動の形態、種類、原理、局面構造の理解
4	運動発達	発達段階における動きの特徴の理解
5	運動における主観と客観	主観的運動感覚と客観的とらえ方
6	量的評価と質的評価	定量化と定性化
7	運動の質と運動観察	運動経過の評価および客観的記述
8	運動の評価	質的評価：モルフォロジーとバイオメカニクス
9	運動の質的評価	運動方法学：モルフォロジー的評価、研究方法
10	運動指導	運動方法学：モルフォロジー的評価に基づく運動指導
11	運動の質的評価	運動方法学：バイオメカニクスの評価、研究方法
12	運動指導	運動方法学：バイオメカニクスの評価に基づく運動指導
13	評価から運動技術指導へ	個別運動での具体的考察
14	事例検討とまとめ	走運動、投運動における運動評価と運動指導 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

具体例の提示を出来るだけ多くとり、理解を助ける。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

管理 ID：
1804340
授業コード：
M1050

PSY100IA

スポーツ心理学A

立谷 泰久

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。「競技スポーツ」を行う場合、「健康スポーツ」を行う場合、そして「指導者」という立場になった場合など、様々なスポーツ場面における「こころ」のあり方やその理論、そして心理的諸問題の予防法・対処法について学習する。つまり、スポーツ心理学とは、実践的で役に立つ学問であるということを理解する。本講義で学んだことは、現役のアスリートとして、指導者として、またスポーツ科学・健康科学を活かした職業に従事する者として、さらには一人の人間として役に立つものである。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、スポーツ心理学の基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解し、スポーツ関連の従事者となった時に、専門的知見から基礎的説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行うが、簡単な心理検査や実技等も行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、「一方通行」の講義にならないように配慮する（リアクションペーパー等の活用）。これらを通して、スポーツ心理学の知識を得るだけでなく、「考える」ということについても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (ガイダンス含む)	「スポーツ心理学とは？ - その意義と役割 -」、スポーツ心理学の歴史（体育心理学を含む）等を学ぶ。
2	メンタルトレーニングの基礎	「メンタルトレーニングとは何か」等、メンタルトレーニングの基本的なことを理解し、競技場面で起こる心理的な問題・課題を、自らの経験から理解していく。
3	メンタルトレーニングの応用	具体的なメンタルトレーニング技法（「目標設定」「リラクセス法」「イメージトレーニング」等）をどのように使うのかを学ぶ。競技現場で役に立つ様々な気持ちの切り替え法について実技を行いながら学ぶ。またトップアスリートへの実践例なども紹介し、理解を深める。自らの競技生活に応用し、さらに指導できるようになることを目指す。
4	スポーツと性格	性格の形成について理解し、スポーツと性格特性との関係について学ぶ。スポーツと性格特性の関係、そして動機づけについて解説する。また、心理検査を用いて自分自身の心理的特性を知る。
5	競技心理の諸問題	競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係について理解する。競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係、あがりやスランプ、プラトリーなどについても解説する。

6	スポーツ技能の心理的基礎	認知、運動・技術学習の理論的基礎を、スポーツ場面に即して理解する。認知、運動・技術学習の理論的基礎をスポーツ場面に応用して教示し、指導場面で役に立つものを学ぶ。
7	スポーツチームの心理	チームの構造と機能、集団、リーダーシップなどについて学ぶ。チームの構造と機能、集団、リーダーシップ、フォロワーシップなどがチームや集団に及ぼす影響などを解説する。
8	対人魅力の心理-人間関係と指導効果-	魅力とは？ 対人魅力とは？ それに関わる心理とは？ など学ぶ。それに伴う人間関係と指導効果の関係や理想の指導者像などについて解説する。
9	健康スポーツ心理学	健康スポーツ場面における心理学の応用、そして運動が心に及ぼす影響・効果について学ぶ。健康スポーツ心理学とは？ 運動が心理面に及ぼす影響の実験データ、実践例を見ながら解説する。
10	ストレスマネジメントの理論と実技	「ストレスやストレスマネジメントとは何か？」とその対処法や予防法を学ぶ。それらをどのように教育現場、指導現場で行うのかを学び、ストレスへの対処法と予防法を指導できるようになることを目指す。また「ライフスキル教育」についても解説する。
11	コミュニケーションについて	コミュニケーションとは何か？ 人間関係に及ぼす影響を学ぶ。コミュニケーションの重要性、そして「伝える技術」と「聴く技術」を学び、それが日常の人間関係やスポーツ場面に及ぼす影響を学ぶ。
12	スポーツカウンセリングについて	「スポーツカウンセリングとは何か？」、カウンセリングの効果などを理解する。スポーツに関わる人達が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。
13	スポーツ・運動行動変容の理論と実際	スポーツや運動を継続的に行うことにより、アスリートや一般の人たちが、どのように行動が変わり、そして自らの目標達成に近づいていくのかを理解していく。アスリートや一般の人たちの具体的な例を示しながら、行動変容の基本的な理論を理解し、その実際について学ぶ。
14	講義内容の総まとめ	これまでの総復習をし、スポーツ心理学の理解を深め、役に立つ学問ということを再認識する。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配ったプリントを主として復習する。また参考書等を用いて、更なる知識を得る。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布する。

【参考書】

・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版）、編著：楠本恭久
 ・『現場で活きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
 ・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著）

【成績評価の方法と基準】

(1) 配分

出席点：40%とする。また、出席カード（表）には毎回の講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。

管理 ID：
1804337
授業コード：
M1070

期末試験：50 %とする。

その他：(10 %)として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

(2) 評価基準

(1) 配分を元に、総合的に判断・判定する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等から得た、学生からの意見から気づいたことを次年度に活かすようにしている。

【その他の重要事項】

授業の展開によっては、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

SOC100IA

スポーツ史

山本 浩

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピック・パラリンピックを視野に取り込みながら、スポーツを論じる機会が俄然増え始めている。カウントダウンの数字が減るにつれ2020年大会が近づいてくるのを実感し、周囲の情報にも敏感になり始めているからだ。世界選手権やワールドカップの報道を目にするにつれ、選手やチームの戦いぶりを自然に受け入れる自分がいたりするだろう。しかし、少しばかりカレンダーをさかのぼってみれば、今とは違った景色があったのを知ることになる。50年前には石炭穀のトラックを走る人がいた。100年前には川をプールに見立てて世界一を競っていた。スポーツは、いったいどこからやってきたのか。その起源から今日までを踏査することでスポーツの変容を知り、スポーツ史をたどることで私たち自身と社会の変化を見つめ直すのを目的とする。

【到達目標】

スポーツの起源を暦の中に指し示すことは不可能に近い。私たちにできるのはせいぜい、スポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘することだ。今に連なるのは、勝負の基本原則。強い者が勝ち、速い者が栄冠を授かり、優れた戦術を身につけた集団が褒めそやされる。数千年の歴史の中で何が大切にされ続け、何が変わらずにいらなかったのか。スポーツの歴史を追えば、節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件に目をとめずにはいられない。地理、気象、宗教、戦争、産業構造、金、メディア。社会の変化がスポーツを育て、そこにかかわる人や組織がスポーツを加速させてきた歴史を自分のものとしてできるかどうか。2020年以降にも通用するスポーツ世界観をスポーツ史の受講で身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「スポーツ史」は、編年体の講義ベースで進める。受動的な時間にばかりしないため、受講生の積極的な発言の機会を設定する。その上で毎回、講義に関連つけた小論文を課する。自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中にぶつける習慣を付けてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	[全体ガイダンス]	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、遊びや祭りとスポーツの違いを認識してもらおう。
2	[古代オリンピック]	文明の発生した地域での古代スポーツから古代オリンピックまで。スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。スポーツの形が生まれる背景を知る。
3	[戦いの世界]	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と戦争の時代に突入する。その中で、王家や貴族に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	[近世のスポーツ]	産業革命がスポーツに与えた影響は計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達。さまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	[フットボールの歴史]	歴史的には、「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で19世紀にいち早くルールを統一したのがサッカー。そうした動きに対して、ラグビーは新たな動きを始める。
6	[近代オリンピック（1）]	第1回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしばギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。

7	[近代オリンピック（2）]	第二次世界大戦後のオリンピックは、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも64年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。東京を中心に、オリンピック隆盛の時代を丹念に振り返る。
8	[現代のオリンピック]	現代のオリンピックは、その変化の始まりを84年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	[陸上/水泳競技の歴史]	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をかいてもまず走るところにある。水辺の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	[野球の歴史]	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、スポーツ教育史とも重なっている。
11	[相撲・武道の歴史]	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	[学校体育の歴史]	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。20世紀が近づくにつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	[障害者スポーツの歴史]	障害者スポーツの最大の祭典は今、4年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一歩は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会である。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障害者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツの歴史だけではなく、その背景を彩る社会の歴史にも興味を持つこと。現代は、政治家が盛んにスポーツを論じる時代でもある。とりもなおさず、投票権を持つ人たちがスポーツに関心を持つ社会であるからだ。現代的なスポーツ史は、政治史、経済史、社会史を総合している。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ってみよう。自分で打ち込むスポーツがある者は、最新のルールの変更やレギュレーションの変化がどこから来ているのかを探るのも面白いはずだ。

【テキスト（教科書）】

なし（必要があれば資料は別途用意する）。

【参考書】

「21世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹 大修館書店
「スポーツ史講義」稲垣正浩著 大修館書店
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著 市村出版
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくとう理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】

配分：講義中に、指定する時間内で小論文を書いてもらう。毎回の小論文は成績評価の対象。1回最高点3点。13回のすべて満点を取れば、39点。最終講義の時間内に行う試験70点。すべてフルに獲得すれば109点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い史観、具体事例をもっているかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

映像のピックアップをスムーズにし、授業で使うスライドを授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

講義では、パワーポイント、DVD、映像資料などを使う。基本的に学生が準備する機器はない。

【その他の重要事項】

最終講義日の授業内試験には必ず出席すること。
学校を代表しての行事参加、病欠、忌引きに対しては、講義内小論文に代わる追加のレポート課題を期末に与える〔規定の書類/体育会書類、会葬礼状、診断書のコピーなどを提出のこと〕。

ECN1001A

スポーツビジネス論 I 【2018 年度以降入学生対象】

井上 尊寛

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：スポーツビジネス論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813402
授業コード：M1750

スポーツビジネスにおける現状と現代的な課題について検討するとともに、幅広い領域に拡大しつつあるスポーツビジネスのあり方について、国内外の文献および討議、さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにしていく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展と スポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、 文化の産業化
2	スポーツマーケティングの 考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーショ ンシップマーケティング
4	マーケティング戦略の 考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産 業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満 足
6	スポーツ・イベントの マネジメント 1	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントの マネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントの マネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントの マネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブ ランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネ
ルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

HSS200IA

運動生理学概論

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：金・2

旧うか科目名：運動生理学概論

管理 ID：
1804341
授業コード：
M1080**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。本講義では、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果をもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的変化のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】

- ・運動による身体の機能変化について理解する。
- ・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義。

授業支援システムに、授業で使用する配布資料と予習シートがアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパーに記述して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 中枢神経と身体運動の関係を確認する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	呼環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解し、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	体の大きさ	体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。

10	体力の測定	筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	トレーニングの三つの原理と五つの原則について理解し、運動方法（様式）、強度、時間、頻度、期間によって記述できること、運動方法（様式）と効果の特異性について学習する。
12	トレーニング（筋力・筋量）	筋肥大にかかわるメカニカルストレスや代謝的ストレスについて理解し、筋活動様式の違いによるレジスタンストレーニングの分類について学習する。
13	トレーニング（筋パワー・筋持久力）	筋パワー向上のための運動の理論的根拠を理解し、運動の負荷条件の違いによる最大筋力、最大速度、筋パワーへの効果について学習する。
14	トレーニング（全身持久力）	有酸素性運動の効果にかかわる生理学的メカニズムについて学習し、有酸素運動の負荷条件と生理的効果について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

「運動とスポーツの生理学 改訂第3版」（北川薫著，市村出版，2014年）

【参考書】

「運動生理学 エネルギー・栄養・ヒューマンパフォーマンス」（田口貞善他訳，杏林書院，1992年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（95%）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験（マークシート（2点×30問）と論述（10点×4問））。

提出物（5%）：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

一方的に説明を続けるだけの授業にならないように注意する。

【その他の重要事項】

本講義で扱う内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき内容である。

本講義は、機能解剖学と生理学を学習していることを前提として授業を進める。したがって、分かりにくいことがあれば、解剖学や生理学のテキストを見直してほしい。

HSS200IA

スポーツマネジメント論

川崎 登志喜

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。さらに、様々な領域で実践されているスポーツマネジメントの事例から課題を見つけ、課題解決のためにどのようなマネジメントが必要なのか指摘できる力を養うことを目標とする。

【到達目標】

- ①マネジメントは様々な場面で活用できる技術であることを理解できる。
- ②受講生が所属している様々な組織においてマネジメント能力を発揮できるための基礎的知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

豊かなスポーツ環境や健康スポーツライフの実現を目指すスポーツに関わる人々にとって「スポーツ」という商品をどのようにマネジメントすればよいのか？重要な課題である。まさに「マネジメント」は現在、様々な領域（学校・地域・職場・民間・プロスポーツなど）や事業現場で注目されている。本講義では、スポーツマネジメントの基礎理論を学ぶとともに、様々な事例を通して課題を研究しながら実学としてのスポーツマネジメントを学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	スポーツマネジメントとは	概念と目的について
2	スポーツマネジメントの構造	しくみと構造の把握
3	マネジメントサイクル	経営過程と経営機能について
4	スポーツマーケティング	マーケティングの基礎とスポーツマーケティングの事例
5	学校体育経営	学校体育のマネジメント
6	総合型地域スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブのマネジメント（広域スポーツセンターの機能と役割）
7	スポーツ集団	様々なスポーツ集団のマネジメント（メンバーの活動意欲をどう高めるか）
8	プロスポーツ（海外）	アメリカを中心に海外のプロスポーツビジネスについて
9	プロスポーツ（日本）	プロ野球・Jリーグをはじめとする我が国のプロスポーツビジネスについて
10	NCAA	NCAA のマネジメントについて
11	スポーツイベント	スポーツイベントのマネジメント
12	民間スポーツ・フィットネスクラブ	民間スポーツクラブ・フィットネスクラブのマネジメント
13	国と地方のスポーツ行政	国と地域におけるスポーツ行政（我が国のスポーツ振興施策とビジョン）
14	試験とまとめ	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回 特になし。

第2～13回 前回授業の課題への取り組みと復習。

【テキスト（教科書）】

毎時間、資料を配付する。

【参考書】

柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房

柳沢和雄・木村和彦・清水紀宏編著「テキスト体育・スポーツマネジメント」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

試験 60% 授業参加姿勢 20%

(但し、総授業数の 2/3 以上に出席しなければ単位は認定されない。)

レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

スポーツニュースの課題は好評につき今年度も実施します。

管理 ID:
1804339
授業コード:
M1120

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では **keyword, take-home message, summary** を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。

3	スポーツと突然死（1） ：若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2） ：中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、**keyword, take-home message, summary** など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 以下に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。
第1回：シドニー・デッカー、『ヒューマンエラーを理解する』（2010年、海文堂）。（特に第1章～第6章）
第2回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23. (http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
第3回：木下訓光：突然死。『学校スポーツにおける外傷・障害診療ガイド』（臨床スポーツ医学 2012年臨時増刊号。pp 362-367）
第4回：木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009年 26巻 11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）

第 5,6 回：『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013 年改訂版） pp18-21、pp26-29.

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2011 年第 3 版） pp 8-16.
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵

第 7 回：木下訓光：アスリートに対するメディカルチェックーその有用性と限界ー。臨床スポーツ医学 2012;29(2):153-162.

第 8 回：木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf) ※第 2 回の参考文献と同じ。

第 9 回：『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本体育協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本体育協会）

（いずれも <http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会）

『雷対応マニュアル』（J リーグ）

第 10 回：高木 修。『人を助ける心』（1998 年、サイエンス社）。（特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

第 11 回：木下訓光：スポーツ選手の減量ー米国アマチュアレスリングにおける事例ー。（1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

第 12 回：『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『性と柔-女子柔道史から問う』（溝口紀子、河出ブックス）

第 13 回：該当資料無し

第 14 回：日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵

・入澤 充。『学校事故：知っておきたい!養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

HSS100IA

スポーツ実習入門

井上 尊寛

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827129
授業コード：M1460

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS100IA

スポーツ実習入門

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：
1826731
授業コード：
M1461

HSS100IA

スポーツ実習入門

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
 文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID : 1827130
 授業コード : M1462

HSS100IA

スポーツ実習入門

永木 耕介

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827126
授業コード：M1463

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田 道彦

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827127
授業コード：M1464

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS100IA

スポーツ実習入門

成田 道彦

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827131
授業コード：M1465

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS100IA

スポーツ実習入門

Nemes Roland

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827128
授業コード：M1466

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS100IA

スポーツ実習入門

Nemes Roland

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1 年次／1 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827132
授業コード：M1467

複数のスポーツ種目を実践することでバランスのとれた体力の向上を図るとともに、各スポーツ種目の技能と精神的特性に対する理解を深める。

【到達目標】

自己の体力の把握と高め方、各種スポーツの行い方、楽しみ方、規範（スポーツパーソンシップやマナー、安全配慮）等を学ぶことにより、「生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現」へ向けた資質・能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業計画の説明、施設・用具の確認、記述形式によるレディネスの把握等
2	体力テスト	文科省の新体力テストに準じる。また、既往症の把握も行う。
3	ストレッチ	静的・動的による各種の方法を学ぶ。
4	ウォーキング・ジョギング	身体的効果、正しいフォーム等を学ぶ。
5	フットサル	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
6	サッカー	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
7	バスケットボール	3 × 3 を含み、ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
8	ハンドボール	ルール、技能、ゴール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
9	バドミントン	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
10	バレーボール	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
11	硬式テニス	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
12	卓球	ルール、技能、ネット型戦術、安全配慮等を学ぶ。
13	ソフトボール	ルール、技能、ベースボール型戦術、安全配慮等を学ぶ。
14	まとめ	受講生の今後の体力向上とスポーツライフの質的向上へ向けたまとめを行い、それらを踏まえたレポート作成・提出を課題とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

確認

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『イラストでみる最新スポーツルール 2017』大修館書店
文部科学省『高等学校学習指導要領解説・保健体育・体育編』（ぎょうせい、平成 21 年）
文部科学省『新体力テスト－有意義な活用のために－』（ぎょうせい、平成 12 年）

【成績評価の方法と基準】

参加態度点（60 点）、スポーツへの理解度（観察、20 点）、レポート（20 点）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS200IA

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：水・1

管理 ID：
1809210
授業コード：
M1420**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

齋部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位
 曜日・時限：水・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館
 ・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・2

管理 ID：
1826677
授業コード：
M1422**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS200IA

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・2

管理 ID：
1826678
授業コード：
M1423**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12 分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12 分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編）大
修館
・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編）大
修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：水・1

管理 ID：
1826679
授業コード：
M1424**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパーテストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパーテスト）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパーテスト（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：水・1

管理 ID：
1826680
授業コード：
M1425**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

苅部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：水・2

管理 ID：
1826681
授業コード：
M1426**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と技術獲得レベル (20%)、記録目標達成度 (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS2001A

陸上競技実習

齋部 俊二、坪田 智夫

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：水・2

管理 ID：
1826682
授業コード：
M1427**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

走、跳、投はすべてのスポーツの基本である。そのそれぞれの構造と特性の理解を深めるとともに、技術を習得する。

【到達目標】

走・跳・投の一連の基本動作の習得から「より速く、より高く、より遠くへ」という陸上競技の本質へと迫っていき、幅広い種目構成に潜む走、跳、投の重要性について学びとる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

走運動では、走の基本ドリル、腕の振り、脚の動きの習得から短距離走の技術を獲得する。跳躍種目においては走幅跳の技術を習得する。跳ぶ基本ドリルから、投動作の基礎を獲得し、身体を空中に放り出す感覚を学ぶ。助走から踏み切り、空中動作、着地の動作を分習、全習法によって獲得する。投擲種目では、砲丸投の技術を習得する。投げる基本ドリルから砲丸投に求められるグライド動作から突き出し、リバース動作の方法を分習、全習法によって獲得する。長距離走・中距離走については、トレーニング方法を習得し計測を行う。また、簡易的な最大酸素摂取量の測定として広く使用されるクーパertestを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方および、陸上競技の特性について学習する。
2	短距離走 方法	走運動のうち、短距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
3	短距離走 計測	短距離走の計測を行う。
4	跳躍（走幅跳）の方法	跳躍運動のうち、走幅跳の競技特性への理解を深め、速くに跳躍するための技術を習得する。
5	走幅跳 計測	走幅跳の計測を行う。
6	投てき（砲丸投）の方法	投運動のうち、砲丸投の競技特性への理解を深め、速くに投てきするための技術を習得する。
7	砲丸投 計測	砲丸投の計測を行う。
8	再計測	目標に達しなかった場合追試再計測を行う。
9	ガイダンス	後半のガイダンスを行う。
10	長距離走の方法	走運動のうち、長距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。
11	12分間走（クーパertest）	最大酸素摂取量を簡易的に推定できるクーパertest（12分間走）を行う。心拍数や主観的努力度を加え、持久能力や有酸素能力、呼吸循環系への理解を深める。
12	中距離走の方法	走運動のうち、中距離走の競技特性への理解を深め、速く走るための技術を習得する。

13	中距離走 計測	中距離走の計測を行う。
14	リレー	リレー種目の競技特性を学び、リレー競技を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に指定しない。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（トラック編） 大修館

・スポーツ Q & A シリーズ 実戦 陸上競技（フィールド編） 大修館

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（30%）と技術獲得レベル（20%）、記録目標達成度（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を深められる授業となるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

授業は半期セメスターをさらに前半後半に分け「短距離・跳躍・投てき」、「中長距離種目・リレー」を分けて展開する。

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升 佑二郎

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

管理 ID：
1826280
授業コード：
M1440**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に取り組めるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得し、ゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるのかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が行えるように学習する。

将来、初心者指導ができるように学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、ラケットの振り方を学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バドミントン概論
第2回	基本技術1	リフティング、ドライブ、クリア、ヘアピン
第3回	基本技術2	ドロップ&ロビング ブッシュ&レシーブ
第4回	基本技術3	スマッシュ&レシーブ
第5回	応用技術1	ドロップ交互&スマッシュ交互
第6回	基本技術2	オールショート&オールロング
第7回	応用技術3	左右への打ち分け
第8回	試合形式1	シングルの進め方 基礎編
第9回	試合形式2	シングルの進め方 応用編
第10回	試合形式3	ダブルスの進め方 基礎編
第11回	試合形式4	ダブルスの進め方 応用編
第12回	試合形式5	トリプルの進め方
第13回	試合形式6	団体戦の進め方
第14回	実技試験とまとめ	実技技能試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（40%）、実技技能試験（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルスのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルスのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③テニスのマナー、礼儀、フェアプレー精神を学ぶ。
- ④授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ⑤体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各ショットの基礎技術、ラケットイング
第 2 回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第 3 回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第 4 回	グランドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第 5 回	ボレー	ボレー段階的技術指導
第 6 回	スマッシュ、ボレー	スマッシュ、ボレー基礎技術
第 7 回	サービス	サービスの段階的指導方法
第 8 回	サービス、リターン	サービス、リターン基礎技術練習
第 9 回	ゲーム形式	3 対 3 のゲーム形式
第 10 回	ダブルス基礎技術	ルール、マナー、ゲーム法
第 11 回	ダブルスのフォーメーション	雁行陣、平行陣、I フォーメーション、ステイバック
第 12 回	ダブルス応用技術	雁行陣のポジションと戦術
第 13 回	ダブルスゲーム	ゲームの進め方
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルストーナメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビで放映される全仏オープンや全英オープンなどの試合を見て、選手の動きやショットの技術等を学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢、積極性などの平常点（80 %）とルールの理解度と実技上達度（20 %）を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニス技術が向上できる効果的な練習方法を、毎回取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に申し出ること。

管理 ID：
1809213
授業コード：
M1441

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升 佑二郎

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826699
授業コード：M1442

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に取り組めるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得し、ゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるのかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が行えるように学習する。

将来、初心者指導ができるように学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、ラケットの振り方を学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バドミントン概論
第2回	基本技術1	リフティング、ドライブ、クリア、ヘアピン
第3回	基本技術2	ドロップ&ロビング ブッシュ&レシーブ
第4回	基本技術3	スマッシュ&レシーブ
第5回	応用技術1	ドロップ交互&スマッシュ交互
第6回	基本技術2	オールショート&オールロング
第7回	応用技術3	左右への打ち分け
第8回	試合形式1	シングルの進め方 基礎編
第9回	試合形式2	シングルの進め方 応用編
第10回	試合形式3	ダブルスの進め方 基礎編
第11回	試合形式4	ダブルスの進め方 応用編
第12回	試合形式5	トリプルの進め方
第13回	試合形式6	団体戦の進め方
第14回	実技試験とまとめ	実技技能試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（40%）、実技技能試験（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2 年次／1 単位
曜日・時限：木・2
旧うか科目名：総合スポーツ実習 A [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルスのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルスのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③テニスのマナー、礼儀、フェアプレー精神を学ぶ。
- ④授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ⑤体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	各ショットの基礎技術、ラケットイング
第 2 回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第 3 回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第 4 回	グラウンドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第 5 回	ボレー	ボレー段階的技術指導
第 6 回	スマッシュ、ボレー	スマッシュ、ボレー基礎技術
第 7 回	サービス	サービスの段階的指導方法
第 8 回	サービス、リターン	サービス、リターン基礎技術練習
第 9 回	ゲーム形式	3 対 3 のゲーム形式
第 10 回	ダブルス基礎技術	ルール、マナー、ゲーム法
第 11 回	ダブルスのフォーメーション	雁行陣、平行陣、I フォーメーション、ステイバック
第 12 回	ダブルス応用技術	雁行陣のポジションと戦術
第 13 回	ダブルスゲーム	ゲームの進め方
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルストーナメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビで放映される全仏オープンや全英オープンなどの試合を見て、選手の動きやショットの技術等を学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢、積極性などの平常点（80 %）とルールの理解度と実技上達度（20 %）を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3 回の遅刻は 1 回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニス技術が向上できる効果的な練習方法を、毎回取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に申し出ること。

管理 ID：
1826694
授業コード：
M1443

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升 佑二郎

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

管理 ID：
1826695
授業コード：
M1444**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に取り組めるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得し、ゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるのかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が行えるように学習する。

将来、初心者指導ができるように学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、ラケットの振り方を学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バドミントン概論
第2回	基本技術1	リフティング、ドライブ、クリア、ヘアピン
第3回	基本技術2	ドロップ&ロビング ブッシュ&レシーブ
第4回	基本技術3	スマッシュ&レシーブ
第5回	応用技術1	ドロップ交互&スマッシュ交互
第6回	基本技術2	オールショート&オールロング
第7回	応用技術3	左右への打ち分け
第8回	試合形式1	シングルの進め方 基礎編
第9回	試合形式2	シングルの進め方 応用編
第10回	試合形式3	ダブルスの進め方 基礎編
第11回	試合形式4	ダブルスの進め方 応用編
第12回	試合形式5	トリプルの進め方
第13回	試合形式6	団体戦の進め方
第14回	実技試験とまとめ	実技技能試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（40%）、実技技能試験（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルスのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルスのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③テニスのマナー、礼儀、フェアプレー精神を学ぶ。
- ④授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ⑤体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各ショットの基礎技術、ラケットイング
第2回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第3回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第4回	グラウンドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第5回	ボレー	ボレー段階的技術指導
第6回	スマッシュ、ボレー	スマッシュ、ボレー基礎技術
第7回	サービス	サービスの段階的指導方法
第8回	サービス、リターン	サービス、リターン基礎技術練習
第9回	ゲーム形式	3対3のゲーム形式
第10回	ダブルス基礎技術	ルール、マナー、ゲーム法
第11回	ダブルスのフォーメーション	雁行陣、平行陣、Iフォーメーション、ステイバック
第12回	ダブルス応用技術	雁行陣のポジションと戦術
第13回	ダブルスゲーム	ゲームの進め方
第14回	ダブルスゲーム	ダブルストーナメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビで放映される全仏オープンや全英オープンなどの試合を見て、選手の動きやショットの技術等を学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢、積極性などの平常点(80%)とルールの理解度と実技上達度(20%)を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニス技術が向上できる効果的な練習方法を、毎回取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に申し出ること。

管理 ID：
1826696
授業コード：
M1445

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

升 佑二郎

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

管理 ID：
1826697
授業コード：
M1446**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

バドミントンはラケットスポーツの中でも比較的簡単に取り組めるスポーツである。しかし技術的な奥の深さや体力的な運動量は外見とは異なる競技である。バドミントンの基本技術と応用技術を習得し、ゲームの楽しさを体験すると同時に、バドミントンが何故生涯スポーツを代表する競技であるのかを学習する。

【到達目標】

ラケットスポーツを学ぶ授業としてバドミントンの基本技術と応用技術を習得し、試合が行えるように学習する。

将来、初心者指導できるように学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初心者から試合が出来るようになる為に、ラケットの振り方を学び、基本技術から応用技術を実践し、生涯スポーツとして誰とでも楽しめる技術を習得する。バドミントンの基本技術、応用技術を学習し、簡易ルールによるゲーム方法を学ぶ。次いで、シングルス、ダブルスそれぞれの正式ルールによるゲーム方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バドミントン概論
第2回	基本技術1	リフティング、ドライブ、クリア、ヘアピン
第3回	基本技術2	ドロップ&ロビング ブッシュ&レシーブ
第4回	基本技術3	スマッシュ&レシーブ
第5回	応用技術1	ドロップ交互&スマッシュ交互
第6回	基本技術2	オールショート&オールロング
第7回	応用技術3	左右への打ち分け
第8回	試合形式1	シングルの進め方 基礎編
第9回	試合形式2	シングルの進め方 応用編
第10回	試合形式3	ダブルスの進め方 基礎編
第11回	試合形式4	ダブルスの進め方 応用編
第12回	試合形式5	トリプルの進め方
第13回	試合形式6	団体戦の進め方
第14回	実技試験とまとめ	実技技能試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

バドミントンの歴史やルールを文献・インターネットなどで調べ予備知識を持つ、実技の前日は体調を整えておく様に心掛ける。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（40%）、実技技能試験（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS200IA

ラケットスポーツ実習

植村 直己

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2年次/1単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習A [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ラケットスポーツを代表するテニスの基礎技術、応用技術、ルールを学習し、ダブルスのゲーム方法を学習する。テニスの実技を通じて種目の特性を体感し、生涯にわたり継続していける種目であることを学ぶ。

【到達目標】

- ①各ショットのグリップ、打ち方について基礎技術を学ぶ。
- ②ダブルスのルール、基礎技術、ゲーム方法を習得する。
- ③テニスのマナー、礼儀、フェアプレー精神を学ぶ。
- ④授業を通してコミュニケーション能力を習得する。
- ⑤体力向上を図り、生涯にわたり継続できる種目である事を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニスコートでの実技中心の授業を行う。
- ②毎回のテーマに沿ってショットの基礎技術とルール、ゲーム方法を学習する。
- ③実技の時は、スポーツウェア、テニスシューズを着用すること。
- ④雨天の場合は教室にて講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	各ショットの基礎技術、ラケットイング
第2回	基本ストローク	フォアハンドストローク基礎技術
第3回	基本ストローク	バックハンドストローク基礎技術
第4回	グラウンドストローク	フォアハンド、バックハンドストロークでのラリー練習
第5回	ボレー	ボレー段階的技術指導
第6回	スマッシュ、ボレー	スマッシュ、ボレー基礎技術
第7回	サービス	サービスの段階的指導方法
第8回	サービス、リターン	サービス、リターン基礎技術練習
第9回	ゲーム形式	3対3のゲーム形式
第10回	ダブルス基礎技術	ルール、マナー、ゲーム法
第11回	ダブルスのフォーメーション	雁行陣、平行陣、Iフォーメーション、ステイバック
第12回	ダブルス応用技術	雁行陣のポジションと戦術
第13回	ダブルスゲーム	ゲームの進め方
第14回	ダブルスゲーム	ダブルストーナメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビで放映される全仏オープンや全英オープンなどの試合を見て、選手の動きやショットの技術等を学習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

「テニス指導教本」・「コートの友」（ルールブック）日本テニス協会「テニスマガジン」、「スマッシュ」等月刊テニス専門誌

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、授業への参画姿勢、積極性などの平常点(80%)とルールの理解度と実技上達度(20%)を総合的に評価する。なお、この評価は原則的なもので、健康状態による見学者については個別に対応・評価する。なお、3回の遅刻は1回の欠席と見なすため、遅刻、欠席には十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニス技術が向上できる効果的な練習方法を、毎回取り入れながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

体調不良等の場合は教員に申し出ること。

管理 ID:
1826698
授業コード:
M1447

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。

試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1809211
授業コード:
M1440

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で50m完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826684
授業コード:
M1441

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。

試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826689
授業コード:
M1442

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技
開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位
曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で50m完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826686
授業コード:
M1443

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で50m完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行う。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826685
授業コード:
M1444

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。

試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m 完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826683
授業コード:
M1445

HSS300IA

スイミング実習

八塚 明憲

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。

試験では指示された2つの種目（例 25m バタフライ+25m 自由形）で

50m 完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826687
授業コード:
M1446

HSS300IA

スイミング実習

金田 和也

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スイミング実習は、初心者段階において修得しなければならない「水慣れ」、「浮き身」、「呼吸法」についての基礎を学び、多様な泳法技術習得へと泳法技術習得へと展開していく。各種泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）固有の技法を学び、よりリラックスした泳法を学習する中で、スポーツ指導者として最低限必要とされる泳力を習得する。さらに水泳指導現場で身につけておかなければならない安全への配慮について学び実践に活かせることを目指す。

【到達目標】

自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライの4種目を公式の泳法で25m泳げるようになる泳法指導を学ぶ。
試験では指示された2つの種目（例 25mバタフライ+25m自由形）で50m完泳する泳力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

水泳指導者として最低限必要とされる泳力を体得し、指導者として各種目の基礎理論とそれに基づいた泳法を学んでいく。プールサイド・水中を通じ、水泳指導中に起こる事故などにも注意させ安全で事故防止にも役立つ授業を展開して行く。但し、全てプール内・プールサイドで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック・授業内でのクラス分け・授業中に起こる事故・怪我等の注意・説明を行い基礎を学ぶ。
2	実技・自由形①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板を使用して自由形のバタ足を学ぶ。
3	実技・自由形②	ビート板使用/バタ足(呼吸付き)/コンビ(呼吸付き)スイム/ビート板不使用で蹴伸び・バタ足・コンビスイム
4	実技・自由形③	呼吸付き自由形で25m以上泳げるようにする。
5	実技・背泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/ビート板使用背泳ぎ足/ビート板不使用背泳ぎ足を学ぶ。
6	実技・背泳ぎ②	ビート板不使用/キック(背泳ぎ足)/コンビ(手を回す・呼吸付)スイム
7	実技・背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで25m以上泳げるようにする
8	実技・平泳ぎ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/プールサイドにて平泳ぎ足/壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)を学ぶ。

9	実技・平泳ぎ②	壁キック(平泳ぎ)/ビート板使用(平泳ぎ足)/ビート板不使用(平泳ぎ足)/コンビ
10	実技・平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで25m以上泳げるようにする
11	実技・バタフライ①	初心者としての水慣れ・呼吸法・浮き身/壁キック(バタフライ)/ビート板使用(バタフライ足)を学ぶ。
12	実技・バタフライ②	ビート板使用(バタフライ足)(片手バタフライ)/ビート板不使用バタフライコンビ(無呼吸)
13	実技・バタフライ③	呼吸付きバタフライで25m以上泳げるようにする
14	実技泳力泳法試験	受講者が選んだ2種目で(25m+25m)50m完泳する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店
インターネット等で水泳選手等の泳法を予習復習する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 平常点・授業内の取り組み方

20% 泳力実技テスト 50m(25m+25m)2種目の泳力泳法評価

【学生の意見等からの気づき】

水温と室温には十分に気を付け授業の受けやすい環境を設定する。
怪我・病気等による見学については実技内容を変更して行く。

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

見学は実習にならないので出席扱いにはしない。

管理 ID:
1826688
授業コード:
M1447

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1809214
授業コード：M1480

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

HSS3001A

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習B [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術(キック・トラップ・ドリブル・ヘディング)を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレーヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。

第8回	各ポジションの役割（実習&講義）	4分の3コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6分の1コートで2v2、3v3のゲーム形式の実習を行う。
第10回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで5v5、7v7のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第11回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで11v11のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャップテンを経験させる。
第12回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャップテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第13回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆1点リードしている時の戦い方を理解する。☆1点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第14回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム20min×3試合） フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（Jリーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U-10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40%
- 2) 習熟度 30%
- 3) 課題・レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

管理 ID:
1809215
授業コード:
M1481

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826700
授業コード：M1482

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

HSS300IA

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習B [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術(キック・トラップ・ドリブル・ヘディング)を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。

失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレイヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。

第8回	各ポジションの役割（実習&講義）	4分の3コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6分の1コートで2v2、3v3のゲーム形式の実習を行う。
第10回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで5v5、7v7のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第11回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで11v11のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャップテンを経験させる。
第12回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャップテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第13回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆1点リードしている時の戦い方を理解する。 ☆1点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第14回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム20min×3試合） フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（Jリーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U-10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40%
- 2) 習熟度 30%
- 3) 課題・レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826702
授業コード：M1484

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

HSS300IA

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・1

旧うか科目名：総合スポーツ実習B [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術(キック・トラップ・ドリブル・ヘディング)を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレイヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。

第8回	各ポジションの役割（実習&講義）	4分の3コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6分の1コートで2v2、3v3のゲーム形式の実習を行う。
第10回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで5v5、7v7のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第11回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで11v11のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャップテンを経験させる。
第12回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャップテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第13回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆1点リードしている時の戦い方を理解する。☆1点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第14回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム20min×3試合）フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（Jリーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U-10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40%
- 2) 習熟度 30%
- 3) 課題・レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

管理 ID:
1826703
授業コード:
M1485

HSS300IA

ボールスポーツ実習

山口 良博

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3 年次／1 単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習 B [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826704
授業コード：M1486

バスケットボール競技の特性やルールへの理解を深め、基礎技術、グループ戦術を習得するとともに、それらを用いたゲームの展開方法を学ぶ。また、ゲームをとおして協調性やリーダーシップ等を養うことも目的とする。

【到達目標】

1. バスケットボール競技に興味・関心をもち、自らの技能を高めるために主体的に取り組む姿勢を身につける。さらに、チームスポーツに必要な協調性やリーダーシップの向上を図る。(関心・意欲・態度)
2. シュートの基本フォームを習得し、基礎技術やグループ戦術をゲームにおいて発揮できる。(技能)
3. ルールについて説明することができる。(知識・理解)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに沿った課題練習を行い、その技術や戦術等をゲームにおいて発揮できるよう授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の注意事項及びルールについての説明
2	ボールコントロールに関する技術の習得	ボールハンドリング
3	ボールコントロールに関する技術の習得	ドリブル
4	ボールコントロールに関する技術の習得	パス
5	ボールコントロールに関する技術の習得	セットシュート
6	ボールコントロールに関する技術の習得	レイアップシュート
7	個人戦術の習得	1on1 でのオフェンス局面
8	個人戦術の習得	1on1 でのディフェンス局面
9	グループ戦術の習得	2on2 でのパス・アンド・ラン
10	チーム戦術の習得	5on5 の攻防
11	チーム戦術の習得	攻守の移行局面の攻防
12	技能確認	シュートの基本フォーム習得度確認
13	技能確認	グループ戦術の習得度確認
14	知識確認	ルールの理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

書籍や映像を用いて、各回のテーマにそった準備学習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

バスケットボール指導教本、バスケットボール競技規則

【成績評価の方法と基準】

到達目標 1 の「関心・意欲・態度」については、授業態度と出席状況により評価する (70%)。

到達目標 2 の「技能」に関しては、ゲーム観察及び技能練習中に評価する (20%)。

到達目標 3 の「知識・理解」については、ルールに関するレポートもしくは小テストにより評価する (10%)。

【学生の意見等からの気づき】

ゲーム等をとおしてバスケットボール競技の楽しさは実感してくれているようなので、さらにルールや技能など競技への理解を深められるように取り組んでいきたい。

HSS300IA

ボールスポーツ実習

清雲 栄純

カテゴリ：専門基礎科目（実技科目）・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3年次/1単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：総合スポーツ実習B [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームスポーツの特性を生かしながら他者とのコミュニケーションを図り、技術・戦術を取得してゲームの進め方を理解出来るよう、実習及び講義で実践する。

【到達目標】

- ①サッカーのルールを理解し、正しい技術を身に着ける。
- ②チームスポーツの特性を生かし、他者とのコミュニケーションや協調性を図る。
- ③基本戦術を習得をし、ベースになる技術(キック・トラップ・ドリブル・ヘディング)を用いたフルコートのゲーム出来るようにする。
- ④コミュニケーション能力に磨きをかけ、仲間との一体感を醸成する能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーは相手とのコンタクトプレーが頻繁に起こる競技で、ダイナミックな面とボールを的確にコントロールするための技術や身体のリズムが求められるスポーツである。また、個人がボールを保持している時間が短く、見方をサポートするタイミングを求められ、コミュニケーションのスポーツでもある。そのための基本技術はもちろん基本戦術でもあるコーチング能力を高め、目的であるゴールを奪う喜びや楽しさを知ることが目的とする。

実習においては基本技術（キック・トラップ・ドリブル・ヘディング）を用いた試合が出来るようにスモールフィールドのゲームからフルコートのゲームを体験する。

同時にルールや試合の組み立て方などの理解を深めていく。失敗を恐れず積極的にチャレンジする学生の参加を望む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	ガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第2回	受講者決定、態度とルールについて（講義）	サッカーのルールとプレイヤーとしての態度について資料を配布し説明する。
第3回	基本技術・パス&トラップの技術習得（実習&講義）	パスとトラップの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第4回	基本技術・ドリブルの技術習得（実習&講義）	ドリブルの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第5回	基本技術・ヘディングの技術習得（実習&講義）	ヘディングの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第6回	ゲームの組み立て方（実習&講義）	スモールゲームで取得した基本技術を用いて、ゲームの組み立てについて理解する。
第7回	フォーメーションについて（実習&講義）	ハーフコートで位置取りや実際の動き方などのポジションについて理解する。

第8回	各ポジションの役割（実習&講義）	4分の3コートで各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第9回	スモールサイドゲームで攻守の切り替えを身に着ける（実習&講義）	6分の1コートで2v2、3v3のゲーム形式の実習を行う。
第10回	ハーフコートゲーム（実習&講義）	ハーフコートで5v5、7v7のゲーム形式の実習を行う。各チームごとにポジションを決定させてゲームを行う。（ゲームフリーズで修正する）
第11回	ゲーム①（実習&講義）	フルコートで11v11のゲームを行う。（チームごとに戦略を立てる） ☆キャップテンを経験させる。
第12回	ゲーム②（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆キャップテンが自チームのポジションを決める。（フルコート）
第13回	ゲーム③（実習&講義）	チームごとに戦略を立てゲームを行う。 ☆1点リードしている時の戦い方を理解する。☆1点ビハインドの時の戦い方を理解する。（フルコート）
第14回	ゲーム④（実習&講義）	総括（ゲーム20min×3試合） フルコート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 友人や仲間と休み時間や大学の休みを利用して少人数でのスモールゲームを行う。
- 2) レベルの高いゲームを観戦してイメージを高める（Jリーグ・海外の試合 ets）

【テキスト（教科書）】

資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

- 1) 日本サッカー協会発行 サッカー指導教本・DVD 2016
- 2) JFA(日本サッカー協会) 指導指針 (U-10~U18)2017
- 3) サッカーのコーディネーショントレーニング (大修館書店)

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業態度 40%
- 2) 習熟度 30%
- 3) 課題・レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 悪天候の場合は必要に応じてビデオ機器を使用する。

管理 ID:
1826705
授業コード:
M1487

HSS100IA

スポーツコーチング論 A 【2018 年度以降入学生対象】

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方と、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方と態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
・コーチングに対する考え方
・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきかを理解する。
一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための3回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。3回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
2	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテンス
3	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
4	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
5	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
6	まとめ①	コーチングに対する考え方のまとめ
7	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
8	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
9	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
10	まとめ②	コーチ自身の態度や行動のまとめ
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	まとめ③	コーチング対象者に対する態度や行動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、G a k k e n

「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・「まとめ」の時に3回レポート（15点×3＝45点）
・スキル学習課題とドリルの考案と実践（25点）
・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（10点×3＝30点）
を総合評価（100点）する。

【学生の意見等からの気づき】

ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

運動ができる服装

コーチング実践で使う用具

HSS100IA

スポーツコーチング論 I 【2017 年度以前入学生対象】

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」であることを常に意識して行われるものである。これを実践するためには、まずコーチングを形づくる中心にある自分自身の考え方や、コーチング対象者や社会との良好な関係を築くために必要な人間としての態度や行動が求められる。これら考え方や態度や行動を学ぶ。その上にコーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能はある。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
 ・コーチングに対する考え方
 ・自分やコーチング対象者に対する態度や行動がどうあるべきかを理解する。
 一方、コーチング実践を通して理解した内容を実践に活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半の時間にはグループでコーチングを実践する。そこではコーチ役を決め、そのコーチがスキル学習課題と習得のための3回分のドリルを考案し、屋外でコーチングをする。3回実践したらコーチ役をローテーションする。後半の時間にはコーチング実践を振り返った後、その日のテーマについて講義形式で学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツの意義と価値	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
2	コーチの役割と使命	国際的なコーチの職務とコンピテン
3	コーチの倫理観・規範意識	プレーヤーズファースト、アンチドーピング
4	コーチに求められる資質能力	プレーヤーとともに学び続ける
5	コーチングとは？	効果的な学び、実践力を身につける方法
6	まとめ①	コーチングに対する考え方のまとめ
7	コーチに求められる多様な思考法	論理的、分析的、創造的、批判的な思考
8	コーチのセルフコントロール	メンタル、アンガー、タイムマネージメント
9	コーチのキャリア・デザイン	目標設定、自分の生活、ワークライフバランス
10	まとめ②	コーチ自身の態度や行動のまとめ
11	コミュニケーション	観察、傾聴、承認、質問、プレゼン、ファシリテーション
12	人的環境の構築	チームビルディング、協力・協調・協働、アントラージュ
13	プレーヤーのキャリア・デザイン	目標設定、デュアルキャリア
14	まとめ③	コーチング対象者に対する態度や行動のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、G a k k e n

「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・「まとめ」の時に3回レポート（15点 × 3 = 45点）
 ・スキル学習課題とドリルの考案と実践（25点）
 ・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（10点 × 3 = 30点）
 を総合評価（100点）する。

【学生の意見等からの気づき】

ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

運動ができる服装

コーチング実践で使う用具

管理 ID：
1826410
授業コード：
M1610

HSS100IA

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順、体力、技術のトレーニング内容・方法を理解する。

【到達目標】

・トレーニングを実施するための手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づく目標、手段、方法、計画、実践、改善の各理論を理解する。

・体力、技術のトレーニング内容・方法（運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数）を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、理解すべき図の検討などアクティブ・ラーニングを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論	・スポーツ・運動の構造を理解する。 ・遺伝とトレーニングの関係を理解する。
2	・トレーニングの目標論 ・体力と技術のトレーニング	・トレーニングを実施する際の目標の立て方を理解する。 ・体力トレーニングと技術トレーニングの相違を理解する。
3	・トレーニングの手段論 ・暑熱順化トレーニング	・トレーニングを実施する際の手段の選び方を理解する。 ・暑熱順化トレーニングの変数を理解する。
4	・トレーニングの方法論 ・全身持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の方法を理解する ・全身持久力トレーニングの変数を理解する。
5	・トレーニングの計画論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方を理解する。 ・筋持久力トレーニングの変数を理解する。
6	・トレーニング実践論 ・筋力トレーニング	・トレーニングを実施する際の実施における留意点を理解する。 ・筋力トレーニングの変数を理解する。
7	・トレーニング改善論 ・パワートレーニング	・トレーニングを実施後、改善するための方法を理解する。 ・パワートレーニングの変数を理解する。
8	・高強度間欠的運動によるトレーニング	・高強度間欠的運動によるトレーニングの原理、方法、効果について理解する。
9	・高地トレーニング	・高地トレーニングの原理、方法、効果について理解する。
10	・スピードトレーニング	・スピードに対する考え方、スピードトレーニングの変数を理解する。
11	・バランストレーニング	・バランスに対する考え方、バランストレーニングの変数を理解する。

- 12 ・柔軟性トレーニング
・ウォームアップとクールダウン
- 13 ・技術トレーニングの考え方、基本原則①
- 14 ・技術トレーニングの基本原則②
- ・柔軟性の功罪と柔軟性を高めるトレーニングについて理解する。
・トレーニング前後のウォーミングアップとクールダウンの意義、方法を理解する。
- ・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則を理解する。
- ・技術トレーニングの効果を高めるための基本原則を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここでの理論をあてはめる作業を望む。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、各時間のリアクションペーパーの内容40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

管理 ID：
1804321
授業コード：
M1620

ECN1001A

スポーツビジネス論 I 【2017年度以前入学生対象】

井上 尊寛

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4年次/2単位

曜日・時限：木・2

旧うか科目名：スポーツビジネス論 [2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826666
授業コード：M1750

スポーツビジネスにおける現状と現代的な課題について検討するとともに、幅広い領域に拡大しつつあるスポーツビジネスのあり方について、国内外の文献および討議、さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにしていく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展と スポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、 文化の産業化
2	スポーツマーケティングの 考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーシ ョンシップマーケティング
4	マーケティング戦略の 考え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産 業のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満 足
6	スポーツ・イベントの マネジメント 1	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントの マネジメント 2	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントの マネジメント 3	ブランディング
9	スポーツ・イベントの マネジメント 4	フランチャイズ、リーグマネジメ ント、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 1	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 2	スポーツブランドのコーポレートブ ランドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産 業の一般的経営課題 3	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【参考書】

特に設けず、資料などが必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

SOM1001A

生理学 B

高見 京太

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・3

管理 ID：
1809216
授業コード：
M1670

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。本科目では、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べるができる。
- ・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
- ・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本科目と生理学 A とを通して学習することで、身体の高構成要素の基本的な生理学の全般について学習することになる。生理学 B は選択科目であるが、教員免許状取得のための必修科目である。したがって、将来、保健体育の教師として身につけておいてほしい内容は、生理学 A と生理学 B の両方である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習指導要領における生理学の領域について確認する。
2	復習テスト	生理学 A 分野の復習テストによって、理解度を確認する。
3	体性感覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。
4	視覚	眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
5	聴覚	外耳、中耳、内耳の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。
6	平衡感覚	前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。
7	味覚・嗅覚	味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
8	脳の高次機能・記憶・情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
9	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
10	栄養	生命・生活活動維持に必要な栄養素について学習する
11	代謝	栄養素の代謝メカニズムについて学習する。

12	腎機能と尿生成	ネフロン形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

各回ごとに用意された配布資料を各自があらかじめ授業支援システムよりダウンロードし、印刷して持参する。

【参考書】

「トータル人体解剖生理学 原書 9 版」(佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳, 丸善出版, 2014 年)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (95%) : 講義で扱った内容を範囲とする筆記試験 (マークシート (2 点 × 30 問) と論述 (10 点 × 4 問))。

提出物 (5%) : 期限内に提出された課題等の評価。

欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の簡易レポートからは、理解度における大きな個人差が感じられる。授業外での予習・復習、さらには自身の経験や知識と関連づけた簡易レポート作成などを通じて、知識の定着を図りたいと考えている。また、興味・関心の個人差については解消は困難であるが、基礎知識の定着が前提とはなるが、より発展的な理解が進む授業を目指して内容を工夫していく。

SOM1001A

衛生学

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・2

管理 ID：
1804342
授業コード：
M1030**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

衛生学とは、生命をまもり、生涯を通じて健康に過ごすための基礎的・基本的な知識を学ぶ学問領域である。さらに、得た知識を基に実生活で発展的に応用できることを目指す。具体的には、衛生学の基本的な考え方、食品衛生、水や大気などの環境衛生、身の回りの化学物質と健康影響について学ぶ。授業では、実際に起きた事例を挙げて、ディスカッションにより問題点を抽出し、改善のための手立てを考えるようにすることを目指す。この領域のアプローチは、サイエンティフィックな要素、社会的な要素など幅広い視点が必要とすることに留意してほしい。間口は広く、奥行きは広いが、実生活に活かすことができることを最終目標とする。

【到達目標】

個々人の健康の保持増進のため、身の回りの環境の整備や化学物質の管理が重要であることについて理解し、社会人として責任ある実践に結びつけられるようにするとともに、次世代に繋げられるようにすることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて授業を進める。パワーポイントの配付資料は準備するが、適宜記入欄を設けているので、書き込むこと。適宜、双方向の授業進行を行うので、自分の考え方を述べられるよう心がけてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	衛生学について全体を見渡す。
2	衛生の考え方	衛生学の考え方や衛生学の成り立ちについて歴史的経緯をふまえて概説する。
3	健康情報の見方・考え方	健康情報の危うさについて概説する。
4	食品衛生・細菌性食中毒	食中毒の概要及び細菌性食中毒について取り扱う
5	食品衛生・自然毒食中毒	自然毒食中毒について概説する
6	食品衛生・食品添加物	食品添加物について概説する
7	食品の安全性	食品の衛生管理と安全性について概説する
8	水の衛生	水の衛生管理の重要性について考える
9	飲料水の安全性	水道水など飲用に供する水の安全性について詳述する。
10	水質汚濁	水質汚濁による過去の公害について映像等に触れることにより課題を考える。
11	居住環境の安全管理	室内環境などの衛生管理の必要性とかだいについて概説する。
12	大気汚染	大気汚染物質及び健康影響について概説する。

- | | | |
|----|-----------|-----------------------------------|
| 13 | 化学物質の健康影響 | 化学物質による健康影響及び化学物質に対する考え方について詳述する。 |
| 14 | 環境管理の重要性 | 環境管理の重要性についてミクロ及びマクロの視点から考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、学習内容についてレポート提出を求める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % ・ レポート 20 % ・ 平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を取り入れるようにする。

LAW100IA

スポーツ法学 I

森 浩寿

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・1

旧うか科目名：スポーツ法学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義の第一のテーマは、スポーツに関する法的問題を知ることである。スポーツと法律、スポーツと法的問題を結びつけて考えることは、近年とくに注目されている。社会の規範として法律があるように、スポーツにもルールという規範が存在する。本講義の第二のテーマは、さまざまなスポーツ・ルール（特に規約類）について考えることである。それにより、選手や指導者の活動環境が良くなることが期待される。

【到達目標】

さまざまなスポーツレベルに存在する法的問題を知り、解決策を述べることができる。

スポーツ紛争の解決手段を分類し、違いを説明することができる。スポーツ指導者の負う法的責任について正しい知識を身に付け、果たすべき注意義務について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ界の規約・ルールと関係する法規（条約・法律・憲章ほか）との関係について検討し、ルールのあり方について議論する。

スポーツビジネスをめぐる法的問題を理解する。

スポーツ活動中の事故をめぐる指導者の法的責任について正しい知識を習得し、指導者に求められている注意義務を理解する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、テキスト、評価について
2	スポーツ法とスポーツ法学	スポーツ関係法規、スポーツ法学の対象
3	スポーツ団体の性格	団体の法人格、規約策定、部分社会論
4	スポーツ・ルールの機能	規約・ルールの意義、内容、処分
5	スポーツにおける機会均等	スポーツにおける男女平等、障害者スポーツおよび国籍をめぐる法的諸問題
6	ドーピング問題	アンチ・ドーピング対策の歴史と現在 (条約、規程)、違反と処分
7	企業スポーツの法的諸問題	企業スポーツの誕生・発展・衰退・選手の身分保障、移籍規定
8	プロスポーツの選手契約 (1)	プロ野球の選手契約 (入団・移籍・引退)、野球協約、プロサッカー選手契約規定
9	プロスポーツの選手契約 (2)	サッカー Jリーグの選手契約 (入団・移籍・引退)、野球協約、プロサッカー選手契約規定
10	プロスポーツの選手契約 (3)	大相撲、バスケット bj リーグ、野球独立リーグなどの選手契約
11	スポーツビジネス	契約、各種権利、スポンサーシップ、放送権、命名権ほか

12	スポーツ事故の法的責任	指導者の法的責任 (民事・刑事)
13	指導者の注意義務	安全配慮義務の構造、具体的注意義務
14	スポーツ紛争の解決手段	裁判、裁判外紛争解決 (仲裁・調停)、スポーツ仲裁

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から、各種メディアを通じて、スポーツ関連ニュースに関心を持つ。

第 1 回：シラバスの理解

第 2 回：前回の復習

第 3 回：前回の復習

第 4 回：前回の復習

第 5 回：前回の復習

第 6 回：前回の復習

第 7 回：前回の復習

第 8 回：前回の復習

第 9 回：前回の復習

第 10 回：前回の復習

第 11 回：前回の復習

第 12 回：前回の復習

第 13 回：前回の復習

第 14 回：前回の復習

【テキスト (教科書)】

使用しない

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 (20%) … 授業実時数の 2 / 3 以上の出席が成績評価の対象条件です。数回の実施を予定している小レポートの内容を評価に加えます (最大 20%)。

試験・レポート (80%) … 与えられた質問に対して、決められた時間でまとめることが、評価の対象です (最大 80%)。日本語力、文章作成力も問われます。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、意見交換等の双方向の授業を目指す。

SOM1001A

機能解剖学 B

加藤 基

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機能解剖学 B では、動脈・静脈・リンパ管といった脈管系と脳・脊髄・末梢神経といった神経系について学ぶ。これらの器官はスポーツ領域で学習する機能解剖学においては応用的な分野と考えられることがあるが、スポーツ傷害や運動制御や運動学習について正確に理解するためには、十分に学習しておくことが必要である。本授業では、スポーツ傷害の理解および運動制御、運動学習に関わる脈管系、神経系を学び、傷害評価の新たな視点と運動習得の可能性を見出すことを目標とする。

【到達目標】

- ・主要な血管の名称と走行を理解する
- ・リンパ系の構造と機能を理解する
- ・脳の構造と機能局在を理解する
- ・末梢神経系の名称と走行、機能を理解する。
- ・運動制御に関わる神経系の構造と機能を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主要な構造について授業内で概説し、作画・工作や触察や実験によって体感を持ちながら学習をする。

より詳細な部分については宿題・レポート課題などへの取り組みによって獲得することを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方
2	脈管系（心臓、頸部・頭部、その他体幹）	脈管系の全体像、神経系の全体像 心臓の構造と心臓を起点とする脈管の走行、頸部・頭部の脈管の走行と機能、その他体幹における脈管
3	脈管系（上肢）	肩・上腕・肘の血管系、前腕・手の血管系
4	脈管系（下肢）	股関節・大腿・膝の血管系、下腿・足の血管系
5	リンパ系	リンパ系の機能と走行
6	神経系（脳）	脳の機能と機能局在
7	神経系（末梢神経）	脳神経、自律神経、体性神経
8	神経系（自律神経）	走行と機能
9	神経系（上肢）	上肢の末梢神経の走行と機能
10	神経系（下肢）	下肢の末梢神経の走行と機能
11	神経系（反射）	腱反射、筋緊張の制御
12	神経系（運動制御）	小脳、錐体路系、錐体外路系
13	神経系（前庭）	前庭による運動の調整
14	脈管系と神経系	全体のまとめ、関連するスポーツ傷害、運動習得への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で復習用のプリントを配布する

【テキスト（教科書）】

授業資料は授業支援システムを使用する。

【参考書】

ジョン H. マーティン (著), 伊藤 和夫 (翻訳) : マーティン カラー神経解剖学—テキストとアトラス. 西村書店 (2015/11/1)

坂井建雄: フロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系. 医学書院 (2016/12)

【成績評価の方法と基準】

授業への参加・小テスト (50%), 試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初年度のためない

【その他の重要事項】

触察実技のために他者に触れる、触れられることがある。支障がある場合は教員に申し出てほしい。

管理 ID : 1826291
授業コード : M1800

HSS200IA

スポーツ栄養学

長谷川 祐子

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、体育教師や運動指導員になった際、対象者に対し、食事・栄養に関する科学的根拠に基づいたアドバイスが出来るようになることを目的に、栄養学の知識を深め、簡単な栄養診断を体験します。

【到達目標】

《栄養学基礎》 主要な栄養素の名前と特性、栄養素/食品/料理の関係性、望ましい食事の基本構成、栄養アセスメントの方法等について説明できる。
《栄養ケアマネジメント》 1年間の期分け、1日の練習、試合前後といった、スケジュールやタイミングを考慮した食事法を理解する。また栄養アセスメント結果に基づいた食事のアドバイスが行える。
《頻発する課題対策》 減量、増量、貧血予防、水分補給など、頻発する栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。
《特定の対象者の課題対策》 女性、遠征時など、特定の対象者・環境で発生しやすい栄養管理上の課題とその対応策について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業は講義形式で行い、テーマによって適宜演習を挟みます。
・講義はパワーポイント主体で進めます。図表は教科書を参照します。
・演習時に計算が必要になる場合があります。電卓は毎回持参してください。
・理解度の確認と復習のためは毎回、前回講義に関する 10 問程度の小テストを行います（リアクションペーパー兼用）。
・自分が食べたものについて、口頭で簡単に説明していただくことがあります。日頃から、自分が何を食べているか意識してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

前期

回数	テーマ	内容
1	ガイダンスと前提知識 《栄養は車にたとえられる》	・スポーツ栄養学の必要性、授業の進め方、受講生に求められることを理解する。 ・栄養素の分類と名前を知る。 【宿題】 行動記録、食事のセルフチェックシートの記入
2	エネルギー供給機構と競技分類 《エンジンと車種、必要なガソリンの量》	エネルギー供給機構とそれに基づいた競技分類、エネルギー消費量の内訳、身体活動レベルについて理解する。 【演習】 身体組成と生活時間調査に基づいたエネルギー必要量推定、食事の量のチェック（体重変化）、食事のバランスのチェック
3	エネルギーと女性アスリートの3主徴、RED-S 《ガソリンの給油》	女性アスリートが気をつけたい3主徴とその対応策について理解する。その根本原因であり、男女問わず問題となるRED-Sについて理解する 【演習】 利用可能エネルギーの計算と栄養診断、FATチェックシート
4	体格とたんぱく質 《走りを支える車体》	主に筋たんぱく質合成の視点から、たんぱく質の適切な摂取法を理解する。 ・たんぱく質が含まれているもの（食品・料理）と、栄養素が体内に入る経路（消化と吸収）について知る。 【演習】 たんぱく質目標摂取量の推定 減量・増量の方法について理解する。 【演習】 減量計画の作成
5	増量/減量 《車体の改造》	・エネルギー産生栄養素の種類、働きおよび多く含まれる食品について理解する。 ・脂質、炭水化物が含まれているもの（食品・料理）と、栄養素が体内に入る経路（消化と吸収）について知る。 【演習】 脂質および炭水化物目標摂取量の推定
6	エネルギー産生栄養素 《ガソリンの種類》	・リカバリーについて理解する。 ・試合前後の食事法について理解する。 ・免疫と栄養について理解する。 【演習】 栄養補給のスケジュール
7	リカバリーと試合前後の食事 《走行後の手入れ》	

8	パフォーマンスとビタミン 《少量でも重要な潤滑油やワックス》	主にパフォーマンスの視点から、補酵素となるビタミンの種類、働き、過剰症と欠乏症、および多く含まれる食品について理解する。 ・ビタミンが多く含まれる食品について理解する。
9	体格とミネラル 《走りを支える部品》	主に骨、血液の代謝の視点から、それらの構成成分となるミネラルの適切な摂取法を理解する。 ・ミネラルが多く含まれる食品について理解する。 ・骨代謝について理解する。
10	水分補給と暑熱環境 《車体を冷やすラジエーター》	体内における水の働きと、効果的な水分補給法について理解する。 【演習】 飲料レシピの作成
11	貧血と栄養 《起きやすい故障》	・スポーツ貧血の機序や対応策について理解する。
12	栄養ケア・マネジメントと栄養アセスメント 《車検とメンテナンス計画》	・栄養ケア・マネジメントの流れを知る。 ・栄養状態をアセスメントする各種の手法を知る。 【演習】 栄養アセスメント問診票の体験（EAT-26、食事バランスガイド遵守スコア等）
13	食事とサプリメント 《補強のオプション》	・1日の食事の配分について考える ・サプリメントに対する心構えと、よく知られている機能性成分について理解する。 【演習】 弁当箱ダイエット法、みんなで作る食品マップ
14	期分け、特殊環境と食事 《状況ごとのメンテナンス計画》	・期分けと栄養について理解する。 ・遠征時に注意すべきことについてチェックリストを用いて確認する。 ・トピックスとして、高所における栄養について説明する。 ・講義全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【予習】

教科書や事前配布プリントの関連部分を読了する。

【復習】

教科書、参考書による復習、ノート整理、演習が授業内に終わらなかった場合はその補充

【宿題】

1日分の行動記録調査、食事のセルフチェックシートの記入
第1回に記録用紙配布 → 第3回に各自記入して持参、演習に使用

【テキスト（教科書）】

・「市民からアスリートまでのスポーツ栄養学 第2版」（八千代出版）¥2,700

【参考書】

・「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」（市村出版）
・「新版 コンディショニングのスポーツ栄養学」（市村出版）
・「アスリートのための栄養・食事ガイド」（第一出版）
・「アスリートの栄養アセスメント」（第一出版）
・「スポーツと栄養（公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト第9巻）」（日本体育協会）
・「日本人の食事摂取基準 2015年度版」(<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html>)
・「日本食品標準成分表 2015」(http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365420.htm)
・「食品成分データベース」(<http://fooddb.mext.go.jp/>)
・「改訂版『身体活動のメッツ (MET s) 表』」(<http://www0.nih.go.jp/eiken/programs/2011mets.pdf>)

【成績評価の方法と基準】

評価配分： 授業への積極性（小テスト提出、授業中の発言態度）(20%)、課題 (30%)、筆記試験 (50%)
原則として、欠席が6回以上あった者は成績評価の対象外とします。公欠は欠席が6回以上以上あった場合に考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

・各自が課題に時間をかけられるよう、できるだけ試験と重ならない時期を提出期限とします。
・声が聞き取りにくいようなので、マイクの使い方を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

・出席確認にwebを利用したいため（方法未定）、スマートフォン等のモバイル通信機器を持参してください。ただし紙の出席票でも対応します。
・小テスト、資料配布、課題提出に授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・授業の展開によって、若干の変更があり得ます。
・欠席した場合は、授業支援システムにある該当回の資料を見ておく。課題提出等の指示がある場合があります。
・授業中は他の学生の受講の妨げになるような私語は慎んでください。目に余る場合は席の移動または退出を命じます。
・映写中のパワーポイント資料の撮影は禁じます。代わりに授業支援システムにてPDF形式で同等のものを提供します。

HSS200IA

スポーツバイオメカニクス

工藤 裕仁

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用であることを理解する。そしてその手法としてのキネマティクスとキネティクスにおける基礎を学習する。

管理 ID：
1813398
授業コード：
M1110

【到達目標】

スポーツ動作の解析に用いる力学的基礎を理解し、簡単な関節モーメントの算出が可能になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクスで用いる基礎的な力学について学び、キネマティクスおよびキネティクスにおける解析について概説する。また、キネマティクスおよびキネティクス以外のバイオメカニクスの手法についてもその概要と分析方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、授業の流れを概説	ガイダンス、授業の流れを概説
2	力学の基礎	力とスカラー量・ベクトル量
3	力学の基礎	力と運動
4	力学の基礎	変位・速度・加速度
5	力学の基礎	並進運動の力学
6	力学の基礎	回転運動の力学
7	キネマティクスの分析	分析方法の基礎
8	キネマティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
9	キネティクスの分析	分析方法の基礎
10	キネティクスの分析	分析方法の応用としての事例検討
11	筋電図	分析方法の基礎
12	筋電図	分析方法の応用としての事例検討
13	バイオメカニクスの研究例	研究デザインからみた事例検討
14	バイオメカニクスの研究例	研究の実践としての事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「スポーツバイオメカニクス」深代千之他編著 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

力学の基礎においては、文系出身者にもわかるよう比較的簡単な具体例も用いる。

【その他の重要事項】

ただし、授業の展開によって若干の変更があり得る

HSS2001A

体力測定・評価論

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・1

旧うか科目名：体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し、習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】

・各種測定の方法、目的、意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考案方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要なフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようになるための知識や技術を理解する。そして後半は、アスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には傷害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）	体力測定の活用法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に5段階または10段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法について講義する。

5	介護予防に関する体力測定とその評価	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健康高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。
6	身体組成の測定	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取、姿勢・アライメントの評価	HOPS、SOAP ノートの作成、姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋萎縮・関節弛緩性の評価	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査	徒手筋力検査の目的と意義を理解し、具体的な方法については実技を交えながら、講義する。
13	整形外科的理学検査 1	手・肘・肩関節、頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	整形外科的理学検査 2	腰部・股・膝・足関節のスペシャルテストについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習をしておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
山本利春、測定と評価、ブックハウス HD
C Starkey, J Ryan 著、中里伸也 監訳、スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック、NAP
宮永豊他、アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学、文光堂
J. Gross, J. Fetto, E. Rosen 著 石川齊、嶋田智明 監訳、筋骨格系検査法 [第2版]、医歯薬出版株式会社、2005
STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた、医歯薬出版株式会社、2003
他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に実施する期末試験（80%）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験。

提出物（20%）：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。
履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられている。学生の主体的な取り組みを期待したい。

管理 ID：
1813404
授業コード：
M1770

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

HSS200IA

体力測定・評価論

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月・1

旧うか科目名：体力測定・評価 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827290
授業コード：M1770

スポーツや健康運動の指導者、またアスレティックトレーナーに必要な広義の体力評価について、その意義と考え方を学んだ上で、評価に必要な検査内容や方法、さらに動作の観察・分析の目的と意義を理解し、習得することを目的とする。講義全体を通して、各評価項目から総合的な問題点の抽出までのプロセスを学ぶ。

【到達目標】

・各種測定の方法、目的、方法の意義や理解、測定に基づいた評価方法について理解する。
・各年代、体力レベルなど対象者に適した測定・評価方法の選択や考案方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、体力とは何かを理解し、健康運動指導の際に必要なフィールドテストを様々な年代に対して実践できるようになるための知識や技術を理解する。そして後半は、アスレティックトレーナーにとって必要な評価や検査・測定方法を講義する。基本的には傷害のないスポーツ選手の動作を見る際に基本となる形態および静的・動的な評価の意義と方法の理解が講義の中心となる。

なお、本授業は講義科目であるが、実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）こともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体力と運動能力の測定法（1）【担当：高見】	体力測定の活用方法を理解し、標準得点を用いた評価方法を習得して、健康づくりに生かせる結果の返却の手順について講義する。
2	体力と運動能力の測定法（2）【担当：高見】	適正な体力測定の条件を理解し、加齢に伴う変化および性差を説明する。また、全身持久力、柔軟性、敏捷性、平衡性の測定および評価の方法について講義する。
3	フィールドテスト【担当：高見】	フィールドテストの正しい方法、安全性への配慮、評価のあり方について理解し、性・年齢別に5段階または10段階に評価できる方法について講義する。
4	高齢者の体力測定【担当：高見】	老化（加齢）に伴う全身持久力の低下の原因、低下パターン、低下を抑制する運動トレーニングの意義を解説し、最大酸素摂取量の測定（直接法と間接法）における測定補助と測定値の評価の方法について講義する。
5	介護予防に関する体力測定とその評価【担当：高見】	介護予防に向けた体力や生活機能の保持の重要性に関して解説するとともに、一般の健康高齢者、要支援や軽度の要介護高齢者（二次予防対象者：従来の呼称は特定高齢者）を正しく把握する手法について講義する。

6	身体組成の測定【担当：高見】	筋肉、骨、脂肪組織といった身体組成の概念、それらの測定方法と限界、測定方法の違いによる結果の差異、測定結果の解釈（データ分析の方法）について講義する。
7	身体活動量の定量【担当：高見】	エネルギー代謝、エネルギー必要量、エネルギー消費量とその測定法と、それらの違いについて理解するとともに、身体活動量について講義する。
8	情報の聴取、姿勢・アライメントの評価【担当：泉】	HOPS、SOAP ノートの作成、姿勢・アライメント計測の目的と意義および具体的な方法について講義する。
9	筋萎縮・関節弛緩性の評価【担当：泉】	筋萎縮および関節弛緩性の計測の目的と意義および計測方法について講義する。
10	関節可動域測定【担当：泉】	関節可動域測定の目的と意義を講義により理解する。
11	筋タイトネス評価【担当：泉】	筋タイトネス評価の目的と意義を講義により、さらに筋タイトネス評価の方法について実技を交えつつ、講義する。
12	徒手筋力検査【担当：泉】	徒手筋力検査の目的と意義を理解し、具体的な方法については実技を交えながら、講義する。
13	整形外科的理学検査1【担当：泉】	手・肘・肩関節、頸部のスペシャルテストについて講義する。
14	整形外科的理学検査2【担当：泉】	腰部・股・膝・足関節のスペシャルテストについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学および生理学・運動生理学の知識が必須となるため、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト5 検査・測定と評価
山本利春、測定と評価、ブックハウス HD
C Starkey, J Ryan 著、中里伸也 監訳、スポーツ外傷・傷害評価ハンドブック、NAP
宮永豊他、アスレティックトレーナーのためのスポーツ医学、文光堂
J. Gross, J. Fetto, E. Rosen 著 石川齊、嶋田智明 監訳、筋骨格系検査法 [第2版]、医歯薬出版株式会社、2005
STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた、医歯薬出版株式会社、2003
他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に実施する期末試験（80%）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験。
提出物（20%）：期限内に提出された課題等の評価。

【学生の意見等からの気づき】

実際に測定方法を自身の手で行う（体験する）ことにより、理解が進むようである。本年度もこの部分にはできる限り取り組んでいきたい。履修者が多いために、体験（実習）場面では時間がかかる場面がみられている。学生の主体的な取り組みを期待したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

SOM2001A

学校保健

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校保健は、児童生徒及び学生等が一日の約 3 分の 1 を過ごす学校において、健康の保持増進を目指すとともに、生涯を通じて健康で過ごすための知識を提供し実践に活かせるよう働きかける学問領域である。具体的には保健管理、保健教育と組織活動にまたがっている。言葉を換えて言えば、対人管理と対物管理及び組織活動である。これらの構造について学んだ上で、どのように学校環境を維持すべきか、またどのような指導を行う必要があるかを理解できるようにする。学校保健の主体とは誰なのかを認識し、そのためにどのような取組が必要なのかを自ら考えられるようにすることが最終目標である。

【到達目標】

学校保健の構造について理解し、学校保健がどのような法律によって裏付けされているのかを理解できるようにする。また、学校保健を支える関係者の存在について認識し、役割が理解できるようにする。保健管理の柱となる健康診断や健康観察の重要性、心の健康問題の背景を理解することで、心身の健康課題の解決に繋がられるようにする。一方の学習環境については、学習能率の向上や情操の陶冶にとっても重要であることが理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用し、双方向で理解の程度に合わせて進めることとする。必要に応じ、課題解決のためのディスカッションを行う。学校環境衛生については内容に応じ、実習を行う場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	学校保健を見渡す。
2	学校保健の構造	保健管理、保健教育、組織活動について概説する。
3	法律と行政	学校保健安全法、学校保健行政について概説する。
4	学校保健関係職員	学校保健に関わる職種について概説する。
5	学校三師	学校三師について個別に詳述する。
6	健康観察と保健指導	健康観察の意義について概説する。
7	健康診断	健康診断の重要性について概説する。
8	学校における感染症	学校で対応すべき感染症について詳述する。
9	組織活動の意義	学校保健委員会等、組織活動の重要性について詳述する。
10	学校環境衛生基準	学校環境衛生活動について詳述する。
11	保健教育・健康教育	学校における保健教育の構造について概説する。
12	喫煙、飲酒防止教育	喫煙、飲酒防止教育の重要性について詳述する。
13	薬物乱用防止教育	薬物乱用防止教育の重要性について詳述する。
14	性教育	性教育の進め方について詳述する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

学校保健マニュアル（南山堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れるようにする。

管理 ID：
1804344
授業コード：
M1740

SOM2001A

予防医学概論

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

旧うか科目名：スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】

スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、本講義は、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健常者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究的意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。

7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	内科的障害と予防	スポーツによる内科的な急性・慢性の障害について学ぶ。突然死、熱中症、貧血、オーバートレーニング症候群などを取り上げ、予防、治療について紹介する。
11	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。
12	外科的障害 上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害 下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害 脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

【参考書】

スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、2004年）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100 %）

理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

SOM2001A

公衆衛生学

鬼頭 英明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公衆衛生学は、疾病予防及び健康の保持増進の方策を取り扱う学問領域であり、健康問題を集団として取り扱うことが重要な視点となる。具体的なアプローチは、地域や国などの単位で統計的に健康問題を捉えるとともに、年齢、性や職業などの視点でも理解を深め、集団が抱える課題を追求していく。また、疾病や健康の要因について、どのように絞っていくかを、科学的な根拠に基づいて明らかにすることの重要性について理解できるようにする。様々な健康情報が飛び交う中で、適切な意思決定や行動選択がどのようになされるべきかを学ぶ。社会人として、生涯を通じた健康の保持増進のためにどう考え、実践すべきかを学ぶことを究極の目標とする。

【到達目標】

疾病予防のためにどのような方策が重要であるか、行政など社会が果たす役割とは何かについて理解できるようにする。さらに、生涯を通じての健康的なライフスタイル形成のためにできることは何かについて、自分自身ばかりでなく社会に対しても働きかけることができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使用して進める。双方向の授業進行となることに留意。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概論	公衆衛生学の全体を見渡す
2	保健統計／その意義	保健統計が示す国民の姿から、その意義を捉える。
3	保健統計／人口統計	人口静態統計及び人口動態統計について詳述する。
4	保健統計／死因統計	死因別死亡率や悪性新生物による死亡率について概説する。
5	生命表の意義	生命表、平均寿命及び平均余命について概説する。
6	疫学概論	疫学とはどのような学問なのかについて概説する。
7	疫学の歴史	疫学的なアプローチについて過去の事例を紹介し、その意義を詳述する。
8	コホート研究	コホート研究について詳述する。
9	症例対照研究	症例対照研究の意義について詳述する。
10	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念、および一次予防の重要性について概説する。
11	生活習慣病	生活習慣病の実態及び課題について概説する。
12	感染症と対策	感染症の今日的課題について概説する。
13	母子保健	母子保健の重要性と課題について概説する。
14	労働衛生	労働衛生の意義、及び題について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に出すレポート課題を提出する。

【テキスト（教科書）】

なし（授業時にパワーポイント資料等を配付する）

【参考書】

国民衛生の動向 2015 / 2016（厚生労働統計協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、レポート課題 20 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を積極的に取り入れる。

管理 ID：
1804343
授業コード：
M1700

HSS100IA

運動療法総論

林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動を行うことによりどのような生体反応が得られるのかを理解し、運動療法の理論的背景と実施方法について学ぶ。

【到達目標】

運動療法の基礎的知識と基本的技術を獲得する。特に筋骨格系の障害に対する測定法と対処法を中心にその概念を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

運動療法の基本的原理と適応について学ぶ。運動療法の効果について学ぶ。運動療法のリスクについて学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	運動療法とは	資料を通して運動療法の歴史・定義と目的・運動療法の対象などを解説する
2	運動が生体に及ぼす影響	運動が筋骨格系に及ぼす影響を解説する
3	運動が生体に及ぼす影響	運動が循環器系に及ぼす影響を解説する
4	運動療法の効果判定の仕方（筋力）	筋力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
5	運動療法の効果判定の仕方（筋力持久力）	筋持久力の変化を測定する方法を解説し実際に行う
6	運動療法の効果判定の仕方（柔軟性）	柔軟性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
7	運動療法の効果判定の仕方（協調性）	協調性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
8	運動療法の効果判定の仕方（全身持久性）	全身持久性の変化を測定する方法を解説し実際に行う
9	筋力強化のための運動療法	筋力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
10	筋持久力強化のための運動療法	筋持久力強化のための運動方法を解説し実際に体験する
11	柔軟性のための運動療法	柔軟性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
12	協調性のための運動療法	協調性を増加させるための運動方法を解説し実際に体験する
13	全身持久性強化のための運動療法	全身持久性を強化するための運動方法を解説し実際に体験する
14	運動療法総論のまとめと試験	知識の確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を予習、復習する

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

日本スポーツリハビリテーション学会 JSSR 認定トレーナーテキスト/JSSR 認定トレーナーテキスト編集委員会

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：毎回の授業へ取り組む姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する

知識確認テスト（40％）：学期の中間に行う

期末試験（40％）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

実例を示し、実技を適宜取り入れて理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

講義の途中に実技を行うことがあるため運動ができる服装で受講すること。また角度計、メジャーなどの使用が必要となる時には事前に指示する。

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：機能解剖学が履修済みであること。運動療法は、解剖学、運動学、機能解剖学を理解していないと修得が困難である。授業ではこれらの科目で取り扱われた骨名、筋肉名、関節名、運動方向など基礎的知識が備わっているものとして運動療法学の概論を学ぶ。

管理 ID：
1813406
授業コード：
M2010

HSS100IA

スポーツコンディショニング論 I

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次/2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツと関連したコンディショニングおよびスポーツ医学の基本的事項について学ぶ。傷害予防、疲労回復を目的としたコンディショニング方法について、解剖学や運動学を理解し、テーピング、ストレッチ等の具体的なコンディショニングの手法を教え、知識を習得することを目的とする。また、スポーツ活動での実践が可能となるように、スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的な病気について理解した上で、アスリートの健康管理や傷害対策について考える講義内容である。

【到達目標】

1. コンディショニングおよびコンディショニングという言葉の意味とその内容について理解すること。
2. スポーツ活動中に生じる外傷・障害や内科的疾患およびその救急処置について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（コンディショニング科学総論）	本講義全体のガイダンスとして今後の予定を含め、コンディショニング（科学）についての総論に関する講義を行う。
2	アスリートの健康管理	日本におけるアスリートの健康管理体制およびメディカルチェックについての講義を行う。
3	アスリートの外傷・障害と対策（1）	アスリートの外傷・障害と対策として、外傷・障害の基礎知識を整理したうえで、下肢の外傷・障害についての講義を行う。
4	アスリートの外傷・障害と対策（2）	アスリートの外傷・障害と対策として、体幹の外傷・障害についての講義を行う。
5	アスリートの外傷・障害と対策（3）	アスリートの外傷・障害と対策として、頭頸部・上肢の外傷・障害についての講義を行う。
6	アスリートの内科的障害と対策	アスリートの内科的障害と対策を急性障害（突然死・意識障害・運動誘発性喘息など）、慢性障害（貧血・オーバートレーニングなど）、その他の障害（血尿・無月経など）に分け、講義を行う。
7	コンディショニングの手法（1）	コンディショニングの手法として、ストレッチの背景・現状・実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。

8	コンディショニングの手法（2）	コンディショニングの手法として、テーピングの背景と実際の方法についての講義を実習を交えながら行う。
9	コンディショニングの手法（3）	コンディショニングの手法として、テーピングおよびアイシングの理論と方法についての講義を実習を交えながら行う。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	アスレティックリハビリテーションとは何かから講義を始め、実際のリハビリテーション（トレーニング）の考え方についての講義を行う。
11	特殊環境下での対応	特殊環境下での対応として、暑熱対策・寒冷対策・高地対策・時差対策等の講義を行う。
12	スポーツと栄養	コンディショニングに必要なスポーツと栄養についての基本的事項を概説する。
13	アンチドーピング	アンチドーピングの基礎として、歴史的背景から世界および日本のアンチドーピング機構とその対応について概説する。
14	試験	筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に使用しないが、講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 日本体育協会編、公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目 I・III
2. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
3. 日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
4. 初山日出樹総監修、臨床スポーツ医学、医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

「コンディショニング」というと漠然としたイメージしか持たれていないようである。実際の現場での体験や具体的な方法を紹介しながら、コンディショニングの重要性を理解し身近なものとして捉えられるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

HSS100IA

アスレティックトレーナー概論

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アスレティックトレーナーの役割とその業務を理解することが第一の目的である。日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。AT の組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなど様々な分野の専門家といかに関わり合いを持って選手をサポートしていくかなど AT が現場で活動する上で必要な知識を養う。さらに一社会人として活動していくうえで、社会的秩序や倫理観を身につける。

【到達目標】

「アスレティックトレーナー」という仕事・役割を、欧米・アジアと日本、各競技、各種資格や各種スポーツ現場における役割などによる違いを通して理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式が中心となるが、パワーポイントや VTR 等の画像資料を用いた実際の事例を用いながら、個々の意見発表の場をできる限り設けていきたい。講義の後半部分では、外部講師による特別講演も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	AT の歴史と現状	日本における AT の歴史および現状、諸外国における AT に相当する制度の現状について講義する。
2	AT の任務と役割	AT の任務と役割について、日本における歴史と現状を踏まえて講義する。
3	AT の業務	AT の具体的な業務について、できるだけ多くの事例を示しながら紹介していく。
4	AT の活動 1	AT の実際の活動の具体例として合宿・遠征を取り上げ、各競技種目による業務の違いなども明らかにしていく。
5	AT の活動 2	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に個人競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
6	AT の活動 3	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特に球技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。
7	AT の活動 4（外部講師の招聘）	AT の実際の活動として競技別に取り上げる。特にサッカー競技における AT の具体的な活動を事例を交えながら紹介する。

8	医科学スタッフの構成と役割 1	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツに関わる医科学スタッフとその役割について概説する。
9	医科学スタッフの構成と役割 2	医科学スタッフの構成と役割として、スポーツドクターとの連携・協力について、スポーツドクターの役割を示しながら概説する。
10	医科学スタッフの構成と役割 3	医科学スタッフの構成と役割として、コーチングスタッフとの連携・協力について、具体的な事例から役割の違い等を明らかにしながら概説する。
11	AT の組織と運営 1（外部講師の招聘）	AT の組織と運営について、トレーナーチームとその業務。活動現場の運営計画、安全対策などを講義する。
12	AT の組織と運営 2	AT の組織と運営について、競技者のコンディショニングに関するデータの管理方法およびその実際について概説する。
13	AT と倫理 1	AT と倫理として、AT の社会的な立場、AT を取り巻く環境について考える。
14	AT と倫理 2	AT と倫理として、米国アスレティックトレーナー協会の倫理要綱等を参考にしながら、医療関係法規、法的諸問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2~14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

・日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 1 アスレティックトレーナーの役割
・各回の授業内容は、授業支援システムから各自ダウンロードすることとする。

【参考書】

1. 平井千貴，八田倫子，鈴木岳訳，アスレティックトレーニング，ブックハウス HD
2. トレーニングジャーナル（月刊誌），ブックハウス HD
3. コーチングクリニック（月刊誌），ベースボールマガジン社
4. スポーツメディスン（月刊誌），ブックハウス HD

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）およびレポート（60%）により総合的に評価する。
平常点：各回の出席と授業における発言やリアクションペーパーへの記述を考慮する。
レポート：期間中に与えたレポート課題を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、「アスレティックトレーナー」という仕事に対する漠然とした理解から、具体的な「仕事」として理解できる機会として機能しているようである。

アスレティックトレーナーを目指す目指さないに関わらず、スポーツに関わる必須の役割であるこの仕事を理解するためのきっかけの一つとして機能するような授業を心掛けたい。アスレティックトレーナーを目指しているものはもちろんであるが、スポーツを仕事にしたいと考えてはいるものの、アスレティックトレーナー以外の役割を目指したいと考えている人にこそ、受講してもらいたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

管理 ID：
1813408
授業コード：
M2040

HSS100IA

Health and Exercise Sciences

笹井 浩行

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College students face a number of health hazards such as unhealthy dietary pattern, lack of physical activity, poor sleep quality, excessive alcohol consumption, cigarette smoking, and inappropriate sexual behaviors. This course discusses basic knowledge, understanding, attitudes and skills for adopting healthy behaviors. In addition, student will learn how to choose reliable health-related information provided from mass media, and interpret them properly.

【到達目標】

The students will be expected to:

1. Understand the concept/definition of health.
2. Learn college-age determinants of health.
3. Gain lifelong foundations of skills and attitudes for maintaining/enhancing health.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures, homework assignments, and the final presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

Fall semester

回	テーマ	内容
1	Orientation and definition of health	Overview of this course, grading policy, and definition of health by the WHO.
2	Health hazards in college life	Overview of college-age health hazards
3	Healthy eating	Dietary reference intake, macro- and micro nutrients, PFC balance, and the balance guide
4	Exercise and physical activity	Definitions of exercise and physical activity, total energy expenditure and its components, and metabolic equivalent
5	Sedentary behavior	Definition of sedentary behavior, detrimental association of sedentary behavior with health, and sedentary-reducing interventions
6	Weight management	Health risks of overweight and obesity, energy restriction, weight loss and maintenance programs
7	Sleep	Optimal sleep duration, measurements of sleep patterns, sleep quality and health, and tips for good sleep

8	Mental health	Mental disorders, suicide prevention, and stress management
9	Sexual and maternal health	Sex-transmitted diseases/infections, and contraceptives, Stages of pregnancy, pregnancy complications, gestational weight gain, abnormal labor, and postpartum issues
10	Alcohol intake	Alcohol intake and health, optimal amount of alcohol intake, and chugging avoidance
11	Tobacco smoking	Smoking and health, types of smoking, secondhand smoking, and smoking policy
12	Drug abuse	Types of illegal drugs, risky drugs, abuse, and dependence
13	Health literacy	Interpretation of health-related information, and web search tips
14	Final student presentation	Students will have a presentation session regarding an original research article related to human health.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignments will be provided a few times per semester.

【テキスト（教科書）】

None. Handouts will be distributed to students as needed.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

20% attendance, 40% homework assignment, and 40% final presentation.

【学生の意見等からの気づき】

Class contents can be modified according to student's comments and level of understanding.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

An active contribution to the class is greatly encouraged.

HSS2001A

リハビリテーション概論**昇 寛**

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・1

管理 ID：
1813407
授業コード：
M2020**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

リハビリテーションとは何か、リハビリテーションの分野や提供する技術者を理解する。また障害者の日常生活動作や障害者の道具を実際に体験することで理解を深める。

【到達目標】

リハビリテーションの基本的知識と技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特に医学的リハビリテーションについての理解を深めるために実技を踏まえながら講義を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	リハビリテーション定義、分野、職種	リハビリテーション定義、分野、職種
2	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造	リハビリテーションの適応となる病気と障害構造
3	障害者体験	関節拘縮、筋力低下、視力障害、聴力障害体験
4	車いす杖など使用体験	車いす、松葉杖、盲人用杖体験
5	介助テクニック	車いす介助法、トランスファーテクニック、歩行介助
6	医学的リハビリテーション	理学療法、作業療法、言語聴覚療法
7	物理療法の実習と体験	赤外線・ホットパック
8	物理療法の実習と体験	寒冷療法
9	物理療法の実習と体験	マイクロウェーブ・低周波治療・超音波療法
10	整形外科疾患のリハビリテーション1	整形外科疾患（主に上肢の障害）のリハビリテーション
11	整形外科疾患のリハビリテーション2	整形外科疾患（主に下肢の障害）のリハビリテーション
12	内部障害のリハビリテーション	内部障害のリハビリテーション
13	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーション
14	スポーツ障害のリハビリテーション	スポーツ障害のリハビリテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T・O T・S T・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論

要点整理と用語解説 改訂第2版

編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %・定期試験 60 %で評価（6割以上が合格）、出席日数が不足*している場合には定期試験を受けても採点対象になりません。*原則として全講義に出席してください。やむを得ない理由で休まなければならない場合には事前あるいは事後必ず相談してください。その理由により別課題を課すことで、全講義の 1/3 回まで認めることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

実技をより多く取り入れ理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：運動療法総論を履修済みであることが望ましい。

HSS200IA

健康と疾患**昇 寛**

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：金・2
 旧うか科目名：健康科学Ⅱ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の仕組みと病気について理解する。病気と健康について理解する。

【到達目標】

代表的疾患を理解し健康の指標となる簡便な測定法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

代表的な病気や外傷について講義を行う。また視聴覚教材を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	健康と疾患のすすめか	健康と疾患の授業の概要
3	病気と外傷	病気と外傷（病気とは？ 外傷とは？ 障害とは？）
4	脳血管障害	脳血管障害（脳梗塞とは？ 脳出血とは？）
5	癌	癌（胃癌、大腸癌、肺癌）
6	心疾患	心疾患（心筋梗塞とは？ 心虚血性疾患とは？）
7	内部障害	内部障害（糖尿病とは？ 高脂血症とは？ 動脈硬化とは？）
8	神経筋疾患	神経筋疾患（パーキンソン病とは？ 脊髄小脳変性症とは？）
9	リウマチ	リウマチ（慢性関節リウマチとは？）
10	骨折	骨折（上肢の骨折、下肢の骨折、脊椎の骨折）
11	変形性関節症	変形性関節症（変形性膝関節症とは？ 変形性股関節症とは？）
12	腰痛症	腰痛症（急性・慢性腰痛症とは？ 筋筋膜性腰痛症とは？ 脊椎分離滑り症とは？）
13	肩関節周囲炎	肩関節周囲炎（好発する部位は？ その治療法は？）
14	スポーツ障害	スポーツ障害（筋や腱の障害、捻挫、靭帯損傷）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

P T・O T・S T・ナースを目指す人のためのリハビリテーション
 総論
 要点整理と用語解説 改訂第2版
 編著 椿原彰夫

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 % ・ 定期試験 60 % * 6 割以上で合格

【学生の意見等からの気づき】

専門的科目なので健康に対する基本的知識を習得したものが履修対象となる。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【その他の重要事項】

履修に際しての条件：健康科学を履修済みであること。

管理 ID：1813418
 授業コード：M2230

HSS2001A

スポーツコンディショニング論Ⅱ

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次/2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目的である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上・傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. 「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解すること。
2. 特に競技力向上のためのコンディショニング、傷害予防のためのコンディショニングでは、具体的な方法について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとにリアクションペーパーを提出する。また、座学のみでなく実習も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・コンディショニング総論	ガイダンス、コンディショニングとは何かを学習する。
2	コンディショニングの要素（1）	コンディショニングの要素のうち、身体的因子について学習する。
3	コンディショニングの要素（2）	コンディショニングの要素のうち、環境的因子について学習する。
4	コンディショニングの要素（3）	コンディショニングの要素のうち、心理的因子について学習する。
5	コンディショニングの評価	コンディショニングの評価方法について学習する。
6	トレーニング計画とコンディショニング	トレーニング計画について学習する。
7	障がい者スポーツのコンディショニング	障がい者スポーツのコンディショニングについて学習する。
8	疲労回復を目的としたコンディショニング（スポーツマッサージ）	疲労回復を目的としたコンディショニング方法として、マッサージの歴史、現状を学習するとともに、具体的な方法を体験する。
9	傷害予防を目的としたコンディショニング（テーピング）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、テーピングの具体的な方法を、経験、習得する。
10	傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング1）	傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、下肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。

- | | | |
|----|------------------------------------|---|
| 11 | 傷害予防を目的としたコンディショニング（ストレッチング2） | 傷害予防を目的としたコンディショニング方法として、体幹、上肢のストレッチングの具体的な方法を、経験、習得する。 |
| 12 | パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング（筋力トレーニング） | パフォーマンス向上を目的としたコンディショニング方法として、筋力トレーニングの具体的な方法を経験、習得する。 |
| 13 | ウォーミングアップとクーリングダウン | ウォーミングアップとクーリングダウンについて学習する。 |
| 14 | テスト | 筆記試験を行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング、日本体育協会

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点（授業内レポート） 40%

(2) 期末試験 60%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の2/3に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

講義科目ではあるが、授業の中で「コンディショニング」を体験する機会を設けているので、その部分が好評であった。このような体験を通して、「コンディショニング」を身近なこととして捉え、自身のスポーツ活動にも生かせるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「スポーツコンディショニング論Ⅰ」を履修してから本科目を履修することが望ましい。

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論 I 【2018年度以降入学生対象】

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
 開講時期：通年 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 3 単位
 曜日・時限：
 旧うか科目名：テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID：1809480
 授業コード：
 スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング等を利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1 足のテーピング	アーチのテーピング、母趾のテーピング、踵部のテーピング
4	テーピング各論 2 足関節のテーピング 1	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3 足関節のテーピング 2	足関節捻挫に対するテーピング (オープン・バスケットウィーブ、伸縮テープを併用した方法)
6	テーピング各論 4 足関節のテーピング 3	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5 下腿のテーピング	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6 膝関節のテーピング 1	膝関節前十字靭帯損傷に対するテーピング
9	テーピング各論 7 膝関節のテーピング 2	膝関節内側 (外側) 側副靭帯損傷に対するテーピング
10	テーピング各論 8 大腿部・股関節のテーピング	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験 (足関節捻挫に対する基本テーピング)
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1 (足部、下腿)	足部、下腿のストレッチング
14	ストレッチング各論 2 (大腿)	大腿のストレッチング

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、テキストに目を通しておくこと。

授業で行った実技の復習をすること。

【テキスト (教科書)】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会、2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編、トレーニング指導者テキスト実技編、大修館書店、2011
 坂井建男・松村譲児監訳、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系、医学書院、2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に付けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】

・スポーツコンディショニング論 I を履修済みであることが望ましい。

・秋学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論 II も続けて履修することが望ましい。

・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

HSS200IA

テーピング・コンディショニング指導論Ⅱ 【2018年度以降入学生対象】

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技
 開講時期：通年 | 配当年次/単位：2～4年次 / 3単位
 曜日・時限：
 旧うか科目名：テーピング指導論(実習)[2012年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
2	テーピング各論 1 腰部のテーピング	腰部のテーピング
3	テーピング各論 2 体幹部に対するテーピング	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
4	テーピング各論 3 肩関節のテーピング 1	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方脱臼に対するテーピング
5	テーピング各論 4 肩関節のテーピング 2	投球肩障害に対するテーピング
6	テーピング各論 5 肘関節のテーピング	肘関節内側（外側）側副韌帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
7	テーピング各論 6 手関節・手骨に対するテーピング	手関節捻挫、前腕部回内（回外）制限、母指、四指に対するテーピング
8	ストレッチング各論 1 （股関節周囲）	股関節周囲のストレッチング
9	ストレッチング各論 2 （腰部）	腰部のストレッチング
10	ストレッチング各論 3 （頸肩部）	頸肩部のストレッチング
11	ストレッチング各論 4 （上肢）	上肢のストレッチング
12	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
13	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
14	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと
 授業で行った実技の復習をすること

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング，日本体育協会，2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編，トレーニング指導者テキスト実技編，大修館書店，2011

坂井建男・松村譲児監訳，プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系，医学書院，2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に着けることができるよう、授業内容を模索したい。

【その他の重要事項】

- ・スポーツコンディショニング論Ⅰを履修済みであることが望ましい。
- ・春学期に開講されるテーピング・コンディショニング指導論Ⅱから続けて履修することが望ましい。
- ・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

管理 ID: 1809482
 授業コード:

HSS2001A

テーピング・コンディショニング指導論 【2017年度以前入学生対象】

春日井 有輝

サブタイトル：

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・実技

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 3 単位

曜日・時限：金・1

旧うか科目名：テーピング指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ指導者、アスレティックトレーナーとして必要な外傷・障害予防を目的としたコンディショニング方法について実習を通して学ぶとともに、実際に選手に実施・指導できるようにすることが本指導論の目的である。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害を予防するために必要な手技であるテーピング、ストレッチング、アイシング等を、利用する場面や目的に応じて行えるようになることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期

テーピング、ストレッチングの方法と実際について実習を通して学ぶ。

秋学期

テーピング、ストレッチング、アイシング、ウォーミングアップ、クーリングダウンの方法と実際について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本指導論に対するオリエンテーションを行う
2	テーピング総論	テーピングの目的・効果・有効性・種類と特性・名称について
3	テーピング各論 1	足のテーピング
4	テーピング各論 2	足関節捻挫に対する基本のテーピング
5	テーピング各論 3	足関節捻挫に対するテーピング
6	テーピング各論 4	足関節の底屈制限、背屈制限のテーピング
7	テーピング各論 5	アキレス腱のテーピング、下腿部肉離れに対するテーピング、シンスプリントのテーピング
8	テーピング各論 6	膝関節前十字靭帯損傷に対する
9	テーピング各論 7	膝関節内側（外側）側副靭帯損傷
10	テーピング各論 8	大腿部の肉離れ、股関節のテーピング
11	実技試験	実技試験（足関節捻挫に対する基本テーピング）
12	ストレッチング総論	ストレッチングの目的・基礎知識・種類と特徴・使い分けについて
13	ストレッチング各論 1	足部、下腿のストレッチング（足部、下腿）

14	ストレッチング各論 2	大腿のストレッチング（大腿）
15	オリエンテーション・アイシング	本指導論に対するオリエンテーション アイシングの概論と実践
16	テーピング各論 1	腰部のテーピング
17	テーピング各論 2	腸骨稜打撲、肋軟関節分離に対するテーピング
18	テーピング各論 3	肩鎖関節捻挫、肩関節反復性前方
19	テーピング各論 4	脱臼に対するテーピング
20	テーピング各論 5	肩関節のテーピング 2
21	テーピング各論 6	肘関節内側（外側）側副靭帯損傷、肘関節過伸展損傷に対するテーピング
22	テーピング各論 7	肘関節のテーピング
23	ストレッチング各論 1	股関節周囲のストレッチング（股関節周囲）
24	ストレッチング各論 2	腰背部のストレッチング（腰背部）
25	ストレッチング各論 3	頸肩部のストレッチング（頸肩部）
26	ストレッチング各論 4	上肢のストレッチング（上肢）
27	実技試験	実技試験（股関節周囲のストレッチング）
28	ウォーミングアップ・クーリングダウン	ウォーミングアップ・クーリングダウンの理論的背景と実際
29	東洋医学とコンディショニング	東洋医学の概要と、コンディショニングへの活用について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストに目を通しておくこと

授業で行った実技の復習をすること

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編、公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング、日本体育協会、2007

【参考書】

日本トレーニング指導者協会編、トレーニング指導者テキスト実技編、大修館書店、2011
坂井建男・松村譲児監訳、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系、医学書院、2007

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 80%

(2) 実技試験 20%

で評価を行う。

なお、出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は単位を認定しない。

【学生の意見等からの気づき】

テーピングやストレッチングを実際に体験し、習得できることが好評であった。基本的な手法はもちろん、目的に合わせて応用できる力を身に付けることができるよう、授業内容を模索したい。

【学生が準備すべき機器他】

・運動器解剖やスポーツ傷害の基礎的な知識が身につけていないと講義内容を理解することが難しいため、十分に学習を進めてから履修することが望ましい。

管理 ID: 1826581
授業コード: M2240

HSS3001A

運動処方・負荷テスト

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動負荷テストの原理・方法と、有疾患者に対する運動処方の方法論。

【到達目標】

- ① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
- ② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
- ③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
- ④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
- ③ 後半では実際の症例に対する運動処方をレポートの課題として課す。
- ④ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。
- ⑤ 『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表面心電図の電気生理学的基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコル	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコルについての理論および代表的運動負荷プロトコルについて。

6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆる VT。
8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
14	運動処方症例検討	各疾患の実際の処方例について、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。ただし授業中に提出を課したレポートを追加的に評価する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。

管理 ID：
1813410
授業コード：
M2060

- ⑤ 『統計学/統計学 I』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

CIM300IA

スポーツ医学（内科系）

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：水・3
 旧うか科目名：スポーツ医学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】

スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として毎回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担 (cardiovascular drift、心房細動)、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ (1)	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ (2)	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。

- | | | |
|----|-----------------------|---|
| 9 | 骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ | 骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。 |
| 10 | 女性のスポーツ医学 | 女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。 |
| 11 | リハビリテーションとスポーツ医学 | 一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。 |
| 12 | コンディショニングとスポーツ医学 | コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。 |
| 13 | 小児のスポーツ医学 | 発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。 |
| 14 | 総括・単位認定試験 | 講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
 第2~15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2005）
 目崎 登『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）
 宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）
 その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

HSS3001A

生活習慣病と身体活動

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813411
授業コード：M2080

生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンス。

【到達目標】

- ① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
- ② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
- ③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
- ④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
- ⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
- ⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
- ② 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。 キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：II 型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝
7	身体活動、フィットネスと高脂血症・高尿酸血症	生活習慣病としての高脂血症・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会)

8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症、locomotive syndrom
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 キーワード：慢性閉塞性肺炎疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省)
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。 キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	こどもの体力低下と身体活動	こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 キーワード：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 キーワード：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておくと、講義の理解を深める助けになる。
- ② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献
・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）
・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『統計学/統計学 I』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

HSS3001A

運動生理学

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】

運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として毎回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	生体エネルギー論Ⅰ (担当：木下)	生体エネルギーとしての ATP の産生と利用のメカニズムについて理解する。エネルギーとは、エネルギー基質、解糖系、クレアチン燐酸などについて。
2	生体エネルギー論Ⅱ (担当：木下)	エネルギー産生機構における酸素の役割。有酸素・無酸素エネルギー、酸素摂取量、酸素動態（定常・漸増負荷）。
3	酸素摂取量といわゆる AT (担当：木下)	最大酸素摂取量の概念とその研究の歴史、測定方法（呼気ガス分析）。Mechanical efficiency。（いわゆる）AT について学習する。
4	心臓・肺・ミトコンドリア (担当：木下)	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
5	血液と循環 (担当：木下)	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。

6	生体エネルギー論Ⅲ (担当：木下)	運動のエネルギー基質 (macronutrient)、基礎代謝、酸素摂取量と消費エネルギー計算など、生体エネルギーの基質とその利用メカニズムについて学習する。
7	特殊環境における運動 (担当：木下)	特殊環境における運動において、生体のホメオスタシスがいかにか維持され、また破綻するのか、理解する。すなわち、高所生理学、高山病、潜水生理学、潜水障害、低温障害、大気汚染、微小重力などについての学習。
8	神経系の役割と運動制御 (担当：瀬戸)	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
9	運動中の神経活動の実際：その1 末梢系 (担当：瀬戸)	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflexn について。
10	運動中の神経活動の実際：その2 中枢系 (担当：瀬戸)	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢 (exercise pressor reflex)、中枢から末梢 (central command) へと伝播される神経伝達について。
11	骨格筋の役割と運動時の活動 (担当：瀬戸)	骨格筋の構造、筋収縮のメカニズム、代謝について学習する。筋収縮時の電気的、機械的現象、骨格筋の繊維の型の分類に応じた運動単位、エネルギー代謝について。
12	トレーニングに対する骨格筋の適応 (担当：瀬戸)	各種トレーニングに対する骨格筋の構造、生理機能の変化を学習する。有酸素トレーニングやレジスタンストレーニングが筋繊維レベルでの蛋白発現に及ぼす影響について。
13	内分泌系の役割と運動への応答 (担当：瀬戸)	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタン運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
14	トレーニングに対する内分泌系の適応 (担当：瀬戸)	トレーニングの継続による、筋骨格筋や自律神経系の変化の背景にある内分泌系の意義を学習する。筋肥大のメカニズムや持続的トレーニングに伴う自律神経系の変化に伴う内分泌系の変化を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特に定めず

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- ・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
- ・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
- ・Kenney WL, et al. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
- ・McArdle WD, et al. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

管理 ID:
1809218
授業コード:
M2090

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）

講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【学生が準備すべき機器他】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

HSS300IA

アスレティックリハビリテーション

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目標は以下の3点である。第1にスポーツ活動に必要な運動器の機能的要因・体力的要因を理解すること。第2にレベル低下の主要因としてのスポーツ外傷・障害を学ぶこと。第3にスポーツ活動に必要な身体構造と機能・体力の回復レベルの学習とそのトレーニング方法を習得すること、以上である。

【到達目標】

身体各部位の外傷・障害の理解およびその評価方法の理解、その上で、アスレティックリハビリテーションの具体的な方法について理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アスレティックリハビリテーションとは何かということとその実際について本講義では学習する。運動器の解剖と機能、スポーツ外傷・障害、検査・測定と評価の知識は必須であり、講義の中でも確認を行う。具体的な内容としてはアスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミング方法等を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/外傷・障害総論	本講義のガイダンスとともにアスレティックリハビリテーションとは何かについて、外傷・障害の総論について学習する。
2	運動療法の基礎知識 1	運動療法（エクササイズ）の目的、方法について学習する。
3	運動療法の基礎知識 2	各種エクササイズの目的、方法について学習する。
4	物理療法・補装具の基礎知識	物理療法・補装具の目的、方法について学習する。
5	頸部のアスレティックリハビリテーション	頸部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
6	背腰部のアスレティックリハビリテーション	背腰部の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
7	体幹のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた体幹部のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
8	肩関節のアスレティックリハビリテーション	肩関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
9	肘関節・前腕部のアスレティックリハビリテーション	肘関節から手関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。

10	上肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。
11	股関節・骨盤のアスレティックリハビリテーション	股関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
12	膝関節のアスレティックリハビリテーション	膝関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
13	足関節・下腿のアスレティックリハビリテーション	足関節の外傷・障害のリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングについて学習する。
14	下肢のアスレティックリハビリテーション	種目特性に基づいた上肢のアスレティックリハビリテーションについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト7 アスレティックリハビリテーション. 日本体育協会
授業資料は授業支援システムからダウンロードすることとする。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング. 日本体育協会
他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（試験期間中に行う）90%、小レポート（2回実施予定）10%

【学生の意見等からの気づき】

外傷・障害の理解が不十分なため、評価からリハビリへの流れが難しく感じられるようである。そのため身体各部位の外傷・障害からできるだけ具体的な事例に基づいて講義を進めていく。学生は都度、機能解剖学の復習が必須である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。
パワーポイント・プロジェクターを使用する。

CLS300IA

スポーツ医学（外科系）

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次/2 単位

曜日・時限：木・3

旧うか科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。 骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靭帯の修復機転について学習する
3	頭頸部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頸部の外傷・障害について学習する
4	頭頸部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- 1) アスレティックトレーナー専科テキスト1-9 日本体育協会
- 2) スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第2版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎
- 3) スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケア理論と実践 西村書店

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

管理 ID：
1813420
授業コード：
M2260

HSS200IA

ジョギング・ウォーキング実習

成田 道彦

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジョギング・ウォーキングは健康保持・増進のための代表的なスポーツである。その運動効果を理解した上で指導者として必要な各年齢層にあった指導法を学ぶ。

【到達目標】

ジョギング・ウォーキングの有酸素性運動の特性・健康効果を学ぶ。また、ジョギング・ウォーキングの正確なフォームを身につける。実際にジョギング・ウォーキングを行い、各自の適正な運動強度を知り健康づくりに合った運動強度を指導できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

実習は校内のグラウンド・クロカンコースなどを利用して行う。基本動作・ウォーミングアップや関連知識を学習した上で実技中心に行う。前半はウォーキングを主に、正しいフォームを身につけるとともに歩幅の測定、脈拍の測定などを行う。後半はジョギングで同様の測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	到達目標・概要・授業計画について
2	歩幅と適切なウォーキング強度の測定①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
3	歩幅と適切なウォーキング強度の測定②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
4	歩幅と適切なウォーキングの強度を測定③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で歩行を行い、心拍数と歩幅から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
5	ウォーキング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
6	ウォーキング実習②	校内で正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
7	ウォーキング実習③	クロカンコースを使い正しいフォームを身につける。万歩計を利用し運動量を測定する。
8	適切なジョギングの強度を測定する①	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
9	適切なジョギングの強度を測定する②	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。

10	適切なジョギングの強度を測定する③	万歩計を使い歩幅の測定を行う。異なる速度で走行し、心拍数から個人の運動能力と有効な運動強度を調べる。
11	ジョギング実習①	グラウンドで正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
12	ジョギング実習②	校内で正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
13	ジョギング実習③	クロカンコース正しいフォームを身につける。一定時間同じペースで走りきることを目標とする。
14	校外実習	校外でジョギング又はウォーキングを行う。安全なコース設定をするための視点を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~15回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（80%）、授業態度・積極性（20%）

実技実習を基本とするので授業への積極的な取り組みを最重要とする。平常点・積極性等を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の目的を明確にし、きめ細かく授業を進めていきたい。

【その他の重要事項】

※授業の展開により若干の変更があり得る。実習を優先し雨天時は講義を行う。

管理 ID：
1813413
授業コード：
M2130

HSS2001A

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次/ 1 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラムの作成【担当：春日井】	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング【担当：春日井】	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス【担当：春日井】	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング【担当：春日井】	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング【担当：春日井】	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング【担当：春日井】	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング【担当：春日井】	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング1【担当：泉】	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
9	ストレングストレーニング2【担当：泉】	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。

10	ストレングストレーニング3【担当：泉】	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。パワークリーン、ハングクリーンの導入練習を行う。
11	オリンピックリフティング【担当：泉】	オリンピックリフティングのうち、パワークリーンを実践し、方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：泉】	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：泉】	TRX、メディスンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック【担当：泉】	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第3回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）

石井 直方，長谷川 裕，岡田 純一：ストレングストレーニング&コンディショニング—NSCA 決定版，第2版。ブックハウス・エイチデイ（2002）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト理論編。大修館書店（2009）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2009）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2011）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、各回の実習レポート（30%）

3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラムの作成	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング1	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
9	ストレングストレーニング2	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。

10	ストレングストレーニング3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。パワークリーン、ハングクリーンの導入練習を行う。
11	オリンピックリフティング	オリンピックリフティングのうち、パワークリーンを実践し、方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング	TRX、メディスンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第3回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング (2007)

石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング—NSCA 決定版, 第2版. ブックハウス・エイチデイ (2002)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%), 各回の実習レポート (30%)

3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

HSS2001A

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹、春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次/ 1 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラムの作成【担当：春日井】	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング【担当：春日井】	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス【担当：春日井】	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング【担当：春日井】	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング【担当：春日井】	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング【担当：春日井】	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング【担当：春日井】	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング1【担当：泉】	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
9	ストレングストレーニング2【担当：泉】	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。

10	ストレングストレーニング3【担当：泉】	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。パワークリーン、ハングクリーンの導入練習を行う。
11	オリンピックリフティング【担当：泉】	オリンピックリフティングのうち、パワークリーンを実践し、方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング【担当：泉】	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング【担当：泉】	TRX、メディスンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック【担当：泉】	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第3回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編：公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング（2007）

石井 直方，長谷川 裕，岡田 純一：ストレングストレーニング&コンディショニング—NSCA 決定版，第2版。ブックハウス・エイチデイ（2002）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト理論編。大修館書店（2009）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2009）

日本トレーニング指導者協会編：トレーニング指導者テキスト実践編。大修館書店（2011）

【成績評価の方法と基準】

平常点（70%）、各回の実習レポート（30%）

3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

HSS200IA

フィットネス・トレーニング実習

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツや健康運動の指導者として必要な各種トレーニングの方法およびフィットネスチェック、またフィールドテストについて、実習を通して身につけるとともに、指導の際の注意点や安全管理の方法等を修得する。

【到達目標】

各種トレーニングが実際に自らで行うことができ、さらにその方法を指導する際のチェックポイントを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各種トレーニングの中でもストレングストレーニング、スタビリティトレーニング、ファンクショナルトレーニング、コーディネーショントレーニング、アジリティトレーニング、プライオメトリクストレーニング、サーキットトレーニング、有酸素トレーニングについての実習を行い、各種トレーニングの具体的な方法やトレーニングマシン・器具等の正しい使い方、補助の仕方など安全管理の方法について実習を通して学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	トレーニングプログラムの作成	トレーニングプログラム作成の方法を理解する。
2	心肺系トレーニング	自転車エルゴメータを用いて、目的に応じたトレーニング内容を組み立てる方法を理解する。
3	フィットネスダンス	耳なじみのある曲に合わせて体を動かすエクササイズである「フィットネスダンス」を理解し実践できるようになる。
4	道具を使わない筋力トレーニング	自重による筋力トレーニングを用いた健康づくりのための筋力トレーニングの方法を理解する。
5	アジリティ・コーディネーショントレーニング	目的に応じたアジリティ・コーディネーション能力向上のためのトレーニング方法を理解する。
6	ランニング・スプリントトレーニング	目的に応じたランニングトレーニングの組み立てや、適切なランニングフォームを理解する。
7	サーキットトレーニング	健康づくりのためのサーキットトレーニングの方法を作成し理解する。
8	ストレングストレーニング1	主要種目のうちバックスクワットの方法に習熟し、レッグプレス、レッグエクステンション&カールを実践する。
9	ストレングストレーニング2	主要種目のうち、ベンチプレスの方法に習熟し、ダンベルプレス、ローイング、チェストプレスを実践する。

10	ストレングストレーニング3	主要種目のうち、デッドリフトの方法を理解・修得する。パワークリーン、ハングクリーンの導入練習を行う。
11	オリンピックリフティング	オリンピックリフティングのうち、パワークリーンを実践し、方法を習得する。
12	プライオメトリクストレーニング	プライオメトリクスに必要な筋腱複合体について学んだ上で、トレーニング方法を理解する。
13	ファンクショナルトレーニング	TRX、メディスンボール、ViPRを用いて行う各種トレーニングを実践する。
14	フィットネスチェック	トレーニングの評価方法となる基礎体力チェック（筋持久力評価、筋力評価、筋パワー評価）の方法を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・関連する内容を、運動生理学概論のテキストで予習復習をする。
・第3回目に配布するトレーニング記録を用いて、心肺系トレーニングを実践する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

日本体育協会編:公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト6 予防とコンディショニング (2007)

石井 直方, 長谷川 裕, 岡田 純一:ストレングストレーニング&コンディショニング—NSCA 決定版, 第2版. ブックハウス・エイチデイ (2002)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト理論編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2009)

日本トレーニング指導者協会編:トレーニング指導者テキスト実践編. 大修館書店 (2011)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (70%), 各回の実習レポート (30%)

3分の2以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

HSS2001A

エアロビック運動実習

林田 はるみ

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／1 単位

曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エアロビックは、運動処方理論「エアロビクス」を起源として生まれたエアロビックダンスが技術的に体系化されて「スポーツ」に発展したものである。音楽のビートによって「いつでも」「どこでも」「誰にでも」できる身近な健康スポーツである一方、近年では表現スポーツや生涯スポーツにも位置づけられている。対象者が安全で効果的なプログラムを楽しく行うためには、指導者が基礎知識と技能を身に付けていることが必要である。本実習ではエアロビック指導者に必要な技能を習得することを目的に授業を展開する。

【到達目標】

- ・初級段階のエアロビックの示範ができる。
- ・グループで行うエアロビックルーティンを作成できる。
- ・音楽を用いたエアロビックの集団指導ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

エアロビック運動の実技とその指導法について、実習中心に授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	エアロビック運動とは	エアロビックの概要を理解し、音楽に合わせた集団運動を行う
2	基本段階の実技練習	基本段階の動きを中心とした、基本技術を練習する
3	初級段階の実技練習	初級段階の動きを中心とした、初級技術を練習する
4	チームエアロビックの創作	チームを生かしたパフォーマンスを作成する
5	チームエアロビックの実際	チームを生かしたパフォーマンスを発表する
6	実技のまとめ	初級段階のエアロビック実技試験
7	基本段階の指導練習	基本段階の初歩的な指導練習
8	初級段階の指導練習	初級段階の基礎的な指導練習
9	目的別指導法	対象者の目的に合わせた指導法を習得する
10	対象別指導法①	対象者の年齢や性別に合わせた指導法を習得する
11	対象別指導法②	設定した対象者に合わせたプログラムを作成する
12	指導の準備と整理	ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチングの指導練習
13	段階別指導法	運動学習の方法に則ったレッスン構成を習得する
14	集団の指導の実際	集団指導を行う・エアロビック指導試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

技術を習得するために、個人練習と発表の準備を行う

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

- ・健康運動実践指導者養成用テキスト
- ・エアロビック指導教本

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）：指導者養成の科目であるため、毎回の授業へ取り組み姿勢、道徳的・社会的態度などを併せて評価する
 エアロビック実技試験（40％）：学期の中間に行う
 エアロビック指導実習試験（40％）：学期末に行う

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度や習熟度を確認しながら、次の段階に進めます。

【その他の重要事項】

教場に相応しいシューズ、運動に適したウェアやジャージを着用すること。授業の習得度によって進度を若干変更する場合があります。

管理 ID：
1813415
授業コード：
M2150

HSS2001A

体力測定・評価実習

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：月・1
 旧うか科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
13	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
14	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
- ・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%），各回の実習レポート（40%）
3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

管理 ID：1813421
 授業コード：M2270

HSS2001A

体力測定・評価実習

高見 京太、泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：月・2

旧うか科目名：身体機能測定実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体の基本的な形態の理解から、筋力、筋持久力、全身持久力といった身体機能の測定および評価までを実践を通して習得する。

【到達目標】

- ・様々な体力をもつ対象者の体力要素測定方法と理論を習得する。
- ・測定後の基本的統計処理方法を習得する。
- ・得られた測定結果を基に考察し、文章にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、実際のスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、各回ごとに、その日実施する測定について理解し、受講者自身が験者または被験者となって、測定評価の方法だけでなく、測定される側の立場についても理解する。また、レポート作成を通じて得られた結果の分析、考察ができるようになる。後半は、身体各部位の評価をできる能力を習得する。さらに、それぞれの動作のメカニズムから考えられる異常動作の具体例を挙げ、その動作について考察し、正しい動作を指導できるようつなげていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	体の大きさ（身長・体重・体型指数・身体組成）【担当：高見】	精度の高い形態計測を実施し、体型指数を算出し評価する。 身体がどのような組織によって構成されているかを理解し、身体組成の測定と評価を実践する。
2	全身パワー【担当：高見】	パワーについて理解し、測定と評価を実践する。
3	身体活動量の定量法とその実際（エネルギー消費量）【担当：高見】	日常あるいはスポーツ活動中の身体活動量について理解し、測定と評価を実践する。
4	敏捷性（反応時間・急速反復動作）【担当：高見】	全身反応時間を測定し、敏捷性を神経系と筋系の2つの要素から検討する。
5	有酸素性作業能力【担当：高見】	全身持久力について理解し、その測定と評価を実践する。
6	フィールド（子供、中高年者）における体力測定とその評価【担当：高見】	文部科学省による体力テストについて理解し、新体力テストの測定と評価を実践する。
7	フィールドテスト（高齢者、介護予防）における体力測定とその評価【担当：高見】	高齢者体力テスト、介護予防に関する体力測定と評価を実践する。
8	手部・手関節・肘関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
9	肩関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

10	足関節・下腿の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
11	膝関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
12	骨盤・股関節の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
13	頸部・胸郭出口の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する
14	腰部の評価【担当：泉】	HOPS に基づく評価方法を特にスペシャルテストを中心に実践する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

授業で必要となる資料は、授業支援システムまたは授業時に配布する。

【参考書】

- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
- ・山本利春，測定と評価，ブックハウス HD
- ・日本体育協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%），各回の実習レポート（40%）

3 分の 2 以上の出席を評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

目的をもってしっかり取り組んでいる学生が多い印象である。

管理 ID：1826709
授業コード：M2271

HSS3001A

健康増進施設実習

高見 京太

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：通年 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：集中・その他
 旧うか科目名：国内研修ワークショップ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康増進施設などの実習施設において、受講者に対する実際の運動指導現場を通じて実務を体験することを目的とする。その準備としての接遇に関するセミナーや、健康運動指導士の役割を理解することを目的とした事前および事後の講義を受講する。

【到達目標】

健康運動を指導するための専門的な知識や技術を実際の現場で学習し、さまざまなケースに対応できる実践指導能力を習得する。また対象者に対する実際の運動指導現場にふれることで、個別ケースへの対応法について学び、健康運動指導（介護予防を含む）の理解に役立てる。また、実務能力を身につけることにより、健康運動指導士としての活動現場における役割等を体験し、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として回ごとに完結するテーマを設定して講義と現場学習およびその報告を織り交ぜて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	事前のセミナー受講や現場実習に関する説明とスケジュール調整。受講・実習のグループ分け。健康運動指導士の資格取得に必要なプロセスを理解する。
2	これからの健康増進施設	健康増進施設のあるべき姿について考える。
3	健康運動指導士の役割	健康運動指導士の役割について理解する。
4	現場実習の意義について	健康増進施設での実習の意義について理解する。
5	健康状態の把握と体力測定	健康状態の把握と体力測定について理解する。
6	運動プログラムの作成と提供	運動プログラムの作成と提供について理解する。
7	運動の記録と情報管理	運動の記録と情報管理について理解する。
8	接遇セミナー	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
9	現場実習での課題の確認	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
10	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
11	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
12	健康増進施設での現場実習	健康運動施設での実務に必要な接遇について学習し、学内でのセミナーを通じた体験学習を計画する。
13	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。

14	健康増進施設での現場実習	個々の学生がテーマとする内容についてグループ毎に討議する。
秋学期		
回	テーマ	内容
15	健康増進施設での現場実習	講義とセミナー内容の総括
16	健康増進施設での現場実習	個別運動プログラムを作成する。
17	健康増進施設での現場実習	健康運動施設の業務内容の実際を提示し、施設管理業務等を理解する。
18	健康増進施設での現場実習	基本的な施設管理業務の実践を通じて理解し、各部所ごとの安全管理が効率よく確実にできるよう工夫・提案する。
19	健康増進施設での現場実習	来所者の健康管理項目について理解し、運動実践の可否について自己判断を促す。
20	健康増進施設での現場実習	対象者の年齢、性、疾病や障害に応じた体力測定の実施方法や留意点を理解する。
21	健康増進施設での現場実習	個別ケースに応じたプログラム作成を行い、実習者同士でカウンセリングし、ケースごとに集団で論議する。
22	健康増進施設での現場実習	個人情報管理について理解し、守秘義務の遵守の重要性を理解する。
23	健康増進施設での現場実習	運動の記録の仕方について学び、運動継続効果としての健康状態や体力の変化について把握し、対象者の自己効力感を高める方法について理解する。
24	健康増進施設での現場実習	個人のニーズや障害に応じた運動プログラムの作成・提供、グループ指導の方法や留意点について体験的に学習する。
25	健康増進施設での現場実習	フィットネス、スタジオ、プールなどでの機器やプログラムについて体験的に学び、運動様式の違いや特徴について理解する。
26	健康増進施設での現場実習	施設や施設外で行っている実際のフィットネスプログラムや介護予防運動指導、特定保健指導の実際を観察し、実践方法を理解する。
27	健康増進施設での現場実習の振り返り	レポートの作成
28	総括	健康産業等現場実習のフィードバック、他の研究機関と合同の研究発表会など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 10~26 回：実習日誌の記録

【テキスト（教科書）】

特に定めない

【参考書】

・健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団
 ・健康運動指導士養成講習会テキスト（下巻）（財）健康・体力づくり事業財団
 ・健康運動指導士試験 要点整理と実践問題 文光堂

【成績評価の方法と基準】

実習記録と実習後に提出するレポート（50%）
 「指導者としての資質」、「実習への取組み」について実習担当者による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

実習現場や他施設との共同演習について、春学期授業の初回ガイダンスと初期の授業で時間をかけて詳細に説明する。

HSS300IA

スポーツ現場実習 A

泉 重樹

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、実践することで習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須となる実習である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
5	肩関節の評価	肩関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
6	頸部の評価	頸部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
10	膝関節の評価	膝関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
13	頭部・顔面部の評価	脳震盪・頭部/顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性/慢性外傷時の対応

16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが前提となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

STANLEY HOPPENFELD：図解 四肢と脊柱の診かた。医歯薬出版株式会社、2003
 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂、2003
 坂井建雄，松村讓兒：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系。医学書院、2011
 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店、2011
 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版、2013

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
 評価は実習への取り組み（60%）および現場実習報告書（レポート）（40%）とする。

管理 ID: 1813423
 授業コード: M2291

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては1年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかったという感想を得ているのも事実である。しかしながら、残念なことではあるが途中で脱落するものもみられている。そのため受講の際には事前に面接を行うことがある。

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

HSS300IA

スポーツ現場実習 B

春日井 有輝

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習ではアスレティックトレーナーとして活動する際に必要な選手に対する姿勢、技術をスポーツ現場およびアスレティックトレーニングルームにおいて実際の活動を通して学び、習得する。

【到達目標】

アスレティックトレーナーとして最低限必要なスポーツ現場における安全管理、救急処置、評価、各種エクササイズの実践および指導ができることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

これまで各科目ごとに系統的に学んできた知識・技術を総動員し、スポーツ現場およびトレーナールームという臨床場面において、プロのアスレティックトレーナーの指導を受けながら、アスレティックトレーナー業務を実践する。スポーツ現場とアスレティックトレーニングルーム、両方の活動が必須である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	今後の進め方、アスレティックトレーニングルームの使い方、HOPS、SOAP ノートの記載方法
2	緊急時対応	BSL (CPR・AED) の復習、救急処置法の確認
3	物理療法機器の使い方	各種物理療法機器の使用目的、使用方法、適応・禁忌
4	手部・手首・肘関節の評価	手部・手首・肘関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
5	肩関節の評価	肩関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
6	頸部の評価	頸部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
7	腰部の評価	腰部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)、神経学的所見
8	骨盤部・股関節の評価	骨盤部・股関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
9	股関節・大腿部の評価	股関節・大腿部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
10	膝関節の評価	膝関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
11	下腿・足関節の評価	下腿・足関節の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
12	足関節・足部の評価	足関節・足部の評価 (HOPS、SOAP ノートの作成)
13	頭部・顔面部的評価	脳震盪・頭部/顔面外傷に対する対応
14	スポーツ現場での対応 1	現場の安全確保、水分補給、練習・試合前の個別 W-up の指導・実践
15	スポーツ現場での対応 2	現場の安全確保、急性/慢性外傷時の対応

16	スポーツ現場での対応 3	特殊環境下（暑熱・寒冷）での対応
17	スポーツ現場での対応 4	現場の安全確保、練習後の対応（ストレッチング、各種物理療法）
18	スポーツ現場での対応 5	性別、障害および各種対象年代の違いによる注意点の違い
19	部位別アスレティックリハビリテーション 1	上肢のアスレティックリハビリテーション
20	部位別アスレティックリハビリテーション 2	体幹のアスレティックリハビリテーション
21	部位別アスレティックリハビリテーション 3	下肢のアスレティックリハビリテーション
22	競技別アスレティックリハビリテーション 1	球技競技のアスレティックリハビリテーション
23	競技別アスレティックリハビリテーション 2	記録競技のアスレティックリハビリテーション
24	競技別アスレティックリハビリテーション 3	採点競技のアスレティックリハビリテーション
25	競技別アスレティックリハビリテーション 4	格闘技競技のアスレティックリハビリテーション
26	総合実習 1	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 1
27	総合実習 2	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習および評価の復習 2
28	総合実習 3	これまでのすべての活動を含めた総合的な実習およびアスレティックリハビリテーションの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでにアスレティックトレーナーに必要な知識として学んできたすべての科目が必要になる。特に機能解剖学、測定・評価、コンディショニング、アスレティックリハビリテーションの知識は必須である。実習の中で常に口頭試問等が繰り返されるため、都度の復習は当然のことであるが、受講前に必ず機能解剖学の知識を定着させておくことが必須となる。

【テキスト（教科書）】

日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 3 スポーツ外傷・障害の基礎知識
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 4 健康管理とスポーツ医学
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 5 検査・測定と評価
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 予防とコンディショニング
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 7 アスレティックリハビリテーション
 日体協公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 8 救急処置

【参考書】

STANLEY HOPPENFELD：図解四肢と脊柱の診かた。医歯薬出版株式会社、2003
 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂、2003
 坂井建雄、松村讓児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系。医学書院、2011
 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト実技編。大修館書店、2011
 小林直行、成田崇矢、泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版、2013

【成績評価の方法と基準】

※日体協公認アスレティックトレーナー資格取得を明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。
 評価は実習への取り組み（60%）および現場実習報告書（レポート）（40%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

旧カリキュラムでは単位化されていなかった実習が新たに単位化されたものである。学生にとっては1年を通して最も大変な実習であったという感想がほぼすべてであるが、同時に得られるものも大きかった、という感想を得ている。しかしながら、途中で脱落するものもみられるため、受講の際には選抜や面接を行うことがある。

管理 ID: 1813424
 授業コード: M2292

【その他の重要事項】

※（再掲）日体協公認アスレティックトレーナーを明確に目指すものが受講する科目である。そのため受講にあたりガイダンスを行い、面接を課すことがある。

HSS300IA

スポーツリハビリテーション実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／1 単位

曜日・時限：水・1

【学生の意見等からの気づき】

実技中心の講義形式を行い技術を獲得しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

特に定めず

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：機能解剖学、リハビリテーション概論および運動療法総論の教科を履修済みであること。基本的な解剖学、運動学の知識を修得されたものが対象の科目です。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ傷害の概要について学び、その発生原因、特徴を概説する。更に、医学的治療方法、復帰までのリハビリテーションを理解し実施できる。

【到達目標】

スポーツ傷害に対する基本的知識を学びスポーツ傷害を予防するにはどのようなことに注意すればよいか。あるいはどのような処置をすればよいかなどの知識と技術を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

特に筋骨格系のスポーツ傷害について理解し、そのリハビリテーション方法を実習する。講義と実技を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	スポーツ傷害	資料を通してスポーツ傷害のリハビリについて解説する
2	足部障害とリハビリテーション1	捻挫、足部骨折などの概要
3	足部障害とリハビリテーション2	捻挫、足部骨折などの対処方法
4	膝障害とリハビリテーション1	オスグッド病・鷓足炎、靭帯損傷、ランニング膝などの概要
5	膝障害とリハビリテーション2	オスグッド病・鷓足炎、靭帯損傷、ランニング膝などの対処法
6	股関節障害とリハビリテーション1	グローインペイン症候群、恥骨炎などの概要
7	股関節障害とリハビリテーション2	グローインペイン症候群、恥骨炎などの対処法
8	骨盤障害とリハビリテーション1	仙腸関節痛、腸要筋炎などの概要
9	骨盤障害とリハビリテーション2	仙腸関節痛、腸要筋炎などの対処法
10	腰部障害とリハビリテーション1	腰痛を引き起こす障害の概要
11	腰部障害とリハビリテーション2	腰痛を引き起こす障害の対処方法
12	手の障害とリハビリテーション	突き指、腱鞘炎、前腕骨折の概要と対処方法
13	肘の障害とリハビリテーション	野球肘、テニス肘の概要と対処方法
14	肩の障害とリハビリテーション	肩関節炎、腱板損傷などの概要と対処方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1～14回：資料を授業支援システムから印刷し目を通す

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

特に定めず

【成績評価の方法と基準】

平常点：実習の取り組み、実際に実技を習得しているか（40%）、定期試験（60%）

管理 ID：
1813416
授業コード：
M2170

HSS3001A

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測(1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測(2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてパルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。

- 9 運動負荷テスト(1) サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
- 10 運動負荷テスト(2) サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
- 11 運動負荷テスト(3) 12 誘導心電図を装着し、Bruce : トレッドミルによる多段階負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
- 12 心肺運動負荷試験(1) : サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
- 13 心肺運動負荷試験(2) : トレッドミルによる多段階負荷 トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
- 14 ホルター心電図および携帯型心電記録装置 ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

- ・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
- ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
- ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
- ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
- ・山地啓司. 『ここからからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
- ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、各回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。

管理 ID :
1813417
授業コード :
M2190

- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

HSS3001A

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測(1)	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測(2)	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨床的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。

- 9 運動負荷テスト(1) サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
- 10 運動負荷テスト(2) サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷 Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
- 11 運動負荷テスト(3) 12 誘導心電図を装着し、Bruce : トレッドミルによる多段階負荷 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
- 12 心肺運動負荷試験(1) : サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
- 13 心肺運動負荷試験(2) : トレッドミルによる多段階負荷 トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
- 14 ホルター心電図および携帯型心電記録装置 ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

- ・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
- ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
- ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
- ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
- ・山地啓司. 『ここからからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
- ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、各回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。

管理 ID : 1826708
授業コード : M2191

- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学/統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学/スポーツ医学（内科系）』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

HSS300IA

運動学実習

安藤 正志

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・4

旧うか科目名：運動学ケーススタディ [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813425
授業コード：M2310

生体へ種々の運動や動作を行わせ、あるいは種々の環境下に生体を曝露したときの生体反応を種々の測定機器を使用し運動学、運動生理学、運動解剖学、運動力学的変化を体験する。これにより運動を分析し、処方する基礎づくりとする。

【到達目標】

それぞれの課題を小グループで実施し得られたデータを処理し報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

小グループで各課題を実際に体験し得られたデータを処理し報告する。課題説明の後実技を行い毎回各課題のまとめをレポートにして報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	得られたデータの処理法、報告書の書き方を説明する
2	歩行	歩幅、歩行率、速度を求める
3	走行	ピッチ、速度、ストライドを求める
4	歩行と心拍数	歩行速度と心拍数を求める
5	移動効率	移動効率を求める
6	姿勢	立位アライメントの測定
7	人の重心	重心点を求める 重心動揺計を使用してみる
8	運動感覚	運動覚、位置覚に関する実習を行う
9	筋力	筋力、筋疲労を測定する
10	体表感覚	痛覚、2点式別覚を測定する
11	運動残効	運動残効を体験する
12	足部の形態	足部形態を測定する
13	平衡感覚	重心動揺を測定する
14	筋活動	筋電図をもちいて動作時の筋活動を 確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1~14 回：資料に目を通す

【テキスト（教科書）】

特に定めず、資料を配付する

【参考書】

運動学実習マニュアル（アイベック）

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席時の実習取り組み状況）（10%）、レポート課題点（毎回のテーマのレポートを提出します）（90%）

【学生の意見等からの気づき】

課題報告後のフィードバックを詳細に行う。

【学生が準備すべき機器他】

運動ができる服装で受講すること。また必要に応じて電卓、メジャーなどを準備すること（事前に指示します）。

【その他の重要事項】

履修に際しての注意：スポーツリハビリテーション実習を履修済みであることが望ましい。

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・2

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1827295
授業コード：M2321

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症 - 海外における最近のトピックス - 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)【担当：木下】	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心臓血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)

6	運動と血液【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実践【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医学的サポートの実践について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害.. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・2

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症 - 海外における最近のトピックス - 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心臓治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)

6	運動と血液	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実際	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害.. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症 - 海外における最近のトピックス - 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心臓治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)

6	運動と血液	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実際	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害.. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、クライアントの必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4~5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。 【参考資料】木下訓光：熱中症 - 海外における最近のトピックス - 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
3	身体組成および骨密度 (1)【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。 【参考資料】①『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』（資料室収蔵） ②『ライフステージ栄養学実習書』（資料室収蔵）
4	身体組成および骨密度 (2)【担当：木下】	前回のデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか検討し、グループごとに発表する。
5	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。 【参考資料】① American Heart Association 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015 ハイライト (https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf) ②ハンズオンリー CPR よくある質問 (http://www.aha-tts.com/article/13690287.html)

6	運動と血液【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK など）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
7	アスリートの臨床的サポートの実践【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医学的サポートの実践について症例を踏まえながら学習する。 【参考資料】木下訓光：やせと体組成、月経障害.. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。
9	整形外科的メディカルチェック (1)【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック (2)【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色 (1)【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色 (2)【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

“Exercise Physiology (Eighth Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2012

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 % : 毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次回の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【その他の重要事項】

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるため注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 日本体育協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

SOC100IA

レジャー論

谷本 都栄

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：金・2

管理 ID：
1813428
授業コード：
M3010

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、「遊び」の本質を出発点に、レジャーの大衆化と多様化の歴史、現代社会におけるレジャーの意義と役割について学ぶ。また、観光、スポーツ、芸術、教育、健康、福祉、環境などの多様な領域とレジャーの関係について理解を深め、将来のレジャーの方向性についても考察する。

【到達目標】

- ・レジャーの形成過程について、歴史的な背景を含めて理解を深める。
- ・レジャーの多様性、現代社会におけるレジャーの意義と役割について理解を深める。
- ・日本におけるレジャーの課題や今後のあり方について考える力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・毎回リアクションペーパーを提出してもらい、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	レジャーの概念①	古代ギリシャから現代に至るレジャーの概念について、歴史的背景を踏まえて学ぶ。
第 3 回	レジャーの概念②	「遊び」の諸理論、人間と遊び、遊びを源とする文化の発展について学ぶ。
第 4 回	レジャーの形成過程①	近代以降レジャーが大衆化、多様化した経緯とその要因について学ぶ。
第 5 回	レジャーの形成過程②	現代レジャーの分類とそれぞれの特徴について学ぶ。
第 6 回	日本におけるレジャー動向①	戦後の日本におけるレジャーの展開について、時代背景を踏まえて学ぶ。
第 7 回	日本におけるレジャー動向②	日本の社会構造やライフモデルの変化とレジャーの動向について学ぶ。
第 8 回	中間レポート	第 7 回までの授業内容に関わるテーマについてまとめる。
第 9 回	ライフスタイルとレジャー行動①	各種統計データから、日本人のレジャー行動の特性について学ぶ。
第 10 回	ライフスタイルとレジャー行動②	世代やライフステージで異なる価値観や志向性とレジャー行動の関係について学ぶ。
第 11 回	レジャー環境①	日本の余暇関連行政、レジャー環境に関わる課題について学ぶ。

第 12 回	レジャー環境②	余暇教育、生涯学習の視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 13 回	レジャー環境③	スポーツとまちづくりの視点から、今後のレジャーのあり方について考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業中に紹介した文献や資料を読んで理解を深める。
- ・各レポートは、授業中に示した手順を参考に各自で準備を進める。

【テキスト（教科書）】

毎回テーマに応じたプリントや参考資料を配布する。

【参考書】

適宜テーマに関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業毎のリアクションペーパー 30 %
- ・中間レポート 30 %
- ・学期末レポート 40 %

総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が授業内容を理解しているかを随時確認しながら授業を進める。

SOC100IA

スポーツ文化論

早瀬 健介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：月・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは私たち人間の“こころ”と“からだ”の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つといわれている。なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、私たちのスポーツの価値をどのように認識しているのだろうか。

本授業ではスポーツを様々な視点から見ることにより、スポーツが現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできない文化であることを再確認する。

我々の身近にあるスポーツがどのような変遷を経て現在に至っているのか、毎年世界各地で開催されるオリンピックをはじめとする様々な国際スポーツ大会の在り方から身近なスポーツ環境まで、スポーツは我々の生活に深く根ざしている。

本授業ではこれらを元にスポーツが内包する魅力について知見を深めるとともに、それらを踏まえ自らがスポーツについて語る力を養いたい。

【到達目標】

様々なスポーツ関連事象を通して、現代社会を見ることのできる知識を身につける。

2017 年 4 月に策定された第 2 期スポーツ基本計画をはじめ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後展開される様々な施策に関し、自らの言葉で語ることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

国際大会を含め様々なスポーツイベントやアスリートを取りまく環境が変わりつつある今日、それらをめぐる様々な事象からスポーツについて考えるとともに、我が国における体育・スポーツへの取組やスポーツが社会に及ぼす影響など、スポーツに関する身近な題材を参考に、自らの生活との関わりの中でスポーツの価値について考える。

必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P.を使用したスクール形式の斉授業を行う。本授業では、普段私たちが何気なく目や耳にしてきたスポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにするとともに、今後の各自のスポーツ振興に役立てることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及びスポーツの成立過程を概観	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項。また、スポーツはどのような歴史をたどり現在に至っているのか概観を学習
2	スポーツ基本権	スポーツに関する国民の権利を保障する法的根拠を理解

3	スポーツ振興法及び「体育の日」について	当時の逐条解説等をもとに、昭和 36 年のスポーツ振興法を学習。加えて「体育の日」について理解を深める
4	我が国のスポーツ活動の現状と課題	「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）」データをもとに我が国のスポーツ活動の現状について理解する
5	我が国の体育スポーツ施設	「体育・スポーツ施設現況調査（文部科学省）」及びスポーツ庁のデータ等をもとにスポーツ環境を考える
6	2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	「2020 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（内閣府）」データ等をもとに東京大会でのおもてなし等について考える
7	スポーツ立国戦略とスポーツ基本法	平成 22 年に策定されたスポーツ立国戦略について、その背景を理解するとともに、スポーツ基本法前文について学習
8	スポーツ基本法	平成 23 年に約半世紀ぶりに改正された「スポーツ基本法」の内容について理解
9	スポーツ基本計画	平成 24 年に策定された「スポーツ基本計画」の概要について学ぶとともに、平成 27 年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」について理解を深める
10	子どものスポーツ環境	体力低下のデータ等をもとに子どものスポーツ環境について考える
11	地域スポーツクラブ	豊かなスポーツ環境の創造に向け「新しい公共」として期待される地域スポーツクラブについて理解を深める
12	オリンピックについて考える①	オリンピックを支えている基本的な考え方を学ぶとともに、祭典競技に対する考え方と競技内容等について理解を深める
13	オリンピックについて考える②	オリンピックにまつわる雑学を知る
14	2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて考える	2020 年東京オリンピック・パラリンピックに関する諸課題について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回：スポーツの始まりは何であったのか考えてくる
 第 2 回：日本国憲法第 3 章に目を通してくる
 第 3 回：スポーツ振興法 第 1 条～第 4 条（総則）及び「体育の日」の歴史について調べてくる。
 第 4 回：現在の成人が行うスポーツ活動にはどのような傾向があるのか考える
 第 5 回：日本にはどのようなスポーツ施設が多いのか考えてくる
 第 6 回：2020 年東京大会にどのような形で関わるのが可能なのか考える。
 第 7 回：スポーツ立国戦略の作られた背景について調べてくる。
 第 8 回：スポーツ振興法とスポーツ基本法の違いは何か考えてくる
 第 9 回：スポーツ基本計画のポイントは何なのか考えてくる
 第 10 回：子どもの体力低下の原因について考えてくる
 第 11 回：総合型地域スポーツクラブ創設による効果は何なのか考える
 第 12 回：競技別の世界選手権とオリンピックは何が異なるのか考えてくる
 第 13 回：オリンピックに関する雑学を各自が一つは調べてくる
 第 14 回：東京オリンピック・パラリンピック開催によりどのような変化が期待されるのか考える

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリント等を配布

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

管理 ID：
1810861
授業コード：
M1650

【成績評価の方法と基準】

授業内レポート・小テスト (10%) 及び、定期試験 (90%) による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の 1/3 を越える学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備しておくこと。

MAN100IA

地域スポーツ経営論

清雲 栄純

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

旧うか科目名：コミュニティスポーツ論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、地域におけるスポーツ組織の経営・運営の基本を習得する。

【到達目標】

地域におけるスポーツクラブの機能と役割について調査したうえで、マネジメントの方法について学習する。特にプログラムサービス事業とクラブサービス事業について、その基本的な進め方を理解するとともにスポーツ事業の計画・運営・評価ポイントの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解し、Jリーグクラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域における役割について調査する。また、我が国のスポーツ環境とヨーロッパや南米における地域スポーツクラブの現状を比較し、スポーツ事業の計画を立案する。(グループワークとグループ発表を授業内で実施する)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	我が国のスポーツ振興方策と行政のかかわり (スポーツ基本法、スポーツ立国戦略の概要を理解する)
2	地域におけるスポーツ振興方策と行政の関わり	我が国のスポーツ振興方策の具体例を示し、地域の行政がどのように関わっているのか理解する。
3	地域スポーツクラブの機能と役割	住民が自主的に運営する地域スポーツクラブの例を示し、その機能と役割について自身の考えを示す。
4	地域スポーツクラブの立ち上げと運営	我が国の NPO 法人で運営している総合型地域クラブを事前に調査し、自身がどのように関わり事が出来るのか、授業内で発表する。
5	地域におけるスポーツ組織の運営	スポーツボランティアの必要性を理解し、モチベーションの確保についてグループディスカッション・グループ発表を行う。
6	総合型地域スポーツクラブとは	我が国のモデルとなるスポーツクラブを映像でチェックした後、自身の考えをレポートにまとめる。
7	総合型地域スポーツクラブのシュミュレーション	前回の授業を復習し、総合型地域スポーツクラブの運営計画を作成する。
8	地域スポーツクラブの育成	総合型地域スポーツクラブの育成と運営について、自身の考えを整理する。(レポート提出)
9	スポーツ組織の運営と事業①	スポーツ組織の多様性と役割を学び、地域スポーツの構造を知る。

10	スポーツ組織の運営と事業②	ヨーロッパにおける地域スポーツの実情を事前に調査し、我が国との違いについてまとめる。
11	海外における地域スポーツクラブの実情	ドイツとブラジルの総合型地域スポーツクラブの実例を示し、我が国の地域スポーツクラブ育成の課題について、ディベートを行う。
12	Jリーグは百年構想	Jリーグの理念を事前に調査し、スポーツの意義や地域スポーツの振興について自身の考えをまとめる。
13	スポーツ事業の計画・運営・評価	スポーツ事業の種類や基本的な進め方を学んだ後に、プログラムサービス・クラブサービス事業の計画・運営・評価を行う。
14	地域におけるスポーツ経営の総括	試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ① スポーツ基本法を理解する。
- ② Jリーグの理念を調べる。
- ③ 我が国におけるスポーツ振興の実態を調査する。
- ④ 海外の総合型地域スポーツクラブを調査する。

【テキスト (教科書)】

毎授業でレジユメを使用する。

【参考書】

- (1) 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I, II : (公) 日本体育協会
- (2) Jリーグ百年構想 Jリーグ出版
- (3) 総合型地域スポーツクラブ : 大修館書店
- (4) クラブづくりの 4 つのドア : 文部科学省
- (5) スポーツ基本法・スポーツ立国戦略の概要、スポーツ庁について、文部科学 省ホームページ
- (6) 海外の事例 (ビデオ、資料など)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業中の態度等) 30%、レポート 30%、期末試験 40%より評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業環境を適切に保つよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

ARSI100IA

スポーツ組織論 【2018年度以降入学生対象】

伊藤 真紀

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4年次/2単位
曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは1	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは2	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは3	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	マネジメントの戦略	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、スポーツ組織とはについて学習する。
6	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
7	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
8	効率的に目標を達成する	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する
9	—組織構造— スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 10 | 個人の理解（パーソナリティと対人認知） | パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。 |
| 11 | スポーツ組織におけるモチベーション | モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。 |
| 12 | 多様性マネジメント | 多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。 |
| 13 | ケーススタディー1 | スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。 |
| 14 | 授業内レポート | レポート作成 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」(P.F. ドラッカー著)ダイヤモンド社

Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）+ケーススタディーレポート（40%）+期末レポート（40%）=100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

ARSI100IA

スポーツとまちづくり 【2017年度以前入学生対象】

伊藤 真紀

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4年次/2単位

曜日・時限：木・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは1	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは2	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは3	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	マネジメントの戦略 組織論とは	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、スポーツ組織とはについて学習する。
6	組織を動かす基本設計	組織は何のために作れるのか、組織における分業の基本構造、組織における調整について学習する。
7	組織を動かすメカニズム	組織活動をきちんと動かすメカニズムについて学習する。
8	効率的に目標を達成する —組織構造—	部門化のあり方、権限と責任、基本の組織設計、新しい組織について学習する
9	スポーツ組織における リーダーシップ	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 10 | 個人の理解（パーソナリティと対人認知） | パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。 |
| 11 | スポーツ組織におけるモチベーション | モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。 |
| 12 | 多様性マネジメント | 多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。 |
| 13 | ケーススタディー1 | スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。 |
| 14 | 授業内レポート | レポート作成 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」(P.F. ドラッカー著) ダイヤモンド社

Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）+ケーススタディーレポート（40%）+期末レポート（40%）=100%という配分で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

ECN1001A

スポーツ経済論

宮下 量久

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やスポーツ庁の設置など、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】

現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

冒頭の 10～15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて自分なりの考えをまとめて、次の授業までに小レポートを提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法などを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俵はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俵を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	Jリーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。

7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	望ましいゲームのルールとはにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。
13	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
14	期末試験・授業のまとめ	授業の内容に基づき、試験・総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習については、授業前に配布資料へ目を通しておいてください。
 ・復習については、小レポート課題を次の授業までに提出することで行っていきます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】

笹川スポーツ財団（2017）『スポーツ白書 2017』
 八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べるができるか、で評価します。
 ・成績評価の基準：毎回の講義で課す小レポート（配分：20%程度）、期末試験（配分：80%程度）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通すること。そのためには、メディアの成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につける。

【到達目標】

大きなスポーツイベントが目の前に押し寄せようとしている。お隣韓国で開催の冬季五輪を皮切りに極東アジアのスポーツ報道がボリュームを増やしていく。活字・電波・写真だけでなくモバイルから伝えられる情報は、その役割がますます重視される。「文字」「映像」を武器にメディアが五輪、スポーツを、また周辺の変容をどんな視点で捉え伝えるのか。メディアの動向、情報を見聞きするにつけ、そこに社会の投影されるのを知り、我々の世界観の体現を感得すること。メディアの提示するものを吟味することで、自らの表現力を高めることにもつなげたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をつぶさに見る。また、それぞれの組織や業界がどのように製品を作り上げていくのか。その過程で、素材となるスポーツには何が来されてきたのか。ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、わかりやすい講義を継続する。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることすなわち、ある部分で自分をどう主張するかのノウハウにもつながる。講義では素材に接して得たもの、感じたものを随時報告してもらい機会を用意する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイドランスとメディアの現状	新聞、放送ははまだメディアの中心に近い。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中でのスポーツの占める位置を窺う。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとほぼ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	活字メディアの仕組み	スポーツメディアは、メディアの一つのジャンルであることに異論を挟む人はいない。そこをのぞき見るには、活字メディアの世界の常識と理念を知っておかなければならない。後に放送メディアも大きな影響を受けた取材から報道までのありようを見る。

4	電波メディアの仕組み	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を携えるようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	活字メディアにスポーツメディアの核を見る	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらスポーツメディアの特徴を知る。
6	事業を興すスポーツメディア	世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではないが、メディアの社会では、購買数・視聴率というメディア事業そのものを強化する指標のためにさまざまな事業を興してきた。今でもスポーツは、メディア営業の武器である。
7	スポーツ中継（1）	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今、タブレット画面の中に見る手法は、テレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えない部分を含めて細部を開示する。
8	スポーツ中継（2）	ラジオとテレビ。それはメディアの構造の違いだけでなく方法論の違いにもつながっている。音中心のメディアと映像主体のメディアを比べ、重ね合わせることでスポーツ報道のある部分が見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	社会的事象としてのスポーツ	暴力的指導、八百長問題、ドーピング、人種差別、規則を超えた商業主義。メディアは必ずしもスポーツを全面的にはたたえない。そこに潜む、スポーツを傷つけかねない出来事にメディアはどう取り組んでいるのか。
12	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見いだしているのかに底通する。
13	スポーツメディア世界の今	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加。ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	これまでの13回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験。

管理 ID:
1813434
授業コード:
M3080

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。個々の報道に対し、すべてを鵜呑みにしないことだ。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ。具体例は、さまざまなシーンで有用だ。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21世紀スポーツ大事典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

配分：

講義中に、指定する時間内で小論文を要求する。毎回の小論文は成績評価の対象となり。1回最高点3点。13回のすべて満点を取れば、39点。

最終講義内に行う試験70点。

すべてフルに獲得すれば109点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。

評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い世界観、具体事例を示せるかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

「これまで知らなかったことが明らかになった」といった声は喜ばしいが、「自分の知っていたことと違っていた」あるいは「違う見方があったのを知った」という意見がもっと増えてくれればそれに越したことはない。一つの定形が生まれるにはそれなりの根拠や背景がある。その一番低いところから始めるのではなく、常にいつでも低いところに帰れるようにしながら、スポーツメディアを通じていくぶんでも良いから社会の高見を垣間見て欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント（写真含む）による説明。番組映像の使用。

【その他の重要事項】

スポーツメディアの期待は、伝える内容のどれもが、誰にとっても「重要関心事」だと考えてもらえるかどうかにかかっている。そこでなぜこれが伝えられるのか。ここになぜこれが書かれているのか。メディアの期待を斟酌することで、社会が見えてくることがある。

POL2001A

スポーツと政治

赤堀 宏幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のオリンピック誘致で見られたように、世界各国でスポーツと政治の関係は、多面的に切っても切り離せないようになっている。スポーツと政治は、本来切り離して考えていくべきであるが、国際的にも各国の事情でも、政治とのつながりがなく進んできた例は非常に少なく、利権などに絡んだことや、「大会不参加」など、政治に利用されていたことが歴史にも刻まれている。過去のオリンピックや競技会、政策などを通じ、スポーツと政治はどうあるべきかを考察する。

【到達目標】

スポーツと政策、スポーツと法律、スポーツと外交など、多くの国際的な関係事例を見ながら、日本のスポーツの今後にかかわる政治との関係に関心を持てるようにする。そのうえで、多岐にわたる情報収集力、分析など、対処法や方向性も含めて多種多様な考え方を学習できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

元オリンピック選手、スポーツを含めた文部科学政策に関わった政治家、日本オリンピック委員会や日本体育協会加盟団体でオリンピックを推進してきた関係者の話、取材した経験を通じ、オリンピックや国内大会などへの定言的な企画など多角的な考察を行い、原稿作成など記述する時間を多くして、学習していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツと政治・序章	講師紹介と授業概要説明、授業計画の説明。 及び全般的なスポーツと政治に関する一般論
2	国交のない国とのスポーツ交流	国交のない国でのスポーツ大会に参加したアスリートの考えていたこと。その後、国交正常化への道
3	オリンピックにおける政治との関係 1	オリンピックにおける政治学、近代オリンピックによる世界支配化との関係
4	オリンピックにおける政治との関係 2	政治、国交回復への道、平昌オリンピックで、韓国と北朝鮮の統一チームが出場へ
5	オリンピックにおける政治との関係 3	オリンピックの大会開催誘致、参加への政治介入。 各競技の世界選手権、アジア選手権などの開催と政治介入
6	オリンピックにおける政治との関係 4	オリンピック開催、オリンピック選手育成・強化は体制護持から始まったのか
7	オリンピックにおける政治との関係 5	モスクワオリンピックの米国などのボイコット（日本も不参加）と今日まで

8	オリンピックにおける政治との関係 6	ロサンゼルスオリンピックのロシアなどのソ連のボイコット（日本は参加）と今日まで
9	政治と国民のスポーツ活動 1	ドイツ分断時、東ドイツにおける国民のスポーツ活動の目的と状況
10	政治と国民のスポーツ活動 2	スポーツとアパートメントとの関係・変遷、オリンピックでの状況
11	政治と国民のスポーツ活動 3	幻の東京オリンピック、第二次世界大戦後のスポーツ復活
12	スポーツ政策 1 国民体育大会	国民体育大会開催発案とその後のスポーツ政策、体育協会と政治家の関係。スポーツ基本法のなりたち
13	スポーツ政策 2 国民体育大会 2	国民体育大会、21世紀の現実。スポーツ基本法をはじめとするスポーツ六法と今日まで
14	スポーツ政策 3 世界のスポーツ禁止令などの政策	スコットランドで発布されたゴルフ禁止令など、各国のスポーツ奨励と禁止令。スポーツとレジャーの区分、区別とスポーツ振興策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を精読する（解説、社説、コラムを中心に）。オリンピックに関する政治的な用語のメモ

【テキスト（教科書）】

新聞（スポーツ紙を含む）、雑誌、書籍

【参考書】

各種新聞記事、雑誌記事を中心とする

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内に実施する小レポート 30 %
- ・全授業終了後に実施するレポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

管理 ID：
1826281
授業コード：
M3050

ECN2001A

スポーツマーケティング論

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のスポーツをビジネスの視点でとらえ、その現状と現代的な課題を検討するとともに、Jリーグに代表されるプロスポーツクラブ（チーム）の運営をいかに進めていくか、そのあり方について内外の文献及び討議さらには実地研究によって得られた知見によって明らかにする。さらに、プロスポーツにおけるスポーツマーケティングに関するフィールド・サーベイからスポーツマーケティングの実情についてより深く理解する。

【到達目標】

スポーツに関連する組織において、顧客の維持・拡大は重要な課題であり、マーケティング的な視点は必須である。しかしながら、スポーツ消費者は余暇時間の価値を高めるためにスポーツを消費するため、消費者の理解や市場を捉えることがとても困難であると言える。本講義では、スポーツマーケティングの基本的な考え方やスポーツサービスの特徴などの理解を深めるだけでなく、組織や市場に適したマーケティング戦略について検討しうる能力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、パワーポイントを用いた講義部分と、個人もしくはグループ単位でマーケティング戦略を検討し、発表するプレゼンテーションで構成されるため、講義外での作業や準備が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要について解説し、スポーツが社会に果たす役割や機能について解説する
2	スポーツマーケティングとは	スポーツをビジネスの視点でとらえ、その存在意義や社会における役割について解説する
3	スポーツビジネスの考え方	マーケティング志向、交換、商品特性
4	消費者構造とマーケティングセグメンテーション	市場の細分化、マーケティングの変遷
5	スポーツマーケットの業務	スポーツクラブの組織の在り方について理解を深め、具体的な業務内容について解説する
6	スポーツマーケティングの特性	スポーツサービスの特異性について理解を深める
7	スポーツ市場の理解	スポーツビジネスの市場規模と我が国の特徴について理解する
8	リスクマネジメント	スポーツクラブ運営に関するリスクの存在について説明する
9	ブランドについて	スポーツクラブにおけるブランドについて説明する
10	CSR	スポーツクラブの社会的責任とガバナンスについて説明する

11	コミュニケーション戦略	ステークホルダーとの良好な関係構築のためのコミュニケーション戦略について解説する
12	スポーツマーケティングの実際①	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
13	スポーツマーケティングの実際②	国内外のスポーツマーケティングに関する研究からスポーツビジネスの実施について説明する
14	総括	本講義のまとめおよびプレゼンをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤眞・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017 年

【参考書】

特に設けない

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポート (40%) の評価から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

専門性の高さを維持しながら、他のコースを選択している学生にも理解しやすいような内容にしていくとともに、参考となる配布資料の改善もおこなう

管理 ID：
1813432
授業コード：
M3060

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

伊藤 真紀

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：木・3
 旧うか科目名：スポーツクラブ運営論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメントの基礎となる理論「スポーツをサービスとしてとらえ、スポーツ組織がスポーツサービスを効率的に生産し（プロダクション）、交換する（マーケティング）ために、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）および周辺環境をコーディネート（調整）すること」を総合的に学ぶ。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる
3. マネジメントの知識の有無がスポーツにおいて何を变えるのかを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツを「ヒト・モノ・カネ・情報」という経営資源の側面から理解するため、経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論、コミュニケーション理論の基礎を、事例を交えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ
3	スポーツマネジメントの基礎	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展
4	いかにヒトを動かすか 1 Human resource management (人材マネジメント) とは	人材マネジメントの諸機能、戦略的人的資源管理 (SHRM) 職務満足について理解する。
5	いかにヒトを動かすか 2 リーダーシップ理論	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
6	いかにヒトを動かすか 3 モチベーション理論	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
7	いかにヒトを動かすか 4 パーソナリティ	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。

8	スポーツにおけるモノ、カネ 1	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。 スポーツリーグ運営について
9	スポーツにおけるモノ、カネ 2	スポーツビジネスとお金に関わる事例を経営学的な視点から考えていく。 スポーツチーム運営について
10	スポーツにおける情報 1	スポーツ組織とメディアリレーション 【スポーツ組織におけるメディア展開】 スポーツ組織におけるメディア戦略 【スポーツメディア戦略とは？ 戦略の立て方】
11	スポーツにおける情報 2	メディアにおけるブランド・イメージ戦略 【戦略的なブランドコミュニケーション開発、広告 PR、メディア選択】
12	スポーツにおける情報 3	メディアにおける危機管理対応 【危機管理マネジメント戦略】
13	スポーツにおける情報 4	企業の社会的責任とスポーツ 【スポーツを使った Corporate social responsibility (CSR) 事例研究】
14	まとめ	これまでの授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。

【テキスト（教科書）】

講義中に配付される資料とパワーポイント資料を主要な教科書として使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業への積極的な参加態度（20%）、リアクションペーパーの内容（30%）、レポートの内容（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

ECN2001A

スポーツ行政論

川崎 登志喜

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 国・都道府県・市区町村の3つのレベルにおけるスポーツ行政の仕組みや政策について説明ができる。
2. 身近なスポーツに関する問題やスポーツ事業についてスポーツ行政の立場から考えることができる。

【到達目標】

1. スポーツ行政の概念と仕組みを説明できる。
2. 地方公共団体のスポーツ施策を説明できる。
3. 諸外国のスポーツ行政の比較から我が国のスポーツ行政の特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツの振興を担う指導者が活動を行う拠点となる市区町村では、行政が広くスポーツを振興するために様々な施策を行っている。体育・スポーツを学ぶものとして、その行政の行っている振興施策や仕組みを理解しておくことは重要なことと思われる。そこで本講義では、国レベルから市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	スポーツ行政の概念と目的	行政やスポーツ行政の目的について理解できる
2	スポーツ行政の仕組み	スポーツ行政の組織と役割について理解できる
3	スポーツ行政の主な施策	スポーツ行政組織と役割について理解する
4	スポーツ振興法	スポーツ振興法についてどのような役割と課題があったのか理解する
5	スポーツ振興基本計画	スポーツ振興基本計画についてその役割とその評価について理解する
6	スポーツ立国戦略	スポーツ立国戦略についてその役割とその評価について理解する
7	スポーツ基本法	スポーツ基本法について理解する
8	都道府県のスポーツ振興施策と課題	都道府県のスポーツ行政組織についてグループ発表
9	市区町村のスポーツ振興施策と課題	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
10	市区町村のスポーツ振興施策と課題②	市区町村のスポーツ振興施策についてグループ発表
11	スポーツ予算と財源	スポーツ振興の財源について理解する
12	競技力向上の施策と課題	競技力向上のためにどのような施策がなされているか理解する

- 13 諸外国のスポーツ行政 欧米のスポーツ行政を中心に、諸外国からみた我が国のスポーツ行政の特徴を理解する
- 14 まとめ これまでの講義をふまえて、今後のスポーツ行政はどうあるべきか意見交換できる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 様々なトピックについてグループワークをおこなう予定である。

【テキスト（教科書）】

テキスト参考資料・参考図書は授業時に配布または紹介する。

【参考書】

小笠原正ほか「スポーツ六法」2011
 日本スポーツ法学会編「詳解 スポーツ基本法」成文堂

【成績評価の方法と基準】

- (1) 出席確認：毎時間確認する
- (2) 試験方法：レポート2編 80%
- (3) 評価基準：平常点（発表・学習態度を含む）20%
 (2 / 3 以上の出席が必要)

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントによる発表は好評につき今年度も実施します。

管理 ID：
1813435
授業コード：
M3090

LAW2001A

スポーツ法学Ⅱ

鈴木 知幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「スポーツ法学Ⅰ」において、スポーツ競技が成立するためのルールや規範を中心に展開されていることを受け、当該授業では、スポーツがもたらす社会的価値（教育効果、経済効果、地域効果等）や産業振興（プロスポーツ、レジャー、用品生産等）に作用している関係諸法令や諸規定、諸制度を学ぶ。加えて、体育・スポーツ活動による事故・事件の判例やインテグリティ（暴力・ドーピング・不祥事・不正行為・ガバナンス等）の発生事例について学ぶことで、受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係職（指導者、プロ選手、団体運営者、クラブ経営者）の職域をめざすために必要なマネジメント能力を習得する。

【到達目標】

スポーツ振興の社会的装置になっている関係法令（組織経営、行政執行、学校教育、施設管理、障害者対策、産業・ビジネス、プロ競技等）を学び、どのように作用しているかを理解できるようにする。また、特徴的なスポーツ事故の判例やスポーツ紛争を仲裁する機能の活動状況を学ぶことで、スポーツに関するリスクマネジメント能力やガバナンス能力を習得する。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京五輪）開催に向けた準備状況において、五輪憲章を始め、東京五輪開催に必要な法制整備について検証できる能力を身につける。もって受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係の職域において活躍できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ活動や振興策に関する法令や制度などの基本的知識に関する資料を自作し配布する。特に、五輪開催準備、障害者スポーツ、スポーツ教育、スポーツビジネス、産業振興等に関する法令や制度への関心度や認識度を確認しながら解説していく。また、スポーツ界がもたらす時事的諸問題（事件・事故、不祥事・トラブル等）に対して、受講生が問題意識を高めるよう質問形式で授業を進める。なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説、及び、授業進行や評価方法等に関する説明
2	スポーツ行政の変遷と行政組織に関する法令等	日本のスポーツ法令の変遷（明治以降）、省庁（文科省、国交省、厚労省）の法令・省令、地方自治体（都道府県、市区町村）の条例等
3	スポーツ基本法に関する重要事項	基本法成立までの変遷と、本法のスポーツ権解釈、スポーツ庁設置、及び、世界のスポーツ憲章との比較等
4	スポーツ振興策に関する法令等	文科省（JSC法、TOTO等）、地方自治体（プール条例、施設設置条例、学校開放条例等）、公共施設（PFI、指定管理者制度、公共サービス基本法等）
5	スポーツ団体に関する法令等	競技団体（JOC、NF、日体協）の規約等（寄付行為、競技規約、ガイドライン等）、法人格（公益法人法、NPO法等）

6	学校事故等に関する法令・判例等	スポーツ事故（国家賠償法、PL法、公務員災害補償法等）、事故判例（プール事故等）事故補償（共済給付見舞金制度等）
7	ハラスメント・ガバナンスに関する法令・判例等	暴力・体罰、ハラスメントの発生事案の法令と判例、NF組織のガバナンス等、ツーリズム事故（登山、スキー等）
8	スポーツイベントに関する法令等	国民体育大会（開催基準要項等）、経済効果（観光立国、ツーリズム、国際大会招致、地域マラソン等）
9	五輪憲章、アジェンダ2020等を通して、五輪開催に必要な法整備、制度設計等	受動喫煙の防止、性的マイノリティ等の人権保護対策、施設のバリアフリー基準等の対策と法整備の必要性
10	スポーツ紛争（仲裁）、インテグリティに関する法令・規則等	仲裁組織（スポーツ仲裁裁判所、日本スポーツ仲裁機構）と仲裁判例及び対策、八百長や無気力試合等の事案と対策
11	アンチ・ドーピングに関する法令（特に、日本初の反ドーピング法）・規程等	アンチ・ドーピング組織（WADA、JADA、IF、NF）と団体規程等、過去事案及び最新動向、東京五輪対策等
12	プロスポーツに関する契約等の法令等	プロ選手の法令（契約・協約、著作権、商標、意匠等）、プロ団体の法令（Jリーグ規約、プロ野球協約、反トラスト、独禁等）
13	スポーツビジネスに関する市場及び権利と法令等	産業（レジャー市場、イベント化、プロ化、フィットネス業界、用品業界等）、権利関係（肖像権、放送権、グッズ、知的財産権等）
14	授業内テストの実施	すべての配布資料を申込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツに関する法令や制度の改正、及び、新政策の発表、重大な事件・事故の発生等に関心を持ち、その概要を把握することが極めて重要である。また、スポーツ団体も、ルール改正、規約変更、ガイドライン作成等が必要に応じて発信している。したがって、適時、発信される行政の通達・通知、告知等の情報や、スポーツ団体の発表情報等を、報道等で確認し組織のHP等でチェックしていること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に、自作の資料（印刷物）を配布して講義を進行する。適時、直近に発生したスポーツ関係の出来事（事故・事件等）の報道記事を配布して解説する。

【参考書】

「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
「標準テキスト：スポーツ法学」日本スポーツ法学会監修（エイデル）
「新版：教養としての体育原理」大修館書店
「スポーツの法律相談」青林書院
「スポーツ六法」小笠原正他（信山社）
「スポーツガバナンス」笹川スポーツ財団編（東洋経済新報社）
「日本のスポーツ界は暴力を克服できるか」（かまがわ出版）
「商品スポーツ事故の法的責任」中田誠（信山社）
「スポーツ法への招待」道垣内正人 他（ミネルヴァ書房）
「スポーツ法危機管理学」藤原哲朗（エイデル研究所）
「判例法学と教育・スポーツ事故論」北側均（探究社）
「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正 他（不磨書房）
「Q&Aスポーツの法律問題」スポーツ問題研究会編（民事法研究会）
「スポーツ法」神谷宗之介（三省堂）

【成績評価の方法と基準】

配布した資料をすべて申込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、授業内テスト60点以上の得点を70%以内の評点とし、平常点の30%を評点化したうえで、その評点の合計点が60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケート結果及び授業内テストの結果を踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認して、改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業時に、資料を配布して講義するが、講義内容によって、パワーポイントやDVDを使用する。

【その他の重要事項】

本科目は、新しい法改正や制度改正や突発的な事件・事故等の発生によって、講義内容を変更及び順序の変動がある。また、法学は、専門性が高く範囲が広いため、一部の講義で、特定の分野に高い専門性を有する弁護士にゲスト講義を依頼する予定である。

SOC2001A

スポーツ取材論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ新聞の記者からフリーランスのスポーツライターとして、夏季・冬季五輪、またサッカーW杯などで現地取材行ってきた経験から、「取材」とは何かを講義し、スポーツジャーナリズムを支える「取材力」を考察する。取材における「5 K」とは何か考える。

【到達目標】

授業が終了したとき、取材とはジャーナリストのものではなく、実は身近な習慣、行動であること、また「読む側」「受け取る側」としても新たな知識を身につけ記事や報道を捉えられるようにしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

氷山の一角としての、大会での華々しいパフォーマンスだけではなく、日常のトレーニング、故障やスランプなど、パフォーマンスの水面下に潜む努力や困難をいかに掘り下げるかを紐解く「取材力」を学ぶ。新聞、映像を使いリアルタイムでスポーツ界のニュースを考察するほか、アスリートを授業に呼んで、実際に質問するなどの機会も作りたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ取材とは？	スポーツを観る（観戦）と見る（観察）の違い、聞くと訊く、感受性など、「五感」が必要とされる現場取材について。初回は、気になるスポーツ時事を扱う新聞記事、話題などをサンプルに概要を説明し、「自分が」話しを聞いてみたい選手など、アンケートをしてみる。
2	スポーツメディアの現状	アンケートをベースにして、新聞、スポーツ新聞、専門誌、雑誌の仕組み、さらにテレビのスポーツ報道、スポーツの分野において著しく台頭したインターネット、また、媒体を超えた、選手独自の発信（公式HP、ブログ等）時代の流れの中でメディアとスポーツはどう関わってきたか。
3	スポーツライティングへのアプローチ	「人間ドラマ」主流のスポーツ報道に問題はないか。客観性と主観性を支える取材の重要性について。
4	観察、取材、出稿	どのような材料を得るかがポイントになる。現場での取材、出原稿の流れから、実際に、読者が読む記事はどのように紙面に掲載されるのかを、プロセスから分かりやすく説明する。日常生活でも、観察、取材、メモ作成などは役に立つはず。
5	ミックスゾーン	「現場での取材」は、スポーツライティングを支える柱となる。試合後、選手の話しを聞くために設置される「ミックスゾーン」という不思議な空間について。その誕生、発展、実際の様子をビデオなどでこの現場を見せる。

6	インタビュー術	スポーツに限らないが、もっとも重要なインタビューをどう行うか。どんな話をどう選手から引き出すのか。聞くと訊く、の違いなどを実感するために、実際にインタビューをする体験時間を設けたい。
7	選手との信頼関係をどう構築するか	選手、関係者が発する「一言」の重み。独特の感覚の世界を文字に変えるまでの信頼関係やリスペクト、遠すぎても、近過ぎてもうまくいかない理想の距離感について。
8	新しい取材分野としてのサッカー	93年、サッカーJリーグの発展とともにスタートした比較的新しいスポーツメディアとなるサッカーには、今や日本代表戦ともなると300人以上が取材に来る。野球、ゴルフ、相撲、モータースポーツといった従来のプロスポーツとの違いや、「日本代表」という看板の作られ方。日本サッカー協会の仕組みなど、サッカーの現場について。
9	ワールドカップ、世界選手権、オリンピックの取材	ADカードの取得から、ホテル、交通手段、何より重要になる送信環境の確保、千人以上が集まる大会での取材現場の現状。
10	スポーツ取材の楽しみとは	トップアスリートの取材と同時に、彼らを支える関係者、家族、指導者らの取材を通して得る知識が記事を豊かにする。また、裏方と呼ばれる人々のプロフェッショナルな姿勢から学ぶもの。
11	独自の視点を持つ、磨く	スポーツ記事を書くことに特化しなくとも、「取材」という行為によって独自の視点、考え方を持つことが社会生活にも重要となる点を、新聞や雑誌を元にして学生に知ってもらおう
12	スポーツ取材の国際化	プロ野球はメジャーの現場に、サッカーはヨーロッパ、南米と舞台が広がる。語学だけではなく、文化、習慣などを理解したうえで取材が求められる新しい時代の取材。
13	スポーツ現場取材への準備	好きな選手、興味のある選手にどんな質問をして、何を明らかにしたいか、などを自分で検討したものを発表してもらおう。テレビや報道の中の選手像でも構わないし法大の選手、といった身近なテーマでも構わない。
14	スポーツの取材とレポート作成	できれば、現場での取材を行い、実際に「記事」を書いてみる。好きなテーマでもいい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：新聞を主に、必ずニュースをチェックし、自分の視点を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、身近にある題材について、新聞、雑誌など「媒体」から取り上げたい。映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼びたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし。

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年＝パラリンピック女子走り幅跳び・佐藤真海選手

10年＝サッカー元日本代表副主将・山口素弘氏

11年＝サッカーなでしこジャパンW杯優勝メンバー・GK山郷のぞみ選手

12年＝陸上女子ハンマー投げ、円盤投げ日本記録保持者・室伏由佳氏

13年=サッカー「なでしこリーグ」INAC神戸専属トレーナー&澤穂希コンディショングトレーナー・山田晃広氏
14年=サッカー「なでしこジャパン」狭山ASGK・山郷のぞみ選手
15年=陸上女子ハンマー・円盤日本記録保持者、現解説者・室伏由佳氏
16年=リオデジャネイロ五輪競泳銅メダリスト・星奈津美氏
17年=リオデジャネイロ五輪 400 Mリレー・銅メダリスト 飯塚翔太氏

ECN2001A

スポーツ産業論

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位
 曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ産業には、スポーツ用品産業、スポーツサービス産業、スポーツ施設産業、およびそれらの複合領域であるスポーツ関連流通業と施設・空間マネジメント業が含まれる。本講義ではこれらの産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学ぶ。

【到達目標】

スポーツ産業で事業に携わる者は社会情勢やトレンドを踏まえながら、スポーツという文化的活動を産業化させていかなければならない。受講後、履修者は以下の点について説明することができるようになる：

- (1) スポーツ産業の構造および現状
- (2) スポーツ用品産業、施設産業、サービス産業、メディア産業の市場規模および特徴
- (3) 米国大学スポーツの歴史の変遷、概要、産業規模
- (4) スポーツ産業のサービス産業化の中で成長を遂げるスポーツイベント業、スポンサーシップ、スポーツツーリズムなどの概念、仕組み、特徴

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はテキスト（スポーツ産業論、第6版）を用いてスポーツ産業について総合的に学習する。授業は講義形式であり、受講者は事前に指定された章を読んで授業に参加する。毎回の講義の最初に発表される学習課題について深く考えながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ産業の構造と現状	20世紀後半に急速な発展を遂げたスポーツ産業の歴史の変遷、構造、現状について学習する。
第2回	スポーツ用品産業	スポーツ用品産業の市場規模と流通構造について学習するとともに、近年「製造業、卸売業、小売業」の三層構造に生じた業態変化について理解を深める。
第3回	スポーツ施設産業	日本を代表するスタジアムやアリーナを例に、スポーツ施設産業の現状、施設整備の方法、現在抱える問題について学習する。
第4回	スポーツサービス産業	スポーツプロダクトのサービス特性を理解するとともに、スポーツサービス産業の中でも特にフィットネス産業に着目し、市場規模および事業の特徴について学習する。
第5回	スポーツとメディア産業	スポーツに関連するメディア産業の体系と経済規模を踏まえた上で、人々がメディアを通じてスポーツとの関わりを深める現状について学習する。
第6回	日本のプロスポーツビジネス	日本のプロスポーツを代表するプロ野球とJリーグを例に、プロスポーツビジネスの収入構造、支出構造、プロダクト特性について学習する。

第7回	米国のプロスポーツビジネス	米国には4大メジャーリーグと呼ばれるプロスポーツがある。本授業ではその概要や集客力に加え、独自の戦力均衡策や地域との関係について学習する。
第8回	米国のカレッジフットボールビジネス	米国の大学スポーツは一大産業であり、その中でも特に成功を収めているのがカレッジフットボールである。その統括団体であるNCAAの役割と構造に加え、カレッジフットボールの成長の背景について学ぶ。
第9回	米国のカレッジバスケットボールビジネス	米国のカレッジバスケットボールは日本の甲子園に似ていると言われる。毎年3月になると全米中を熱狂させる大学バスケの歴史の変遷、概要、産業規模について理解を深める。
第10回	サービス業としてのスポーツサービス	成熟社会では経済活動の中心がモノ（有形財）からサービス・経験（無形財）へと移行する。本授業ではスポーツビジネスにおけるサービスの役割を理解するとともに、スポーツプロダクト、ブランド、関係性の提供を通じた価値の創造について学習する。
第11回	参加型スポーツ産業	わが国において、毎週スポーツを実施している人の割合は約4割である。本授業ではスポーツの実施状況に加え、こうした「するスポーツ」の事業化がスポーツ振興とどのように関わっているか学習する。
第12回	スポーツツーリズム	スポーツイベントの開催では、開催都市に大勢の参加者や観戦者が集まることから観光業としての役割がある。ここではスポーツツーリズムの概念、仕組み、そしてスポーツツーリストの特徴について学ぶ。
第13回	スポーツスポンサーシップ	世界のスポンサーシップ市場の約7割をスポーツが占める。企業がスポーツへの協賛を通じて商業活動を行うスポンサーシップについて、市場規模、協賛の仕組み、スポンサー獲得のプロセスについて学ぶ。
第14回	スポーツと社会的責任	多くのスポーツチームや選手たちが東日本大震災の被災地復興支援に取り組んでいる。スポーツ界だからこそ果たすことのできる社会的役割があり、これはスポーツ組織の社会的責任と深く関係している。今回はその概念規定、種類、特徴について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（スポーツ産業論、第6版）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第6版）。杏林書院：東京。

【参考書】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：40点
 期末試験：50点
 米国の大学スポーツに関するレポート：10点
 合計：100点

【レポートの評価基準】

10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
 8点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
 6点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

管理 ID：
1813433
授業コード：
M3070

4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。

2点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

履修者がリフレクションシートに記入した疑問や質問について、授業内で議論したいと思います。

【その他の重要事項】

テキストに沿って授業を行います。2週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

SOC3001A

スポーツジャーナリズム論（新聞）

荻田 則夫

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
 曜日・時限：火・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアから伝えられるスポーツ情報は多種多様だ。スポーツに関わる人間なら、情報の真実、情報伝達の過程、伝えられたファクトの背景にまで思いを寄せることが重要だ。長年、五輪を中心としたスポーツ報道に携わってきた講師とともに、新聞を中心としたスポーツ報道全体を考察する。

【到達目標】

新聞以外にも雑誌、放送、ネットには氾濫するスポーツ情報の現状を把握し、メディアの特質を理解する。スポーツに関わる人間として情報を取捨選択し、スポーツの本質を正しく分析する能力を備える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

メディアのスポーツ報道を五輪、野球、相撲などのメジャー競技、あるいはマイナー競技などの項目別に点検。国際情勢や社会現象との関連にも注意を払いながら、スポーツジャーナリズムの現状と課題を探る。スポーツを文章で伝える基礎的技術にも触れる。講義の順番、内容は変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツジャーナリズム論序章	授業概要の説明。「スポーツ」を学ぶ学生として、スポーツ情報を取り入れる際の基本姿勢を考える。
2	スポーツ報道の特性	新聞、雑誌、放送、デジタルメディアにおけるスポーツ報道の特性を分析する。
3	新聞におけるスポーツ報道	スポーツ報道の「王道」であった新聞報道の変遷。スポーツ新聞の成長と衰退。
4	スポーツ報道と通信社	世界のスポーツ情報の多くは通信社によって拡散してきた。スポーツ報道における通信社の役割と記録報道の重要性。
5	新聞におけるスポーツ報道の各種パターン	ストレートニュース、雑感記事、囲み記事、解説、コラムなどの新聞のスポーツ記事の定型を知り、優れたスポーツ報道を探る。
6	プロフェッショナルの視点	スポーツの何を伝えるか。ジャーナリストに求められるスポーツの見方、伝え方を考える。
7	取材方法論	優れた報道の基礎は取材にある。スポーツの本質への理解と競技場外での取材の蓄積が重要だ。制約の多いスポーツ取材の仕組みも知る。
8	インタビュー論	報道に厚みを増すインタビュー。競技場内外での会見、インタビューの現状を知ったうえで、本音を引き出すインタビュー手法を探る。
9	オリンピック報道	スポーツ界最高峰のイベントは、報道の面でも高いレベルで速報、情報量、情報の質を競い合う。五輪報道を考察する。
10	野球報道とサッカー報道	日本のスポーツ報道の原点は野球にある。欧州では五輪以上の関心を集めるサッカー報道。新聞の拡販とも関係する人気競技の報道を検討する。
11	報道におけるマイナーとメジャー	注目されないマイナー競技をめぐる報道の論理。伝えるべきニュース素材とは何か。
12	スポーツ報道実践研究	基本的なスポーツ記事の作成ノウハウを理解する。次回に向けて課題を提示し、それぞれに素材を集めてくる。
13	レポート作成	前回の課題に従い、収集してきた素材を基に与えられた時間内にレポートを作成する。

14 総括

スポーツ報道の見方がどう変わったか？ 現状のメディアへの意見は？ これまでの講義内容を自由な観点から総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアのスポーツニュース、特に新聞報道を日常的に注意深く見る、読む。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じレジュメを配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講座内で作成するレポートの内容（60%）、普段の受講時の意見表明などの受講姿勢（40%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：1826664
 授業コード：M3120

SOC3001A

スポーツジャーナリズム論（放送）

佐塚 元章

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

報道、歴史観、社会正義、批評性、啓蒙性などをジャーナリズムの本質とするならば 日本のスポーツジャーナリズムはそれらを追求する存在として発達してきたのか。とりわけ放送メディアがスポーツジャーナリズムとして歴史的にどう評価されるのか、現代社会に如何に貢献し、影響力をもっているのかを考える。2020東京オリンピック・パラリンピックの報道については常にジャーナルな視点から関心を持たせる。

【到達目標】

スポーツジャーナリズムというテーマを軸に 様々なメディアから情報を収集し、その情報の普遍化、客観化の能力を身につける。さらに判断する力 自己の考えを確立する。それらを言語化し、仲間発表・表現に至ってゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本講義に加えて、ビビッドな今日のニュースを随時教材として取り上げ、常に学生に問いかけ、発表させながら授業をすすめていく。収集している映像、音声資料をふんだんに使用する。自ら現役として現在制作・オンエアしている多様な番組の生の現場体験を伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ジャーナリズムへの誘い	自己紹介、授業のオリエンテーション。成績評価の考え方を説明する。ジャーナリズムとは何か、SNS時代におけるマスメディアの現状を認識をする。学生諸君のメディア接触傾向のアンケート調査をおこなう。
2	マスメディアの歴史と特質そして今後は	新聞・ラジオ・テレビの発達の歴史、社会の役割を学ぶ。ネット時代における新聞・ラジオ・テレビはどのような存在となるのかを展望し、メディアアクセスの在り方を考える。
3	日本と世界の放送体制の比較研究	日本はNHK・民放の並立体制、アメリカは商業放送など様々である。放送の公共性とは何か、放送法の基本理念とはなにか、放送界の基礎知識を学ぶとともに現行制度の課題を解説する
4	マスメディアのスポーツ報道の歴史	新聞・ラジオ・テレビのスポーツ報道の歴史をたどりながら、戦争・戦後復興・災害復興など社会史とスポーツのかかわりを学ぶ。
5	スポーツ放送の現場とは	スポーツ放送の3本柱である中継、ニュース、番組はどのような歴史を歩んできたのか。それぞれのスポーツ放送を作る仕組み、取材方法、制作体制、番組提案、実況アナウンサー、スポーツキャスターとは何かなど放送現場の実際を解説する。 教材 NHK「スポーツ実況80年」ほか

6	スポーツを見るジャーナルな視点とは	スポーツジャーナリストにとって大切なことはいかなる視点をもってスポーツを見るかである。それにはスポーツとは何かという根源的な問いかけがまず必要である。そして正しい歴史観に基づく価値判断が生まれる。2回にわたってスポーツを見る視点とは何かを考える。またそのための取材・事前準備のあり方も解説する。 (その1) ゲームを読み解く(試合前取材、分析、予想、試合の分岐点、勝因敗因、技術・戦略采配を批評する) (その2) 大会を読み解く(オリンピック、夏の甲子園大会、ラグビー大学選手権など大会全体を講評する。かつシーズン全体を講評する)。
7	放送とスポーツの関係	スポーツ興隆は放送によってもたらされ、また放送通信技術はスポーツ放送が契機となって発展してきた。放送はスポーツに何をもたらしてきたのかを考える。また多額の放送権料などが逆にスポーツの本質をゆがめていないか、放送とスポーツの関係の問題点にせまる。 教材「NHK特集 テレビはオリンピックをどう変えた」の視聴など
8	スポーツドキュメンタリーを読み解く(1)	スポーツドキュメンタリーの制作過程を解説する。名作と言われる作品を視聴し番組の視点を探しながら深く読み解く感性を身につける。 (その1) ラジオドキュメンタリーを読み解く 例 NHKラジオ「聖火は再び」などを聴く
9	スポーツドキュメンタリーを読み解く(2)	(その2)「江夏の21球」「スポーツイノベーション・データ革命」など国内のドキュメンタリーの秀作を視聴する
10	スポーツドキュメンタリーを読み解く(3)	(その3) BBC制作「ラオス少年無心にボールを追って」など「海外スポーツドキュメンタリーの秀作」を視聴する
11	君がスポーツについてプレゼンテーションしてみよう	学生諸君がスポーツのあり方についてジャーナルな視点からテーマを決めて授業で発表する。 (発表例) 大学陸上部における箱根駅伝の存在 地域型スポーツクラブ経営に参加して東京六大学野球の現状と課題 (教材) 2020東京五輪招致IOC総会プレゼンテーション 内容の指導はもちろん現役アナウンサーとしてプレゼンテーションの基本・取材・構成・演出など人に「伝える」方法を指導します。
12	スポーツジャーナリズムは社会にいかん貢献すべきかを考える	ますます多様となるメディア環境の中で中継・ニュース・番組を3本柱とするスポーツ放送はいかにあるべきかスポーツジャーナリズム全体はいかにスポーツの振興、社会に貢献すべきか考える。
13	放送番組企画提案を作ってみよう	学生諸君が講義を通じてジャーナルな勉強をした上で実際に放送局のディレクターになったつもりで自分の関心のあるスポーツの出来事、興味あるスポーツ人へのインタビューなどの番組を企画してみよう。提案票の書き方の方法論もいっしょに勉強します。
14	試験とまとめ	講義からの出題 レポート形式・提案票の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

映像、音声などの素材を随時使用します。毎週講義の進め方・参考資料などのプリントを準備します。

【参考書】

放送業界の動向とカラクリがよくわかる本（秀和システム 中野明著）
放送の20世紀（NHK放送文化研究所編）
NHKのそこの知りたい（NHK広報局編）
IT全史（祥伝社 中野明著）

メディアスポーツへの招待（ミネルヴァ書房）
放送制度概論（商事法務 鈴木秀美・山田健太）
日本スポーツ放送史（大修館書店 橋本一夫著）
スポーツ映画大全集（洋泉社）
J O A オリンピック小辞典（日本オリンピックアカデミー編著）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業最後に提出を求める感想レポートから講義の理解度を確かめます（50 %）。

最終週にレポート形式の試験をおこないます（50 %）。以上の内容を総合的に判断し 評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の全14回の授業が論理的に流れていないかもしれません。これは「放送」という極めて社会の動きと直接かかわっていることを授業テーマにしているからです。ビッグニュースが発生すれば 予定講義を変更してその問題を急速 生きた教材として優先することがあるからです。（例 大相撲巡業不祥事・ドーピング違反薬物混入事件・野球界にとって星野仙一を失った意味など）

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント・DVD・VHS・カセットプレーヤーなど

【その他の重要事項】

特になし

ECN3001A

スポーツ政策論

鈴木 知幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：金・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本のスポーツ政策の潮流と、欧州諸国のスポーツ政策を学んだうえで、平成23年に策定された「スポーツ基本計画」と、平成28年に改正された「第2期スポーツ基本計画」における具体的施策を習得するとともに、さらに、スポーツ庁等が政策化した「スポーツ産業化政策」の内容を学ぶ。また、文部科学省及び地方自治体のスポーツ施策方針への反映やスポーツ団体の動向等を学ぶ。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下、東京五輪）開催に向けた準備状況を逐次観察しながら、成功に向けた政策課題について学んでいく。

【到達目標】

国及び地方自治体のスポーツ振興策が、これまでどのような経緯をたどり、現状に至っているかを学ぶことで、行政が推進するスポーツ政策の課題を把握する。特に、スポーツの社会的装置である「ひと」「もの」「かね」にどのように反映され、今後、どのような政策に重点を置くべきかを習得する。「ひと」は、指導者、組織運営者、政策企画及び執行者等、「もの」は、スポーツ施設の老朽化・耐震性、設備・備品の考え方等、「かね」は厳しい行政財源を踏まえ、管理・運営のアウトソーシング手法を学ぶ。特に、東京五輪の成功に向けた取り組みを通じて、大会後のレガシーを目指す政策のあり方を理解できることを考える。もって受講生が、将来、教職や行政職をはじめ、スポーツ関係の職域において活躍できる基礎知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ政策に関する経緯、法令や制度等の基本的知識を踏まえつつ、常に発信される国や地方自治体の調査結果（意識調査、需要調査、測定調査等）や政策方針（審議会答申、通達・通知、予算要求等）を適時とらえて解説する。さらに、JSC、日体協、JOC、各競技団体等のスポーツ関係団体が発するスポーツ推進策を解説するとともに、社会的貢献事例（教育支援、災害復興、地域貢献、国際評価等）を活用して授業を進めていく。なお、時事情報や問題発生によって講義の内容変更や順序変動があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の位置付けや意義、重要性の解説、及び、授業進行や評価方法等に関する説明
2	日本及び世界のスポーツ政策の歴史と国及び地方自治体のスポーツ振興計画等	日本のスポーツ政策の経緯と世界のスポーツ政策（スポーツ憲章、ドイツゴールデンプラン等）
3	「スポーツ基本法」と「第2期スポーツ基本計画」にみる主要提言と政策課題	文科省の政策（各審議会答申、国家戦略、基本計画等）、地方自治体の政策（審議会答申、スポーツプラン等）

4	オリンピック憲章を基に東京五輪の準備策と成功への課題検討	オリンピックに基づく五輪開催の価値、大会後のレガシー創造、選手法案等
5	「スポーツの産業化政策」の主題である「日本版NCAA」の解説と課題検討	大学スポーツを産業化することの必要性と効果を解説し、その課題を検証する
6	「スポーツの産業化政策」の主題である「スタジアム・アリーナ改革」の解説	国が進めるスポーツ産業化改革案の課題と目的を解説し、その課題を検討する
7	スポーツイベント、スポーツツーリズムによる地域活性、経済効果	国民体育大会の潮流と価値、各種競技大会や市民マラソン大会の開催、国際大会の誘致、ツーリズムの活用等
8	障がい者に対するスポーツ政策とパラリンピック開催に関する現状と課題	障がい者スポーツの潮流と現状、障がい者指導者・団体の現状と課題、パラリンピックの政策課題
9	総合型地域スポーツクラブ育成事業が目指す社会的効果	ドイツのクラブ社会、日本型クラブ社会の創造、広域スポーツセンターの役割、クラブ社会の意義と課題
10	運動部活動の制度変遷と問題点、及び今後進める制度改革の評価	「外部指導委員」と「活動時間の制限」の制度化が及ぼす効果と問題点を考察
11	スポーツ政策を支えるボランティア、公益法人等の現状と課題	ボランティア育成、NPO法人、公益法人の寄付税制活用、寄付支援社会の創造
12	学校体育施設の開放事業に期待する社会的効果	学校開放の法的根拠、審議会答申等の経緯と振興策、学校開放事業の現状と課題、学校施設機能の変遷
13	公共スポーツ施設の維持・管理に関するアウトソーシング	公共施設の現状と課題、事業マネジメントと施設管理のPFI、指定管理者制度等
14	授業内テストの実施	すべての配布資料を持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認する記述式テストを実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ政策は、国（文科省をはじめ国交省、厚労省、経産省、総務省等）や地方自治体（都道府県、市町村等）、及びスポーツ関係団体（日体協、JOC、JSC、各NF、笹川スポーツ財団等）から発信される政策、施策、答申、提言、通達・通知、調査結果、研究等に関する情報等を、報道や組織のHP等で常にチェックしていること。今年度は、特に、東京五輪関係の情報を常時確認

【テキスト（教科書）】

毎授業時に、自作の資料（印刷物）を配布して講義を進行する。適時、スポーツ政策に関する報道記事を配布して解説する。

【参考書】

文科科学省のHP（法改正、審議会答申、有識者会議、通達・通知、年度予算等）
 都道府県のスポーツ行政部署（主に教育委員会）のHP（条例、審議会答申、長期計画、ガイドライン、年度予算等）
 「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）
 「スポーツ白書」「スポーツライフデータ」笹川スポーツ財団発行
 笹川スポーツ財団のHP（研究調査、政策提言、研究レポート）

【成績評価の方法と基準】

授業中に配布した資料をすべて持込み可として、講義テーマの重要点の理解度を確認するために記述式の授業内テストを実施する。成績評価の方法は、授業内テスト60点以上の得点を70%以内の評点とし、平常点の30%を評点化したうえで、その評点の合計点が60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケート結果及び授業内テストの結果を踏まえて、講義内容が学生の理解水準に合っているかを確認して、改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

毎事業時に、資料を配布して講義するが、講義内容によって、パワーポイントやDVDを使用する場合がある。

【その他の重要事項】

本科目は、社会学の分野であり、例えば、行政政策の変動や社会的问题の発生など、重要な時事問題等の発生によって、講義の順序や内容の変更がある。

ECN3001A

スポーツビジネス論Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID: 1813442
授業コード: M3190

スポーツビジネス論Ⅲでは企業がスポーツに協賛するスポンサーシップについて学ぶ。受講者はスポーツとスポンサーシップの密接な関係性の分析およびスポンサーシップの戦略的販売方法の学習をとおして、スポーツ組織がスポンサーを獲得する仕組みについて理解を深めることが目的である。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

- (1) スポーツスポンサーシップの定義を説明できる。
- (2) スポーツスポンサーシップにおいて協賛企業が期待できる効果を説明できる。
- (3) スポーツスポンサーシップにおいてスポーツ組織が期待できる効果を説明できる。
- (4) スポンサー企業と協賛対象の間の整合性の重要性について説明できる。
- (5) スポーツ組織と協賛企業の双方にとって有益かつ持続可能なスポンサーシップ契約の企画書を作成し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツスポンサーシップについて理解を深めていく。また、受講者はグループに分かれてスポンサーシップの企画書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツスポンサーシップの基礎的理解	スポーツスポンサーシップの定義、誕生および発展の背景、現在の市場規模について学習する。
第 2 回	スポンサーシップの種類	企業がスポーツに協賛する代表的なものとして、チーム、リーグ、選手、試合、施設を取り上げ、それらのスポンサーシップの事例および特徴について学ぶ。
第 3 回	スポンサーシップを通じたマーケティング活動	スポーツスポンサーシップを通じたマーケティング活動について、スポーツ組織と協賛企業の両方の視点から理解する。
第 4 回	スポンサーシップにおける消費者の意思決定過程	スポーツイベントの参加者や観戦者が協賛企業を認知し、興味を抱き、実際に製品やサービスを購入するまでにはいくつかの段階がある。ここでは消費者の意思決定過程に着目し、スポンサーシップの効果について考える。
第 5 回	「スポンサーシップ」対「広告」	スポンサーシップにおける企業の宣伝活動は間接的かつ支援的であるのに対し、広告における企業の宣伝活動は直接的かつ説得的である。こうした違いを学ぶとともに、スポンサーシップが発展してきた背景についても広告との違いから理解する。
第 6 回	アスリート・エンドースメント	プロスポーツや国際試合で活躍する選手は使用しているスポーツ用品の推奨者としての役割を持つ。彼らは試合以外の場面でも、車、腕時計、嗜好品などを推奨している。今回はアスリートが製品を推奨するエンドースメントについて学ぶ。
第 7 回	スポンサーシップにおける整合性	企業のイメージが協賛するスポーツ関連の対象のイメージと一致している度合いのことを整合性と呼ぶ。本授業では整合性の種類、役割、高め方などについて学習する。
第 8 回	スポンサーシップのアクティベーション	スポンサーシップを活性化させ、効果を高める工夫のことをアクティベーションと呼ぶ。今回の授業ではアクティベーションの概念、種類、特徴を、スポンサーの種類と併せて理解する。

第 9 回	スポンサーシップにおけるプラットフォーム	スポンサー企業が同業種の競合相手から差別化を図り、マーケティング目標を達成するためには、どのようなプラットフォームを選ぶべきかという問題について理解を深める。
第 10 回	スポンサーシップの企画書	スポーツ組織が企業に協賛を提案する際に作成する企画書の構成、内容、注意点について学び、実際にグループに分かれて企画書の作成に取り掛かる。
第 11 回	価格設定	企業がスポーツ組織に支払うスポンサー料金は露出方法、アクティベーションの度合い、契約年数などによって異なる。ここではスポンサー料金の価格設定について学ぶ。
第 12 回	スポンサーシップの評価：メディア露出と認知度	スポンサーシップは寄付ではない。企業は支払ったスポンサー料に対してマーケティング目標の達成を期待する。本授業ではこの費用対効果を説明する評価方法について、特にメディア露出と認知度の形成の観点から学ぶ。
第 13 回	スポンサーシップの評価（イメージ、購買への影響）およびソーシャルスポンサーシップ	スポンサーシップの評価について、イメージの向上と購買行動の観点から学習する。授業の後半ではスポーツへの協賛活動を通じて社会問題の解決するソーシャルスポンサーシップについて理解を深める。
第 14 回	アンブッシュマーケティングへの対応	スポンサーシップ契約を正式に結んでいない企業が、特定のイベントに関連づけて商業活動を行うことを「アンブッシュマーケティング」と呼ぶ。ここではスポンサーシップの倫理的問題と対応策について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の課題として、企画書の作成を行います。同じ班のメンバーと協力して企画書を作成してください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング。ミネルヴァ書房。
Howard, D. R., & Crompton, J. L. (2004) Financing sport (2nd ed.). Morgantown, WV, Fitness Information Technology, Inc.
Mullin, B.J., Hardy, S., & Sutton, W.A. (2007). Sport marketing (3rd ed.). Champaign, IL: Human Kinetics.

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：30 点
期末テスト：40 点
スポンサーシップの企画書の作成：30 点
合計：100 点

【企画書の評価基準】

スポーツ組織の紹介、スポンサー権のリスト、スポンサーのマーケティング目標などを含む 10 項目の観点のそれぞれについて、以下の 5 段階で評価し（5 点 × 10 項目 = 50 点）、30 点満点への換算する：

- 1 点：授業の内容を踏まえている
- 2 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら説明している
- 3 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられている
- 4 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられており、課題に対して合理的な説明が展開されている
- 5 点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分たちの独自の視点が加えられており、さらに課題に対して合理的な説明を行い、論旨を明確に伝えることができている

【学生の意見等からの気づき】

授業で理論を基に、履修者がより深く考えるように進めていきます。企画書の作成では余裕をもって準備できるように計画的に支援します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

配布資料に沿って授業を行います。2 週目以降は事前に指定された読み物を読んでください。

SOC300IA

スポーツイベント論

吉田 政幸

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではスポーツイベントに参加するスポーツ消費者について学ぶ。受講者はスポーツ消費者の心理的、行動的特性に関する重要概念や理論を学習することで、スポーツ組織がスポーツ消費者との関係性を強めながら経営目標を達成する方法について理解を深める。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

- (1) スポーツ消費者の定義を説明できる。
- (2) 参加型スポーツの消費者の特性を説明できる。
- (3) 観戦型スポーツの消費者の特性を説明できる。
- (4) スポーツ消費者の満足度、顧客ロイヤルティ、顧客価値を説明できる。
- (5) スポーツ消費者によるコミュニティ形成と社会支援を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式であり、受講者は配布資料の空欄に入るキーワードを埋めながらスポーツ消費者行動について理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツ消費者とは	スポーツ消費者の定義と類型について学習する。
2	スポーツ消費者行動モデル	スポーツ消費者の特性および意思決定過程について学ぶ。
3	参加型スポーツの消費者	参加型スポーツの消費者の心理的、行動的特性について、スポーツ関与やエスカレーターモデルなどの視点から理解を深める。
4	観戦型スポーツの消費者：心理的連続モデル	観戦型スポーツ消費者の類型について学習するとともに、彼らの意思決定過程を説明する代表的な考え方の一つである心理的連続モデルについて学ぶ。
5	観戦型スポーツの消費者：観戦動機	人がスポーツを観戦することで充足するニーズについて、いくつかの動機理論とともに理解を深める。
6	観戦型スポーツの消費者：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者が好みのチーム、種目、選手などとの心理的つながりを通じて形成する社会的アイデンティティについて学ぶ。
7	スポーツ消費者の顧客満足	スポーツは試合において誰が勝者になるか明確に予測できない。このような特性を帯びたスポーツという製品と顧客満足の関係性について学習する。

- | | | |
|----|-------------------------|--|
| 8 | スポーツ消費者の顧客ロイヤルティ | スポーツ消費者の顧客ロイヤルティは態度的側面と行動的側面の二つから成る。ここでは顧客ロイヤルティの概念的構造、役割、スポーツビジネスへの応用について考える。 |
| 9 | スポーツにおける顧客価値の創造 | 顧客価値の考え方の背景にある顧客中心の論理を学ぶとともに、顧客に価値を提供する際に欠かすことのできない製品の価値とブランドの価値の内容について理解を深める。 |
| 10 | スポーツマーケティングと経験価値 | スポーツイベントがスポーツ消費者に提供する「経験の価値」の考え方、構造、役割について学ぶ。 |
| 11 | スポーツ消費者と関係性マーケティング | 関係性パラダイムの中でスポーツ消費者行動を捉え、関係性マーケティング、顧客関係管理、ロイヤルティプログラムなどについて学習する。 |
| 12 | スポーツ消費者とインターネット | インターネット上のスポーツ消費者行動に関して理解を深めるため、ソーシャルメディアやeクチコミなどの視点からスポーツ消費者行動を学ぶ。 |
| 13 | スポーツ消費者の社会的役割 | スポーツ消費者が形成するコミュニティについて理解を深めるとともに、同じコミュニティのメンバーを支援する向社会的行動について考える。 |
| 14 | スポーツビジネスによる社会支援とスポーツ消費者 | 人々が他者から有形資源（金銭や物資）や無形資源（社会参画の機会や援助）を受ける社会支援とスポーツの関係について学習し、その中でもスポーツ消費者の心理的回復に関する理解を深める。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者はテキスト（よくわかるスポーツマーケティング、ミネルヴァ書房）の指定された章を読み、内容について予習するとともに、予め疑問や感想をまとめて授業に出席するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

仲澤眞・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング、ミネルヴァ書房。

【参考書】

原田宗彦（編）（2015）スポーツ産業論（第6版）、杏林書院：東京。

【成績評価の方法と基準】

学期前半の内容に関する小テスト：40点

期末試験：50点

スポーツ消費者の社会的アイデンティティに関するレポート：10点
 合計：100点

【レポートの評価基準】

10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができています。

8点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。

6点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。

4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら書いている。

2点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

授業で理論を基に、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【その他の重要事項】

テキストに沿って授業を行います。2週目以降は事前に指定された章を読んできてください。

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3~4 年次 / 3 単位

曜日・時限：月・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、実習を通じて、マーケティングリサーチの基礎となる知識について学ぶことにより、スポーツビジネスにおけるリサーチの実践的な能力を身につける。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握（日本におけるプロスポーツサーベイの実態から）、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。調査は、プロスポーツの観戦者などを対象とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ
3	調査課題の立て方①	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える
4	調査課題の立て方②	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる
5	調査課題の立て方③	第4回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う
6	調査の種類①	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ①
7	調査の種類②	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ②
8	定量調査①	定量調査とは何かを学ぶ
9	定量調査②	第5回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる
10	定性調査①	定性調査とは何かを学ぶ

11	定性調査②	第5回、第9回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する
12	定量調査の実践	第9回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する
13	定性調査の実戦①	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る
14	定性調査の実戦②	インタビュー調査の実施
秋学期		
回	テーマ	内容
15	まとめ	調査結果まとめをグループで発表する
16	スポーツに関する調査の概観①	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる
17	スポーツに関する調査の概観②	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える
18	調査課題の設定①	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する
19	調査課題の設定②	第18回の結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する
20	事前調査の実施①	第19回の結果をもとに、プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる
21	事前調査の実施②	第20回について、発表し、ブラッシュアップをはかる
22	定量調査の設計①	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う
23	定量調査の設計②	第22回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
24	定量調査の実施①	第22回で行った調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる
25	定量調査の実施②	フィールドで調査を実施する
26	調査の集計、分析①	フィールド調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶ
27	調査の分析②	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する
28	調査の分析③	エクセルなどにより調査の分析を実施し、仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第2~15回：フィールドでの調査については、別日程で開催する可能性があります。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査計画・実査への参加（60%）・分析・レポート（40%）などを総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

SOC100IA

トッパアスリート論

増島 みどり

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロサッカー、野球、オリンピックの金メダリストや世界記録保持者といったトッパアスリートたちが生み出す高度なパフォーマンスを支える「心・技・体」、さらに必要となる要素を自分たちで検証していく。

【到達目標】

トッパアスリートの競技への姿勢、哲学を学ぶことで、彼らをより身近に感じ、一方敬意を持ち、自分の生活、生き方へのヒントとして何かを得ること。18 年は、サッカーW杯ロシア大会等が行われる。選手をメディアからの情報だけでなく多角的に観られるようにするのも目標

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

一流を超えた「超」一流選手たちの思考、技術、肉体へのこだわりなど内面を、これまで実際に取材した各競技のトッパアスリートたちを教材に、時には彼らをゲストに呼んで授業を行ってもらい、「トッパアスリート」の生き方を自分のものとして感じられるように学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	スポーツとは？	スポーツに関時勢の話題、総論に触れる
2	トッパアスリート考察	アンケートをベースに、授業出席者の自己紹介、「トッパアスリート論」についての考察などをディスカッションする。それぞれが思うトッパアスリートを発表してもらう。
3	トッパアスリートの「心技体」	世界選手権、オリンピックでのメダリスト、世界記録保持者などをあげながら、女子柔道・谷亮子選手はそこから進んだ新時代のトッパアスリートを定義している。ここではトレーニングの独自性も考える。
4	トッパアスリートの生い立ち	メダリストや世界記録保持者となる選手たちの誕生と、家庭環境、親の熱心さや、指導者との出会いなど。
5	2代に渡るトッパアスリート	特に、男性に多い、父の競技を選択する選手たちのパフォーマンス。ここでは室伏重信、広治親子など、2代競技者を考える。

- | | | |
|----|---------------------|---|
| 6 | 女性アスリートの台頭と活躍 | 日本における女性選手の誕生や活躍、その歴史を、人見絹枝さんを主題にして考察。女子マラソン、女子柔道の五輪正式競技加入で一気に進化を遂げた1980年代から、女子選手が男子を上回るメダルを獲得する2000年後半までの歴史と進歩の詳細について。2016年W杯で連覇を狙うまでしこジャパン躍進の歴史と背景、現状なども。 |
| 7 | オンリーワン思考と技術 | 日本のスポーツ世界における、技術レベルの高さ。特許庁に文化財産としてのスポーツ選手の技術を登録するとしたら？ 学生に提案してもらおう。 |
| 8 | 怪我とリハビリ、復帰への道程 | 一度トップに立った選手が選手生命にかかわる怪我をし、その後復帰し、さらに活躍するまでに至る、医学的サポートや選手のメンタル、フィジカル。 |
| 9 | オリンピックムーブメント | IOC（国際オリンピック委員会）、JOC（日本オリンピック委員会）の構造や、スポーツにおける政治的バランスや、2020年招致決定へのプロセス、開催までの準備期間など、スポーツの舞台裏を学ぶ。 |
| 10 | トッパアスリートを支える環境 | 不況による影響を受けながらも、個人差はあるものの、どういった環境下で、資金や人員をどう確保、提供を受けながらトレーニングを続けるか。支援の背景を具体的に。 |
| 11 | トッパアスリートのメンタルトレーニング | 大舞台になればなるほど力を発揮するという精神的構造の分析。 |
| 12 | 薬物問題とパフォーマンス | 過去の事件と最近の事例などから、必ずしも幸福な結果だけでは終らない、アスリートの欲望や間違ったコーチの存在など、薬物問題そのものも知識として得てもらおう。 |
| 13 | トッパアスリート長寿の理由 | 近年、30代、40代の選手が増えている。背景と彼らの生活、こだわりと、社会への影響力を考えよう。 |
| 14 | グループでの討論、発表など | グループでの討論、発表など |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2~14回：新聞を読む。ニュースの中でもトッパアスリートについて情報を持って授業に臨む。

【テキスト（教科書）】

教材は、トッパアスリート自身で、記事、映像などは随時選択、ゲストスピーカーも呼び新たな発見の機会を作りたい。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、授業での意欲、レポートの3点での総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

未実施のため、特になし

【その他の重要事項】

※過去のゲストスピーカー

09年=サッカー元日本代表・名波浩氏

10年=バルセロナ五輪女子マラソン銀メダリスト・有森裕子氏

11年=大阪世界陸上女子マラソン銀メダリスト・土佐礼子選手

12年=陸上男子四百メートル障害世界陸上メダリスト・為末大選手

13年=パラリンピック女子義足走り幅跳び日本記録保持者・佐藤真海選手

管理 ID：
1813443
授業コード：
M4010

- 13年=プロサッカーリーグ「Jリーグ」メディアプロモーション・勝澤健氏
- 14年=競泳女子ロンドン五輪銅メダリスト・寺川綾選手
- 15年=成立学園コーチ・山郷のぞみ氏
- 16年=リオデジャネイロパラリンピック男子走り高跳び4位・鈴木徹選手
- 17年=世界パラ陸上競技選手権大会銅メダリスト・鈴木徹選手

HSS100IA

保健体育概論 【2018年度以降入学生対象】

永木 耕介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4年次/2単位

曜日・時限：月・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健体育（主に体育）とはどのようなものかについて、スポーツ／教材の歴史、教科の目標論、内容論等から解説し、これからの保健体育のあり方について考える。

【到達目標】

保健体育科の教員を目指す受講生が、保健体育とはどのようなものかについて、教科の目標を踏まえた内容論について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

保健体育とはどのようなものかについて以下の観点から解説し、受講生が今後のあり方について考察できるように導く。①現代に至るまでのスポーツ／教材（主に西洋スポーツと日本武道）の歴史を概観し、さらに現代スポーツの特徴と課題について指摘する。②教科の目標論を踏まえ、各内容領域の実際を確認することで今日の教科の状況を把握する。なおその際、一部に受講生参加型の演習を採り入れる。また、毎授業においてリアクションペーパーの提出を求め、次授業で振り返りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明
2	スポーツ／教材の歴史的理解①	西洋スポーツを中心に
3	スポーツ／教材の歴史的理解②	日本武道を中心に
4	現代スポーツの特徴と課題	オリンピック、グローバルゼーション、ニュースポーツ
5	保健体育科の目標論	学習指導要領の変遷、内容領域の解説
6	「体づくり運動」の内容と特性	「体づくり運動」の実際的内容と特性について、運動、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
7	「器械運動」の内容と特性	「器械運動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
8	「陸上競技」の内容と特性	「陸上競技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
9	「水泳」+「野外活動」の内容と特性	「水泳」+「野外活動」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
10	「球技」の内容と特性	「球技」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める

11	「武道」の内容と特性	「武道」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
12	「ダンス」の内容と特性	「ダンス」の実際的内容と特性について、技能、態度、知識（+思考・判断）の観点から理解を深める
13	「体育理論」の内容と特性	「体育理論」の内容と特性について理解を深める
14	まとめとテスト	授業のまとめとテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業後に感想やコメント（リアクションペーパー）の作成を求める。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）
最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

保健体育科教育法（大修館書店）
新版・体育科教育学入門（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度、リアクションペーパーによる平常点（60%）、テスト点（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もリアクションペーパーの結果を授業内に採り入れ、各学生の参加感をあげる。

【学生が準備すべき機器他】

部分的に参加型演習を行う場合があるので、運動可能な服装等を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

教職（保健体育科）の志望者は履修することが望ましい。授業計画は授業展開によって若干の変更があり得る。

管理 ID：
1813393
授業コード：
M0700

HSS100IA

スポーツトレーニング論Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：金・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツトレーニング論Ⅰではスポーツトレーニングの理論、フィジカルおよびスキル要素のトレーニング内容・方法を学んだ。そこでスポーツトレーニングⅡでは、幼児から中高年までのライフステージごとのトレーニング実施者、および女性や競技者といった成人男性とは異なるトレーニング実施者のトレーニング内容・方法を紹介し考察する。一方で自分の身体についてトレーニング内容・方法、その効果の測定方法を計画し、8 週間のトレーニングを実践する。

【到達目標】

・トレーニング実施者ごとの特徴を理解すること
 ・自分の身体についてのデータを 8 週間継続的に取得・分析することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

幼児～思春期前児童、思春期、女性、中高年者、ジュニア競技者、シニア競技者とトレーニング実施者ごとの心身の特徴およびトレーニング内容・方法を紹介し検討する。一方で自身の身体についてのトレーニングとその効果を測定する方法を計画し、8 週間にわたって各自実施してレポートを学期末に提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で扱うトレーニング実施者の紹介 トレーニング計画、測定法の提示
2	幼児～思春期前の児童のトレーニング①	形態の変化 スキルトレーニング トレーニング計画、測定法の考案
3	幼児～思春期前の児童のトレーニング②	子どもの筋力トレーニング トレーニング計画、測定法の考案
4	思春期のトレーニング	思春期の特徴 全身持久力および筋持久力トレーニング
5	女性のトレーニング①	骨格、身体組成の性差 女性の有酸素性、無酸素性能力のトレーニング
6	女性のトレーニング②	女性ならではの特徴を考えたトレーニング
7	中高年者のトレーニング①	加齢にともなう身体能力の変化 中高年者の有酸素性、無酸素性のトレーニング
8	中高年者のトレーニング②	中高年者の”ころ”が運動に及ぼす影響 運動が”ころ”に及ぼす影響
9	ジュニア競技者のトレーニング①	競技者育成プログラム ジュニアトップ選手の追跡調査（陸上競技）
10	ジュニア競技者のトレーニング②	ジュニアトップ選手の追跡調査（テニス、ウエイトリフティング） トレーニングと栄養

11	ジュニア競技者のトレーニング③	ジュニアトップ選手の追跡調査（スピードスケート、体操） サッカー選手のの体力測定とトレーニング
12	シニア競技選手のトレーニング①	マラソン選手のトレーニングの変遷 高強度間欠的運動トレーニングの効果
13	シニア競技者のトレーニング②	スキージャンプ選手のトレーニング 反動動作の特徴 腱のトレーニング
14	シニア競技者のトレーニング③	サッカー選手のトレーニング 血中乳酸濃度を活用したトレーニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間以外の時間に計画したトレーニングを 8 週間実践し、測定する。考察を含めたレポートを作成する

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

トレーニング対象に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

トレーニング実践のレポート 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

各自のトレーニングを動機づけられるようなデータ、出来事を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

エクセル、パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。
 トレーニング実践や測定で使う用具、機器など。

管理 ID：
1813444
授業コード：
M4020

PSY200IA

スポーツ心理学B

立谷 泰久

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、スポーツ心理学 A で学んだことをベースとして、主としてアスリートの競技力向上や一般の人たちのパフォーマンス（学業や仕事等）の向上に重要な心理学や行動変容に関わることを学ぶ。

アスリートの心理的な問題・課題は多種多様である。その課題は、「一人の人間として」というものに根差していることを理解しながら、競技スポーツの中で行われているメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、ストレスマネジメントその他の心理学の分野について、心理検査や実技等を行いながら学んでいく。そして最終的には、人生の生き方に関することまで大きく捉えたものを学び、日常生活や今後の人生に役に立つものを習得していく。

【到達目標】

本講義を終了した時点で、アスリートの競技力向上や一般の人たちのパフォーマンス（学業や仕事等）の向上に関する基礎的な理論と実践・応用の仕方を理解できる。また、本講義で学んだことを、自分自身が日常生活で応用することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

競技スポーツの「心理サポート」の中で行われているメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング、ストレスマネジメント等を学び、一人の人間として役立つ様々な心理技法等を習得していく。また、「ものの見方、考え方、そして人生の生き方の姿勢」という重要なテーマにも取り組み、優秀な競技者、指導者、社会人になるための人間的成長をも目指す。基本的には講義形式で行うが、応用的な心理検査や実技なども行い、様々なものを学習・体験する。また、学生の意見や質問にも耳を傾け、コミュニケーションを行いながらの講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「心理サポートとは？ - その意義と役割 -」（ガイダンス含）	授業の進め方についての説明と心理サポートとは何かとその基礎について学ぶ（スポーツ心理学Aの復習含む）。
2	パフォーマンスの自己分析、目標設定	パフォーマンスの自己分析の行い方、そして目標設定について学ぶ。用紙や付箋紙を用いて、パフォーマンスの自己分析の方法について学ぶ。また、効果的な目標の立て方についても解説する。
3	競技パフォーマンスと日常生活との関係	競技のパフォーマンスと日常生活には様々なものが関係する。一見すると関係のないものと思われるものが、関係する場合がある。このようなことを一流の指導者の「言葉」から学ぶ。
4	暗示、リラクセス法、イメージトレーニング	暗示、リラクセス法（漸進性筋弛緩法や呼吸法など）とイメージトレーニングの方法を解説し、体験する。そして、日常生活への応用について学ぶ。

5	競技現場で役に立つ気持ちの切り替え法	様々な気持ちの切り替え法を実技を通して学ぶ。気持ちの切り替え法は多数あるが、それらを紹介し、その中から自分に合う方法を見つけ、日常的に行えるようになることを目指す。
6	ルーティンとゲームプラン - 試合でやることを決めておこう -	ルーティンとゲームプランについて解説する。ルーティン、ゲームプランの事例を通して、自らのルーティンとゲームプランを作成する。
7	自律訓練法について	自律訓練法（リラクゼーション法）とは何か？ その効果について学ぶ。自律訓練法を体験し、その効果を実感する。また、スポーツ場面や日常生活にどのように有効なのかを学ぶ。
8	言葉による行動変容について - 言葉がこころや行動に及ぼす影響について -	言葉がこころに及ぼす影響、そしてそれに伴う行動変容について、研究データや新聞記事を用いて学ぶ。セルフトークや暗示、言葉の影響について、データや事例に基づいて解説する。
9	「森田療法」の考え方を競技に応用する	「森田療法とは？」そして、その考え方を理解する。森田療法の考え方がどのように競技現場や人生に活かせるのかということ、事例を通して解説する。
10	けがとこころの関係について	けがというものは、当然ながら、身体を傷つけるものである。また、同時にこころも傷つけていることも理解する。また、けがが多い選手の中には、特徴的な心性を持っているケースがあり、けがとこころには様々な関係があることを理解する。
11	ストレスマネジメントについて	「ストレスマネジメントとは？」、そしてそれをどのように実践するのか、ということ学ぶ（スポーツ心理学 A で行った講義の応用編）。ビデオを用いて、その実践例を学ぶ。また、その詳細について解説する。
12	スポーツカウンセリングとは？ プラインドウォーク - 感受性訓練の方法 -	スポーツカウンセリングとは何か？ カウンセリングの効果などを理解する。また、プラインドウォークについても、実技を通して理解する。スポーツに関わる人達が抱える問題や課題、悩みなどを解決する手助けとしての有効なカウンセリングに関わる方法・手法を広く学んでいく。また、プラインドウォークについても、実技を通して解説する。
13	競技や人生に役に立つ「ものの見方、考え方、人生の生き方の姿勢」について学ぶ	競技場面で最高のパフォーマンスを発揮するためには、競技場面でどのような「考え方」で競技に臨むのが重要である。その『考え方』を一流の指導者や選手から学ぶ。また、勝つため・最高のパフォーマンスを得るために必要な「哲学」を学ぶ。「勝つために必要な哲学とは？」「トップアスリートになるために必要なこととは？」「各界の一流者のメンタリティー」などを学ぶ。
14	講義内容の総まとめ	これまでの総復習をし、競技場面の心理面やその他の臨床心理学に関わる分野についても理解を深める。そして、一人の人間として役立つものを広く学んでいく。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

なし。プリントを配る予定である。

【テキスト（教科書）】

・『はじめて学ぶスポーツ心理学 12 講』（福村出版、編著：楠本恭久）

管理 ID：
1809217
授業コード：
M1690

- ・『現場で生きるスポーツ心理学』（杏林書院、編：石井源信／楠本恭久／阿江美恵子）
- ・『よくわかるスポーツ心理学』（ミネルヴァ書房、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著）

【参考書】

平常点：40%とする。出席カード（表）には講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。

試験：50%とする。

その他：10%として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

【成績評価の方法と基準】

（1）配分

出席点：出席カード（表）には講義の感想や意見を書き、その理解度も評価に入れる。出席と合わせて、40%とする。

試験：50%とする。

その他：10%として、授業態度なども考慮に入れ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートやリアクションペーパー等の反応から、随時改善をしていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。また、スポーツ心理学に関する近年の研究やトピックについても随時提示する。

HSS200IA

スポーツ戦略・戦術論

熊川 大介

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813445
 授業コード：M4050

スポーツ競技力向上のための戦略・戦術について、国や地方団体の取り組みやその実状について理解する。また、各競技種目の特性を理解するとともに、基本的な戦術構造について触れ、自身の専門競技について、競技力向上のための戦術、行動を理解する。さらに、コーチの資質や指導法について論じ、試合までの取組み方やトレーニング方法について理解する。

【到達目標】

学生は、国や地方団体がスポーツの競技力向上を目的として実施している長期的な政策について理解し、自身が貢献できることは何かを明確にする。また、各競技種目の特性を理解したうえで、競技力向上のための戦略・戦術について説明することができる。さらに、コーチ・指導者としての基礎知識を習得し、スポーツ現場において起こりうる諸問題を段階的に解決できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とする。主にスライドを用い、必要に応じて配布資料を基に講義を展開していく。講義の最後には、まとめやテーマに対する自身の考えを整理するといった小レポートを数回実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業計画についての説明を行う。
2	国や地方団体のスポーツ戦略的取り組み・競技力と戦術・戦術の関わり	あらゆるスポーツの戦略・戦術について紹介し、競技力向上とのかわりについて考える。
3	チーム種目の特性	チームスポーツの種目特性（球技系スポーツの基本的な戦術構造）について理解する。について理解する。
4	記録系種目の特性	記録系スポーツの種目特性について理解する。
5	記録系種目の戦術・戦術	記録系スポーツの基本的な戦術構造について理解する。
6	冬季種目の特性	冬季スポーツの種目特性について理解する。
7	冬季種目の戦術・戦術	冬季スポーツの基本的な戦術構造について理解する。
8	トレーニング戦術	年間トレーニング計画とピーキングについての基本構造を理解する。
9	アスリート育成戦略	各国のアスリート育成戦略について発育発達の観点から理解する。
10	戦術行動に必要な体力及び技術	戦術行動に必要とされる体力及び技術について、発育発達の観点から理解する。

- | | | |
|----|------------------------|--|
| 11 | 試合に向けての戦術プランとコンディショニング | 試合に向けた戦術プランとコンディショニング法について理解する。 |
| 12 | スポーツ科学研究とコーチング | スポーツ科学研究とコーチングとの関わりについて理解する。 |
| 13 | 戦術・戦略とスポーツ科学研究 | 戦術・戦略にスポーツ科学研究の成果をどのように活用するのかについて考える。 |
| 14 | 総括及びレポート | 専門的に実施している競技（実施していた競技）について、個人の技術力及びチーム力アップのための戦術、行動についてまとめる。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし、第2～14回：前回授業の復習として、重要なキーワードを抽出しその意味について簡潔に整理する。事前の準備学習として、スポーツの戦術・戦略に関する文献や情報を収集する。

【テキスト（教科書）】

授業は、作成したスライドを用いて実施する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、授業終了後に実施するまとめ及び課題に対する自身の考えをまとめさせる小レポート（30%）、また、最終レポート（40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業は事前に作成したスライドを用いて展開していく。必要に応じて配布資料を作成していく。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る

HSS2001A

スポーツ運動学Ⅱ

工藤 裕仁

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
曜日・時限：月・3

管理 ID：
1809219
授業コード：
M4030

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に用いられる運動器のしくみとその働き（機能解剖）を理解し、そこから運動（動き）の一連および局面の構造をバイオメカニクスの観点での検討・学習をする。またこれは、種々の競技動作について検討・学習する

【到達目標】

学生それぞれが関与する競技における「動き」を観察し、その特徴を身体構造、あるいはバイオメカニクスの観点から、具体的に抽出できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、適宜動画資料も用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	授業の流れを概説	授業の流れを概説
2	動きの解剖学 1	筋と骨格の構造
3	動きの解剖学 2	骨格の構造と関節運動
4	運動学の基礎知識 1	機能解剖と力学的基礎 1
5	運動学の基礎知識 2	機能解剖と力学的基礎 2
6	歩行の運動学	歩行動作の運動学的基礎
7	歩行の運動学的研究	研究事例を用いた検討
8	走動作の運動学	走動作の運動学的基礎
9	走動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
10	投動作の運動学	投動作の運動学的基礎
11	投動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
12	跳動作の運動学	跳動作の運動学的基礎
13	跳動作の運動学的研究	スポーツ競技研究事例・動画を用いた検討
14	種々のスポーツ動作の運動学	バイオメカニクスの解析に基づく検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をもとにした復習

【テキスト（教科書）】

授業ごとに資料を配付。他、必要に応じ授業中に適宜指示する。

【参考書】

「コーチングの科学」福永哲夫著 朝倉出版

「バイオメカニクス」金子公宥編 杏林書院 他

【成績評価の方法と基準】

試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

web 情報・動画も用いた視覚的モダリティを用いる。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって若干の変更があり得る

HSS200IA

スポーツコーチング論Ⅱ

Nemes Roland

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次/2 単位
 曜日・時限：水・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーチングを実践する上で必要となるスポーツ科学の知識や技能の活用方法に加え、様々なコーチング現場や年齢・性・競技レベルに応じたコーチングについて学ぶ。

【到達目標】

年齢・性・競技レベルに応じたコーチングとその中のスポーツ医・科学の活用を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とグループによるディスカッション形式を交互に取り入れて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	授業の進め方
2	様々なコーチング現場①	スポーツとの出会い 家庭・地域で行うコーチング 国内、海外
3	様々なコーチング現場②	学校スポーツのコーチング、コーチングとティーチング
4	コーチング現場での医・科学の活用①	スポーツコーチングに必要な様々な科学
5	様々なコーチング現場③	LTAD（長期的アスリート開発）
6	コーチング現場での医・科学の活用②	ジュニアアスリートのコーチングにおける医科学の活用
7	様々なコーチング現場④	競技種目に応じたコーチング
8	コーチング現場での医・科学の活用③	発育の性差と種目特性を考慮したコーチングと医・科学の活用
9	様々なコーチング現場⑤	トップアスリートにおけるコーチング
10	コーチング現場での医・科学の活用④	トップアスリートのコーチングにおける医・科学の活用
11	コーチ育成の取組み①	コーチ育成のための海外の取組み
12	コーチ育成の取組み②	コーチ育成のための国内の取組み
13	まとめ ①	年齢・性・競技レベルに応じたコーチングのまとめ
14	まとめ ②	コーチングにおける医・科学の活用のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々なコーチング現場における現状の準備学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし（講義形式の回には資料を作成して提示する）

【参考書】

コーチング現場に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

宿題と2回レポート（25%×2回）を提出し、1回プレゼン（50%）をしてもらう。その総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

準備学習にもとづく、積極的なディスカッションを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

管理 ID：
1826411
授業コード：
M4040

HSS100IA

ダンス実習

町田 樹

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 1 単位
曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本実習では「音と戯れる身体」をテーマに、舞踊（ダンス）を「する」、「みる」、「つくる」、「つたえる」といった多角的な観点から総合的に楽しむことができる享受能力を養っていく。

【到達目標】

- 1) クラシック・バレエの基礎を理解し、実践することができる。
- 2) 自己の感情や意思、想像を身体動作に込めて表現することができる。
- 3) 音楽やコンセプトを理解した上で、ダンスを創作することができる。
- 4) 他者の踊りや舞踊作品を観て、自分の言葉で評釈することができる。
- 5) ダンスを多角的に楽しむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「するダンス」＝舞踊の基本とされるクラシック・バレエの基礎を実践しながら、自身の身体やバレエ・スキルに関する理解を深めていく。

「みるダンス」＝ダンスの鑑賞術を学び、舞踊作品の楽しみ方を身に付ける。

「つくるダンス」＝担当教員が提示する音楽に合わせて動作を構成する。具体的には担当教員が創作した振付の一部にアレンジを加えたり、自身の表現を取り入れたりすることに挑戦する。最終的に出来上がった振付を発表し、お互いのダンスを評釈し合う。

「つたえるダンス」＝授業で得た気付きや舞踊作品の良さをディスカッションやレポート等を通じて、自分の言葉で表現できるように訓練する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的や内容を説明するとともに、ストレッチや初歩的なバレエレッスンを通して、踊るための身体を準備する。
2	クラシック・バレエの基礎1 —ストレッチとバレエレッスン	身体の仕組みを理解しながら、基本的なバレエのバレエレッスンを体験する。
3	クラシック・バレエの基礎2 —バー～センターレッスン	バレエレッスンとセンターレッスンの基本動作を反復し、身体に覚え込ませていく。
4	舞踊作品の鑑賞術1 —グランド・バレエ他	クラシック・バレエの作品を観ながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
5	クラシック・バレエの基礎3 —バー～センターレッスン	バレエレッスンとセンターレッスンの基本動作に自己の感情や意思、想像力を込めて、身体表現へと洗練させていく。

6	クラシック・バレエの基礎4 —初歩的なヴァリエーション	バレエレッスンとセンターレッスンの基本動作を組み合わせた簡単なヴァリエーションを実践し、自身の動作に感情をより一層込められるように練習する。
7	舞踊作品の鑑賞術2 —モダン・コンテンポラリー他	モダンダンスやコンテンポラリーダンスをはじめ様々なジャンルの作品を鑑賞しながら舞踊の鑑賞術を学び、作品の優れた点や表現の解釈を自分の言葉で説明する。
8	コンタクト・インプロヴィゼーション	言葉ではなく、ダンスや身体運動を用いた他者とのコミュニケーションを体験する。即興で動きを構成したり、相手の動作に応じながら自身の身体をコントロールすることに挑戦していく。
9	クラシック・バレエの基礎5 —総集編	これまで実践してきたクラシック・バレエの基礎を復習しながら、音楽から想起される感情やイメージを動きで表現することを目指す。
10	ダンスの振付とその実践1 —音楽とコンセプトの理解	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、担当教員が準備する振付を習得する。また振付のコンセプトや音楽を理解しながら、「振付」という創作活動について深く考えてみる。
11	ダンスの振付とその実践2 —動作の構成	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、担当教員が準備する振付を習得する。また振付の一部に自身のアレンジや表現を取り入れる創作活動を行う。
12	ダンスの振付とその実践3 —作品の創作と練習	バレエの基本的なクラスレッスンを実施後、前回の授業で構成した振付を練習し仕上げていく。
13	The Exhibition —作品の上演	「ダンスの振付とその実践1～3」を通して創作した振付を一人ずつ発表する。参加者はそれぞれの踊りを見て評釈し合う。
14	まとめ	本実習のまとめを行い、ダンスを「する」、「みる」、「つくる」、「つたえる」ことの重要性についてディスカッション形式で考察していきたい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に要求しないが、必要に応じてレポートの作成を指示する場合があります。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、必要に応じて担当教員がテキストを配布する。

【参考書】

- ・ヴァレリー・グリーグ『インサイド・バレエテクニック——正しいレッスンとテクニックの向上』上野房 子訳、大修館書店、1997.
- ・尼ヶ崎彬『ダンス・クリティーク——舞踊の現在 / 舞踊の身体』勁草書房、2004.
- ・鈴木晶『バレエとダンスの歴史——欧米劇場舞踊史』平凡社、2012.

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（40%）：授業に取り組む姿勢を総合的に評価する。
- ・レポートおよびリアクションペーパー（30%）：定期的に提出するリアクションペーパーやレポートの内容を評価する。
- ・実技（30%）：自身の身体や舞踊文化、音楽に対する理解を深めながら踊ることができているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

管理 ID：
1826293
授業コード：
M4500

【学生が準備すべき機器他】

基本的にダンス（バレエ）を実践する授業ですので、動きやすく踊ることに適した服装で受講してください。また受講するに際してバレエシューズを準備することが望ましいですが、難しければ厚手の靴下を用意してください（なお靴下は汚れたり破れたりして痛んでしまいますが、ご了承ください）。バレエシューズに関しては、ダンス用品店や通販サイトで1,000～3,000円程度の値段で購入することができます。ただし数回ほど座学形式の授業を実施しますが、その際の服装は自由です。授業全14回を通して毎回必ず筆記用具を持参してください。その他の注意事項については初回の授業にて説明します。

【その他の重要事項】

バレエやダンス経験の無い方、自分を表現することに対して苦手意識を持っている方、誰でも大歓迎です。参加者全員でコミュニケーションをとりながら、楽しくダンスを学びましょう。

なお本実習は定員が決まっていますので、受講希望者が多い場合は抽選となります。

HSS100IA

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・2
 旧うか科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における「ダンスの授業」とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント～ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】

- ①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
- ②コミュニケーション能力を伸ばす。
 毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
 最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見ることにより、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての動き方	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法 日常の動作を使って	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	表現活動における振り付け方法 イメージの表現	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
5	表現活動における振り付け方法 スピードの変化	止まる・スピードの変化によって「見せ方」がどの様になるか、作品を作り、鑑賞することで学ぶ。
6	表現活動における振り付け方法 集団の動き	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない「集団による表現方法」について学ぶ。

7	学習指導案の作成	2～3 名のグループに分かれ、指導案を作成。 作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 1 年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 2 年生対象の模擬授業を行なう。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。
10	中学 3 年生、または高校 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 3 年生または高校 1 年生の対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校 1 年。または 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校 1・2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。
 第 2 回目以降は、毎回授業内でテーマを指示する。次回の授業で、レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

実技の向上とともに基礎力を身につけ、理解を深めることを目標としているので、下記のように評価します。

- ・平常点（参加態度）50 %
- ・レポート。（授業の理解度）30 %
- ・模擬授業評価 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さ、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
 提出されたレポートの内容を見ると、個人によって授業内容の理解に差が生じていると感じた為、授業内容への理解がさらに深まるよう、レポートのテーマについて詳しく設定するよう改善を図ります。

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
 主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かす意欲を持って参加してください。
 ※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

HSS1001A

ダンス指導論演習

小川 洋子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
 曜日・時限：火・3
 旧うか科目名：舞踊論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校教育における「ダンスの授業」とは、ただ踊って楽しむ場ではなく、自己表現力や、他者とのコミュニケーション能力を育てる場となるべきである。故に、教える教員側の「ダンス表現」に対する理解や、「表現力」が重要となってくる。この授業では、様々な創作活動（クリエイティブ・ムーブメント～ダンス）を体験し、履修者の表現力や、コミュニケーション能力を高めることを目指し、中学、高校における『表現活動』について指導できる力を養成したい。また、「ダンス表現の楽しさ」を生徒に伝えられる教員となれるよう、模擬授業を通して、さらに理解を深めていく。

【到達目標】

- ①体育教員として、ダンスの「表現活動分野」を指導できるようになる。ダンス表現に必要な身体の使い方や知識を学び、自己表現に対する前向きな姿勢を身につけ、表現活動を指導できるようになる。
- ②コミュニケーション能力を伸ばす。
毎時間、グループワーク（作品を創る体験）を重ねることで、『自己の意見を伝えつつ、他者の意見も受け入れる』という態度を身につけ、教員としての資質を伸ばすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

始めに表現活動分野についての概要と基礎を学ぶ。基礎を基に、履修者が主体的に学べる場として模擬授業を行なう。生徒、教師双方の体験をすることで、指導法、授業の進め方について知識を深める。
最後に、グループワークとして、創作作品を仕上げ、発表する。作品を客観的に見るにより、評価方法についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	なぜ学校教育の中にダンスがあるのか？	授業の概要を説明。学習指導要領『ダンス』の内容や、創作ダンスについて学ぶ。
2	ダンス表現としての動き方	自己の姿勢や関節の可動域を広げ、スポーツとは違う身体の使い方を知る。
3	表現活動における振り付け方法 日常の動作を使って	日常的な動作（動詞など）から振り付けを考え、ダンスへと発展する。
4	表現活動における振り付け方法 イメージの表現	イメージから生まれた身体の動きを、振り付けに発展させる。移動も加え、より大きくダイナミックな動きへと発展。
5	表現活動における振り付け方法 スピードの変化	止まる・スピードの変化によって「見せ方」がどの様になるか、作品を作り、鑑賞することで学ぶ。
6	表現活動における振り付け方法 集団の動き	集団の動き。他者とのイメージの共有や、相互関係・空間の使い方について知る。個人では表現できない「集団による表現方法」について学ぶ。

7	学習指導案の作成	2～3 名のグループに分かれ、指導案を作成。 作成する為に必要なことを話し合い、学年・時間数に適したテーマを選び、導入・展開・発展の流れを考える。
8	中学 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 1 年生対象の模擬授業を実施。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、態度知識を深めるための改善点を話し合う。
9	中学 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 2 年生対象の模擬授業を行なう。終了後、テーマの適正や生徒の技能、態度、知識を深めるための改善点について話し合う。
10	中学 3 年生、または高校 1 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に中学 3 年生または高校 1 年生の対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
11	高校 1 年。または 2 年生対象の模擬授業	作成した指導案を基に高校 1・2 年生対象の模擬授業を行う。終了後、テーマの適正や、生徒の技能、知識、態度を深めるための改善点について話し合う。
12	作品の作り方	創作をする手順を学び、数人のグループで提示されたテーマを基に、構成、ステージングを決定。役割りを分担し振り付けを行なう。
13	振り付け	引き続き、細かい振り付けを考え、お互いに教えあい、最後まで通せるようにする。
14	発表、評価 授業のまとめ	創作作品の発表。作品を撮影し、ビデオ鑑賞から客観的に作品を見て、評価について考える。 授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：学習指導要領 体育領域「ダンス」を読んでおく。
第 2 回目以降は、毎回授業内でテーマを指示する。次回の授業で、レポートを提出する。

【テキスト（教科書）】

特に無し。必要に応じて、担当者からプリントを配布。

【参考書】

『表現運動系及びダンス指導の手引き』 文部科学省 東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

実技の向上とともに基礎力を身につけ、理解を深めることを目標としているので、下記のように評価します。

- ・平常点（参加態度）50 %
- ・レポート。（授業の理解度）30 %
- ・模擬授業評価 20 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ健康学部学習校舎での授業を希望する学生が多いので、引き続き 107 教室を使用する予定です。教室の広さ、模擬授業の実施が可能な人数として、定員は 24 名に制限をします。
提出されたレポートの内容を見ると、個人によって授業内容の理解に差が生じていると感じた為、授業内容への理解がさらに深まるよう、レポートのテーマについて詳しく設定するよう改善を図ります。

【その他の重要事項】

教員免許取得のために必修の授業です。教員免許取得希望者が履修できるよう、免許を取得しない学生の履修は遠慮してください。定員が決まっているので、多い場合は抽選となります。
主に表現活動を行うので、ダンス経験は必要ありませんが、積極的に体を動かす意欲を持って参加してください。
※授業の展開によって必要があれば、内容を若干変更する場合があります。

HSS100IA

柔道実習【2018年度以降入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4年次 / 1単位
曜日・時限：土・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解と実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解と実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40 %
・受け身テスト 20 %
・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID：
1809220
授業コード：
M4510

HSS100IA

柔道実習【2018年度以降入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4年次／1単位
 曜日・時限：土・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
 ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
 ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40 %
 ・受け身テスト 20 %
 ・技能テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID：
1826714
授業コード：
M4511

HSS100IA

柔道指導論実習【2013～2017年度以前入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4年次 / 1単位
 曜日・時限：土・1
 旧うか科目名：総合格闘技指導論(実習)[2012年度以前入学生] ※
 通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
 ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解と実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解と実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
 ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40%

・受け身テスト 20%
 ・技能テスト 40%

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID: 1826712
 授業コード: M4260

HSS100IA

柔道指導論実習【2013～2017年度以前入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次／単位：1～4年次／1単位
 曜日・時限：土・1
 旧うか科目名：総合格闘技指導論(実習)[2012年度以前入学生] ※
 通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

柔道の基本動作と投げ技、固め技（抑え技）を習得する。

【到達目標】

学習指導要領解説保健体育編に例示されている投げ技と固め技（抑え技）による攻防ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・柔道場において柔道衣を着用して実技をおこなう。
 ・技の概要やポイント、安全で効果的な指導手順や練習の行い方などについて示範しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション、柔道衣の着方と礼法
2	基本動作の習得とその指導手順	受け身や体さばきなどの基本動作
3	投げ技の習得とその指導手順	膝車、支え釣り込み足
4	投げ技の習得とその指導手順	体落とし
5	練習法の理解とその実際	練習法（かかり練習、約束練習）
6	固め技の習得とその指導手順	けさ固め、横四方固め、上四方固め
7	固め技の習得とその指導手順	抑え技への入り方と固め技の攻防
8	投げ技の習得とその指導手順	大腰、釣り込み腰
9	練習法の理解とその実際	練習法（自由練習）
10	投げ技の習得とその指導手順	背負い投げ、払い腰
11	投げ技の習得とその指導手順	大内刈り、小内刈り、大外刈り
12	技の連絡変化	投げ技と固め技の連絡変化
13	試合	簡易な試合の行い方と審判法
14	授業のまとめと評価	技能テスト、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
 ・柔道の安全指導第四版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加姿勢 40%

・受け身テスト 20%
 ・技能テスト 40%

【学生の意見等からの気づき】

自由練習（乱取り）の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期の武道指導論演習も履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID: 1826414

授業コード: M4261

HSS100IA

柔道指導論演習 【2018年度以降入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4年次/2単位
 曜日・時限：土・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50 %
- ・平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID: 1804323
 授業コード: M4520

HSS100IA

柔道指導論演習 【2018年度以降入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：1～4年次／2単位
 曜日・時限：土・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50 %
- ・平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。
履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID：
1826713
授業コード：
M4521

HSS100IA

武道指導論演習 【2013～2017 年度入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：土・2
 旧うか科目名：総合格闘技指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※
 通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくりについて演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50 %
- ・平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID: 1826715
 授業コード: M4270

HSS100IA

武道指導論演習【2013～2017年度入学生対象】

佐藤 伸一郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1～4年次/2単位
 曜日・時限：土・2
 旧うか科目名：総合格闘技指導論(実習)[2012年度以前入学生] ※
 通年科目のため、柔道指導論実習と武道指導論演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校及び高等学校の保健体育の授業における、武道の授業づくり
 について演習する。

【到達目標】

- ・武道の特性を生かした安全で効果的な授業を展開できるようにする。
- ・技能が進んだ希望者には、昇段審査の機会を紹介するなど有段者への道を拓く。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・武道の歴史や特性について分析し、学習指導計画の作成演習を行う。
- ・作成した学習指導案による模擬授業を行い、教師役と生徒役を相互に分担して実習する。
- ・武道における怪我や事故の具体的事例を分析し、安全な授業づくりについて考える。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）
 の実施】**

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業の概要とその進め方	オリエンテーション（授業の進め方）
2	武道の歴史と特性	武道の歴史と特性
3	学習指導要領解説「保健体育編」	学習指導要領改訂の要点と武道の扱い（中学校における武道必修化の目指すもの）
4	学習指導計画①	学習指導計画の作成の仕方と留意点
5	学習指導計画②	武道の単元計画及び学習指導案作成演習
6	模擬授業①	膝車、支え釣り込み足の解説と指導演習
7	模擬授業②	体落としの解説と指導演習
8	模擬授業③	大腰の解説と指導演習
9	模擬授業④	大内刈りの解説と指導演習
10	模擬授業⑤	抑え技の解説と指導演習
11	模擬授業⑥	練習法と試合の解説と指導演習
12	学習指導計画①	観点別評価による評価規準の設定の仕方と留意点
13	学習指導計画②	観点別評価による評価演習 武道における安全指導
14	授業のまとめと評価	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業内で指示するが、中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）読み込むこと。

【テキスト（教科書）】

・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省）

【参考書】

- ・柔道授業づくり教本（全日本柔道連盟）
- ・柔道の安全指導第三版（全日本柔道連盟）など

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業試験 50%
- ・平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業などの演習や実技練習の機会を多く設定した。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の柔道指導論実習を履修した後に履修することが望ましい。
 履修者が40名を超える場合は人数制限する場合があります。

管理 ID: 1826415
 授業コード: M4271

HSS100IA

剣道実習【2018年度以降入学生】

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・3

管理 ID：
1809221
授業コード：
M4530

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「指導論演習」なので、各時間に模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために、模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・模擬授業1 ・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・模擬授業2 ・基本指導法①の反復 ・素振り（一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）） ・対人動作での素振り、打ち込み練習

4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・模擬授業3 ・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・模擬授業4 ・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・模擬授業5 ・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・模擬授業6 ・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・五角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・模擬授業7 ・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・五角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・模擬授業7 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・五角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業9 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・五角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業10 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 五角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業11 ・総合演習1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業12 ・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

HSS100IA

剣道実習【2018年度以降入学生】

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1~4年次 / 1単位
曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「指導論演習」なので、各時間に模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために、模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・模擬授業1 ・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・模擬授業2 ・基本指導法①の反復 ・素振り {一挙動・蹲踞跳躍素振り（鳥跳び）} ・対人動作での素振り、打ち込み練習

4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・模擬授業3 ・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・模擬授業4 ・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・模擬授業5 ・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し2
7	基本指導法⑥	・模擬授業6 ・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・五角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・模擬授業7 ・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・五角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・模擬授業7 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・五角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業9 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・五角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業10 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 五角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業11 ・総合演習1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業12 ・総合演習2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

管理 ID：
1826718
授業コード：
M4531

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤 伸晃

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通じた練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	剣道の歴史、剣道着・袴の採寸
2	基本動作	剣道着・袴のつけ方、礼法（正座、座礼、立礼）、竹刀の名称と構造
3	基本動作	姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方納め方、足さばき、素振り、掛け声、間合、切り返し
4	基本動作	剣道具の装着、基本の打ち方と打たせ方および受け方
5	しかけ技	一本打ちの技、連続技
6	しかけ技	払い技、引き技、打ち込み稽古、互角稽古
7	しかけ技	出ばな技、打ち込み稽古、互角稽古
8	応じ技	抜き技、すり上げ技、打ち込み稽古、互角稽古
9	応じ技	返し技、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
10	応じ技	打ち落とし技、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
11	基本稽古	切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	試合	8～10名で構成するグループ1により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし、検討する。
13	審判法	3名で構成するグループ2により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし、検討する。

14 試験・解説 基本技を中心とした実技試験を実施する。
 剣道授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし。ただし毎回の授業において資料を配布する。

【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】

・実技試験 40 %
 ・授業参加態度 40 %
 ・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

剣道着・袴、手拭い、名札
 （授業第1回目に剣道着・袴を採寸する）

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：
1826717
授業コード：
M4540

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤 伸晃

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通じた練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	剣道の歴史、剣道着・袴の採寸
2	基本動作	剣道着・袴のつけ方、礼法（正座、座礼、立礼）、竹刀の名称と構造
3	基本動作	姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方納め方、足さばき、素振り、掛け声、間合、切り返し
4	基本動作	剣道具の装着、基本の打ち方と打たせ方および受け方
5	しかけ技	一本打ちの技、連続技
6	しかけ技	払い技、引き技、打ち込み稽古、互角稽古
7	しかけ技	出ばな技、打ち込み稽古、互角稽古
8	応じ技	抜き技、すり上げ技、打ち込み稽古、互角稽古
9	応じ技	返し技、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
10	応じ技	打ち落とし技、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
11	基本稽古	切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古
12	試合	8～10名で構成するグループ1により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし、検討する。
13	審判法	3名で構成するグループ2により、「審判」を行う。終了後に、審判法についてディスカッションし、検討する。

14 試験・解説 基本技を中心とした実技試験を実施する。
剣道授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし。ただし毎回の授業において資料を配布する。

【参考書】

剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】

・実技試験 40 %
 ・授業参加態度 40 %
 ・レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

剣道着・袴、手拭い、名札
 （授業第1回目に剣道着・袴を採寸する）

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：
1826294
授業コード：
M4541

HSS100IA

剣道指導論実習【2013～2017 年度入学生対象】

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・3

管理 ID：
1826716
授業コード：
M4280

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「指導論演習」なので、各時間に模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために、模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・模擬授業 1 ・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・模擬授業 2 ・基本指導法①の反復 ・素振り {一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）} ・対人動作での素振り、打ち込み練習

4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・模擬授業 3 ・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・模擬授業 4 ・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・模擬授業 5 ・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・模擬授業 6 ・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・五角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・模擬授業 7 ・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・五角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・模擬授業 7 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・五角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 9 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・五角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 1 0 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 五角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 1 1 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 1 2 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

HSS100IA

剣道指導論実習 【2013～2017 年度入学生対象】

山崎 廣道

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・4

管理 ID：
1826416
授業コード：
M4281

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「武道」の1 領域である剣道を学び、授業を行うための知識・技能の習得と実践的な指導力を培う。「指導論演習」なので、各時間に模擬授業を受講者に順に課し、その都度、受講者同士の講評、指導者による指導、助言を行い、実践的指導力を培う。

【到達目標】

- ①剣道を指導する上での、指導法の研究、研鑽を行う。
- ②授業での指導法・評価方法等について習得する。
- ③教員採用試験（実技試験）合格に繋がる、最低限の技能の習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①授業において、生徒が技能を高め、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開できるようになるための指導法を習得する。そのために、模擬授業を順に受講者に課し実践的な指導力を培う。

②相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動のしかたを学ぶ。伝統的な考え方や技の名称を知り、体力の高め方、見取り稽古法、課題解決の方法、試合のしかたなどを理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・「武道」の必修化について ・授業のすすめ方について ・模擬授業について ・着装、用具等の確認 ・礼法 ・足裁き ・素振り ・構えについて
2	基本指導法①	・模擬授業 1 ・防具の着け方、片づけ方 小手、胴、垂れを着用 ・足裁き（踏み込み） ・中段の構え ・素振り（上下振り、左右振り） ・前進後退による面、小手、胴打ち
3	基本指導法②	・模擬授業 2 ・基本指導法①の反復 ・素振り {一挙動・蹲踞跳躍素振り（烏跳び）} ・対人動作での素振り、打ち込み練習

4	基本指導法③（仕掛け技指導法①）	・模擬授業 3 ・基本指導法①②の反復 ・面の着用 ・仕掛け技 （面、小手、胴、小手 → 面、小手 → 面 → 胴） ・引き技
5	基本指導法④（仕掛け技指導法②）	・模擬授業 4 ・基本指導法①②③の反復 ・切り返し
6	基本指導法⑤（仕掛け技指導法③）	・模擬授業 5 ・基本指導法①②③④の反復 ・切り返し 2
7	基本指導法⑥	・模擬授業 6 ・基本指導法①②③④⑤の反復 ・打ちこみ稽古 ・掛かり稽古 ・五角稽古
8	基本指導法⑦（応じ技①）	・模擬授業 7 ・基本稽古①②③④⑤⑥の反復 ・返し技① ・すり上げ技① ・抜き技① ・出端技① ・五角稽古
9	基本指導法⑧（応じ技②）	・模擬授業 7 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦の反復 ・返し技② ・すり上げ技② ・抜き技② ・出端技② ・五角稽古
10	基本指導法⑨（応じ技③）	・模擬授業 9 ・基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 ・返し技③ ・すり上げ技③ ・返し技③ ・出端技③ ・五角稽古
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	・模擬授業 1 0 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 ・総合演習 1（切り返し → 仕掛け技 → 応じ技 → 打ち込み稽古 → 五角稽古 → 切り返し）
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	・模擬授業 1 1 ・総合演習 1 基本稽古①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 ・試合、審判法①
13	基本指導法⑫（総合演習指導法③）	・模擬授業 1 2 ・総合演習 2 ・基本指導法①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の反復 ・試合審判法②
14	基本指導法⑬（評価・評定指導法、試験・まとめ）	・評価・評定の解説 ・スキルテストについて ・総合解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリエンテーションにおいて、学習指導要領「武道」について説明・指導し、「剣道指導論演習」の学習内容・方法を詳細に記したレジュメを配布する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①授業への参加態度
 - ②模擬授業評価
 - ③授業への貢献度（役割分担等）
- ①から③を総合的に判断して評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・剣道の特性から、継続して学ぶことが重要です。教職に就いた時に実技指導ができるために、参加態度を特に重視します。
- ・竹刀、竹刀袋、鐙（つば）、鐙止めは1時間目に業者が販売に来ます。必ず、各自で購入して下さい。竹刀は、他人から借用せず、自分の竹刀を使用して授業に臨んで下さい。
- ・小手下（小手を使用する際の手袋）、手ぬぐい（面の下につける）、名札（垂れにかぶせて名前が相手の分かるようにする）は学校からの支給となります。

HSS2001A

器械運動指導論実習

小野田 桂子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。

技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身につける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。

<マット運動>マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。

<跳び箱運動>繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
 加えて、<鉄棒運動>の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す

11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店, 2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）, 大修館書店, 1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店, 2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店, 2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30% とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。

試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：
1826284
授業コード：
M4290

HSS2001A

器械運動指導論実習

小野田 桂子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目であるマット運動・跳び箱運動における基礎的な技術を習得する。

技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うためのコツ・ポイントを身につける。加えて、器械運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、器械運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感しつつ、教員採用試験の受験課題に合格するレベルの技能を習得し、かつ生徒を安全に指導できる基礎を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な2つの運動について実技学習する。

<マット運動>マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることを学習する。

<跳び箱運動>繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を学習する。
 加えて、<鉄棒運動>の特性についても触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の背景とその特性	これまでの器械運動の背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 ほん転系技群の基本技	マット運動におけるほん転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	マット運動 接転系・ほん転系の知識・理解	これまで習得したマット運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
8	鉄棒運動 支持回転系・懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の仕組みを理解する
9	跳び箱運動 繰り返し系の基本技	跳び箱運動における繰り返し系の基本技の習得を目指す
10	跳び箱運動 回転系の基本技 1	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す

11	跳び箱運動 繰り返し系・回転系の知識・理解	これまで習得した跳び箱運動における技の指導方法に関する基礎的な能力を身につける
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を相互に指導することで指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験・まとめ（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログ）運動体験を積極的に実践する。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり, 大修館書店, 2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）, 大修館書店, 1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり, 大修館書店, 2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり, 大修館書店, 2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%, 試験（実技テスト）結果を 30% とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価。加えて、随時設定した課題の達成度も評価の対象とする。

試験は実技テストとする。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技能を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID：
1826719
授業コード：
M4291

HSS200IA

体づくり運動指導論実習

小野田 桂子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点がねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。

自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性和役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ

9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

HSS200IA

体づくり運動指導論実習

小野田 桂子

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体づくり運動には「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つの領域があり、前者は気付き・調整・交流の観点からねらいであり、後者は体力向上の行い方を知ることがねらいである。特に中学生・高校生を指導する際には運動をすることの楽しさを実感させることが基本になる。さらに、新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、本実習を通して、これらのねらいや行い方を理解するとともに、体づくり運動の指導力養成へ向けた実習を行う。また、体づくり運動を行う上での安全面についても学習する。

【到達目標】

新学習指導要領（中学校）に示された「体の動きを高める」ことも視野に入れ、履修者（大学生）が、体づくり運動の様々なねらいに応じた動きや行い方を習得し、将来において指導できるようになるための基礎的な力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいを実施する。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開する。

自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の領域としての意義を考え、その必要性和役割を確認する。新学習指導要領の「体の動きを高める」も視野に入れて学習を進め、授業の最終段階では、一連の動きを構成し、作品づくりにも取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の背景とその特性	これまでの背景とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）・柔軟（静的ストレッチ）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）・柔軟（動的ストレッチ）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本・筋力（下肢）	テンポよくリズムカルに動くための基本を学ぶ
6	音楽に合わせた動きの発展・筋力（体幹）	様々な曲調の音楽に応じた体づくり運動の発展方法を学ぶ
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ

9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	輪を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	布を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した運動を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験・まとめ	試験（各グループがこれまでに行った運動を組み合わせ、発表を行う）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの生活に体づくり運動を採り入れ実践することを推奨する。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

運動できる服装・筆記用具

【その他の重要事項】

特になし

HSS200IA

サッカー指導論実習

川田 尚弘

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・2

旧うか科目名：サッカー指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID : 1826286
授業コード : M4310

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である技術や戦術を習得した上で、試合の分析・評価もできる中高教員をはじめピッチレベルで指導が出来る人材を育成・養成する事を目的とする。

【到達目標】

(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。この授業ではジュニア(U-12)からユース(U-18)までと女子の指導の基本を学ぶ。又、初心者から熟練者までレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識も身につける。この授業が中高教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを上げられる授業になればうれしい。☆格言『学ぶことをやめたら、教えることをやめなくてはならない』

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	1、サッカーとは。サッカー選手の規律と態度について 2、日本サッカー協会のビジョン 3、競技規則とフェアプレー
2	基本技術の習得	1、キックの基本 2、ドリブルの基本 3、トラップの基本 4、ヘディングの基本
3	基本技術の習得	1、対敵での対応(個人) 2、対敵での対応(グループ)
4	コミュニケーションの重要性(実技)	オン・ザ・ボールとオフ・ザ・ボールでのキーワードを知る ●コーチング・アイコンタクト・ボディーアクション
5	パス&サポート(実技)	スピード・タイミング・角度・距離の重要性を知る
6	ボール・ポゼッション(実技)	●グループでのボール保持の大切さを習得する ●攻守の切り替えの速さの大切さを知る
7	1、メディカルの知識(講義) 2、発育発達と一貫指導(講義)	●発育期のスポーツ障害・暑熱対策・救急措置法 ●栄養・休養・技術・戦術理論・コーチング理論 ●指導方法論
8	フィジカルの基本(リカバリーと強化)	●リカバリーの方法 ●フィジカル強化の方法(スプリント・ミドルパワー他)
9	スリーマンズ・コンビネーション(実技)	●オン・ザ・ボールでイニシアティブを取る ●3人目の動き(オフ・ザ・ボールの動き)
10	スモールサイド・ゲーム(実技)	ボール・ポゼッションのキーワードを身に着ける(体の向き・ワンタッチコントロールなど)
11	ボールを奪う(個人・グループ)	アプローチ(インターセプト・ディレイ他)
12	ゴールを奪う(個人・グループ)	シュート・クロス・セカンドボール
13	戦術理論(講義)	個人・グループ・チームでのルール作成
14	基本の総合トレーニング	指導の実践と振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

- ①(財)日本サッカー協会 U-12 指導指針-U18 指導指針内容を理解しておく。
- ②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】

指導テスト(70%)、実技テスト(30%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特に無し

【その他の重要事項】

特に無し

HSS2001A

サッカー指導論演習

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：サッカー指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、サッカー指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サッカー競技の普及・育成を図るための基本である試合の分析・評価ができ、指導案の作成を通じて中高教員やピッチレベルで指導が出来る人材を養成する事を目的とする。

【到達目標】

(財)日本サッカー協会公認指導者資格の保有をめざし、中高教員やサッカー指導者として活動できる技術・戦術を習得すること同時に試合の分析・評価ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

サッカーの指導者は世界で今何が起きているのかを熟知した上で育成及び強化に取り組む事が重要である。初心者から熟練者までのレベルに応じた、技術・戦術・フィジカル・メンタルのバランスを観察しトレーニングとゲームを実践するための基礎知識を身につける。又、この授業ではジュニア(U-12)からユース(U-18)レベル(女子も含む)の選手に対しての指導の実践を行い、自身の指導レベルを確認する。この授業が中高の教員やサッカー指導者を目指す学生のキャパシティーを広げられる授業になればうれしい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	年代別トレーニングの考え方(講義)	●ジュニア(U-12)~ユース(U-18)までの特徴を学ぶ ●指導案の作成を学ぶ
2	①フィジカルトレーニング(実技) ②ワンタッチ・コントロール(実技)	①ボールを使ったトレーニングとボールを使わないトレーニング ②ボール・フィーリング
3	指導の実践(テーマ:ワンタッチ・コントロール、ボールフィーリング)	学生が3名(監督1名、コーチ2名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。
4	①キック(実技) ②ヘディング(実技) ③リ・スタート(実技)	●シュート・パス・クリアの技術の習得 ●フリーキック・コーナーキック・スローイン
5	指導の実践(テーマ:リ・スタート)(実技)	学生が3名(監督1名、コーチ2名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う。(フリーキック・コーナーキック・スローイン) ☆得点の3割以上を占めるリスタートの重要性を知る。
6	アタック&ディフェンス(実技)	ゲーム・フリース
7	個人戦術 I	1対1のオフェンスおよびディフェンスの原則について理解する
8	グループ戦術	コミュニケーション(アイコンタクト・コーチング・ボディアクション)、複数でのボールや人、スペースへの関わり方を理解する
9	チーム戦術	チームとしてゲームをどう運ぶか、特にサポートの重要性や判断・決断の速さについて理解を深める
10	チーム戦術とゲーム I	守備についてフォーカスし、組織としてどう守るかについて考えていく
11	チーム戦術とゲーム II	攻撃にフォーカスし、チームとしてどう攻めるか、相手の状況によってどう崩していくかについて考えていく
12	指導実践 I	学生が3名(監督1名、コーチ2名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う
13	指導実践 II	学生が3名(監督1名、コーチ2名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

14 指導実践 III

学生が3名(監督1名、コーチ2名)がテーマに沿った指導案を作成し、指導の実践を行う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

指導の実践が本授業の目的である。事前にテーマと内容について予習しておく。(指導案の作成が出来るようにする)

- ①(財)日本サッカー協会 U-12 指導指針~U18 指導指針内容を理解しておく。
- ②(財)日本サッカー協会指導教本で予習する。

【テキスト(教科書)】

(財)日本サッカー協会公認指導者養成テキスト

【参考書】

・日本代表コーチ・Jクラブ監督・日本代表ユース時代のトレーニングノート
・サッカーのコーディネーショントレーニング(大修館書店)
・サッカー指導教本2012(JFA公認C級コーチ)(公)日本サッカー協会

【成績評価の方法と基準】

指導実践(60%)、レポート(40%)により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

指導実践の充実(受講者全員に指導の実践を体験させる)

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ピッチ上でオーガナイズが出来るように導く

管理 ID:
1804327
授業コード:
M4320

HSS200IA

バドミントン指導論実習

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
曜日・時限：木・3
旧うか科目名：バドミントン指導論(実習)[2012 年度以前入学生]
※通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826287
授業コード：M4370

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントン指導者として身に着けなければならない基本ストローク、フットワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニクの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク	ブッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編	オールロング
9	基本技術 応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」(財)日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。

HSS200IA

バドミントン指導論演習

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：木・3
 旧うか科目名：バドミントン指導論(実習)[2012 年度以前入学生]
 ※通年科目のため、バドミントン指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826288
 授業コード：M4380

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論	講義と実技 「基本ストローク」
3	バドミントン技術論	講義と実技 「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論	講義と実技 「フットワーク」
5	バドミントン競技指導	講義と実技 「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導	講義と実技 「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技
11	バドミントン競技規則	講義と実技
12	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
 第2～14回：前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

「バドミントン教本」「バドミントンルール教本」（財）日本バドミントン協会編

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。

HSS200IA

バレーボール指導論実習

山田 稔

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：火・3
 旧うか科目名：バレーボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生]
 ※通年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

バレーボールの指導を行う上で必要な技能を身に付けるとともに、バレーボールの歴史の変遷、技術の名称、ルールや試合の仕方、戦術等を理解する。

【到達目標】

【技能】

状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開できるようになる。

【態度】

バレーボールに主体的に取り組み、自己の役割に責任を持ち、的確に果たすことや、健康・安全を確保できるようになる。

【知識、思考・判断】

バレーボールの歴史の変遷、技術の名称、技術の構造、体力の高め方、試合の仕方等を理解し、自己やチームの課題に応じた目標設定や課題解決の方法、戦術を考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標に示した技能を身に付けるため、ボール操作などの基本練習を行う。

チーム内での受講者同士の学び合いを中心として講義を進める。指導のコツやポイントを教育の現場で実際に言語化できるよう、受講者間の言語能力の向上を目指す。

バレーボールの指導に必要な知識を講義やワークシート、課題レポートを通して習得する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 基本技術の練習 (パス、レシーブ)	授業の概要と目的、到達目標、評価とその方法、について説明する。 自己紹介、グループ分け、係分担の決定。 基本技術 (パス、レシーブ) の練習。
2	バレーボールの歴史の変遷について 基本技術の練習 (サーブ) 簡易ゲーム (4 対 4)	バレーボールの歴史の変遷について理解する。 サーブに変化をつける方法を理解する。 相手コートの守備のいない空間に緩急をつけて打ち返す方法についてグループで考える。

3	基本技術の練習 (ディグ) 簡易ゲーム (4 対 4)	1 対 1 や 2 対 2 でディグ練習を行う。その際、ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができるようになる。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることができるようになる。
4	基本技術の練習 (スパイク) 簡易ゲーム (4 対 4)	ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができるようになる。 移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるためのトスを上げることができるようになる。
5	基本技術の練習 (レセプション) ゲーム (6 対 6)	変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレセプションすることができるようになる。 基本的なルールについて理解できる。
6	基本技術の練習 (ブロック) ゲーム (6 対 6)	仲間と運動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようになる。 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようになる。
7	複合の練習 (3 対 3) ゲーム (6 対 6) 課題レポートの説明	状況に応じたボール操作と仲間と運動した動きができるようになる。 チームの課題を把握し、課題解決のための練習法などの選択と実践をグループで行なうことができる。
8	チームの課題解決のための練習 リーグ戦①	課題レポートの内容、提出期限の説明を行う。 チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。(主に守備面) リーグ戦を運営をできるようになる。
9	チームの課題解決のための練習 リーグ戦② 課題レポートの提出	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。(主に攻撃面) リーグ戦を運営をできるようになる。 課題レポートを提出する。
10	チームの課題解決のための練習 リーグ戦③	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。(主に守備面) リーグ戦を運営をできるようになる。
11	チームの課題解決のための練習 リーグ戦④	チームの課題を共有し、チームに合った練習方法を考え、実践することができる。(主に攻撃面) リーグ戦を運営をできるようになる。
12	実技試験 (基本技術の習得状況を評価する) まとめ	評価基準に基づき、技能評価を行う。 リーグ戦を通して、個人とチームの課題をふり返る。
13	アダプトテッドスポーツ (シッティングバレーボール) について	多様な生徒に対応するための授業を考えられるようシッティングバレーボールを体験する。 シッティングバレーボールのルールを理解する。

管理 ID: 1826289
 授業コード: M4430

- 14 アダプテッドスポーツ 多様な生徒に対応するための授業
(シッティングバレー を考えられるようシッティングバ
ボール) について レーボールを経験する。
本授業のまとめ 本授業をふり返り、学びの内容を
まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の授業に対する取組状況と復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 20 年 7 月
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成 21 年 7 月

【参考書】

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】

バレーボールの基本技能 実技試験 50%

授業中の活動に対する参画状況 15%

授業への積極的な貢献度 15%

課題レポート及び毎回の授業レポート 20%

この成績評価は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS200IA

バレーボール指導論演習

山田 稔

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：火・3
 旧うか科目名：バレーボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生]
 ※通年科目のため、バレーボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習活動を中心に、教員からの講義(評価)を受け、自らの課題を把握し、これからの授業づくりに役立つようにする。教員として必要な、学習指導力、生徒指導力等の現状を確認し、自己の目指す教師像を明確にする。

【到達目標】

これまで学んだ教職に関する基礎科目や自らの学習経験をもとに、自身の教員としての資質能力を確認し、課題を自己発見することができるようにする。グループでの共同研究に参画し、自らの役割を的確に果たし、他者の意見を取り入れながら、より良い授業づくりに貢献することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・グループ単位で、バレーボールの指導案(細案)を作成し、模擬授業を行う。
 ・模擬授業の省察を行い、より良い授業づくりのための課題把握と改善方法を考える。
 ・模擬授業の実践及び履修者の意見交換会を行う際の運営を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション(講義室) 指導案の作成について① 指導案の検討①	・講義の概要と目的、到達目標、評価とその方法、講義の概要について説明する。 ・自己紹介、グループ分け、係分担の決定 ・指導案の作成方法について理解する。 ・グループごとに分かれ、模擬授業の指導計画を考える。
2	指導案の作成について②(講義室) 指導案の検討②	・指導案の作成について、履修者の質問に教員が答える。 ・グループごとに分かれ、模擬授業の指導計画を考える。
3	模擬授業①(体育館)	対象：中学校 1 学年 本時の目標：「ボールの操作」 相手側のコート上の空いた場所にボールを返すことができるようにする。
4	模擬授業②(体育館)	対象：中学校 1 学年 本時の目標：「定位置に戻るなどの動き」 プレイを開始するときは、各ポジションごとの定位置に戻るができるようにする。

5	模擬授業③(体育館)	対象：中学校 2 学年 本時の目標：「ボールの操作」 テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができるようにする。
6	模擬授業④(体育館)	対象：中学校 2 学年 本時の目標：「定位置に戻るなどの動き」 ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができるようにする。
7	模擬授業⑤(体育館)	対象：中学校 3 学年 本時の目標：「連携した動き」 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くことができるようにする。
8	前半グループの省察内容の発表(講義室) 課題レポートの提出について	模擬授業を終えたグループが省察を踏まえた、振り返りをプレゼンテーションで発表する。それを受け、履修者間の意見交換を行う。 省察内容 ・指導計画について ・教師行動について ・生徒の意欲の向上について ・技能の習得と定着について ・主体的・対話的で、深い学びの実現について ・体力の向上について ・知識の習得について 課題レポートの内容と提出についての説明を行う。
9	模擬授業⑥(体育館)	対象：高等学校 1 学年 本時の目標：「役割に応じたボール操作」 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができるようにする。
10	模擬授業⑦(体育館) 課題レポートの提出	対象：高等学校 1 学年 本時の目標：「連携した動き」 ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができるようにする。 課題レポートの提出を行う
11	模擬授業⑧(体育館)	対象：高等学校 2 学年 本時の目標：「状況に応じたボール操作」 変化のあるサーブに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができるようにする。
12	模擬授業⑨(体育館)	対象：高等学校 2 学年 本時の目標：「連携した動き」 ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
13	模擬授業⑩(体育館)	対象：高等学校 3 学年 本時の目標：「状況に応じたボール操作」 チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。

管理 ID:
1826290
授業コード:
M4440

- 14 後半グループの省察内容の発表（講義室）
本講義のまとめ
- 模擬授業を終えたグループが省察を踏まえた、振り返りをプレゼンテーションで発表する。それを受け、履修者間の意見交換を行う。省察内容は8限目に準じる。本講義をふり返り、学びの内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

模擬授業の実践へ向けての指導案（細案）作成の取り組みを行う。
模擬授業の省察を行いプレゼン資料を作成し、履修者に向け発表する。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成20年7月
高等学校学習指導要領解説 保健体育編（文部科学省）平成21年7月

【参考書】

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

【成績評価の方法と基準】

バレーボール指導案（細案）及び省察のまとめ（プレゼン発表） 40%
模擬授業の内容（グループとしての評価） 20%
授業への積極的な貢献度 15%
課題レポート及び授業レポート 15%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

HSS2001A

テニス指導論実習

植村 直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：テニス指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修生（大学生）が将来、中学生、高校生の体育授業においてテニス指導に携わる場合に、必要とされるテニスの技術指導、指導方法を学習し、生徒をテニスに親しませるような指導力を本実習で養成するとともに、個人の実技力を高める事が目的である。また、テニスの専門的知識を身に付けるために、ルール、マナー、歴史、授業中の安全管理などを学ぶ。

【到達目標】

本授業の履修生が、中学校・高等学校においてテニスの体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。

- ①テニスの歴史、ルール、マナー・組織を文献・資料などを参考に学習する。
- ②段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、指導法を修得する。
- ③テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチングが出来る能力をこの授業で学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サービスの基本動作を学び、その後、応用技術として各ショットの連続プレーの練習をする。
- ②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
- ③将来、初心者指導者としての、テニスの楽しさを伝えられる様な自分なりの教え方を学ぶ。
- ④応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	テニスの歴史と現状	テニスのルーツ・語源・スコアの 数え方・
第 2 回	テニスの特性と組織、 プロツアーの世界	国内海外のテニス組織・JTA・ ITF・ATP・WTA、プロツアー の仕組み
第 3 回	テニスのルールとマ ナー	コートの子・選手倫理規定
第 4 回	トップアスリートへの 道	テニスを始めてからトップまで
第 5 回	デビスカップ・フェド カップ・五輪・アジア 大会	国別対抗の歴史と現状
第 6 回	テニス指導者の役割	年齢別・初心者から上級者までの 段階的指導法
第 7 回	審判指導法	セルフジャッジから国際審判員ま で

第 8 回	一貫指導システム	日本体育協会の推進システムを学 ぶ
第 9 回	ジュニアを育成する為 の指導法	発育発達とトレーニング
第 10 回	テニス用具の進歩に伴 うテニススタイルの進 化	ラケット・ボール・コートの種 類、スピード化によるテニス技術 の進化
第 11 回	日本・世界のトッププ レーヤー達、歴史	名選手のプレースタイル、世界ラ ンキングの仕組み
第 12 回	テニスのメンタルスキ ル	テニスの心理学、トレーニング 法、指導法
第 13 回	テニスの体力トレーニ ング	テニスに必要なトレーニング法と 指導法
第 14 回	テニスの安全管理	テニス指導における傷害防止と安 全対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。

実技の前日は体調を整えるように心がける。

毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界について学習する。

【テキスト（教科書）】

「テニス指導教本」日本テニス協会

「JTAテニスルールブック」日本テニス協会

【参考書】

「テニスマガジン」「テニスクラシック」等月刊専門誌など授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70%）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30%）を対象として総合的に評価する。この評価は原則的なものであり、健康状態等による見学者については個別に対応、評価する。

遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニスの楽しさを取入れた授業を展開していく。

【その他の重要事項】

秋学期科目のテニス指導論演習を併せて履修することが望ましい。

管理 ID：
1810662
授業コード：
M4330

HSS200IA

テニス指導論演習

植村 直己

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位
 曜日・時限：水・3
 旧うか科目名：テニス指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、テニス指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、履修生（大学生）が将来、中学生、高校生のテニス指導に携わる場合に必要とされるテニスの技術指導、指導方法を学習し、生徒をテニスに親しませるような体育授業の指導力を本授業で養成すると共に、個人の実技力の向上が目的である。
 また、テニスの専門的知識を身につけるために、歴史、ルール、マナー、組織などを学ぶ。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校においてテニスの体育授業を展開することのできる指導力、知識、態度を身に付ける事が到達目標である。
 ①テニスの歴史、ルール、マナー、組織を文献、資料などを参考にする。
 ②段階的指導法によりテニスの基礎技術の習得を目指し、テニスの指導法を学ぶ。
 ③テニスの実習及び理論を総合的に体験しながら習得し、将来、地域のテニス指導者として、キッズからシニアまで、生涯スポーツ及び競技力向上のためのコーチングが出来る能力をこの授業で学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

①テニス基本ショットであるフォアハンドストローク、バックハンドストローク、フォアボレー、バックボレー、スマッシュ、サービスの基本技術を学び、その後応用技術として各ショットの連続プレーの練習をする。
 ②段階的指導法による基本ショットの技術習得を実践し、同時に指導方法を学習する。
 ③将来、初心者指導するための、テニスを楽しさを伝えられる様な自分なりの教え方を学ぶ。
 ④応用技術がある程度出来るようになったら、ダブルスゲームを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	テニスの基本6ストロークの説明/ガイド	グリップ・スウィング法
第 2 回	フォアハンドストローク	基礎技術、フットワーク
第 3 回	バックハンドストローク	基礎技術、フットワーク
第 4 回	グランドストロークの指導法	フォア、バックハンドストロークの段階的指導法の実践
第 5 回	ボレーの基礎技術	グリップ、スウィング法
第 6 回	ボレーの指導法	ボレーの段階的指導法の実践
第 7 回	スマッシュ、サービス	グリップ、スウィング法
第 8 回	スマッシュ、サービスの指導法	スマッシュ、サービスの段階的指導法の実践
第 9 回	サービス、リターン基礎技術	サービスの種類、サービス・リターン練習
第 10 回	ダブルスの基礎	ルール、マナー、試合方法

第 11 回	ダブルスのフォーメーション	雁行陣、平行陣、I フォーメーション
第 12 回	ダブルスの指導法	試合形式、試合の進め方
第 13 回	ダブルス指導法	試合形式による段階的指導法の実践
第 14 回	ダブルスゲーム	ダブルス応用技術、戦術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テニスのルールやマナーを文献やインターネットで事前に調査し予備知識を高める。
 実技の前日は体調を整えるように心がける。
 毎回、学習した技術を次回に必ずチェックし、フィードバックする。
 テレビ放映される全仏、全英オープンを見て、テニス界の事を学習する。

【テキスト（教科書）】

「テニス指導教本」日本テニス協会
 「J T A テニスルールブック」日本テニス協会

【参考書】

①「テニスマガジン」「テニスクラシック」等月刊テニス専門誌
 ②授業内で必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業は講義、実技併用型の授業であるため、授業への参画姿勢等の平常点（70 %）ならびに授業内容の理解度、実技の上達度（30 %）を対象として総合的に評価する。
 なお、この評価は原則的なものであり、健康状態による見学者等については個別に対応、評価する。
 遅刻 3 回は 1 回の欠席となるため、遅刻、欠席には十分注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

テニスの楽しさを取入れた授業を展開していく。

【その他の重要事項】

春学期科目のテニス指導論実習を併せて履修することが臨ましい。

管理 ID：
1810663
授業コード：
M4340

HSS200IA

ソフトボール指導論実習

大田 穂

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：木・3
 旧うか科目名：ベースボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生]
 ※通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的技術を習得するため、屋外での実技を基本とする。ただし、ルールや戦術などの基本的知識を学習する場合には、室内での講義も実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。

屋外での実技授業の場合にはグループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	投球の基本的技術	ボール慣れ・オーバーハンドスロー
第 3 回	グラブ操作の基本的技術	グラブ操作・キャッチボール
第 4 回	捕球の基本的技術	ゴロ捕球・フライ捕球
第 5 回	打撃・犠打の基本的技術	ティーバッティング・トスバッティング・送りバント
第 6 回	投手の基本的技術	ウインドミル投法
第 7 回	走塁の基本的技術	ベースランニング
第 8 回	ノックの基本的技術	内野手および外野手へのノック
第 9 回	チームでの守備連係	併殺プレー・シートノック
第 10 回	ソフトボールの基本的ルール	ソフトボールと野球のルールの違い
第 11 回	ソフトボールの基本的な技術の指導	各基本的技術を指導する際の留意点
第 12 回	ミニ試合	特別ルールを用いての試合
第 13 回	試合	これまでに学習および習得したルールと基本的技術を用いての試合
第 14 回	学期末まとめと試験	まとめ・春学期の理解度テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし。
 第 2～13 回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）。
 第 14 回：春学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
 「中学校学習指導要領」
 「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
 その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）・授業時の課題提出（20%）・テスト（50%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通して履修すること。

管理 ID：
1809225
授業コード：
M4390

HSS200IA

ソフトボール指導論演習

大田 穂

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・3

旧うか科目名：ベースボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生]

※通年科目のため、ソフトボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804331
 授業コード：M4400

ソフトボールにおける「投・捕・打・走」の基本的な技術を習得し、ルールや安全面での留意事項等の知識を学習することによって、ソフトボールの指導方法を身につけることを目的とする。

【到達目標】

中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な「投・捕・打・走」の基本的技術を身につける。また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の際に必要な知識や留意事項等も学習し、正しく安全に指導できる力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的技術や指導方法を習得するための屋外での実技、ルールや戦術などの基本的知識や指導のために必要となる知識を学習するための室内での講義を実施する。また、天候等による急な変更もあり得る。指導方法を習得するための実技では、小グループでの相互指導（模擬授業）を行う。屋外での実技授業の場合には小グループでの学習シートの提出、室内での講義授業の場合には個人でのリアクションペーパーの提出を必須とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容および留意事項の説明
第 2 回	さまざまな練習方法（守備・ピッチング）	守備とピッチングについての練習方法の紹介とその意図
第 3 回	さまざまな練習方法（打撃・走塁）	打撃と走塁についての練習方法の紹介とその意図
第 4 回	年代別のソフトボール指導	各世代・各カテゴリーへの指導方法と留意点
第 5 回	学校体育におけるソフトボール指導	学習指導要領に示されている目標を踏まえた指導
第 6 回	ソフトボール（野球）を実施する上での安全面への配慮	ソフトボールおよび野球で起こりやすいケガや事故
第 7 回	投球の指導演習	投球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 8 回	ゴロ捕球の指導演習	ゴロ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 9 回	フライ捕球の指導演習	フライ捕球についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 10 回	打撃の指導演習	打撃についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 11 回	ウインドミル投法の指導演習	ウインドミル投法についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 12 回	犠打・走塁の指導演習	犠打・走塁についての小グループでの相互指導（模擬授業）
第 13 回	指導者の役割と心得	指導者の役割と心得ておくべきこと
第 14 回	学期末まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：春学期の復習（基本的な技術およびルールの理解）。
 第 2～13 回：前回授業の復習と次回授業の予習（提出課題等）。
 第 14 回：秋学期の総合的な復習。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「ソフトボール指導教本」日本ソフトボール協会
 「中学校学習指導要領」
 「中学校学習指導要領解説（保健体育）」
 その他は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（30%）・授業時の課題提出（20%）・相互指導（模擬授業）レポート（20%）・学期末レポート課題（30%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

説明の際などの話をするスピードが速いので、ゆっくりと話すように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

秋学期授業を理解するためには、春学期の授業を理解することが前提となる。秋学期のみの履修は基本的には認めない。

HSS2001A

バスケットボール指導論実習

清水 貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：金・3
 旧うか科目名：バスケットボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者であり防御者でもある球技種目である。従ってまずは瞬発力、持久力や状況に応じた素早い判断力を養わなくてはならない。それらの向上とバスケットボールの基礎技能を身につけるとともに、協調性や闘志面の向上もテーマとする。
 審判法、ゲームの展開（運営）の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

バスケットボールの基礎技能の習得とゲームの中での基本的な動きを各プレイヤーのポジションや役割を理解して実践できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バスケットボール競技において必要な能力を実技によって身に付けていく。ファンダメンタル（ダッシュ、ストップ、ステップ、ジャンプ）と個人能力（ドリブル、パス、シュート）の練習から対人練習、ゲーム形式と進めていく。
 また、オフィシャル（審判方法）のやり方やバスケットボールというスポーツの歴史、ルールの改正、戦術を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	履修についての諸注意、履修学生の選抜（最大 40 名）、ガイダンス
2	バスケットボールとルールの説明	ルール変遷や歴史を紹介、また実技を通してバイオレーションやファウルの種類を説明
3	実技によるファンダメンタル①	ボールコントロール、ボールハンドリング、ドリブルの練習
4	実技によるファンダメンタル②	フットワーク、ドリブル、パス、リバウンド、シュートの練習
5	ディフェンスについて	ディフェンスの目的や考え方を理解し、実際に 1 対 1 や 2 対 2 を行う
6	実技による対人及び集団技能	1 対 1、2 対 2、3 対 3 など
7	オフェンスについて	パス&ラン、スクリーンプレーを学び 3 対 3、4 対 4 を行いチームオフェンスを学ぶ
8	実技による対人及び集団技能	アウトナンバープレー、スクリーンプレー 4 対 4 など
9	リーグ戦に向けて	チーム編成、オフィシャル方法解説、ゲーム形式の練習
10	リーグ戦	試合形式による学習及びチーム練習

11	リーグ戦と実技試験についての説明	試合形式による学習と実技試験の練習
12	ゲームにおける戦術論（オフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からスクリーンプレーやアウトナンバープレーをより発展させていく。また実技試験の練習も行う
13	ゲームにおける戦術論（ディフェンス面を中心に）	試合形式による学習の中からマンツーマン、ゾーン、プレスなどのディフェンスを学ぶ。また実技試験の練習も行う
14	実技試験	個人技能のドリブル、シュートの実技試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ルールの確認。
 授業で配布した資料を読み返すこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業点（リーダーシップ及び授業への参加態度などから総合的に評価（50 %）
 実技試験による評価（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

教職の学生も履修しているので、技術の習得だけではなく、指導時のポイントも授業に組み込んでいき、学生同士が指導できる環境をつくっていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

基本的には実技を取り入れていくので体育館で行いますが、毎時間授業のはじめは講義形式で行うので筆記用具を用意すること。

【その他の重要事項】

履修希望者が多い場合は第 1 回目の授業で選抜をします。受講希望者は必ず出席すること。選抜方法は上級生を優先とし男子 20 名、女子 20 名の計 40 名（男女の比率は変更する場合あり）を上限とします。また基本的には秋学期に行うバスケットボール指導論演習も同年度に履修することを条件とします。

※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

HSS2001A

バスケットボール指導論演習

清水 貴司

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・3

旧うか科目名：バスケットボール指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、バスケットボール指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

バスケットボールはオフェンスとディフェンスが目まぐるしく交互に入れ替わりコートにいる全員が攻撃者及び防御者となる球技種目である。履修者はこの特性を理解し、中学生や高校生を指導する際には、瞬発力、持久力の向上と状況に応じた素早い判断力を養えるよう授業を展開していかなくてはならない。それらの指導力を本演習で養成したい。

また、指導者や教員としての知識を身に付ける為、審判法、ゲーム(運営)展開の仕方、上級者及び初心者への指導法、バスケットボールの歴史なども学ぶ。

【到達目標】

指導者としての立場で中学校・高校学校におけるバスケットボールの授業を展開していく指導力を身に付けることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業を中心として授業を展開していく。グループワークを積極的に取り入れ、協働して演習を行う。また、中学校・高等学校における指導案の作成手順を適宜資料を配布して学んでいく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	模擬授業について	模擬授業の準備と説明(指導案の作成、テーマと模擬授業の順番などを決める。)
2	模擬授業(ボールハンドリング・ドリブルについて)	グループ及び1名がボールハンドリング、ドリブルの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
3	模擬授業(パス・シュートについて)	グループ及び1名がパス、シュートの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
4	模擬授業(ディフェンス・ボールマンに対する守り方について)	グループ及び1名がボールマンに対するディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
5	模擬授業(オフェンス・カッティングプレーについて)	グループ及び1名がオフェンスにおけるカッティングプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
6	模擬授業(オフェンス・スクリーンプレーについて)	グループ及び1名がオフェンスにおけるスクリーンプレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
7	模擬授業(オフェンス・アウトナンバープレーについて)	グループ及び1名がオフェンスにおけるアウトナンバープレーの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
8	模擬授業(マンツーマンディフェンスについて)	グループ及び1名がマンツーマンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
9	模擬授業(ゾーンディフェンスについて)	グループ及び1名がゾーンディフェンスの指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
10	模擬授業(戦術・チームオフェンス、セットプレーについて)	グループ及び1名がオフェンスの戦術(セットプレー)の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
11	模擬授業(戦術・ヘルプディフェンスのローテーションについて)	グループ及び1名がディフェンスの戦術(ローテーション)の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。

12	模擬授業(授業の中でのリーグ戦の運営方法と審判方法、簡易ルールの設定などについて)	グループ及び1名がリーグ戦の運営方法、審判方法の指導を中心とした模擬授業を行う。終了後に生徒役がアンケート評価を行う。
13	模擬授業に対する反省と評価	模擬授業担当者にアンケート評価をフィードバックし、反省点と改善点をまとめる(レポート作成)
14	まとめ 各グループの発表、質疑応答	模擬授業を通して何を学べたのかをディスカッションして発表(レポート作成)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

第1回：特になし

第2~12回：模擬授業の準備(担当の学生は指導案の作成)

第13回：模擬授業に対する反省点と改善点をまとめておく

第14回：他グループへの模擬授業に関する質問やディスカッションの準備

【テキスト(教科書)】

資料を配布する

【参考書】

バスケットボール指導教本 日本バスケットボール協会編 大修館書店
バスケットボール用語辞典 監修 小野修二 小谷究 廣済堂出版

【成績評価の方法と基準】

参加態度 40 点 指導案の評価 20 点 模擬授業の評価 20 点 レポート 20 点

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業を中心に進めていきますが、模擬授業終了後に時間のある場合はゲーム形式での学習の時間に充てていきます。毎時間ゲームを行うことで上達度も早く向上心を保つことに繋がると感じたとゲームを楽しみながら技術を高めて欲しいと思います。

【その他の重要事項】

※春学期にバスケットボール指導論実習を受講した後に履修することが望ましい。履修人数に制限(最大 40 名)があるので履修希望者が多い場合は上級生とバスケットボール指導論実習を受講後の学生を優先とする。

※履修人数によって授業内容を変更する場合があります

HSS200IA

陸上競技指導論実習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：陸上競技指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1809224
陸上競技の走・跳・投について、基礎的な技術を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

授業コード：M4350

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、実技力、実践力を高め、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を学習する。

また、教員採用試験の受験課題の対応した技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 陸上競技の歴史・概要	授業概要および陸上競技の特性について学習する。
2	陸上競技の基礎 I	陸上競技の生理学、力学について学習する。
3	走運動の理論と実技短距離走 I	短距離走の原理、ルール、方法について学習する。
4	走運動の理論と実技短距離走 II	スタート、中間疾走について実践をもとに学習する。
5	走運動の理論と実技ハードル走 I	ハードル走の原理、ルール、方法を学習する。
6	走運動の理論と実技ハードル走 II	ハードル走の実践および指導法を学習する。
7	走運動の理論と実技リレー競技 I	リレー競技の原理、ルール、方法を学習する。
8	走運動の理論と実技リレー競技 II	リレー競技の実践および指導法を学習する。
9	跳躍運動の理論と実技走幅跳 I	走幅跳の原理、ルール、方法について学習する。
10	跳躍運動の理論と実技走幅跳 II	走幅跳の実践から指導法を学習する。
11	跳躍運動の理論と実技走高跳 I	走高跳の原理、ルール、方法を学習する。
12	跳躍運動の理論と実技走高跳 II	走高跳の実践から指導法を学習する。
13	投運動の理論と実技砲丸投 I	砲丸投の原理、ルール、方法を学習する。
14	投運動の理論と実技砲丸投 II	砲丸投の実践から指導法を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回授業の復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店
陸上競技指導教本 種目別実技編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%) と提出物 (レポートなど) (50%)、小テスト (20%) による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を挙げるなど、より理解しやすい授業を目指す。

HSS200IA

陸上競技指導論演習

苅部 俊二

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・3

旧うか科目名：陸上競技指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※通年科目のため、陸上競技指導論実習と演習を履修必須。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を挙げるなど、より理解しやすい授業を目指す。

管理 ID：1804333
授業コード：M4360**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

陸上競技の走・跳・投について、その理論を習得し、陸上競技の指導法を身につける。

【到達目標】

陸上競技の走・跳・投について、理論、実技を通じて学習し、これらの習得をもとに将来指導者としてのあり方を学び、指導法、指導内容やトレーニング計画法を身につける。

教員採用試験の受験課題となる陸上競技の基礎的な理論、ルールを学習するとともに実際の授業の展開や安全な授業づくりの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

陸上競技種目の走・跳・投について技術習得および指導のための科学的な知識を学習する。運動生理学やバイオメカニクスなどといった基本的な運動学の視点から陸上競技をとらえ理解を深めるとともに実際にその技術を習得する。さらにトレーニング理論や発育発達、運動心理学をふまえたトレーニング方法の立案、コーチング法を学び、陸上競技の指導法を習得していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	陸上競技の指導法	陸上競技のコーチング・心理について理解を深め指導法を学習する。 また、指導案の作成方法、トレーニング計画の立案法について学習する。
2	跳躍運動の理論と実技 三段跳	三段跳の実践から指導法を学習する。
3	跳躍運動の理論と実技 棒高跳 I	棒高跳の実践から指導法を学習する。
4	跳躍運動の理論と実技 棒高跳 II	棒高跳の実践から指導法を学習する。
5	短距離走の指導実習 ハードル III	ハードル走の実践から指導法を学習する。
6	歩運動の指導法概論 競歩	競歩種目の実践から指導法を学習する。
7	投運動の理論と実技 円盤投	円盤投の実践から指導法を学習する。
8	投運動の理論と実技 やり投	やり投の実践から指導法を学習する。
9	投運動の理論と実技 ハンマー投	投運動の実践から指導法を学習する。
10	走運動の理論と実技 長距離 I	走運動の実践から指導法を学習する。
11	走運動の理論と実技 長距離 II	走運動の実践から指導法を学習する。
12	走運動の指導案作成	走運動の指導理論から指導案を作成する。
13	跳躍運動の指導案作成	跳躍運動の指導理論から指導案を作成する。
14	投擲運動の指導案作成	投擲運動の指導理論から指導案を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2~14 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。適宜資料を配布する。

【参考書】

陸上競技指導教本 基礎理論編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

陸上競技指導教本 種目別実技編 財) 日本陸上競技連盟編 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度 (30%)、提出物 (レポートなど) (50%) 及び小テスト (20%) によって評価する。

HSS200IA

スイミング指導論実習

八塚 明憲

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：金・1

旧うか科目名：スイミング指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※
通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

指導者としての基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に、4泳法（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

4 種目（自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ）の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習する。100m 個人メドレー。出来れば 200m 個人メドレーを泳げる泳力を身に付けたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯スポーツとしての水泳はシーズンスポーツでなく室内プールの充実ともない年間を通じて計画されるスポーツになった。スイミングクラブの普及につれ社会体育における水泳の果たす役割も重要になり多くの指導者が求められるようになってきている。水泳指導者は、広い一般教養はもとより、水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。実技を中心に学び指導者としての授業を展開して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	個人の泳力チェック。 クラス分け。授業中に起こる事故・怪我等についての説明。
2	実技 自由形①	水慣れ 呼吸法 浮き身 蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足
3	実技 自由形②	蹴伸びからのバタ足 ビート板使用のバタ足 ビート板使用コンビネーション (呼吸付き) コンビネーション
4	実技 自由形③	呼吸付き自由形で 25m 以上泳げるようにする。
5	実技 背泳ぎ①	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック 呼吸法

6	実技 背泳ぎ②	浮き身 ビート板使用背泳ぎキック ビート板無し背泳ぎキック コンビネーション
7	実技 背泳ぎ③	呼吸付き背泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
8	実技 平泳ぎ①	プールサイドでのキック 壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック
9	実技 平泳ぎ②	壁キック ビート板使用キック ビート板無しキック コンビネーション
10	実技 平泳ぎ③	呼吸付き平泳ぎで 25m 以上泳げるようにする。
11	実技 バタフライ①	壁キック ビート板無しキック ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無しキック
12	実技 バタフライ②	ビート板使用キック ビート板使用片手バタフライ ビート板無し片手バタフライ コンビネーション
13	実技 バタフライ③	呼吸付きバタフライで 25m 以上泳げるようにする。
14	実技 個人メドレー①	4 種目の復習 バタフライから背泳ぎ 背泳ぎから平泳ぎ 平泳ぎから自由形のターンを意識して 100m 個人メドレーを泳ぐ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店
インターネットから日本代表選手等の泳ぎを予習復習すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

80% 授業内の取り組み方

20% 泳力テスト（各泳法の評価と 100 m 個人メドレーを行う）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の映像をチェックして泳法指導に役立てる。

水温・室温の管理に気を配る

【学生が準備すべき機器他】

ゴーグル・帽子・水着・バスタオル

【その他の重要事項】

体調不良等で見学する場合も授業内の内容、注意点を学び指導者としての基礎知識を学んで欲しい。

HSS200IA

スイミング指導論演習

八塚 明憲

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・1

旧うか科目名：スイミング指導論(実習)[2012 年度以前入学生] ※
通年科目のため、スイミング指導論実習と演習を履修必須。**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

管理 ID: 1804334
授業コード: M4420

水泳指導者、特に中学生、高校生を指導する際の基本的な心構えと水の事故を防止する指導、並びに指導法を学習すると同時に履修者(大学生)がこのような課題を認識し、生徒が水泳に親しむことができる。4泳法(自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ)が正しく泳げるようになること。水泳の歴史的背景と水中運動の特性について理解を深めると共に、水中運動を通して抵抗・揚力・推進力を体得する。各種目に起こりがちな泳法的な誤り、指導法について実技を通して学習する。

【到達目標】

履修者が中学校・高等学校において水泳指導の体育授業を展開できる指導力、知識、態度を身に付け、4 種目(自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ)の泳法・ターン・スタートについて実践とビデオで学習して行く。DVD 等を鑑賞しての受講者と日本代表選手との違いなどについても学習し到達目標として 100m 個人メドレーを完泳する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら、履修者が主体的に参加し、学びを深めることが出来る

模擬授業を中心に進めていく。またグループワークによる協働的な演習を行う。

水泳の技術および指導に関する科学的な基礎理論とそれに基づいた(実習)すぐれた泳ぎを学ばなければならない。ビデオ撮影・水泳部員の模範泳法・DVD 鑑賞などを織り交ぜて授業を展開して行く。体育授業を展開する基礎知識を学び指導者としての模擬授業を展開して行く。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス基本 技能の復習 自由形について	個人の泳力チェック、 クラス分け・授業中に起こる事故・ 怪我等についての説明。自由形の基 本的指導について学ぶ。
2	基本技能の復習 自由形の模擬授業	1 回目の授業・自由形での指導法の 復習。模擬授業として先生役と生徒 役に分かれ自由形を指導する。
3	基本技能の復習 背泳ぎ	背泳ぎの基本的指導について学ぶ。
4	基本技能の復習 背泳ぎの模擬授業	3 回目の授業・背泳ぎでの指導法の 復習。模擬授業として先生役と生徒 役に分かれ背泳ぎを指導する。
5	基本的技能の復習 平泳ぎ	平泳ぎの基本的指導について学ぶ。
6	基本的技能の復習 平泳ぎの模擬授業	5 回目の授業・平泳ぎでの指導法の 復習。模擬授業として先生役と生徒 役に分かれ平泳ぎを指導する。
7	基本的技能の復習 バタフライ	バタフライの基本的指導について学 ぶ。
8	基本的技能の復習 バタフライの模擬授業	7 回目の授業・バタフライの指導法 の復習。 模擬授業として先生役と生徒役に分 かれバタフライを指導する。

9	基本的技能の復習 個人メドレー	個人メドレーの各種目へのターンの 取得と指導法を学ぶ。
10	基本的技能の復習 個人メドレーの模擬授 業	9 回目の授業・個人メドレーの指導 法の復習。各ターンを先生役と生徒 役に分かれてチェックする。
11	指導案作成 模擬授業 自由形 背泳ぎ	6～8 名のグループに分かれ先生役 と生徒役に分かれ自由形・背泳ぎの 模擬授業を行う。終了後に指導の反 省会を行う。
12	指導案作成 模擬授業 平泳ぎ バタフライ	6～8 名のグループに分かれ先生役 と生徒役に分かれ平泳ぎ・バタフ ライの模擬授業を行う。終了後に指 導の反省会を行う。
13	実技 救助法・蘇生法	着衣水泳の実践、救助法の実践、蘇 生法の実践
14	講義	水泳指導者としての定義・心得・任 務・事故 ・原則を踏まえた中学生・高校生の 指導について講義する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

前回授業の復習と次回授業の予習

テキスト「水泳指導教本」を参考に復習と予習。

【テキスト(教科書)】

「水泳指導教本」 日本水泳連盟 大修館書店

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業内の取り組み方: 80%

泳力テスト: 20% (各泳法の評価と 100 m 個人メドレーのタイム測定
を行う)**【学生の意見等からの気づき】**履修者の泳ぎの映像、模擬授業での指導映像をチェックして各泳法指導
に役立てる。**【その他の重要事項】**

将来、教員採用を目指す者、スポーツクラブでの指導者を目指す指導者
を養成するための授業ですので泳力の無い者の履修は出来ない。3 年時
の水泳の授業で泳力的に合格できた者の履修が望ましい。

HSS2001A

野外教育指導論演習（スノー）

高見 京太

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：集中 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 3 単位
 曜日・時限：集中・その他
 旧うか科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習）[2012 年度以前
 入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウィンタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】

ウィンタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウィンタースポーツの技術と指導及び青少年教育のあり方について学ぶ。
 具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。② SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディビジョンマーケティング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2月の第一月曜日から5日間（4泊5日）の日程で、白馬八方尾根スキー場で実施することを想定し、八方尾根スキー学校のインストラクターのサポートを得て行う。受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上とスノースポーツキャンプの指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	スポーツの意義・役割と野外活動の位置づけ	現代におけるスポーツの意義・役割と野外活動の位置づけを学習する。
2	野外活動としてのウィンタースポーツの特性	野外活動としてのウィンタースポーツの特性を学習する。
3	ウィンタースポーツの歴史	ウィンタースポーツの歴史の古代から隆盛期について学習し、スキーの現代における状況を理解する。
4	ウィンタースポーツ活動環境	ウィンタースポーツフィールドの自然環境、人文環境、社会環境について学習する。
5	スキー・スノーボードの身体運動学	スキー、スノーボードを解剖学、バイオメカニクス、生理学、心理学的からアプローチする。
6	スキー・スノーボード技術の発達と用品・用具の関係	スキー技術の発達と用品・用具の関係を理解する。
7	スキー技術と方法論（プルークターン	スキーのプルークターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。

8	スキーの技術と方法論（シュテムターンとパラレルターン）	スキーのシュテムターンとパラレルターンのメカニズムを学習する。
9	スノーボードの技術と方法論（ロングターン）	スノーボードのロングターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
10	スノーボードの技術と方法論（ショートターン）	スノーボードのショートターンの滑走とターンのメカニズムを学習する。
11	スキー・スノーボードの指導法について（装備）	スキー・スノーボードの装備について学習する。
12	スキー・スノーボードの指導法について（学校教育）	学校教育におけるスキー・スノーボードの授業のあり方について学習する。
13	スキー・スノーボードの指導法について（リスタマネジメント）	スキー傷害への対応について学習する。
14	ウィンタースポーツキャンプのオーガナイジング実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方	スキーキャンプのオーガナイジング実技・ライフ・マネジメント・リーダーシップのあり方を学習する。
15	現地実習の準備	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
16	開講式、1日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
17	1日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
18	2日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う
19	2日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
20	2日目夜の種目別講義	基本技術のワークショップを行う。
21	3日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
22	3日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
23	3日目夜の種目別講義	ストレッチ、マッサージのワークショップを行う。
24	4日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
25	4日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
26	4日目夜の全体講義	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
27	5日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
28	実技テスト・閉講式	SAJの評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。
 実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。

【テキスト（教科書）】

本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】

- ・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

【成績評価の方法と基準】

・実習前講義を、無断または正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。

- ・事前学習の平常点 (16%)
- ・レポート課題 (10%)
- ・実習の平常点 (42%)
- ・ワークショップの平常点 (12%)
- ・実技テスト (10%)
- ・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

現場からの学びを大切にすることを心がける。

HSS200IA

野外教育指導論演習（マリン）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：集中 | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において我々のライフスタイルは、余暇時間の増大や可処分所得の増加などに伴い、変容および多様化を遂げている。スポーツを受容する人間にとってこのライフスタイルの変化や多様性は、新たなマーケットを創出し、スポーツに対する需要も変容を遂げているといえる。

今後スポーツのさらなる多様化や拡大する重要に対応するためには、競技として確立されているスポーツだけではなく、拡大している身体活動に関する広い見識が求められる。

【到達目標】

本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけではなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プールの実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する

6	プールの実習 2	スキューバダイビングの機材について ダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プールの実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プールの実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1	ウィンドサーフィンの機材について 機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深める
10	現地実習 2	ウィンドサーフィンの技術について ボードに立ち、風を受けながら進むための技術の獲得
11	現地実習 3	ウィンドサーフィンの技術について 2 ある程度自由にボードを操れるような操作技術の獲得
12	現地実習 4	スキューバダイビングの技術について 1 実際に海中にて活動し、プールとの違いを理解する
13	現地実習 5	スキューバダイビングの技術について 2 パディシステムについて理解を深め、お互いの状況に配慮しながら潜行する
14	現地実習 6	スキューバダイビングの技術について 3 海中の状況に応じた泳法や、中性浮力を保つ
15	現地実習 7	スキューバダイビングの技術について 4 水中で自由に移動する技術の獲得の他に、海中でのリスクについても検討する
16	現地実習 8	スキューバダイビングの技術について 5 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
17	現地実習 9	シーカヤックの技術 1 カヤックの形状や機能、パドルの形状や、推進力を得るための構造について理解する
18	現地実習 10	シーカヤックの技術 2 自由に艇を操縦するためのパドルングや、舵の取り方を学習する
19	現地実習 11	シーカヤックの技術 3 1人乗りと2人のりそれぞれを操り、それぞれの違いについて理解する
20	現地実習 12	シーカヤックの技術 4 潮の満ち引きや、川上もしくは川下への移動におけるカヤックの状態について理解する
21	現地実習 13	シーカヤックの技術 5 教育的な側面から、指導の意義とリスクについて理解する
22	現地実習 14	ウェイクボードの技術 1 器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解する
23	現地実習 15	ウェイクボードの技術 2 水面に立ち、ボードをコントロールするための技術の獲得
24	現地実習 16	ウェイクボードの技術 3 教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
25	現地実習 17	スタンドアップパドルの技術 1 用具の理解や、特徴を捉える

26	現地実習 18	スタンドアップパドルの技術 2 自由に海面を進めるような技術の 獲得
27	講義	それぞれの種目の特徴やリスクを 踏まえ、指導する際の問題点や、 教育的な意義に ついて検討する
28	総括	終了後、活動の内容をそれぞれで まとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて資料を配布する

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

HSS2001A

専門演習 I

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査機器を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ

健康科学分野：特に健康科学分野の文献を抄読しながら理解を深める

【到達目標】

上級生あるいは教員と協同して課題に取り込む方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

運動療法学・検査測定・健康科学・スポーツ傷害学・リハビリテーション医学などについて調査し学ぶ

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	春学期は課題を提供し実習し報告をする。これを繰り返すことで実験調査まとめプレゼンテーションの力をつける。
2	歩行分析 1（実習）	歩行分析 1（実習）
3	歩行分析 2（実習）	歩行分析 2（実習）
4	まとめ	まとめ
5	姿勢分析 1（実習）	姿勢分析 1（実習）
6	姿勢分析 2（実習）	姿勢分析 2（実習）
7	まとめ	まとめ
8	運動残効（実習）	運動残効（実習）
9	運動生理学分析（実習）	運動生理学分析（実習）
10	まとめ	まとめ
11	筋力評価 1（実習）	筋力評価 1（実習）
12	筋力評価 2（実習）	筋力評価 2（実習）
13	まとめ	まとめ
14	感覚検査（実習）	感覚検査（実習）

秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のオリエンテーション	秋学期はグループで課題を見つけ実験調査をまとめ、プレゼンテーションする。
16	グループワーキング	課題ごとのワーキング
17	課題報告会（合宿）	課題報告会（合宿）
18	グループ学習	グループ学習
19	実験 1	実験 1
20	実験 2	実験 2
21	実験 3	実験 3
22	中間報告	中間報告
23	データ分析法	データ分析法 集計表、平均値、標準偏差など
24	データ分析	データ分析 t 検定、相関分析、分散分析など
25	発表資料作成	発表資料作成
26	最終課題発表 5 名	最終課題発表

27	最終課題発表 5 名	最終課題発表
28	学会参加（合宿） 日程未定	学会参加（合宿） 日程未定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題の調査、報告書のまとめなど

【テキスト（教科書）】

特に定めず。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点；積極的発言や態度、小テストなど（50%）課題レポートの成績（50%）

【学生の意見等からの気づき】

より多くの文献を検索し読み取る機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

学会や大学外で開催されるセミナーなどに参加し意欲を高めながら進めます

管理 ID：
1813446
授業コード：
M5010

HSS200IA

専門演習 I

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける 2 年次のテーマは以下の 3 つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. アスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会をできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って文献検索を行い、読んだ上でその内容に関するプレゼンテーションが行えること。

【到達目標】

本ゼミにおける 2 年次の到達目標は以下の 3 点である。1. 機能解剖学の知識を習得すること。2. 文献検索ができるようになること。3. 選手に対して HOPS に基づいた評価ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には各自の事前学習・準備のうえでプレゼンテーションソフトを使用した発表によるディスカッションおよび実技・実習が中心となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスを行う。
2	文献検索の方法と実際 1	文献検索の方法を紹介し、実際に自分で文献を探す方法を学習する。
3	文献検索の方法と実際 2	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方を習得する。
4	機能解剖学 1	機能解剖学の演習・小テストを行う。
5	機能解剖学 2	機能解剖学の演習・小テストを行う。
6	機能解剖学 3	機能解剖学の演習・小テストを行う。
7	機能解剖学 4	機能解剖学の演習・小テストを行う。
8	実技演習 1	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
9	実技演習 2	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
10	実技演習 3	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
11	実技演習 4	スポーツ現場におけるコンディショニング手法を習得する。
12	スポーツ分野における外傷・障害と評価 1	HOPS および SOAP について学習する。
13	スポーツ分野における外傷・障害と評価 2	スポーツ現場の応急処置について学習・実践する。
14	スポーツ分野における外傷・障害と評価 3	ロールプレイを通して HOPS を実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	スポーツ分野における外傷・障害と評価 4 / 夏季研究課題の決定	評価に関する基本的事項を学習した上で、夏季課題により、各自がどの部位の評価を担当するのかを決定する。
16	肩関節の外傷・障害 / 抄読会 1	肩関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
17	膝関節の外傷・障害 / 抄読会 2	膝関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。

18	頸部の外傷・障害 / 抄読会 3	頸部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
19	実技演習 5	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
20	実技演習 6	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
21	実技演習 7	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
22	実技演習 8	これまでの評価について、実技による実践練習を行う。抄読会の予備日。
23	腰部の外傷・障害 / 抄読会 4	腰部の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
24	股関節・骨盤の外傷・障害 / 抄読会 5	股関節・骨盤の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
25	足関節の外傷・障害 / 抄読会 6	足関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
26	肘・前腕・手関節の外傷・障害 / 抄読会 7	肘・前腕・手関節の評価について、発表・ディスカッションを行う。論文の抄読会を行う。
27	実技演習 9	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。抄読会の予備日。
28	実技演習 10	これまでの評価について、実技による実践練習・試験を行う。抄読会の予備日。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

第 15 回：春学期の復習

第 16～28 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適時資料を用意する。

【参考書】

- 日本協公認アスレティックトレーナーテキスト 1～9
ドナルド・A. ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー。医歯薬出版。2012
坂井建雄，松村讓児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011
日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店。2011
小林直行，成田崇矢，泉 重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013
Starkey, C., Brown, S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂。2003
中村千秋編：ファンクショナルトレーニングー機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング。文光堂。2010

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %），ゼミ内容や課外活動への取り組み（30 %）

出席や学内・学外で行われる各種イベント等への参加姿勢等も鑑みながら、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーはスポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が座学・実習ともに多い。その中で、受講生は一生懸命頑張ってくれている。今後も継続してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

管理 ID：
1813447
授業コード：
M5011

HSS200IA

専門演習 I

伊藤 真紀

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学・社会心理学・社会学を応用したスポーツマネジメント学についての基本となる知識を総合的に学習する。「マネジメント（基本と原則）」を読み、マネジメントの基本を学修した後、スポーツマネジメント並びにスポーツ組織行動論の基礎知識を学習する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. 「スポーツマネジメント」の定義を学術的なバックグラウンドを踏まえた上で、説明できる。
3. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の授業では、マネジメントならびにスポーツマネジメントに関わる基礎理論について講義を行い、スポーツマネジメント学についての基本となる知識を習得する。後期の授業では、スポーツ組織行動論に関する講義を行い、総合的にスポーツマネジメントを学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2	マネジメントとは	マネジメント（基本と原則）を学ぶ マネジメントの誕生：マネジメントの生成と発展について学習する。 マネジメントの生成から現代までの一連の流れを学習する。
3	マネジメントとは 2 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
4	マネジメントとは 3 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5	マネジメントとは 4 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
6	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツマネジメントの定義 スポーツマネジメントの歴史的発展について学習する。
7	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツとメディアの関係について学習する。
8	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツとダイバーシティについて学習する。
9	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 4	スポーツと人的資源（Human Resource）の関係について学習する。
10	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 5	スポーツリーグのマネジメントについて学習する。 スポーツチームのマネジメントについて学習する。
11	スポーツマネジメントの基礎的な知識及び理論の体系的な習得 6	日本のスポーツ政策とマネジメントの課題について学習する。

12	プレゼンテーションの方法について	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	後期授業オリエンテーション	後期の授業の進め方について説明を行う。次年度に向けた授業方針の確認を行う。
16	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツ組織のマネジメントについて学習する。
17	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツ組織のガバナンスについて学習する。
18	スポーツ組織について基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツ組織の経営戦略について学習する。
19	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 1	スポーツ組織における組織開発に向けたマネジメントについて学習する。
20	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 2	スポーツ組織における組織文化について学習する。
21	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 3	スポーツ組織における組織の外部環境分析と市場分析方法について学習する。
22	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 4	スポーツ組織における組織、個人属性および成果について学習する。
23	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 5	スポーツ組織における問題の解決と意思決定について学習する。
24	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 6	スポーツ組織における競争優位を構築するための基本戦略について学習する。
25	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 7	スポーツ組織におけるリーダーシップについて学習する。
26	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 8	スポーツ組織におけるイノベーションについて学習する。
27	組織行動に関する基礎的な知識及び理論の体系的な習得 9	スポーツ組織における多様性マネジメントについて学習する。
28	ケーススタディー	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では必ず予習として教科書「マネジメントー基本と原則」や「スポーツマネジメント」を読んでから授業に参加して欲しい。

【テキスト（教科書）】

「マネジメント」[エッセンシャル版] 基本と原則（ピーター・F・ドラッカー・上田惇生）ダイヤモンド社「スポーツマネジメント」(改訂版) (原田宗彦・小笠原悦子編著) 大修館書店
「経営組織論」 鈴木竜太著 東洋経済新報社

【参考書】

特になし（毎回資料を配布する）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）および課外活動（30％）、課題 30％）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

管理 ID：
1826727
授業コード：
M5030

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS2001A

専門演習 I

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第 3 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第 4 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 5 回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。

第 8 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 9 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 10 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第 11 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリ変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法について学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検証の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

管理 ID：
1813448
授業コード：
M5012

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- (1) みるスポーツのマーケティングに関するレポート（10点、前期）
- (2) 質問項目の作成（10点、前期）
- (3) データ収集（20点、前期）
- (4) 結果の分析（図表およびスライド資料）（30点、後期）
- (5) 結果の報告（プレゼンテーション）（30点、後期）

合計：100点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。

40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。

20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

HSS2001A

専門演習 I

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義で修得した理論を主体的に受けとめ、実践する姿勢を育てる。

【到達目標】

2 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成、研究の方法、分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	演習の概要についてガイダンスを行う。
2	情報・文献の検索 1	図書館を利用し、情報・文献検索の方法を学習する。
3	情報・文献の検索 2	インターネットなど様々な方法での情報収集の方法、文献検索の方法について学習する。
4	統計解析の基礎 1	実験・研究に必要な統計解析の基礎について理解を深める。
5	統計解析の基礎 2	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。
6	統計解析の基礎 3	実験・研究に必要な統計解析について理解を深める。 分散分析
7	研究法 1	スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
8	研究法 2	スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
9	研究法 3	スポーツ科学に関する研究法・実験法を学習する。
10	文献の検索と輪読 1	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
11	文献の検索と輪読 2	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
12	文献の検索と輪読 3	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
13	文献の検索と輪読 4	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。

14	文献の検索と輪読 5	興味のあるテーマを選択し、文献を検索する。その文献を要約しレジュメを作成、発表を行う。
----	------------	---

秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期のまとめ	春学期授業のまとめを行う。 夏休み期間の課題研究について話し合う。
16	秋学期受講ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。 夏期研究のまとめを行う。
17	実験・調査の方法：実験法 1	研究・実験に必要な器を使用し理解を深める。
18	実験・調査の方法：実験法 2	研究・実験に必要な実験方法について実際に機器を使用し理解を深める。
19	実験・調査の方法：調査法 1	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
20	実験・調査の方法：調査法 2	研究・実験に必要な調査の方法、について理解を深める。
21	実験・調査の方法：データの解釈方法 1	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。
22	実験・調査の方法：データの解釈方法 2	集まったデータの解析方法、解釈の方法について学習する。
23	論文の構成・書き方	論文の構成、書き方、ルールについて理解を深める。
24	プレゼンテーション方法	パワーポイントを使用したプレゼンテーションの方法について学習する。
25	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
26	各自研究テーマのプレゼン・ディスカッション 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
27	今後の研究課題の方向性発表 1	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。
28	今後の研究課題の方向性発表 2	演習Ⅱに向けた各自の研究課題について検討し、方向性について発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～15 回：前回授業への取り組みと復習

第 16 回：春学期の復習

第 17～30 回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に指定しない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とプレゼン（50%）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

より理解度の高い授業の展開に努める。

HSS2001A

専門演習 I

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの現代的な健康課題は時代の流れとともに様変わりする。昨今ではいじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど多様化の傾向にある。教員となるためには、これらの問題に対応するための資質が求められる。このため、子どもの現代的な健康課題について全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】

専門演習を通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、講義により基本的事項について理解を図る。その後、参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス	専門演習の進め方について確認する。
2	文献と検索	保健に関する専門雑誌を紹介し、論文の構成について理解する。
3	まとめ方	レポートのまとめ方について理解する。
4	子どもの健康課題	現代的な健康課題について理解する。
5	子どもの生活習慣病の課題	子どもの基本的な生活習慣の重要性について理解する。
6	性の逸脱行動	子どもの性に関する健康課題について理解する。
7	喫煙	子どもの喫煙に関する健康課題について理解する。
8	飲酒	子どもの飲酒に関する健康課題について理解する。
9	薬物乱用	子どもの薬物乱用に関する健康課題について理解する。
10	メディアと健康	子どものメディアから受ける健康課題について理解する。
11	子どもが身につけるべきミニマム	保健において子どもが身につけるべきミニマムとは何か理解を深める
12	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について理解を深める
13	学校におけるライフスキル教育の進め方	学校でのライフスキル教育の進め方について理解を深める
14	学習指導要領の組み立て	保健に関する学習指導要領の組み立てについて理解する

15	学習指導要領の系統性	発達段階を踏まえた学習指導要領の校種間での系統性について理解する
16	保健に関する教材の考え方	保健の教材について既存の資料の内容の考え方について理解を深める
17	学習指導要領各論	学習指導要領で示される感染症の指導内容について理解する
18	学校安全の教育内容	学校安全に関する指導内容について理解する
19	性に関する指導	学習指導要領における性に関する指導内容について理解を深める
20	喫煙防止教育	学習指導要領における喫煙と健康に関する指導内容について理解を深める
21	飲酒防止教育	学習指導要領における飲酒と健康に関する指導内容について理解を深める
22	薬物乱用防止教育	学習指導要領における薬物乱用と健康に関する指導内容について理解を深める
23	医薬品に関する指導	学習指導要領における医薬品に関する指導内容について理解を深める
24	食育と食品安全	学習指導要領における食に関する指導及び食品安全に関する指導内容について理解を深める
25	心の健康	学習指導要領における心の健康に関する指導内容について理解を深める
26	環境と健康	学習指導要領における環境と健康に関する指導内容について理解を深める
27	がんに関する指導	がんに関する指導内容について理解を深める
28	科学的根拠とは	科学的根拠に基づいて指導することの重要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題による準備を基本とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による。

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、レポート点 70 %

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見は積極的に取り入れる

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進展により変更がありうる

HSS2001A

専門演習 I

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「見る・聞く・体験する」から始めて「読む・分析する・評価する」へ

【到達目標】

科学的分析および論理的思考能力を獲得するための基礎を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 2 年時においては、3 年時以降に本格的に取り組む研究テーマの探求と、実践の体験に必要な知識とスキルの習得を目的として講義・実習を行うが、3 年生、4 年生のプレゼンテーションとその指導からも学ぶ機会を得る。
- ② 扱う内容は、プレゼンテーション、インタビューやコミュニケーション、科学研究の方法論、スポーツ医学の理解に必要な統計学、英語論文・文献の解読法、体力の重要な構成要素である「持久力」、「体組成」、「筋力・パワー」についての正確な理解、スポーツ栄養などである。
- ③ スポーツ医学やスポーツ科学分野の学会・研究会に参加し、研究テーマと関連した、または興味のあるテーマについて学習・取材する。
- ④ 文章を読み、理解し、評価する能力を養うための抄読会式セッションも定期的に行われる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	【演習】2 年生の自己紹介 (英語)
3	プレゼンテーション・スキル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	【演習】3 年生による課題報告 (英語)
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
6	研究報告会①	【演習】3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	【実習】インピーダンス法による体組成評価を行う。
9	体組成③：骨密度	インピーダンス法の原理について学ぶ。 【実習】DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
20	ヒューマンカロリメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。

21	ヒューマンカロリメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3 年生による研究発表会-2。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。
26	スポーツ栄養①	【講義】栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。 【実習】栄養調査・分析を行う。
27	スポーツ栄養②	【演習】栄養調査・分析の結果発表。
28	スポーツ栄養③	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ① 課題図書・文献のレビュー作成
- ② データ解析
- ③ 学外研究会への参加

【テキスト (教科書)】

・本多勝一. 『中学生からの作文技術』. 朝日新聞社. (2004) ※研究室收藏
・福澤一吉. 『議論のレッスン』. 生活人新書. (2002) ※資料室收藏

【参考書】

・ Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008) ※資料室收藏
・ Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室收藏
・ McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 3rd ed (2008) ※資料室收藏
・ Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition: An Introduction to Energy Production and Performance" Human Kinetics; 1st ed. (2004) ※研究室收藏

【成績評価の方法と基準】

- ① 参加の仕方・姿勢 (20%) : 一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。
- ② 抄読会 (20%) : 評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
- ③ プレゼンテーション (20%) : 発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。
- ④ 実習参加 (20%) : 実習参加、レポート作成を評価する。
- ⑤ 演習およびレポート作成 (20%) : 科学的分析能力。
- ⑥ 夏期セミナー、研究会への参加 (optional) : 夏期セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

管理 ID : 1813451
授業コード : M5016

HSS2001A

専門演習 I

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

急速な少子高齢化の到来や生活習慣病の増加などに加え、余暇時間の増大・生活意識の変容・人口の定住化傾向などを背景に地域におけるスポーツは、大きな転換期を迎えている。この現状を踏まえて我が国のスポーツ行政のねらいとしくみを学び、J リーグのクラブや総合型地域スポーツクラブに代表されるスポーツ組織の運営・経営の基本を実践で経験する。又、日本サッカー協会や J リーグが日本のスポーツ界に与える影響を現状分析し将来予測につなげる。

【到達目標】

- ・ J クラブや総合型地域スポーツクラブに代表される地域におけるスポーツ組織の現状を調査分析し、日本における生涯スポーツの在り方を検証する。
- ・ 日本サッカー界の現状を分析し、将来のあり方を考察する。
- ・ 個々の研究テーマを確定して、3 年次に継続する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ振興方策の基本を理解した上で、地域スポーツクラブの調査研究を個人・グループで行いスポーツ事業の計画の方法や組織のあり方をシミュレートしプレゼンテーションを行えるようにする。また、J クラブや総合型地域スポーツクラブの構造や地域に対する役割についても明らかにし、多様性に応じた運営方法も学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・専門演習の理念 ・学生の目標設定 ・学習計画策定
2	・プレゼンテーション、スキルアップ	・自己紹介と入ゼミの動機や自身の目標をプレゼンテーションする。
3	・地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり	・スポーツ行政のねらいと仕組みについて学ぶ
4	・地域スポーツクラブの機能と役割	・地域スポーツの役割と機能について調査する（グループ）
5	・地域スポーツクラブの機能と役割	・調査した結果をグループでプレゼンテーション
6	・地域におけるスポーツ経営	・自身が取り組む研究テーマを決定する
7	・テーマの解説：スポーツ組織の運営・経営	・日本におけるスポーツ組織の現状分析
8	・テーマの解説：総合型スポーツクラブの運営・経営	・日本における総合型地域スポーツクラブの現状分析
9	・J クラブの運営	・ J クラブの現状を理解する ・ J クラブでの運営を体験する（J クラブの分析）

10	・ J クラブの経営	・ J クラブの経営状況を調査研究する
11	・ J リーグの現状 ・ 日本サッカー協会の現状	・ (社) J リーグと (社) 日本サッカー協会の役割を分析
12	・ J リーグの現状 ・ 日本サッカー協会の現状	・ グループディスカッション（2 グループ）
13	・ 研究テーマの発表	・ プレゼンテーション 1
14	・ 研究テーマの発表	・ プレゼンテーション 2

秋学期

回	テーマ	内容
15	・ 秋学期に向けての自身の研究内容を発表	・ アセンブリー
16	・ 地域スポーツクラブの役割-1	・ 日本における総合型地域スポーツクラブの調査
17	・ 地域スポーツクラブの役割-2	・ 海外における総合型地域スポーツクラブの調査
18	・ 総合型地域スポーツクラブの調査した結果の報告-1	・ プレゼンテーション
19	・ 総合型地域スポーツクラブの調査した結果の報告-2	・ プレゼンテーション
20	総合型地域スポーツクラブの今後について	・ ディベート
21	・ スポーツが地域にもたらす効果	・ 自身の考えをまとめる
22	・ スポーツが地域にもたらす効果	・ 2~3 人のグループでまとめる（グループ発表）
23	J クラブに対するメンバーシップの現状分析	・ 経済状況が厳しい中、J リーグや J クラブがどのような方法でメンバー獲得に務めているのかグループで分析する。（J クラブの分析）
24	・ J クラブの分析	・ J クラブの強化・育成（アカデミー）について分析
25	・ J リーグの現状	・ J クラブの分析して結果をグループで発表
26	・ 日本サッカーの分析	・ 年代別日本代表の分析
27	・ サッカー日本代表の現状	・ 日本代表の現状を分析し、代表監督や選手の質についてディベート形式で明らかにする。
28	総括	4 年時での研究テーマを各自が発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回：特になし
- 第 2~14 回：前回授業への取り組みと復習
- 第 15 回：春学期の復習
- 第 16~27 回：前回授業への取り組みと復習
- 第 28 回：4 年時での研究テーマについて

【テキスト（教科書）】

その都度、用意する。

【参考書】

1. 総合型地域スポーツクラブ 大修館書店
2. クラブづくりの 4 つのドア 文部科学省
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I、II（財）日本サッカー協会
4. (財) 日本サッカー協会サッカー指導教本 2016
5. 地域スポーツの創造と展開 大修館書店
6. スポーツ産業論 第 4 版 杏林書院
7. NPO 法人をつくろう 東洋経済新聞社
8. その他、海外の事例 (DVD、資料など)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 40%、小論文・学外活動 40%、調査・研究内容 20%

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を実施する前に、あらかじめその場所を調べておく。
個人だけではなく2～3人のグループでの発表を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの情報機器

HSS2001A

専門演習 I

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次/ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
- ②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
- ③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】

- ①運動器疾患についての知識の獲得。
- ②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
- ③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
- ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
- ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会1	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学/抄読会2	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学/抄読会3	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学/抄読会4	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学/抄読会5	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学/抄読会6	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学/抄読会7	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。

12	機能解剖学/抄読会8	各部位の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。 また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	頭頸部について/抄読会	頭頸部の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部の評価を含めた発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症について/抄読会1	変形性関節症の疫学、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症について/抄読会2	変形性関節症の疫学、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折について/抄読会1	疲労骨折の疫学、受傷機序、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折について/抄読会2	疲労骨折の疫学、受傷機序、経過、治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習1	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
26	実技演習2	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
27	実技演習3	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と3年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回 特になし
第2-14回：前回授業の復習
第15回：春学期の復習
第16-28回：前回授業の復習
その他：課題レポートなど

【テキスト（教科書）】

特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】

- ・ Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
- ・ 坂井 健雄、松村 譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
- ・ 臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】

基本的には
①平常点 70 点
②各内容や課題への取り組み 30 点
であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

HSS200IA

専門演習 I

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。

17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1 年間の反省	1 年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%) : ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%) : ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

HSS2001A

専門演習Ⅰ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学の基礎理論と授業づくりについて学ぶ。

【到達目標】

学校体育の目標と内容、体育科の学習指導、指導方略・技術、授業計画・授業づくり等に関する最新の基礎理論を習得する。それらを踏まえ、学習指導要領に示された各運動領域にもとづく授業づくりについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「基礎理論」の習得については、中学校・高等学校における体育科の教科書の読み直し、および、体育科教育学・スポーツ教育学に関する参考書を読み解き、最新の知識を習得する。「授業づくり」については、学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における展開や工夫に関する資料を収集するとともに模擬授業に参加し、体験する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	体育科教育学・スポーツ教育学に関する資料・文献の紹介および演習の計画について確認する。
2	「体づくり運動」の理論的検討	「体づくり運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
3	「体づくり運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「体づくり運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
4	「器械運動」の理論的検討	「器械運動」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
5	「器械運動」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「器械運動」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
6	「陸上競技」の理論的検討	「陸上競技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
7	「陸上競技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「陸上競技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
8	「球技」の理論的検討	「球技」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
9	「球技」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「球技」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
10	「武道」の理論的検討	「武道」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
11	「武道」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「武道」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
12	「ダンス」の理論的検討	「ダンス」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。
13	「ダンス」の実際の検討	専門演習Ⅱの受講生グループによる「ダンス」の模擬授業を検討し、教授法、学習内容、学習評価等について理解を深める。
14	「体育理論」の理論的検討	「体育理論」の授業づくりに関する文献等を読み解き、理解する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	「体づくり運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
16	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

17	「器械運動」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
18	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
19	「陸上競技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
20	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
21	「球技」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
22	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
23	「武道」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
25	「ダンス」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
27	「体育理論」の指導案の検討	担当グループが作成した指導案について、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
28	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外で各自が文献資料・データを収集して読み込み、指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）
保健体育科教育法（大修館書店）
新版体育科教育学入門（大修館書店）
保健体育科教育法（アイオーエム）
内容学と架橋する保健体育科教育論（見洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（50%）、プレゼンテーション・模擬授業（30%）、レポート点（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

HSS2001A

専門演習 I

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマを絞り込むとともに、卒業論文作成のための基礎的な研究手法を学ぶ。

【到達目標】

1. スポーツ心理学領域の動向について理解を深め、研究テーマを絞り込む。
2. 卒業論文作成のための基礎的な心理学的研究手法を理解する。
3. 可能であれば予備調査に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメンタルトレーニングやチームビルディングを中核としたスポーツ心理学領域の学術論文や事例報告を収集・発表し、その内容についてディスカッションすることを通して、当該領域の動向について理解を深める。また、講義や体験的学習により、研究活動の遂行に不可欠となる基礎的な心理学の研究法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、他己紹介、演習方針の決定
2	心理サポートの動向	昨今の心理サポートの動向を探る
3	スポーツメンタルトレーニングの方法	スポーツメンタルトレーニングの方法について学ぶ
4	スポーツカウンセリングの方法	スポーツカウンセリングの方法について学ぶ
5	チームビルディングの方法	チームビルディングの方法について学ぶ
6	スポーツメンタルトレーニングの実際	個人を対象としたスポーツメンタルトレーニングの事例を概観する
7	スポーツカウンセリングの実際	個人を対象としたスポーツカウンセリングの事例を概観する
8	チームを対象とした心理サポートの実際	チームを対象とした心理サポートの事例を概観する
9	体育授業における心理サポートの実際	体育授業における心理サポートの事例を概観する
10	レジュメ	レジュメの書き方を学ぶ
11	文献	文献の検索方法と記載の仕方を学ぶ
12	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
13	プレゼンテーション	各自が関心のある研究課題についてプレゼンテーションする
14	総括	夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表
15	夏期の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	研究調査法	実験法、質問紙法、事例検討について解説する
17	実験法	実験法について学ぶ

18	事例検討の方法	インタビューの方法、面接の進め方・記録の仕方、倫理規定について学ぶ
19	事例検討の実際（KJ法、GTA）	KJ法、GTAによる事例報告について学ぶ
20	事例検討の実際（語りの研究）	心理学的諸理論に基づく語りの研究について学ぶ
21	研究調査法の検討	各調査法の長所・短所、相互補完性について学ぶ
22	質問紙法の実際	精神力、パーソナリティの測定・評価を行なう
23	データの整理（心理統計の基礎）	心理統計の必要性を知る
24	データの整理（相関係数）	2つの変数の関係：「相関係数」について学ぶ
25	データの整理（母集団と標本）	「母集団と標本」に関連したトピックスについて学ぶ
26	データの整理（t検定）	統計的仮説検定について学ぶ
27	データの整理（分散分析）	分散分析について学ぶ
28	研究構想	研究課題の選定・発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解、およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016

【参考書】

1. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004
2. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006

【成績評価の方法と基準】

原則として全授業への出席を前提に、次の基準に従い総合評価する。

1. レポート、レジュメ、リアクションペーパー：40%。プレゼンテーションで用いるレジュメ、各種レポート、およびリアクションペーパーについて評価します。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：60%。授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習、介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

HSS200IA

専門演習 I

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/4単位

曜日・時限：月・5

管理 ID：
1813456
授業コード：
M5021**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

スポーツや健康など分野にとらわれず疑問、問題点など興味あるテーマを設定し、調査、研究する。

【到達目標】

各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

グループ別にスポーツに関することで興味のあることや疑問に思うことを調査発表してもらい、プレゼンテーション能力を高めていく。秋学期はその過程で各自の研究テーマのヒントを見つけ、調査研究し発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画
2	指導者について	指導者の存在意義と競技成績の関係。これまでに出会った指導者について。
3	指導法について	最高の指導者と指導法について考える。
4	夢を実現するには何をなすべきか	目標を達成するために現時点でこれから何ができるかを考える。自分の夢を達成するために現時点で努力していることについて。
5～10	グループ別調査発表	小グループに分かれ、関心あるテーマを調査し発表する。
11～13	研究テーマの検討	各自が関心のあるテーマについて調査し発表する。
14	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し秋学期へ向けて準備する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の計画
16～18	グループ別レポート作成	小グループに分かれ、関心あるテーマを調査しレポートを作成する。
19～20	レポート発表	グループで作成したレポートを発表する。
21～23	個人レポート作成	各自の研究テーマを決め、調査しレポートにする。
24～27	個人レポート発表	作成した個人レポートの発表。
28	まとめ	1年間の授業を総括し次年度へ備える。年間を振り返り反省点、問題点を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

第15回：春学期の復習

第16～28回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、発表（40%）、積極性（20%）

授業に対する積極的な取り組み（研究・発表等）、授業態度等を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

発表した内容についてもっと幅広い議論が必要だったように思えるので改善していきたい。

HSS200IA

専門演習 I

Nemes Roland

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

球技におけるトップレベルの選手やコーチに求められていることについて知識を深めることを目標とする。年齢・性に応じた育成、又はトップレベルでのコーチングを学習する。

【到達目標】

各自が調査、研究し発表した中から次年度以降の研究テーマを見つけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学術論文や先行研究を読み、理解することを目的とし、体育学、コーチ学、スポーツ心理学などといった運動科学分野における論文の構成、研究の方法、分析方法などを学んでいく。また、プレゼンテーションによる討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。本演習について説明と意見交換を行う。 情報收拾について学習する
2	スポーツコーチングについて	国際的なスポーツコーチに求められている様々な能力
3	国際的なコーチ育成の取組み	コーチ育成のための海外の取組み
4	トップレベルまでの選手育成	年齢・性に応じたコーチング、長期的なアスリート開発（LTAD）、一貫指導
5	ジュニア期の育成について	海外で行う一貫指導における論文を紹介する
6	ジュニア期の育成について	国内の一貫指導における情報をグループ別発表を行う
7	ジュニア期の育成について	球技における様々なコーチング方法、Game Centred Approach に着目して
8	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディベート
9	ジュニア期の育成について	ジュニア期の選手育成についてグループ別論文発表とディベート
10	実技	Game Centred Approach を実践的に学習する
11	トップレベル・国際レベルコーチング	トップアスリートのコーチングに求められている能力、環境
12	トップレベル・国際レベルコーチング	アスリートのパフォーマンスにおける情報收拾、研究法論
13	トップレベル・国際レベルコーチング	現場視察
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表。
16	選手育成・コーチングについて①	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
17	選手育成・コーチングについて②	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
18	選手育成・コーチングについて③	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
19	選手育成・コーチングについて④	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
20	選手育成・コーチングについて⑤	様々な種目における選手育成・コーチング現場における情報共有とディスカッション。
21	ゲーム分析	試合分析用のソフトを利用し、ゲーム分析について学習する。
22	コーチング評価方法論	コーチ人・コーチングの成果を評価法について学習する。
23	指導案の検討①	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
24	指導案の検討②	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
25	指導案の検討③	興味がある種目について担当グループで作成した指導案を作成し、学習目標、内容・方法、評価等の観点から検討する。
26	大会、又は指導現場の見学①	コーチングが行われている現場の視察を行う。
27	大会、又は指導現場の見学②	現場視察における評価発表、ディスカッションを行う。
28	まとめ	1 年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

その都度、用意する。

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) とプレゼン (50%) によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、ワード、エクセル、DVD、映像資料を使うことがある。

HSS2001A

専門演習 I

林 容市

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション、研究・実験計画の基礎、文献のレビュー、実験・測定・調査の具体的方法、統計解析、研究仮説の設定などの各方法を学び、研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

○身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御/生理的状態と心理的情報との対応

○種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価、運動中のエネルギー代謝

○体型と減量行動・瘦身指向・身体活動量・エネルギー代謝

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ
第 3 回	発表方法の実際 (1)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (1)
第 4 回	発表方法の実際 (2)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (2)
第 5 回	発表方法の実際 (3)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (3)
第 6 回	発表方法の実際 (4)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (4)
第 7 回	研究計画を学ぶ (1)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (1)
第 8 回	研究計画を学ぶ (2)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (2)
第 9 回	先行研究の調査 (1)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (1)
第 10 回	先行研究の調査 (2)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (2)
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ (1)	尺度の判定 (名義・順位・間隔・比率尺度データ)、相関・予測の分析について学ぶ
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ (2)	実験計画法と分散分析 (一要因の分散分析) を学ぶ
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ (3)	実験計画法と分散分析 (二要因の分散分析) を学ぶ
第 14 回	測定方法を学ぶ (1)	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 15 回	測定方法の実際 (1)	骨格筋活動 (筋電図) の測定方法を学ぶ
第 16 回	測定方法を学ぶ (2)	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 17 回	測定方法の実際 (2)	エネルギー代謝 (呼気ガス分析) の測定方法を学ぶ
第 18 回	測定方法を学ぶ (3)	身体の動作解析についてグループで調査して発表し、論議する
第 19 回	測定方法の実際 (3)	動作解析の測定方法を学ぶ

第 20 回	測定方法を学ぶ (4)	質問紙調査についてグループで調査して発表し、論議する
第 21 回	測定方法の実際 (4)	質問紙調査の方法について学ぶ
第 22 回	測定方法を学ぶ (5)	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し、論議する
第 23 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する
第 24 回	研究計画の立案 (1)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (1)
第 25 回	研究計画の立案 (2)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (2)
第 26 回	研究の実際 (1)	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う
第 27 回	研究の実際 (2)	グループごとに、ミニ研究のデータ分析・考察を行う
第 28 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー (まとめ)、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。

また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜次次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.

出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.

浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.

田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：60%、2) 授業への参画状況 (出席・発言など)：40%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

理解度については概ね目標を達成できたと感じているが、一方で授業内での活動については、個人差が大きいうちに感じられた。

また、授業の進行に際して、受講生から改善の意見があったことから、発表や作業と、測定機器の使用法学習などのバランスを再検討し、学習効率の向上を目指す予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

HSS2001A

専門演習 I

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】

スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

測定法ごとにグループをつくる。2 グループ並行で測定を進める。測定法の原理、使い方を調べてプレゼンテーションする。測定法を使った事前の測定を計画する。事前の測定から実際の測定を計画する。実際の測定を実施し、参加者にフィードバックする。測定に関する先行研究を紹介する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	VTRとフォースプレート の原理と使用方法	VTRの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	VTRとフォースプレート の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
4	VTRとフォースプレート の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
5	VTRとフォースプレート の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	VTRとフォースプレート の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
7	VTRとフォースプレート の実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用方法	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	VTRとフォースプレート の測定分析結果② バイコンと筋電図の事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施

9	VTRとフォースプレート の先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
10	バイコンと筋電図の測定 分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の事前 測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
12	バイコンと筋電図の実際の 測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
13	バイコンと筋電図の測定 分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行 研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
16	酸素摂取量と筋力測定 の原理と使用方法	酸素摂取量測定と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定 の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
18	酸素摂取量と筋力測定 の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
19	酸素摂取量と筋力測定 の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定 の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
21	酸素摂取量と筋力測定 の実際の測定② 身体組成とGPSの原理と使用方法	2グループに分けての実際の測定の説明、実施 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション GPSの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定 の測定分析結果② 身体組成とGPSの事前 測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
23	酸素摂取量と筋力測定 の先行研究 身体組成とGPSの実際の 測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
24	身体組成とGPSの測定 分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とGPSの事前 測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
26	身体組成とGPSの実際の 測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
27	身体組成とGPSの測定 分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とGPSの先行 研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。
測定法を事前に練習する。
測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。
先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。

【テキスト (教科書)】

なし (資料を作成して提示する)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・測定法の原理、使い方の調査報告 (2.5点)

管理 ID : 1813458
授業コード : M5024

- ・作成した実際の測定デザイン（25点）
 - ・測定結果のフィードバック（25点）
 - ・先行研究の紹介（25点）
- を総合的（100点）に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

HSS2001A

専門演習 I

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2 年次 / 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

何よりも学生主体の授業形態を大切にする。大きな舞台は「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」。そのために問いたいのは、「将来取り組むテーマは何か」である。今日明日の話ではない。専門演習Ⅲまでの道のりを想定しながら、「何に取り組むのか」。初めのうちにはよく見えなかったり、ぼんやりしているかも知れない。しかし大学生活が進むにつれて、なにがしか方向が定まってくる。手がかりが感じられるようになったら、一度近づいてみることだ。それに加え、折に触れて提示するジャーナリズムの問題に対して、自分なりのものの見方をまとめ上げる。基本的な手法も身につけなければならない。必要なことは少なくない。A：資料を選択しポイントをいかに抽出するか。B：いかにアポイントを取り何を聞き何を調べてくるか。C：アンケートをどう構成しどのように集めるか。D：素材の写真やデータをどうやって収集するか。具体的な事例を元にひとつずつ積み上げていく。設定したテーマを論じるために、広い視野で材料を集められるようにする。最終的には、立体的に事象を捉え、説得力のある論文、プレゼンテーションの能力を身につける。

【到達目標】

自分はどうな道を何をしながら歩いてきたのか。そのとき周りに見えたものは何だったのか。専門演習Ⅰのポイント、ここまで進んできた大学生活の一年間を振り返りながら、焦点を定め、くまなく見直し、深く考えて持論をまとめ上げることにある。形をなし始めたものを論理立てて表現する。照らし合わせてみるのは、あるときは同じ志を持った仲間達。あるときは、当該の事象を伝えるメディアないしはジャーナリズム。スポーツ周りに起こるさまざまな出来事、「私はこう思う」というのではなく、「こう思う以外に手立てがないではないか」と強く主張できるような素材を集め、それを提示すること。切り取って伝える際の根本原則は、①わかりやすい構成、②新鮮な情報、③魅力的な提示、④説得力のある論理立て、⑤第三者の意見の尊重、そして⑥他人にはない個性があってなお均整のとれたものの見方だ。そうした手法を自らのものにしてながら、社会を貫く世界観を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習の基本原則は、自分が動かす姿勢である。研究の途中経過を文章、プレゼンテーション、ディベートなどで発表していく。他人の発表に対しては、自分のテーマを意識しながら批判的に検証すること。スポーツばかりに目を向けず、これまで興味を持たなかったジャンルに対しても積極的に知見を深める。また日本の論調にばかりとらわれず、世界の視点を大切にすること。

調査、情報のやりとり、分析、研究。一連の活動は、演習の仲間との議論の中で精度を上げ、強度を高めてもらう。アルバイト先やインターンの現場で精力的に材料を集めること。定期的に発表の機会を設け、フィールドと研究室と演壇とをフルに活用して、自らの課題を追い求めてもらいたい。どう伝えるかと同じようにどう問いたすかも成長の鍵だ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。自分のテーマの主張。これからの演習の進め方、求められる姿勢を説く。
2	プレゼンテーションの読み方	専門演習Ⅱのゼミ生のプレゼンテーションを見て、そのあり方を分析し、どうとらえたかを発表する。

3	素材のあり所と押さえる方	テーマを追求するのに当たって、材料がどんなところにあるのか。選択肢やアプローチの方法を知る。
4	プレゼンテーションの基本	他人のプレゼンテーションを参考にしながら、あるべきスタイルやその構成を知る。アニメーションの使い方、スライドの構成を実際に見る。
5	調査とインタビューの基本	調査のやり方からインタビューの基本・話の構造・誰に何を聞くか。
6	ディベートの考え方	物事を批判的に見るための考え方に始まり、ディベートの要素・その展開の仕方を学ぶ。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章だてなど論文の手法を確認する。
8	スポーツ界のさまざまな問題	実際のスポーツ界の出来事を自分なりに分析し、主張する。
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法や規約を検証する。
10	スポーツの常識②	テーマの医学・生理学的なジャンルとの関連を考える。
11	スポーツの常識③	テーマを運動学的、社会学的な側面から考える
12	研究制作	文章で粗い構成を書き上げる。
13	研究発表	プレゼンテーションを制作し発表する。
14	研究発表	プレゼンテーションを制作し発表する。また、夏の課題を提示する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括③	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	研究発表とプレゼンテーション	(法的観点からの検証を軸に進める)
19	研究発表とプレゼンテーション	(経済的観点からの検証を軸に進める)
20	研究発表とプレゼンテーション	(社会的観点からの検証を軸に進める)
21	研究発表とプレゼンテーション	(環境的観点からの検証を軸に進める)
22	研究発表とプレゼンテーション	(人権上の観点からの検証を軸に進める)
23	研究発表とプレゼンテーション	(商業的観点からの検証を軸に進める)
24	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表=夏に作った研究の改訂版と批評。
25	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
26	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
27	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表。
28	演習総括と小論文	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①普段から情報取得のためにアンテナを高くしておくこと。特に海外のメディアにも関心を持つこと。
- ②自分自身の体験を大切にすること。そこには自分の口で問いを発し、自分の耳で聞き、自分の手で書き残したものが大きな意味を持つ。
- ③スマホでもタブレットでもデジカメでも良い。気になったシーンは写真に撮っておこう。自分の発表の差異に利用すると、抜群の効果を発揮することがある。
- ④専門演習Ⅱの受講生とも密に情報交換し、その手法や視点を学ぶこと。テレビのプレゼンテーションをよく分析して見ておくこと。流れ、展開、材料の引き出し方。参考になるものがそこここにある。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（批評の内容/研究発表）70％、最終章論文30％。

評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているかどうかなど。

最終演習日の小論文は、必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がアクティブにランダムに発表できるチャンスを増やす。さまざまな素材が有機的に効果を発揮できるような準備をする。

研究室でのやりとりのチャンスを拡大する。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

【その他の重要事項】

A：研究室に顔を出すこと。何気ないことばのやりとりから、新しい発想が生まれることがある。そのためには、一人で閉じこもらずにコミュニケーションの機会を増やすこと。

B：外部の講師を招く。どんなジャンルの人物をどのタイミングで招くのか。盛んな意見を出してもらいたい。

C：毎年、休みを利用したゼミ合宿が予定されている。社会の今を確かめながら、演習室で獲得できない時間を過ごす。

【特記事項】

今年度は、春学期も担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、大学を空けることになる。代わりに海老名徳雪<のりゆき>先生が、演習をサポートする。なお、メールやインターネットを使つての遠隔指導も可能。アドレスは、ゼミ長に確認されたい。

HSS2001A

専門演習 I

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際に調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、スポーツマーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. スポーツマーケティングの視点からスポーツビジネスを理解することができる（前期）。
2. スポーツマーケティング調査の質問項目を設定することができる。
3. スポーツマーケティングに関するデータを収集することができる。
4. スポーツマーケティングに関するデータを分析することができる。
5. スポーツマーケティングに関するデータを考察し、発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前期の最初はスポーツマーケティングの事例を知るため、講義形式で授業を行う。次に、スポーツマーケティング調査の実施に向け、調査の目的、方法、注意点について学習し、前期の終わりには実際にデータを収集する。後期は収集したデータを用いて結果を分析するとともに、学期末に予定されたグループ発表に向けて準備を行い、最終的にプレゼンテーションまで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：前期の概要の説明	スポーツマーケティングに関する専門的な学びに向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第 2 回	マーケティングの考え方	マーケティングの定義、特徴、重要性について学習する
第 3 回	スポーツマーケティングの考え方	スポーツマーケティングについて、定義、独自性、サービス業としての特性などとともに学習する
第 4 回	事例を知る：プロスポーツのマネジメント	プロスポーツの仕組み、収入構造、観戦者特性などについて学習する。
第 5 回	事例を知る：スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントが開催地にもたらす長期的な恩恵をレガシーと呼ぶ。本授業ではこのレガシーのマネジメントについて理解を深める。
第 6 回	スポーツマーケティングに関する情報検索	スポーツマーケティング調査や研究を実施する際に必要な情報（論文、実践現場、新聞、書籍、雑誌、報告書、学会）の収集方法について学ぶ。
第 7 回	スポーツ消費者を対象としたアンケート調査	スポーツ消費者を対象としたマーケティング調査の目的、内容、実施方法、結果の報告などについて、スポーツ観戦者の調査を例に学習する。
第 8 回	データを読み取る：データ入力	スポーツビジネスに関する資料・データを収集し、エクセルに入力する。
第 9 回	データを読み取る：基礎集計	スポーツビジネスに関する資料・データを、統計ソフトを用いて集計し、度数分布および平均を算出する。
第 10 回	データを読み取る：グラフの作成	スポーツビジネスに関する資料・データを基礎集計としてまとめ、グラフを作成する
第 11 回	情報をまとめる：スライドの作成	スポーツビジネスに関する情報を、パワーポイントスライドを用いてまとめる
第 12 回	情報をまとめる：プレゼンテーションの方法	スポーツビジネスに関する情報をプレゼンテーションの方法について学ぶ
第 13 回	情報を報告する：前半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：前半グループ
第 14 回	情報を報告する：後半グループ	スポーツビジネスに関する情報をグループで協力して報告する：後半グループ

第 15 回	オリエンテーション：後期の概要の説明	前期に実施したスポーツマーケティング調査の目的および内容を再確認するとともに、後期の流れを理解し、最終発表までの計画を立てる。
第 16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などについて学ぶ。
第 17 回	調査データの記述統計：度数分布、クロス集計、平均、標準偏差	収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
第 18 回	調査データの記述統計：セグメントの設定と分類に基づく集計	カテゴリ変数を用いて標本をいくつかのセグメントに分類し、グループ間で記述統計をまとめる方法について学習する。
第 19 回	自由回答の集計および分析	質的な自由回答を分析するため、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。
第 20 回	心理的変数の分析	心理的尺度の信頼性と妥当性の分析方法について学ぶ。
第 21 回	グループ間の比較に関する統計分析	仮説検証の基本的な考え方を学ぶとともに、統計的にグループ間比較を行うため、カイ二乗検定、t 検定、分散分析について学ぶ。
第 22 回	要因間の関係性に関する統計分析	心理的変数や行動的変数の間の関係性を分析するため、相関分析および回帰分析の基礎を学ぶ。
第 23 回	セグメント別に要因間の関係性を分析する方法	性別、年齢、購買頻度などに基づいて消費者を細分化し、要因間の関係性を分析する方法について学ぶ。
第 24 回	分析結果をまとめる：図表の作成	記述統計や推計統計の結果をエクセルの図表でまとめる方法を学ぶ。
第 25 回	分析結果をまとめる：スライドの作成	分析結果および作成した図表を効果的に発表するため、パワーポイントスライドの作成方法を学ぶ。
第 26 回	分析結果をまとめる：発表方法	パワーポイントスライドを完成させるとともに、発表方法について学ぶ。
第 27 回	分析結果の報告：第 1 グループ	データを収集・分析した結果について、第 1 グループが発表する。
第 28 回	分析結果の報告：第 2 グループ	データを収集・分析した結果について、第 2 グループが発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外のグループ学習の課題として、質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の分析、プレゼンテーションの準備が順番に与えられます。グループのメンバーと協力して計画的に取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- (1) みるスポーツのマーケティングに関するレポート（10 点、前期）
 - (2) 質問項目の作成（10 点、前期）
 - (3) データ収集（20 点、前期）
 - (4) 結果の分析（図表およびスライド資料）（30 点、後期）
 - (5) 結果の報告（プレゼンテーション）（30 点、後期）
- 合計：100 点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：授業の内容を踏まえて課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組むとともに、自身の独自の視点から解決策を導き出している。

40%：授業の内容を踏まえ、課題に計画的に取り組んでいる。

20%：授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ理解が進むように、授業では身近な日本のスポーツや日本の文献も紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

HSS300IA

専門演習Ⅱ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

管理 ID：
1817993
授業コード：
M5110

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

検査測定学分野：種々の検査器具を使用しながら身体機能の検査技術を学ぶ。また課題をもち課題を解決する力を身につける。
健康科学分野、運動療法分野、健康科学分野の科学論文を抄読することで科学論文の読解力を高める。

【到達目標】

各自研究テーマを持ち実験しデータを処理し報告するまでを学ぶ。自ら科学論文を収集し、読解し、報告する能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数グループに分かれ課題を定め課題解決のために実験を実施しデータをまとめ報告する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 1	グループに分かれ課題決定
2	オリエンテーション 2	各課題発表。オリエンテーションを行う
3	クラス別課題	クラスに分かれ文献を探す
4	調査・まとめ・発表の しかた	検索方法・調査方法について教員の助言を受けながら列挙し確認する。また調べた事項をまとめる方法や発表の方法を確認する。
5	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
6	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
7	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
8	クラス別課題	クラスに分かれ文献報告
9	全体課題	実験計画を作成する
10	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
11	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
12	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
13	クラス別課題	実験計画に基づき実験を行う
14	全体課題 中間報告	これまでの実験データをまとめ報告する

秋学期

回	テーマ	内容
15	全体オリエンテーショ ン	秋学期課題タイムスケジュールを発表。オリエンテーションを行う
16	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
17	クラス別課題	実験計画の見直しをし課題の修正
18	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
19	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
20	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
21	文献検索	関連のある文献を収集し報告する
22	中間報告会	調査した文献に基づき課題解決のための研究計画書を作成する
23	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する

24	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
25	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
26	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
27	実験とデータ処理	各自が計画に基づき課題を遂行する
28	学会参加	学会参加（日程未定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第1回：配付資料を持参する
第4回：ディスカッションで決まった事項をまとめる
第5～6回：翌週までに発表の準備をする
第7～8回：翌週までに課題について調べまとめる
第9回：報告資料をコピーし配布しておく
第16回：配付資料を持参する
第18～22回：発表原稿のコピーと配布
第23～27回：資料のコピーと配布
第28回：プレゼンテーション資料の作成第、意見をまとめ整理する

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて教員が資料を配付する

【参考書】

特に定めず、学生が課題解決のため決定する

【成績評価の方法と基準】

平常点：積極的発言や参加態度や小テスト（40%）、課題評価：発表資料のできばえあるいは仕方（60%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数で進める必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

【その他の重要事項】

専門演習Ⅰを履修済みであるものが対象

HSS300IA

専門演習Ⅱ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミにおける3年次のテーマは以下の3つである。1. アスレティックトレーナーとして必要な基礎的な知識および技術を習得すること。2. スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割・現状に触れる機会を実習を通してできるだけ多く持つこと。3. 自身の研究テーマに沿って研究のレビューを行い卒業論文にいたる課題を設定すること。

【到達目標】

アスレティックトレーナー（学生トレーナー）として、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの業務および役割を理解し、活動ができることが3年次の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

2年時から引き続き、春学期では事前準備の上で発表・実践が中心になる。秋学期は自身の研究分野に関する論文の抄読・研究手法や実験機器の習熟を経て、卒業論文へいたる研究課題の設定および発表、可能な限り予備実験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3年時のゼミナールの目的・内容の確認。
2	文献検索の方法と実際	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	足関節の評価と運動療法	足関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
4	膝関節の評価と運動療法	膝関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
5	大腿部の評価と運動療法	大腿部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
6	骨盤部の評価と運動療法	骨盤部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
7	腰部の評価と運動療法	腰部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
8	頸部の評価と運動療法	頸部のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
9	肩関節の評価と運動療法	肩関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
10	肘・前腕・手関節の評価と運動療法	肘・前腕・手関節のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
11	下肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた下肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。

12	体幹のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた体幹部全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
13	上肢のアスレティックリハビリテーション	各競技に基づいた上肢全体のアスレティックリハビリテーションについて発表・ディスカッションを行う。
14	アスレティックリハビリテーションのまとめ	アスレティックリハビリテーションとコンディショニングとの関わりについてディスカッションを行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	研究の方法/抄読会 1	研究とは何かについて再度学習する。英語論文抄読会。
16	機器の操作方法確認 1/抄読会 2	バイオデックス・パワーマックスの使い方について学習する。論文抄読会。
17	機器の操作方法確認 2/抄読会 3	フォースプレートの使い方について学習する。論文抄読会。
18	機器の操作方法確認 3/抄読会 4	筋電図の使い方について学習する。論文抄読会。
19	機器の操作方法確認 4/抄読会 5	トレッドミル・ハートレートモニターの使い方について学習する。論文抄読会。
20	機器の操作方法確認 5/抄読会 6	超音波診断機器の使い方について学習する。論文抄読会。
21	研究計画の作成 1/抄読会 7	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
22	研究計画の作成 2/抄読会 8	研究計画を作成する。機器類使用方法の予備日。英語論文抄読。
23	現場実習報告 1/抄読会 9	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
24	現場実習報告 2/抄読会 10	アスレティックトレーナー現場での活動の報告・ディスカッションを行う。英語論文抄読。
25	予備実験 1/抄読会 11	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
26	予備実験 2/抄読会 12	卒業研究の準備として各自課題を設定し、予備実験を行う。
27	研究計画発表会	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	3年時のまとめと卒業研究に向けた方向性を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし
第2～15回：前回授業への取り組みと復習
第16回：春学期の復習
第17～30回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

1. 日本協公認アスレティックトレーナーテキスト1～9
2. ドナルド・A. ニューマン：筋骨格系のキネシオロジー。医歯薬出版。2012
3. 坂井建雄、松村譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系。医学書院。2011
4. 日本トレーニング指導者協会：トレーニング指導者テキスト 実技編。大修館書店。2011
5. 小林直行、成田崇矢、泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング。医歯薬出版。2013
6. Starkey, C., Brown, S. M.: Examination of Orthopedic and Athletic Injuries. F.A.Davis Company; 3 edition. 2009
7. 臨床スポーツ医学編集委員会：新版スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド。文光堂。2003
8. 中村千秋編：ファンクショナルトレーニング—機能向上と障害予防のためのパフォーマンストレーニング。文光堂。2010

【成績評価の方法と基準】

平常点60%、種々の活動への取り組み40%。また学外活動（課外活動）への取り組みや実習内容、運営的立場などを通して、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

アスレティックトレーナーは体育・スポーツと医学に関する知識の両方が求められるため学習する内容が多岐にわたる。その中で、モチベーションを落とさずに継続して学習していくために、実際の臨床現場の経験が大変重要である。

管理 ID：
1817994
授業コード：
M5111

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

伊藤 真紀

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業では、スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。後期の授業では、コミュニケーション能力を高めるために、毎回プレゼンテーションを行う。専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定することを目的とし、過去の卒業研究、先行研究を読み込み、研究概要についてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

1. スポーツマネジメントを深く学ぶこと。
- 2.4年次に挑戦することとなる卒業研究のテーマを把握すること。
3. 受講者は専門演習Ⅰならびに専門演習Ⅱの講義を通して学んだ内容から、卒業研究に発展させることのできる研究課題を決定すること。
4. 自身が選んだ研究を実行するために必要な先行研究を読み、適切な研究方法を他の受講者と共に検討すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に、少人数でのプレゼンテーション・討論・実践をとおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した基礎的な理論を理解し、2年次の専門演習Ⅰにおいて学んだ知識ならびに本講義で学んだ理論をもとに卒業研究テーマの決定を目標とし、授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業研究に向けた準備の進め方、調査の手法などについて説明する
2	マネジメントとは1 マネジメントの使命	マネジメントの役割、社会的責任について学習する。
3	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
4	マネジメントとは3 マネジメントの戦略	トップマネジメント、イノベーションについて学習する。
5	組織とは スポーツの組織化 スポーツ組織の文化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）ならびに、組織文化について学習する。
6	スポーツ組織のコントロールシステム 組織コミットメント	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。
7	個人の理解（パーソナリティと対人認知）	パーソナリティと組織行動、について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める。
8	スポーツ組織におけるモチベーションマネジメント	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する

9	スポーツ組織におけるリーダーシップ	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。
10	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様なマネジメントを行うかについて学習する。
11	プレゼンテーションの方法について 1	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
12	プレゼンテーションの方法について 2	効果的なプレゼンテーション方法、コミュニケーションスキルを学ぶ。
13	プレゼンテーション 1	これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。
14	プレゼンテーション 2	前期最終プレゼンテーション これまでに学んだスポーツマネジメントに関連する事柄について関心のあるテーマについて調査および報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	後期演習の概説	後期の演習の概要及び卒業研究の意義を理解する。
16	研究の進め方について 1	量的研究の手法について解説する。
17	研究の進め方について 2	質的研究の手法について解説する。
18	情報・文献の検索について1	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
19	情報・文献の検索について2	研究を進めるための文献および情報の収集方法について解説する。
20	過去の卒業研究の検討 1	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
21	過去の卒業研究の検討 2	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
22	過去の卒業研究の検討 3	過去の卒業研究について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
23	先行研究の検討 1	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
24	先行研究の検討 2	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
25	先行研究の検討 3	一般論文について、各自（1）文献の要約、（2）研究群の整理、（3）問題点の特定と行い、発表を行う。
26	研究課題の選択 1	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
27	研究課題の選択 2	各自興味をもった研究テーマに関する、（1）研究背景、（2）研究目的、（3）方法について発表する。
28	研究課題発表	秋学期の総括をおこない、各自来年度に向けた卒業研究案を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関する過去の卒業論文と一般論文

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、文献発表時のプレゼンテーションのクオリティ（30%）、卒業研究のプロポザルの発表の内容とプレゼンテーションのスキル（30%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

管理 ID：
1826728
授業コード：
M5129

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

HSS300IA

専門演習Ⅱ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は4年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：

- (1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
- (2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
- (3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
- (4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践とおして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第2回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第3回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第4回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第5回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第6回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第7回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第8回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第9回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わり方の強さをスポーツ関与という。今回はこのスポーツ関与について学ぶ。
第10回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。

第11回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第12回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤルティ	スポーツにおける顧客ロイヤルティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第13回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。

第14回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
------	--------------	--------------------------------------

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第16回	過去の卒業研究の検討：第1グループ	第1グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第17回	過去の卒業研究の検討：第2グループ	第2グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第18回	過去の卒業研究の検討：第3グループ	第3グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第19回	先行研究（一般の研究）の検討：第1グループ	第1グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第20回	先行研究（一般の研究）の検討：第2グループ	第2グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第21回	先行研究（一般の研究）の検討：第3グループ	第3グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第22回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1)研究の背景、(2)研究目的、(3)学術的な重要性、(4)実践的な重要性をまとめ、発表する。
第23回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第24回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第25回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
第26回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第27回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第28回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

- (1) 研究手法に関するレポート：10点（前期）
- (2) 研究テーマの発表：10点（前期）
- (3) 過去の卒業研究のレビュー：10点（後期）
- (4) 一般の先行研究のレビュー：10点（後期）
- (5) 序論（緒言、問題の所在）の執筆：20点（後期）
- (6) 序論（目的、重要性）の執筆：20点（後期）
- (7) 序論（概念的枠組み）の執筆：20点（後期）

合計：100点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。

100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができている。

80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。

60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。

40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。

20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

HSS300IA

専門演習Ⅱ

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育学、コーチ学などといった運動科学分野における文献分析から、自分の取り組みたいテーマを選択していく。

【到達目標】

自らの研究テーマについて、研究方法や実験方法、分析方法など研究に必要なスキルを高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践とおして学習を深める演習である。これまでに講義で修得した理論を主体的に受けとめ、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定したテーマを掘り下げることを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
2	情報収集 1	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
3	情報収集 2	興味のあるテーマについて文献検索を行う。
4	演習合同研究テーマの検討	演習合同で行う研究についてテーマを決定する。
5	文献検索と輪読 1	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
6	文献検索と輪読 2	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読する。
7	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
8	予備実験	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討に基づき予備実験を行う。
9	データ解析	演習合同テーマ予備実験のデータの解析を行う。
10	論文作成 1	演習合同テーマの論文を作成する。
11	論文作成 2	演習合同テーマの論文を作成する。
12	論文作成 3	演習合同テーマの論文を作成する。
13	発表 1	演習合同テーマの論文を発表する。
14	発表 2	演習合同テーマの論文を発表する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。 夏期研究テーマを検討する。

16	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
17	ポスター発表作製	合同研究もしくは夏期研究についてポスターを作製する。
18	論文計画書作成	各自の研究テーマについて論文作成計画の立案を行う。
19	研究テーマのプレゼン 1	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
20	研究テーマのプレゼン 2	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
21	研究テーマのプレゼン 3	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
22	研究テーマのプレゼン 4	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
23	研究テーマのプレゼン 5	各自の研究テーマを模索、興味のあるテーマについて発表を行う。
24	実験計画書作成	各自の研究テーマにそって実験の計画書を作成する。
25	予備実験 1	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
26	予備実験 2	各自の研究テーマの実験計画書に従って予備実験を行う。
27	今後の研究課題の方向性発表 1	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。
28	今後の研究課題の方向性発表 2	卒業論文作成に向け研究課題の方向性について発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

第16回：春学期の復習

第17～30回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とプレゼン（50%）によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

より理解度を高める授業展開に努める。

HSS3001A

専門演習Ⅱ

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：木・5

管理 ID：
1817998
授業コード：
M5115

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもの現代的な健康課題は時代の流れとともに様変わりする。昨今ではいじめ、不登校、心の健康、不規則な生活習慣、性の逸脱行動、喫煙、飲酒、薬物乱用やアレルギーなど多様化の傾向にある。教員となるためには、これらの問題に対応するための資質が求められる。このため、子どもの現代的な健康課題について全般的に理解を深めるとともに、どのような対応を考えていくべきかについて見識が深められるようにする。

【到達目標】

専門演習Ⅱを通し、保健について理解を深めることにより、高度な専門性を備えることができるようにすることを目指すとともに、効果的な授業づくりができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

参考文献や関連図書を題材とし、レポート作成し、それをもとに討論を重ねる。課題解決のためにできる方策をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰを振り返り、Ⅱの演習計画について確認する。
2	子どもの健康課題	現代的な健康課題についてデータを読みとく。
3	子どもの生活習慣病の課題	子どもの健康課題、生活習慣病の課題に関わる文献を読みとく。
4	性の逸脱行動	性の逸脱行動に関わるデータの意味を理解する。
5	性の逸脱行動の文献を読む	性の逸脱行動に関する文献を読み解く。
6	性に関する指導	指導案を作成する。
7	未成年喫煙に関する知見	未成年喫煙に関するデータを理解する。
8	未成年喫煙の健康影響	文献を読み解く。
9	未成年喫煙に関する指導案作成	指導案を作成する。
10	未成年飲酒に関する知見	未成年飲酒に関するデータを理解する。
11	未成年飲酒の健康影響	文献を読み解く。
12	未成年飲酒の健康影響に関する指導案作成	指導案を作成する。
13	薬物乱用と健康	薬物乱用に関するデータを理解する。
14	薬物乱用の健康影響－覚せい剤－	関連薬物の実態と課題について理解する。
15	薬物乱用の健康影響－大麻と危険ドラッグ－	関連薬物の実態と課題について理解する。
16	薬物乱用に関する文献	文献を読み解く。

17	薬物乱用に関する指導案作成	指導案を作成する。
18	メディアによる影響	文献を読み解く。
19	広告分析	広告分析により批判的思考を養う指導案を作成する。
20	ライフスキル教育	ライフスキル教育の構成概念について専門演習Ⅰの理解を踏まえ、さらに理解を深める。
21	ライフスキル教育	危険行動を防ぐための意義について構成スキルとの関連性を踏まえ理解を深める。
22	ライフスキル教育の指導案作成	指導案を作成する。
23	医薬品に関する指導	関連文献を読みとく。
24	医薬品に関する指導案作り	医薬品に関する指導案を作成する。
25	安全教育に関する領域構造	安全教育に関する領域と系統性について理解を深める。
26	安全教育に関するデータ解析	安全教育に関するデータを読み解く。
27	安全教育に関する指導案作成	安全教育に関する指導案を作成する。
28	環境と健康に関するデータ	環境を健康に関するデータを読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導案の作成、文献を読みレポートを作成する

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説保健体育編
高等学校学習指導要領保健体育編

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

参加状況、取組状況による平常点（60％）、レポート点（40％）により評価

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見は積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参

【その他の重要事項】

授業計画は授業の進展により変更がありうる。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】

春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿って調査活動を行う。

研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。

各学生の研究に必要な実験・測定を行う。

ヒューマンカロリーメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	【演習】2年生の自己紹介（英語）。3年生による評価。
3	プレゼンテーション・スキル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	【演習】3年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
6	研究報告会①	【演習】3年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	【実習】インピーダンス法による体組成評価を行う。
9	体組成③：骨密度	インピーダンス法の原理について学ぶ。 【実習】DXA法による実際に体組成評価を行う。 DXA法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者のLT等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3年生による研究発表会-2

25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3年生は英語図書。
26	スポーツ栄養①	【講義】栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	【実習】栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	【演習】栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加

【テキスト（教科書）】

・本多勝一、「中学生からの作文技術」朝日新聞社、(2004) ※研究室収蔵
・福澤一吉、「議論のレッスン」、生活人新書、(2002) ※資料室収蔵

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008) ※資料室収蔵

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 3rd ed (2008) ※資料室収蔵

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition: An Introduction to Energy Production and Performance" Human Kinetics; 1st ed. (2004) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 参加の仕方・姿勢（20%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

② 抄読会・Book Club（20%）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

③ プレゼンテーション（20%）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。

④ 実習参加（20%）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑤ 演習およびレポート作成（20%）：科学的分析能力。

⑥ 授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

管理 ID:

1817999

授業コード:

M5116

HSS300IA

専門演習Ⅱ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：水・5

管理 ID：
1818000
授業コード：
M5117

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは人々に楽しみや活力をもたらすと同時に体力の向上や健康の維持にとどまらず人格形成の基礎でもある。演習Ⅱでは我が国におけるスポーツ振興の現状やスポーツ産業の広がりによる効果などを検証し、自身の将来を構想する機会とする。又、Jリーグや総合型地域スポーツクラブが地域に与える影響について演習Ⅰでの学びを進化させる。

【到達目標】

・2年次で習得したスキルに加え、フィールドワークやインターンシップで体験する事で卒業後にどのような分野に行っても通用する基礎力を身に着ける。
・資格取得にチャレンジする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

日本における学校体育や生涯スポーツ・競技スポーツの実態を把握した上で、Jリーグなどのプロスポーツクラブや総合型地域スポーツクラブの役割について理解した上で、インターンを通じてライフスタイルに応じたスポーツ社会の創造に向けてシミュレートする。又、社会全体でスポーツを支える基盤整備の現状を調査・研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	・ガイダンス	・学習計画や研究計画の設定
2	・3年次で取り組む研究	・3年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
3	・3年次で取り組む研究	・3年次で取り組む内容・将来に向けて各自で発表
4	・日本のスポーツこれからの5年	・各自、テーマを選び調査する
5	・日本のスポーツこれからの5年	・調査した結果をプレゼンテーションする
6	・海外の総合型スポーツクラブの現状を分析	・各自で調査する
7	海外の総合型クラブの現状分析	・プレゼンテーション
8	・Jクラブの現状調査・分析	Jクラブ(54クラブ)のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析をグループごとに実施する
9	・Jクラブの現状調査・分析	Jクラブ(54クラブ)のストロング・ポイントとウイーク・ポイントの調査・分析をグループごとに実施する
10	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする
11	・総合型地域スポーツクラブの経営・運営	・地域スポーツクラブを自身で選定・分析し、自身が関わる役割をシミュレートする

12	・スポーツ庁	・調査
13	・スポーツ庁	・プレゼンテーション ・ディベート
14	・スポーツの功罪	・研究テーマの発表 1
秋学期		
回	テーマ	内容
15	・学校体育と地域スポーツクラブ	・研究テーマの発表 2
16	・地域スポーツクラブの役割	・NPO 法人法政クラブの現状分析と将来展望についてのグループ調査
17	・地域スポーツクラブの役割	・グループで選定した地域スポーツクラブの分析と将来展望についてのグループ調査
18	・日本サッカーの現状	・インターンシップで経験したことを発表
19	・日本サッカーの将来	・インターンシップで経験したことを発表
20	・スポーツの功罪	ディベート
21	・学校体育と地域スポーツ	ディベート
22	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・Jクラブのスポンサー獲得の現状を分析
23	・スポーツ事業の計画・運営・評価	・プレゼンテーション
24	・海外のサッカークラブとJリーグ	研究テーマ発表—3
25	・海外のサッカークラブとJリーグ	研究テーマ発表—4
26	・スポンサーシップ	・Jクラブのスポンサー獲得の現状を分析
27	・スポンサーシップ	・海外クラブのスポンサー獲得の現状を分析
28	・研究テーマの決定	研究テーマ発表—5（卒業論文に向けて）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

第16回：春学期の復習

第17～30回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【参考書】

テキストはその都度、参考書は必要に応じて用意します。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 30%、小論文・学外活動 50%、調査研究 20%

【学生の意見等からの気づき】

・Jクラブや総合型地域スポーツクラブへのインターンの実施。

・アンケート調査地点の事前リサーチの実施。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動や身体活動などの生活習慣が、健康や体力にどのように関係しているかを考え、実生活の中で、健康・体力づくりを進めるうえでの方法を探ること、そして、それらを実践の場面で活かせるようになることを目標とする。

【到達目標】

・研究の進め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

子どもから高齢者にいたるまで幅広い性および年代について、健康体力づくりに関する事例や学術論文などの情報を収集してディスカッションを行う。そして、健康づくりに関わる現場を知り、様々な経験を積む。さらに、健康づくりへの取り組みの効果を科学的に評価する手法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、各自の関心のあるテーマを発表。
2	スポーツ健康学部の役割	社会に対して学部として何ができるか、また、卒業後にはどのような所で活躍できるかをディスカッションする。
3	文献の検索	論文を選ぶ。
4	論文抄読	発表と質疑応答。
5	論文抄読	発表と質疑応答。
6	幼児の体力	幼稚園児の体力テスト測定の計画およびリハーサル
7	幼児の体力	幼稚園児の体力測定の実施
8	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果のデータ整理
9	幼児の体力	幼稚園児の体力測定結果についての考察
10	フィールドワーク	健康づくりに関連する場に出かけて調査する。
11	フィールドワーク	フィールドワークで得た結果についてディスカッションしてまとめる。
12	健康づくり教室	健康づくりを目的とした教室型の取り組みについて調べる。
13	健康づくり教室	健康づくり教室を企画する。
14	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	健康づくり教室	健康づくり教室を模擬的に実践する。
16	心拍数	心拍数の測定。

17	心拍数	心拍数の測定値を用いたショートレポートの発表。
18	酸素摂取量	酸素摂取量の測定。
19	酸素摂取量	酸素摂取量の測定値を用いたショートレポートの発表。
20	身体活動量	身体活動量の測定。
21	身体活動量	身体活動量の測定値を用いたショートレポートの発表。
22	身体組成	身体組成の測定。
23	身体組成	身体組成の測定値を用いたショートレポートの発表。
24	筋力	筋力の測定。
25	筋力	筋力の測定値を用いたショートレポートの発表。
26	アンケート調査	アンケート調査の実践。
27	アンケート調査	アンケート調査を用いたショートレポートの発表。
28	1年間の反省	1年を振り返って意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連の文献収集、測定や調査を実施した結果のまとめ。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加 (40%) : ただ出席をカウントするだけでなく、ディスカッションに参加し、自分の意見をどれだけ述べられたかを評価する。

(2) 課題の提出および発表 (60%) : ショートレポートや企画したプログラムの、内容および発表・実施について評価する。

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を整える。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：月・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育授業における指導法の理論と実際について学ぶ。

【到達目標】

指導計画の立て方、授業における指導法、評価の方法等について、理論と実際の両面から理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

学習指導要領に示された各運動領域の実際の授業における計画を立て、模擬授業を行う。後半では、専門演習Ⅰの受講生が行う模擬授業に対する指導を行いながら、自己の授業づくりへの理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	専門演習Ⅰについて振り返り、Ⅱの演習計画について確認等を行う。
2	「体づくり運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
3	「体づくり運動」の模擬授業の実施	担当グループが「体づくり運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
4	「器械運動」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
5	「器械運動」の模擬授業の実施	担当グループが「器械運動」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
6	「陸上競技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
7	「陸上競技」の模擬授業の実施	担当グループが「陸上競技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
8	「球技」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
9	「球技」の模擬授業の実施	担当グループが「球技」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
10	「武道」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
11	「武道」の模擬授業の実施	担当グループが「武道」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
12	「ダンス」の指導案の検討	専門演習Ⅰで作成した指導案を再検討し、模擬授業の準備を行う。
13	「ダンス」の模擬授業の実施	担当グループが「ダンス」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。
14	「体育理論」の模擬授業の実施	担当グループが「体育理論」の模擬授業を実施し、達成度について振り返る。

秋学期

回	テーマ	内容
15	春学期の振り返り	春学期で行った各運動領域の模擬授業を振り返り、専門演習Ⅰの受講生に対する指導的役割の確認を行う。
16	「体づくり運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
17	「体づくり運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
18	「器械運動」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
19	「器械運動」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
20	「陸上競技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
21	「陸上競技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

22	「球技」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
23	「球技」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
24	「武道」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
25	「武道」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
26	「ダンス」の指導案づくりの指導	専門演習Ⅰの受講生の指導案づくりについて、自らの反省を踏まえながら指導を行う。
27	「ダンス」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。
28	「体育理論」の模擬授業に対する指導	専門演習Ⅰの受講生の実施した模擬授業を理論的に検討し、よりよい授業づくりに対する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外で指導案を作成する必要がある。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）

【参考書】

体育の教材を創る（大修館書店）

保健体育科教育法（大修館書店）

新版体育科教育学入門（大修館書店）

保健体育科教育法（アイオーエム）

内容学と架橋する保健体育科教育論（見洋書房）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60%）、レポート点（40%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後も学生参加型の授業方法で進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出において授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業計画は展開によって変更があり得る。

HSS3001A

専門演習Ⅱ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰにおいて習得した知見や研究手法を精査し、卒業論文作成に向けた研究テーマの確定と研究計画の作成に取り組む。

【到達目標】

1. 卒業論文作成に向けて、各自の研究課題を整理する。
2. 研究テーマを決定し、研究計画書を作成する。
3. 研究計画の作成に寄与する予備調査に取り組む。
4. 予備調査の結果を報告書にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅰで習得した知見を下敷きとして各自が課題設定を行ない、先行研究の精読や仮説検証に向けた予備調査に取り組む。その進捗状況を適宜発表し、全体討議や個別指導を通して課題の明確化を図り、研究テーマおよび研究計画を確定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明、他己紹介、演習方針の決定
2	競技力向上に関連する論文講読・発表	競技力向上のための心理サポートに関連する文献講読・発表
3	実力発揮に関連する論文講読・発表	実力発揮のための心理サポートに関連する文献講読・発表
4	スポーツカウンセリングに関連する論文講読・発表	スポーツカウンセリングによる心理サポートに関連する文献講読・発表
5	チームビルディングに関連する論文講読・発表	チームビルディングを用いた心理サポートに関連する文献講読・発表
6	球技に関連する論文講読・発表	球技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
7	対人競技に関連する論文講読・発表	対人競技を対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
8	チームに関連する論文講読・発表	チームを対象とした心理サポートに関連する文献講読・発表
9	体育授業に関連する論文講読・発表	体育授業における心理サポートに関連する文献講読・発表
10	研究テーマの検討	研究論文のテーマについて検討する
11	研究方法の検討	研究方法について検討する
12	プレゼンテーション	各自が関心のあるテーマについてプレゼンテーションする
13	ディスカッション	個々の研究テーマについてディスカッションする
14	総括	夏季休業中に取り組む研究計画の立案・発表
15	夏季休業期間の取り組みの振り返り	夏季休業中に実施した研究成果の発表
16	研究計画書の書き方①	緒言、目的、方法の記載の仕方について学ぶ

17	研究計画書の書き方②	期待される結果、研究の意義
18	研究計画書の書き方③	フローチャートの作成
19	予備調査①	質問紙調査の仕方を学ぶ
20	予備調査②	データ入力の方法を学ぶ
21	予備調査③	データ分析に取り組む
22	結果分析①	予備調査の結果を分析する
23	結果分析②	予備調査の結果について再考する
24	研究計画の再考①	調査方法を精査する
25	研究計画の再考②	分析方法を精査する
26	研究計画の再考③	考察の内容を検討する
27	研究計画書の作成	研究計画書を作成する
28	総括	演習全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関連する文献の収集・読解、およびプレゼンテーションの準備等への取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016 年

【参考書】

1. 松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014 年
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 年
3. 藤田哲也（編）「大学基礎講座」北大路書房 2006 年

【成績評価の方法と基準】

次の基準に従い総合評価する。1. レポート、レジュメ、リアクションペーパー：40%。プレゼンテーションで用いるレジュメ、各種レポート、およびリアクションペーパーについて評価します。2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：60%。授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。プレゼンテーションでは、発表の仕方、スライドの体裁等について評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習、介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明、発表順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：3年次/4単位

曜日・時限：月・5

管理 ID：
1818004
授業コード：
M5121**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

これまでの各自の研究テーマをより深く掘り下げ、疑問点、問題点を整理し4年次演習Ⅲの卒業論文作成に備える。

【到達目標】

2年次秋学期の演習Ⅰで研究発表したテーマを参考に秋学期各自の研究テーマを決定する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次を対象に少人数での報告、検討、実践をとおして学習を深める演習である。2年次秋学期で設定したテーマに沿ってさらに調査研究し発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の計画
2	今年度に向けて	各自の目標を設定する
3～4	研究テーマの確認	演習Ⅰを振り返り、各自の研究テーマを再確認し発表する。
5～10	グループ別発表	小グループに分かれ関心あるテーマを調査し発表する。
11～13	研究テーマについて発表	各自の研究テーマについて調査し発表する。
14	春学期まとめ	春学期授業の反省点を確認し、秋学期へ向けて準備する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期の計画
16～18	グループ別レポート作成	小グループに分かれ、関心あるテーマを調査しレポートを作成する。
19～20	レポート発表	グループで作成したレポートを発表する。
21～23	個人レポート作成	各自の研究テーマについてレポートを作成する。
24～27	個人レポート発表	各自の研究テーマについて発表する。
28	総括	1年間の授業を総括し、反省点、問題点を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～14回：前回授業への取り組みと復習

第15回：春学期の復習

第16～28回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、発表（40%）、積極性（20%）
授業に対する積極的な取り組み（研究・発表）、業態度等を総合的に判断し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今後の目標を明確に把握し指導していきたい。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

Nemes Roland

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3年次／4単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数グループに分かれ、国内外の文献を検索と発表することを通じ、コーチングに関連している様々な研究法と論文の書方について学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	3年時のゼミナールの目的・内容の確認
2	文献検索の方法と実際①	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
3	文献検索の方法と実際②	図書館での実習により、オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法に習熟する。
4	統計解析の基礎①	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
5	統計解析の基礎②	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
6	統計解析の基礎③	実験、又は研究に必要な統計解析について学習する。
7	研究法①	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
8	研究法②	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
9	研究法③	コーチング・スポーツ科学に関する研究法について学習する。
10	プレゼンテーション方法	パワーポイントプレゼンテーションについて学習する。
11	文献検索と輪読①	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
12	文献検索と輪読②	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
13	文献検索と輪読③	興味のあるテーマにおける論文を検索し、概要を作成、発表を行う。
14	まとめ	前期をまとめて、後期に向けて準備する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	秋学期授業のガイダンスを行う。
16	文献検索と輪読①	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
17	文献検索と輪読②	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
18	文献検索と輪読③	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
19	文献検索と輪読④	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
20	文献検索と輪読⑤	演習合同テーマに関する文献の検索を行い、輪読とディスカッションする。
21	研究方法の立案	演習合同テーマについてその研究方法、調査方法を検討する。
22	論文作成①	演習合同テーマの論文を作成する。
23	論文作成②	演習合同テーマの論文を作成する。
24	論文作成③	演習合同テーマの論文を作成する。
25	発表①	演習合同テーマの論文を発表する。
26	発表②	演習合同テーマの論文を発表する。
27	発表③	演習合同テーマの論文を発表する。
28	まとめ	1年を振り返って意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれているようとそれなりの内容がつかめるようになる。

【成績評価の方法と基準】

平常点(50%)とプレゼン(50%)によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス(ワード[®]、エクセル、パワーポイント)

【その他の重要事項】

特になし

HSS300IA

専門演習Ⅱ

林 容市

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：木・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起し、それらを先行研究の調査、実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ、実際の研究遂行を見据えた実践方法を学びます。

【到達目標】

1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索ができる。
2. 発表資料を作成し、聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。
3. 論文に記載されている実験・調査方法、分析法が理解できる。
4. 基本的な実験・測定・調査が実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション、研究・実験計画の基礎、文献のレビュー、実験・測定・調査の具体的方法、統計解析、研究仮説の設定などの各方法を学び、研究の方向性を探ります。まずはグループでの作業から取り組みますが、最終的には個人ごとにテーマを設定し、様々な作業・学習を実践します。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。

- 身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御 / 生理的状态と心理的情報との対応
- 種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価、運動中のエネルギー代謝
- 体型と減量行動・瘦身指向・身体活動量・エネルギー代謝

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	発表方法を学ぶ	レジュメおよび PC を用いたプレゼンテーションについて学ぶ
第 3 回	発表方法の実際 (1)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (1)
第 4 回	発表方法の実際 (2)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (2)
第 5 回	発表方法の実際 (3)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (3)
第 6 回	発表方法の実際 (4)	設定したテーマに沿ってグループで文献を調べ、レジュメを用いて発表する (4)
第 7 回	研究計画を学ぶ (1)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (1)
第 8 回	研究計画を学ぶ (2)	文献を利用した研究の展開方法について学ぶ (2)
第 9 回	先行研究の調査 (1)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (1)

第 10 回	先行研究の調査 (2)	個人の研究テーマについて、現在の知見をまとめて発表する (2)
第 11 回	実験・調査方法を学ぶ (1)	尺度の判定 (名義・順位・間隔・比率尺度データ)、相関・予測の分析について学ぶ
第 12 回	実験・調査方法を学ぶ (2)	実験計画法と分散分析 (一要因の分散分析) を学ぶ
第 13 回	実験・調査方法を学ぶ (3)	実験計画法と分散分析 (二要因の分散分析) を学ぶ
第 14 回	測定方法を学ぶ (1)	骨格筋活動の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 15 回	測定方法の実際 (1)	骨格筋活動 (筋電図) の測定方法を学ぶ
第 16 回	測定方法を学ぶ (2)	エネルギー代謝の測定についてグループで調査して発表し、論議する
第 17 回	測定方法の実際 (2)	エネルギー代謝 (呼気ガス分析) の測定方法を学ぶ
第 18 回	測定方法を学ぶ (3)	身体の動作解析についてグループで調査して発表し、論議する
第 19 回	測定方法の実際 (3)	動作解析の測定方法を学ぶ
第 20 回	測定方法を学ぶ (4)	質問紙調査についてグループで調査して発表し、論議する
第 21 回	測定方法の実際 (4)	質問紙調査の方法について学ぶ
第 22 回	測定方法を学ぶ (5)	種々のコーチングや指示・指導方法についてグループで調査して発表し、論議する
第 23 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する
第 24 回	研究計画の立案 (1)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (1)
第 25 回	研究計画の立案 (2)	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する (2)
第 26 回	研究の実際 (1)	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備を行う
第 27 回	研究の実際 (2)	グループごとに、ミニ研究のデータ分析・考察を行う
第 28 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会 (ミニ研究の結果をグループごとに発表する)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ）、プレゼンテーションの準備、研究計画書の作成などの課題を課します。毎回の授業での指示に従って学習を進めて下さい。また、個人研究、グループ研究共に、授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜代次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則, 脇田貴文. 心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

評価は、1) 実験・調査・発表の内容：60%、2) 授業への参画状況（出席・発言など）：40%、で行います。

【学生の意見等からの気づき】

理解度については概ね目標を達成できたと感じているが、一方で授業内での活動については、個人差が大きいように感じられた。

管理 ID：
1818005
授業コード：
M5122

また、授業の進行に際して、受講生から改善の意見があったことから、発表や作業と、測定機器の使用法学習などのバランスを再検討し、学習効率の向上を目指す予定である。

【その他の重要事項】

運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

HSS3001A

専門演習Ⅱ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツのコーチングにおける科学の活用を探る。そのためにはスポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学の知識と活用法を理解していることが求められる。この授業では特に活用法に焦点を絞り、スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法に習熟する。

【到達目標】

スポーツバイオメカニクスおよびスポーツ生理学で用いられる測定法の原理を理解し、活用できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

測定法ごとにグループをつくる。2 グループ並行で測定を進める。測定法の原理、使い方を調べてプレゼンテーションする。測定法を使った事前の測定を計画する。事前の測定から実際の測定を計画する。実際の測定を実施し、参加者にフィードバックする。測定に関する先行研究を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
2	VTRとフォースプレート の原理と使用方法	VTRの原理と高速撮影法、分析法のプレゼンテーション フォースプレートの原理と使い方のプレゼンテーション
3	VTRとフォースプレート の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
4	VTRとフォースプレート の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
5	VTRとフォースプレート の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
6	VTRとフォースプレート の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
7	VTRとフォースプレート の実際の測定② バイコンと筋電図の原理と使用方法	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施 バイコンの原理と撮影法、分析法のプレゼンテーション 筋電図の原理と使い方のプレゼンテーション
8	VTRとフォースプレート の測定分析結果② バイコンと筋電図の事前測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施

9	VTRとフォースプレート の先行研究 バイコンと筋電図の実際の測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
10	バイコンと筋電図の測定 分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
11	バイコンと筋電図の事前 測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
12	バイコンと筋電図の実際の 測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
13	バイコンと筋電図の測定 分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
14	バイコンと筋電図の先行 研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション
15	後半のガイダンス	授業の進め方のガイダンス グループ分けと測定法の選択
16	酸素摂取量と筋力測定 の原理と使用方法	酸素摂取量測定と測定法のプレゼンテーション バイオデックスの原理と使い方のプレゼンテーション
17	酸素摂取量と筋力測定 の事前測定①	2グループに分けての事前測定の説明、実施
18	酸素摂取量と筋力測定 の実際の測定①	事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
19	酸素摂取量と筋力測定 の測定分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
20	酸素摂取量と筋力測定 の事前測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
21	酸素摂取量と筋力測定 の実際の測定② 身体組成とGPSの原理と使用方法	2グループに分けての実際の測定の説明、実施 身体組成の原理と測定法のプレゼンテーション GPSの原理と使い方のプレゼンテーション
22	酸素摂取量と筋力測定 の測定分析結果② 身体組成とGPSの事前 測定①	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック 2グループに分けての事前測定の説明、実施
23	酸素摂取量と筋力測定 の先行研究 身体組成とGPSの実際の 測定①	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション 事前測定の結果報告 2グループに分けての実際の測定の説明、実施
24	身体組成とGPSの測定 分析結果①	2グループに分けての実際の測定の結果フィードバック
25	身体組成とGPSの事前 測定②	2グループ交替しての事前測定の説明、実施
26	身体組成とGPSの実際の 測定②	事前測定の結果報告 2グループ交替しての実際の測定の説明、実施
27	身体組成とGPSの測定 分析結果②	2グループ交替しての実際の測定の結果フィードバック
28	身体組成とGPSの先行 研究	2グループから調査した先行研究のプレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

測定法の原理について予め調査し、プレゼンテーション資料にまとめる。
測定法を事前に練習する。
測定結果を分析してプレゼンテーション資料にまとめる。
先行研究を読んで授業で紹介できる形式にする。

【テキスト（教科書）】

なし（資料を作成して提示する）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

・測定法の原理、使い方の調査報告（2.5点）

- ・作成した実際の測定デザイン（25点）
 - ・測定結果のフィードバック（25点）
 - ・先行研究の紹介（25点）
- を総合的（100点）に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングになるように進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料を使うことがある。

HSS300IA

専門演習Ⅱ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1818009
授業コード：M5126

専門演習Ⅱの特徴は、専門演習Ⅰで培った力を元に、大きな世界観の中でスポーツを考えるとところにある。舞台は専門演習Ⅰから引き続き「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」。Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲを見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出すること。となれば「何に取り組むのか」を超えて、「どう取り組むのか」を意識に置くことだ。その際の根本原則は、論文であってもプレゼンテーションであっても変わらない。正確で、論理的な整合性があり、論文の基本原則を踏まえた上で、①キャッチのある導入、②わかりやすい構成、③新鮮な情報、④飽きさせない流れ、⑤説得力のある論理立て、そして⑥個性があって毅然としたものの見方をする。

【到達目標】

専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論調を我が物とすること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。資料の選択や抽出に矛盾はないか。十分に話を聞いているか。辞典を正確に記しているか。アンケートの項目を深く検証しているか。説得力のある発言を取り込んでいるか。具体的な事例を元にひとつずつ積み上げていく。完成度の高いプレゼンテーション、説得力のある論文を書く能力を獲得することが目標だ。自分の中にとどめておかず、参加者一人一人が鋭い観察眼で、それぞれの持論を評価しにかかる。他の受講生のプレゼンテーションに対する鋭い批評眼も翻って試されることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

あくまで学生主体の授業である。参加者は専門演習Ⅰと同じ場で自分の力量を磨く。まずは、積極的にリーダーシップを発揮すること。研究の途中経過を文章、プレゼンテーション、質問や指摘で随時表現しながら、すすんで後進への手本を見せる。スポーツの世界にとどまらず幅広いジャンルに対する知見を深め、斬新なものを見方を養うことも欠かせない。分析・研究の強度を高めるために広い行動範囲を積極的に利用し、その成果を演習の中に結実させること。さまざまな場で、写真を撮り、声や音を録音することを意識すること。素材はどこかで説得力のある材料に応用することができる。経験、ゆとり、見識。専門演習Ⅱでは、演習Ⅰからの大幅なステップアップが求められる。持論の表明は、プレゼンテーションと小論文。専門演習Ⅱの学生達が軸になって、演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介。演習Ⅰの振り返り。演習Ⅱで求められる姿勢を説く。
2	方針確認	あらかじめ決めたジャンルの検証、どの角度から見るのか。
3	素材の検証Ⅰ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
4	素材の検証Ⅱ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
5	素材の検証Ⅲ	テーマを追求するのに当たって、求めた材料の検証。
6	批評と提案	物事を批判的に見るための考え方に始まり、ディベートの要素・その展開の仕方を実際に披露する。
7	研究テーマの世界観①	それぞれのテーマに対して異なる論点が提示されていないか。国内の識者がどう見ているか検証する。
8	研究テーマの世界観②	同じテーマを、国外の論者はどのようにとらえているか。
9	スポーツの常識①	スポーツの現状把握・スポーツ基本法や規約を検証する。
10	スポーツの常識②	テーマの医学・生理学的なジャンルとの関連を考える。
11	スポーツの常識③	テーマを運動学的、社会学的な側面から考える。
12	研究制作	文章でコンテ（台本）を作り肉付けをする。
13	研究発表①	プレゼンテーションを制作し発表する。

14	夏課題への工程表製作	夏の課題をどうとらえ、それをどのようにに研究成果として完成させるか、工程表をつくる。
----	------------	--

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括Ⅰ	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
16	夏課題総括Ⅱ	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の評価を元に、次のステップに敷衍していく。
18	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の法的観点からの検証。
19	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の経済的観点からの検証。
20	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の社会的観点からの検証。
21	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の環境的観点からの検証。
22	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の人権上の観点からの検証。
23	研究発表とプレゼンテーション	研究成果の商業的観点からの検証。
24	研究発表とプレゼンテーション	二次研究発表＝夏に作った研究の改訂版と批評。
25	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表①
26	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表②
27	研究発表とプレゼンテーション	総括研究発表③
28	演習全体総括	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容をまとめ、なお持論を展開する小論文テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアの情報に敏感に。ただし「鵜呑み」であっては意味がない。他のメディアがどんな論調でいるのか。このコマーシャルに足りないところはないのか。ちょっとしたチャンスに、自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の世界観がどこからなりたっているのか、足下を探っておくことも必要だ。もう一つ大切なことは、自分の将来設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうか。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（批評の内容/研究発表）70%、最終章論文30%。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
最終演習日には、小論文を課す。必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

専門演習Ⅰの学生に対する、積極的な働きができるチャンスを増やす。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートをしたい。参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。そのために学生の積極的な提案を待ちたい。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、DVD、映像資料などを使うことがある。

【その他の重要事項】

自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。夏休みに、夏ゼミ合宿を予定している。万難を排して参加してもらいたい。オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運ぶよう求めたい。演習の際には、指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。

【特記事項】

今年度は、担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、春学期を空けることになる。代わって海老名徳雪先生が、演習のサポートに入る。なお、インターネット、メールを使つての遠隔指導も可能。メールアドレスは、すでに演習Ⅰで提示したものを援用してもらいたい。

HSS3001A

専門演習Ⅱ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：3 年次／4 単位

曜日・時限：水・5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1818010
授業コード：M5127

専門演習Ⅰで学習したマーケティングリサーチの手法や分析方法を活用し、自ら調査設計から調査まで行う。本演習の後半は4年次の卒業研究に向け、スポーツマーケティングに関する研究計画を立て、それに基づいて卒業論文の緒言および方法を執筆する。

【到達目標】

受講者は演習を通じて以下の目標に到達する：
 (1) 調査の手法やデータの扱い方を学びながら、現場で求められている調査内容や分析についても検討し、実践する。
 (2) 後期の演習では、各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究群が明らかにできなかった課題を特定するとともに、それを克服するための新しいアイデアと研究計画を示すことができる。
 (3) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
 (4) 目的に応じて研究方法を適切に設定し、実施計画を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を対象に少人数の指導体制のもと、報告・討論・実践をおとして学びを深める。これまでに講義で修得した知識を踏まえるとともに、2年次の専門演習Ⅰにおいて設定した自身のテーマを掘り下げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションおよび演習の概説	卒業研究に向けた動機づけと演習の概要について理解する。
第2回	研究とは何か	研究・調査の進め方について学習する。
第3回	調査・研究の方法	問題を解決するための調査の手法や、統計的な分析の手法について学習する。
第4回	調査の妥当性と信頼性	調査および研究の妥当性や信頼性について理解する。
第5回	調査ガイダンス	スタジアム観戦者調査について、調査の方法や注意点について学習する。
第6回	統計解析の基礎	基本的な統計分析の手法（記述統計、カイ二乗検定、平均値の差の検定など）について学ぶ。
第7回	推計統計	分散分析、回帰分析、多変量分散分析などについて学習する。
第8回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：観戦動機	人がスポーツ観戦を行う理由は多岐に渡る。ここではスポーツ観戦者の動機因子について学ぶ。
第9回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：スポーツ関与	人とスポーツの関わりや強さをスポーツ関与について学ぶ。
第10回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客満足	スポーツ消費者のニーズ充足と顧客満足度の関係を説明する顧客満足理論について学ぶ。
第11回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：社会的アイデンティティ	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる特徴を持つ。両者を区分する最大の特徴であるチームアイデンティティについて学ぶ。
第12回	スポーツマーケティングの重要研究テーマ：顧客ロイヤリティ	スポーツにおける顧客ロイヤリティと併せて、近年注目される顧客エンゲージメントについても学ぶ。
第13回	各自の研究テーマの設定	興味のある対象に対して、問題点を整理し、問題解決のための手目的や手法を踏まえ、テーマを設定する。
第14回	ゼミ内プレゼンテーション	設定したテーマを踏まえ、卒業論文につながるような内容にてプレゼンを行う。
第15回	後期の演習の概要の説明	後期の演習の概要および卒業研究の意義を理解する。
第16回	過去の卒業研究の検討：第1グループ	第1グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第17回	過去の卒業研究の検討：第2グループ	第2グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。

第18回	過去の卒業研究の検討：第3グループ	第3グループが、過去の卒業研究について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第19回	先行研究（一般の研究）の検討：第1グループ	第1グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第20回	先行研究（一般の研究）の検討：第2グループ	第2グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第21回	先行研究（一般の研究）の検討：第3グループ	第3グループが、一般の研究論文について(1)文献の要約、(2)研究群の整理、(3)問題点の特定を行う。
第22回	研究課題の選択	各自のテーマについて、(1)研究の背景、(2)研究目的、(3)学術的な重要性、(4)実践的な重要性をまとめ、発表する。
第23回	序論の執筆：研究の背景	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定する。
第24回	序論の執筆：問題の所在	各自の研究テーマは、先行研究によってどこまで理解されているかを把握するとともに、未解明の研究課題を特定する。
第25回	序論の執筆：問題の所在、研究の目的、重要性	研究の目的を設定し、その目的を達成することでのような学術的貢献を果たすことのできるのかについても述べる。
第26回	序論の執筆：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
第27回	序論の執筆：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
第28回	方法の執筆：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。前期は事前に配布される資料を読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してきてください。後期は毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

- (1) 研究手法に関するレポート：10点（前期）
 - (2) 研究テーマの発表：10点（前期）
 - (3) 過去の卒業研究のレビュー：10点（後期）
 - (4) 一般の先行研究のレビュー：10点（後期）
 - (5) 序論（緒言、問題の所在）の執筆：20点（後期）
 - (6) 序論（目的、重要性）の執筆：20点（後期）
 - (7) 序論（概念的枠組み）の執筆：20点（後期）
- 合計：100点

【評価基準】

それぞれの課題において獲得する得点は以下の基準に従って決定する。
 100%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出し、さらに成果物の中で自分の論旨を明確に伝えることができる。
 80%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から合理的な解決策を導き出している。
 60%：自身が立てた計画に沿って課題に客観的に取り組むとともに、独自の視点から解決策を導き出している。
 40%：自身が立てた計画に沿い、課題に客観的に取り組んでいる。
 20%：自身が立てた計画に沿って課題に取り組んでいる。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

レポートやディスカッションの資料を作成するための個人用パソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

HSS400IA

専門演習Ⅲ

安藤 正志

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

管理 ID：
1813463
授業コード：
M5210

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

論文に仕上げ報告するまでの課程を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

4 年間の総括として健康科学に関する疑問を学生自ら見だし、それを種々の実験あるいは調査を通して検証する。得られた結果について報告、討論を行い健康科学に対する問題解決能力を養う総括的演習とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	今後の予定のオリエンテーション	今後の予定をオリエンテーションする
2	実験データの報告	下級学年との報告会
3	論文組み立て案	教員との面談で方針を決める
4	関連した文献報告を行う①	文献を検索しこれを報告する
5	関連した文献報告を行う②	文献を検索しこれを報告する
6	関連した文献報告を行う③	文献を検索しこれを報告する
7	関連した文献報告を行う④	文献を検索しこれを報告する
8	関連した文献報告を行う⑤	文献を検索しこれを報告する
9	関連した文献報告を行う⑥	文献を検索しこれを報告する
10	関連した文献報告を行う⑦	文献を検索しこれを報告する
11	論文指導を行う①	面談で論文指導を行う
12	論文指導を行う②	面談で論文指導を行う
13	論文指導を行う③	面談で論文指導を行う
14	論文指導を行う④	面談で論文指導を行う

秋学期

回	テーマ	内容
15	報告会	中間報告会
16	秋学期オリエンテーション	下学年ゼミ生徒の合同報告会
17	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
18	論文報告会	下学年ゼミ生徒の合同報告会
19	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導①	協同実験 順番で面接指導

20	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導②	協同実験 順番で面接指導
21	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導③	協同実験 順番で面接指導
22	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導④	協同実験 順番で面接指導
23	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑤	協同実験 順番で面接指導
24	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑥	協同実験 順番で面接指導
25	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑦	協同実験 順番で面接指導
26	下級学年と小グループで実験する 個人面接指導⑧	協同実験 順番で面接指導
27	論文完成	論文を仕上げ完成させ提出する
28	学術大会への参加	学会へ参加し学術的雰囲気を経験する（日程未定） 順番で面接指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文に仕上げるまでの課程を学ぶ

【テキスト（教科書）】

各自関連した文献を 10 論文以上検索し読む。

【参考書】

各自関連した参考書を見つける

【成績評価の方法と基準】

発表会の成績（30%）、論文の完成度（60%）、宿題等論文の作成のための課題（10%）

【学生の意見等からの気づき】

個人面接による指導を中心とする

【その他の重要事項】

専門演習Ⅱを履修済みで、卒業研究、卒業論文を完成させる意志のあるものが対象である。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

泉 重樹

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年次を対象に、綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した少人数での報告・討論・実践をととして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする。

【到達目標】

スポーツ医学、特に運動器系のスポーツ外傷・障害予防に関する実験研究、実践的な取り組みや具体的な事例に対する報告等の研究を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本ゼミでは実験研究を中心とした卒業研究を、先行研究の読み込みから、研究仮説・方法の立案、予備実験、本実験を通して、卒業論文を仕上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習内容の確認
2	研究テーマの立案 1	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
3	研究テーマの立案 2	研究テーマをプレゼンテーションすることで、ディスカッションを深める。
4	予備実験の準備	研究テーマに基づいた予備実験を計画する。
5	予備実験 1	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
6	予備実験 2	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
7	予備実験 3	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
8	予備実験 4	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
9	予備実験 5	予備実験を通して研究の方向性を決定する。
10	これまでの振り返り	予備実験を振り返り、本実験へ向けた最終的な確認を行う。
11	倫理書作成と本実験準備	倫理書を作成し、本実験を行う。
12	本実験 1	本実験を開始する。
13	本実験 2	本実験を行う。
14	本実験 3	本事件を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	中間発表会	春学期の活動に基づき、研究テーマに基づいたこれまでの活動のプレゼンテーションを行う。

16	本実験・追加実験 1	中間発表会の結果に基づき、本実験・追加実験を行う。
17	本実験・追加実験 2	本実験・追加実験を行う。
18	本実験・追加実験 3	本実験・追加実験を行う。
19	本実験・追加実験 4	本実験・追加実験を行う。
20	本実験・追加実験 5	本実験・追加実験を行う。
21	データ集計・振り返り	本実験データを集計・解析する。
22	データ解析	集計したデータを解析する。
23	論文執筆開始	データ解析とともに、卒業論文の執筆を開始する。
24	結果の振り返りと考察	研究結果をまとめあげ、考察に取り掛かる。
25	考察の完成	卒業論文の考察を完成させる。
26	卒業研究発表予演	卒業研究発表会前に予演をゼミ内で行う。
27	卒業論文発表会	これまでの研究の成果を発表する。
28	卒業論文提出	発表会などのディスカッションを踏まえて、最終的な完成版の卒業論文を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～14 回 研究方法自体を理解する。使用する機器に精通する。先行研究を読み込み理解する。

15～28 回 先行研究を読み込み理解する。自身で論文を書く際には、繰り返し論文を推敲する。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次, 西嶋尚彦監訳：身体活動科学における研究方法. NAP, 2004

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画書 (10%)

プレゼンテーション (デザイン発表・中間発表・卒業論文発表) (20%)

卒業論文 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

研究は一人で行うのは難しい。研究は同級生のゼミ生同士や上級生・下級生たちの協力なしには行えない。ゼミ活動を通して、積極的に縦と横の仲間達とのコミュニケーションをとりながら、皆で「卒業研究」に積極的に取り組んでもらいたい。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

井上 尊寛

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、卒業論文を作成することを目的とする。自らが選択したテーマに則した研究方法、調査および分析の方法などを踏まえた研究成果をまとめることを目的とする。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 年をとおして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が1年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：研究の背景と問題点の整理	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定するとともに、未解明の研究課題を特定する。
3 回	序論：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
4 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
5 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
7 回	方法：質問項目（基本属性）	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。

8 回	方法：質問項目（心理的要因）	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
9 回	方法：調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備（抄録）	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備（スライド）	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。

秋学期

回	テーマ	内容
15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
17 回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証（基本的な統計分析）	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証（発展的な統計分析）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
23 回	考察：セグメント別の考察	より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で実施し、場合によっては追加分析を行う。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。

28回 最終発表 パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表：10点

調査計画の発表：10点

中間発表：10点

最終発表：20点

卒業論文（①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など）：50点

合計：100点

【評価基準】

4回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

HSS400IA

専門演習Ⅲ

苅部 俊二

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4年次／4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する報告書を学術的な論文を作成し、発表する。

【到達目標】

4年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習Ⅰ、Ⅱで学んだ知識、方法論をベースとし、運動科学における研究を行い論文にまとめ、発表する。オリジナリティのあるテーマを選定し、研究計画の設計、研究の実施、データ処理などを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	春学期受講ガイダンス	春学期受講のガイダンスを行う。
2	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う①
3	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う②
4	卒業研究	卒業研究のテーマの検討を行う③
5	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。①
6	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。②
7	卒業研究	卒業研究の研究方法の検討を行う。 実験の計画書の作成。③
8	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表①
9	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表②
10	卒業研究	卒業研究の実験、調査などの実施および発表③
11	卒業研究	中間発表①
12	卒業研究	中間発表②
13	卒業研究	中間発表③
14	卒業研究	中間発表④

秋学期

回	テーマ	内容
15	卒業研究	夏期休暇の研究計画
16	秋学期受講ガイダンス	秋学期ガイダンスを行う。 夏期研究の成果を発表する。
17	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。①
18	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。②

19	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。③
20	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。④
21	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑤
22	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑥
23	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑦
24	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑧
25	卒業研究	卒業論文作成。 必要に応じてプロGRESS・レポートを提出、発表する。⑨
26	卒業研究	卒業論文作成。 抄録作成、発表資料作成。①
27	卒業研究	卒業論文作成。 抄録作成、発表資料作成。②
28	卒業研究	卒業論文作成。 抄録作成、発表資料作成。③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～15回：前回授業への取り組みと復習

第16回：春学期の復習

第17～30回：前回授業への取り組みと復習

【テキスト（教科書）】

特に設けない。

【参考書】

特に設けない。

【成績評価の方法と基準】

論文(70%)と発表(30%)によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業研究が大学の集大成になるよう指導する。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

鬼頭 英明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマとなりうる課題を探索し、その課題に関して現在までに報告されている知見についてまとめる。そのうえで、新規性のある知見を得るための研究方法を検討し、調査の実施とともに得られた結果を分析・考察する。以上の過程をもとに、卒業論文としてまとめることにより、研究の流れと意義を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

学術論文を構成するそれぞれのパーツがどのように構成され、どのような研究手法があるのかを理解できるようにする。卒業論文を仕上げることにより、研究とは何かについて認識を深めるとともに、新たな知見をまとめ上げて報告することの重要性に気付くようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、実施しようとする課題（研究テーマ）により進捗状況が異なるので個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	課題の探索	学生の研究対象と考える領域について資料や論文を提供し、読み込む。
2	課題の探索	興味関心のある研究テーマについて意見交換し、研究対象について絞り込む。
3	資料及び文献検索	研究テーマについて、課題を考える背景に関わる資料や文献について検索を行い、概要をまとめる。
4	先行研究の報告 1	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究手法や得られた結果をまとめる。
5	先行研究の報告 2	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究手法や得られた結果をまとめる。
6	先行研究の報告 3	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究手法や得られた結果をまとめる。
7	先行研究の報告 4	先行研究を内容別に分類し、内容ごとに先行研究の研究手法や得られた結果をまとめる。
8	先行研究のまとめ	先行研究について全体を整理し、課題を抽出する
9	研究方法の検討 1	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。
10	研究方法の検討 2	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。

11	研究方法の検討 3	抽出された課題を明らかにするための実施可能な研究手法について検討する。
12	統計解析	量的調査、質的調査に関する統計解析の方法について検討する。
13	統計解析	量的調査、質的調査に関する統計解析の方法について検討する。
14	まとめ	調査方法を確定するとともに、これまでに得られた成果を整理する。
15	調査（実践）の実施 その1	調査又は実践を行う。
16	調査（実践）の実施 その2	調査又は実践を行う。
17	調査（実践）の実施 その3	調査又は実践を行う。
18	結果の解析 その1	得られた結果を整理・入力し、データの確認を行う。実践については効果評価を行う。
19	結果の解析 その2	統計解析を実施する。実践については問題点の洗い出しとともに修正作業を行う。
20	結果の解析 その3	統計解析を実施する。
21	図表の作成 その1	得られた結果をもとに図表の作成を行う。
22	図表の作成 その2	得られた結果をもとに図表の作成を行う。
23	考察 その1	結果から導き出される考察を検討する。
24	考察 その2	結果から導き出される考察を検討する。
25	卒業論文執筆指導 その1	卒業論文の執筆について指導
26	卒業論文執筆指導 その2	卒業論文の執筆について指導
27	論文完成	卒業論文の校正作業と課題の抽出。
28	プレゼンテーションにむけて	発表に向けてのプレゼンテーションの指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学術論文を要約する。
与えられた課題を仕上げる。

【テキスト（教科書）】

教育実践をテーマとする場合は高等学校保健体育科教科書

【参考書】

教育実践をテーマとする場合は適宜参考資料を配布

【成績評価の方法と基準】

卒業論文への取組方とその内容（100%）

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとに学生個別に対応することで、適宜学生の意見を組み入れる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

特になし

管理 ID:
1825584
授業コード:
M5215

HSS400IA

専門演習Ⅲ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】管理 ID：科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。
1813467**【到達目標】**授業コード：卒業論文の完成。
M5216

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究データの集積、分析を随時指導する。研究計画書を作成する。進捗があればゼミ内で発表する。研究計画書は最終的に抄録として完成させる。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。抄録をもとに、論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**通年**

回	テーマ	内容
春学期 開始時	卒業論文作成	研究計画を完成し実験や調査を始める。夏期休暇期間中に分析、論文執筆を行えるようにしておくこと。
秋学期 開始時	卒業論文作成	「緒言」（研究の背景などを書く論文のイントロダクション）の執筆をほぼ終えていること。
12月初旬	卒業論文作成	卒業論文の完成・提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 研究データ解析
- ② 調査活動
- ③ 学会・研究会参加

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100%）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとり記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】

個人指導を早期から開始し、卒業研究を計画的に完成させられるように支援する。

【その他の重要事項】

原則として木下の方からゼミの講義の中で指導時間を作っていくことはせず、個別指導が中心である。

自ら研究室を訪れ、準備・学習・相談の機会を作るように。これを自主的、積極的かつ計画的に行い中断なく継続していかなければ、論文完成は極めて難しいと考えられるので注意すること。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

清雲 栄純

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・2年・3年時に取り組んだ調査・研究をベースに卒業論文を作成し発表する。
 ・履修者全員の論文集として編集する。
 ・優れた論文は学会等で発表する。

【到達目標】

卒業論文を完成させ、学内外で発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

①研究テーマを決定し研究計画を作成する。②先行研究を行い、研究に沿ったデータ収集や分析について指導する。研究テーマのアウトラインに沿った、資料の収集・分析の進捗状況に応じて9月中旬を目標に中間報告を受ける。11月末を目標にテーマの内容構成を行い、12月にはゼミ内で発表会を行う。1月初旬を目標に卒業論文を提出する。

テーマ例：育成年代の指導者のアンケート結果から考察する日本サッカーの将来について。：スポーツ（サッカー）指導者のスキルアップについての考察。：我が国における総合型地域スポーツクラブの現状。日本における総合型地域スポーツクラブの抱えている問題についての考察。：人材ビジネスの現状と今後の展開：Jリーグの観客動員数増加戦略：スポーツ選手のセカンドキャリアに関する考察：スポーツにおける戦争と平和の関わりについての考察。：オリンピックが日本に与える経済効果。など

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文作成や先行研究についてのガイダンスを行う。
2	研究テーマの選択と先行研究①	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
3	研究テーマの選択と先行研究②	専門演習Ⅰ、Ⅱで調査研究した内容をさらに深め、テーマを設定する。
4	研究テーマの決定	事前調査した候補の中から内容を検討し、テーマを決定する。
5	研究テーマの発表	決定したテーマを履修者全員が共有する。
6	研究テーマの資料収集①	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。（先行研究）アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
7	研究テーマの資料収集②	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。

8	研究テーマの資料収集③	テーマに関する文献の調査を図書館やインターネットで収集する。アンケート調査や実験も必要に応じて実施する。
9	研究テーマの資料を分析する①	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
10	研究テーマの資料を分析する②	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
11	研究テーマの資料を分析する③	文献の解読と整理を行い、全体の流れを考える。
12	研究テーマのアウトラインの作成①	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
13	研究テーマのアウトラインの作成②	中間報告が出来るように、大筋をまとめる。
14	研究テーマの中間報告①	テーマの中間報告を行う。

秋学期

回	テーマ	内容
15	卒論完成に向けて①	秋学期で行う内容の確認
16	卒論完成に向けて②	秋学期で行う内容の確認
17	研究テーマの内容を検討し、構成する①	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
18	研究テーマの内容を検討し、構成する②	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
19	研究テーマの内容を検討し、構成する③	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
20	研究テーマの内容を検討し、構成する④	中間発表での修正点、付け加える内容を検討し構成する。
21	研究テーマのまとめと校正①	最終発表が出来るように完成版作成する。
22	研究テーマのまとめと校正②	最終発表が出来るように完成版作成する。
23	研究テーマのまとめと校正③	最終発表が出来るように完成版作成する。
24	研究テーマのまとめと校正④	最終発表が出来るように完成版を作成する。（抄録の作成）
25	卒業論文発表会（ゼミ内）①	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
26	卒業論文発表会（ゼミ内）②	専任教員・履修生の前でプレ発表を行う。
27	卒業論文 最終修正	発表会。専任教員・履修生の前で発表する。（ゼミ内）
28	論文提出	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館の活用
 データの分析
 調査活動（アンケート調査など）
 インターン

【テキスト（教科書）】

定めない

【参考書】

定めない

【成績評価の方法と基準】

調査研究 70% 学外活動 10%、プレゼンテーション 20%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

P.C. U.S.B

HSS400IA

専門演習Ⅲ

高見 京太

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4年次／4単位

曜日・時限：集中・その他

管理 ID：
1813469
授業コード：
M5218**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

4年次を対象に、少人数で綿密な指導のもと、担当者（専任教員）の専門分野に即した、少人数での報告・討論・実践をとおして学習を深める演習である。専門演習Ⅱにおいて掘り下げた研究テーマに関する報告書を学術的な論文、あるいは発表として練り上げていくことを目的とする

【到達目標】

- ・卒業論文を完成させる。
- ・卒業論文の内容を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

運動や身体活動と、健康の保持増進や体力の向上との関係について明らかにすること、そして、その結果を個人または集団の健康・体力づくりにおいて、有効に活かすための方法論を学習する。作成した研究計画に従って、研究を実施し、データの解析をして、論文としてまとめる。また、研究成果を効果的に発表出来る能力を養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1～14	卒業論文作成	各学生の進度に合わせて個別に指導

秋学期

回	テーマ	内容
15～25	卒業論文作成	各学生の進度に合わせて個別に指導
26～27	プレゼンテーション	発表会リハーサル
28	プレゼンテーション	卒業研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身が立てた計画通りに、確実に作業を進める。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文(100%)

【学生の意見等からの気づき】

計画通り作業を進められるように指導する。

HSS4001A

専門演習Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育科教育学・スポーツ教育学領域における卒業論文の完成を目指し、研究テーマ・目的の設定の仕方、研究方法の選択の仕方、結果に対する分析および考察の仕方等について学ぶ。

【到達目標】

研究テーマの設定に際する先行研究の調査力、研究方法に対する妥当性・信頼性の検討力、結果に対する考察力、まとめる力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員の指導の下、受講者が研究に対する調査・考察を各自で進めながら、定期的にプレゼンテーションを行い、研究をブラッシュアップしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの紹介①	指導教員が「体育」の「目標論」に関する研究論文を紹介する。
2	研究テーマの紹介②	指導教員が「体育」の「カリキュラム論」に関する研究論文を紹介する。
3	研究テーマの紹介③	指導教員が「体育」の「教材論」に関する研究論文を紹介する
4	研究テーマの紹介④	指導教員が「体育」の「学習環境論」に関する研究論文を紹介する
5	研究テーマの紹介⑤	指導教員が「体育」の「学習指導論」に関する研究論文を紹介する
6	研究テーマの紹介⑥	指導教員が「体育」の「学習評価論」に関する研究論文を紹介する
7	研究テーマの紹介⑦	指導教員が「体育」の「国際比較論」に関する研究論文を紹介する
8	研究テーマの紹介⑧	指導教員が「運動部活動論」に関する研究論文を紹介する
9	研究テーマの紹介⑨	指導教員が「体育」の「教師養成論」に関する研究論文を紹介する
10	研究テーマの紹介⑩	指導教員が「体育」の「教師行動論」に関する研究論文を紹介する
11	研究テーマの設定と方法の選択①	「目標論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
12	研究テーマの設定と方法の選択②	「カリキュラム論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
13	研究テーマの設定と方法の選択③	「教材論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。

14	研究テーマの設定と方法の選択④	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
15	研究テーマの設定と方法の選択⑤	「学習指導論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
16	研究テーマの設定と方法の選択⑥	「学習評価論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
17	研究テーマの設定と方法の選択⑦	「国際比較論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
18	研究テーマの設定と方法の選択⑧	「運動部活動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
19	研究テーマの設定と方法の選択⑨	「教師行動論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
20	研究テーマの設定と方法の選択⑩	「学習環境論」に関する研究論文のテーマと方法について担当グループがプレゼンし、自己の研究テーマ設定と方法の選択につなげる。
21	調査方法の指導①	質問紙調査法についてレクチャーする。
22	調査方法の指導②	観察法についてレクチャーする。
23	統計分析法の指導①	単純集計、クロス集計、カイ二乗検定等についてレクチャーする。
24	統計分析法の指導②	T検定、分散分析、多重比較等についてレクチャーする。
25	統計分析法の指導③	調査項目・内容の設定の仕方、因子分析等についてレクチャーする。
26	質的分析法の指導①	内容分析・カテゴリー分析等についてレクチャーする。
27	質的分析法の指導②	テキスト分析、記録法等についてレクチャーする。
28	まとめ方とプレゼンテーションの指導	まとめ方とプレゼンテーションの行い方についてレクチャーする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成へ向けて各自で授業時間外の努力を要する。

【テキスト（教科書）】

高橋建夫編著『新版・体育科教育学入門』、大修館書店

【参考書】

随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文内容（80%）、卒業論文発表（20%）

【学生の意見等からの気づき】

研究の具体像をより明確に示し、研究のオリジナル性を担保しつつも、学生が迷路に陥らないように指導していく。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、記録用媒体（USB 等）

【その他の重要事項】

上記以外、特に無し。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

中澤 史

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から新たな課題を抽出し、その課題の解明を通して卒業論文を完成する。

【到達目標】

1. 学術論文を作成可能な能力を養い、卒業論文を完成する。
2. 学内で実施する卒業研究発表会において発表する。
3. 可能であれば学外の学会や研究会において卒業論文の内容を発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

専門演習Ⅱで取り組んだ予備調査の結果から得られた新たな課題の解明を通して、卒業論文の完成に向けた作業に取り組む。その進捗状況に対する個別指導やグループディスカッションを通して、論文の完成度を高めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒業論文作成に向けた方向性の確認
2	研究テーマ	研究テーマを確定する
3	研究の意義	研究の意義について検討する
4	先行研究の精査	先行研究を精査する
5	研究方法の精査	研究方法について検討する
6	予想される結果	予想される結果について検討する
7	研究計画①	研究計画を作成する
8	研究計画②	研究計画を精査する
9	研究計画③	研究計画を確定する
10	調査	調査の準備を整える
11	データ収集	データを収集する
12	データ整理	データを整理する
13	データ分析①	データを統計的に分析する
14	結果①	図を作成する
15	結果②	表を作成する
16	データ分析②	データを質的に分析する
17	結果③	質的に結果をまとめる
18	考察①	先行研究を踏まえて数量的に考察する
19	考察②	先行研究を踏まえて質的に考察する
20	考察③	総合的に考察する
21	まとめ	まとめの作業を行う
22	論文の作成①	緒言、目的の内容について精査する
23	論文の作成②	結果、考察の内容について精査する
24	論文の作成③	文献を整理する
25	論文の作成④	論文の内容を精査する
26	プレゼンテーション	プレゼンテーションを通して課題を抽出する

27 論文の精査 抽出された課題を踏まえ、論文の

精度を高める

28 論文の完成

論文を完成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文完成に向けた主体的・積極的な取り組みを期待する。

【テキスト（教科書）】

中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016

【参考書】

松井 豊「改訂新版心理学論文の書き方：卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社 2014

【成績評価の方法と基準】

原則として全授業への出席を前提に、次の基準に従い総合評価する。

1. 卒業論文の内容：50%。
2. 授業への参画状況・プレゼンテーション：50%。

【学生の意見等からの気づき】

教育実習、介護実習等の理由で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【その他の重要事項】

1. 授業概要の説明、個別指導順の決定などを行なうため、必ず初回授業に出席すること。
2. 上記の授業計画は変更される場合がある。

管理 ID：
1813471
授業コード：
M5220

HSS400IA

専門演習Ⅲ

成田 道彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：4年次/4単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各個人の研究テーマを決定し、資料収集の整理、分析を行う。

管理 ID：
1813472

授業コード：
M5221

【到達目標】

3年次の専門演習Ⅱの研究テーマを基に内容をさらに深め、最終的に卒業論文として完成させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

3年次で調査研究したテーマに関する問題点を整理・検討しさらに研究を進め、定期的に報告・検討を行い卒業論文を作成・提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	年間計画について
2～4	卒論テーマの決定	専門演習ⅠⅡの内容を踏まえ卒業論文のテーマを決める
5～13	資料収集と分析	テーマに関する資料の収集と分析
14	中間報告1	進行状況を報告する

秋学期

回	テーマ	内容
15	中間報告2	中間報告の検討・修正
16～24	卒業論文作成	卒業論文を完成させる
25	ゼミ発表	論文をゼミで発表する
26～27	最終確認	卒業論文の内容、構成を再度確認する。
28	卒業論文提出	卒業論文を提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文のテーマについての資料収集と分析を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

卒業論文提出を最低条件とする

【学生の意見等からの気づき】

論文作成に向けて計画性を持って指導していきたい。

HSS4001A

専門演習Ⅲ

林 容市

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、自らが問題・課題を提起して、先行研究のレビューから研究の方向性を見だし、これまでに修得した知識、経験、手法等を用いて実際に情報収集、データ収集・分析、文章作成を行い、卒業論文を作成することを目的とします。

【到達目標】

1. 研究テーマ・課題を設定し、適切な研究計画を立案できる。
2. 妥当な方法を用いてデータ収集・分析し、適切に図表を用いて結果を提示できる。
3. 得られた結果に対して、論理的な考察ができる。
4. 的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
5. 得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

自らの興味に沿って研究テーマを設定し、グループでミニ研究を行い、論文作成に向けた準備を行います。その後、研究課題・研究仮説の設定、実験・測定・調査、統計解析方法を検討して研究計画書を作成し、全体で論議を行います。計画が立案した後は、各自でデータ収集や分析を行い、結果について発表・意見交換をします。最終的に卒業論文を完成させ、内容のプレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け、グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし、グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し、内容に関して論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに、ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに、データ分析、結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ、課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて、研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し、まとめる。
第 15 回	卒業論文執筆に向けたスケジュール確認	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認する。
第 16 回	研究計画発表	研究計画を発表し、問題点などを含めて全体で論議する。
第 17 回	データ収集に向けた確認と準備	卒業論文に使用するデータの収集に係る機器や方法を確認し、実際の測定・実験・調査に向けた準備を行う。
第 18 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し、全体で論議・推敲する。
第 19 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し、全体で論議する。
第 20 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し、発表する。

第 21 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 22 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 23 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し、意見交換を行う。
第 24 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し、全体で推敲・意見交換を行う。
第 25 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ、発表する。
第 26 回	プレゼンテーション（1）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（1）。
第 27 回	プレゼンテーション（2）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし、意見交換を行う（2）。
第 28 回	口頭発表練習	指定の時間内で卒業論文の内容についてプレゼンテーションを行い、討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外での予習・復習の作業が、論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って、資料作成や発表準備を行って下さい。また、個人研究、グループ研究共に、各回のテーマ・内容に沿って授業以外に時間を設けて実験・調査、発表準備などの作業を行う必要があります。授業内活動の補足など、必要な作業をしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付、書籍・文献の紹介をします。

【参考書】

Thomas J. R. and Nelson J. K. (田中 喜代次 訳). 身体活動科学における研究方法. ナップ.
出村慎一, 山下秋二, 佐藤進. 健康・スポーツ科学のための調査研究法. 杏林書院.
浦上昌則, 協田貴文. 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方. 東京図書.
田中敏, 山際 勇一郎. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで. 教育出版.

【成績評価の方法と基準】

- 1) 研究実施状況・研究論文の内容：70%
- 2) 発表・質疑応答の内容 20%
- 3) 発表への質問状況・論議への参加状況：10%、として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最終的には、授業の到達目標に全員が達しており、高いレベルでの学習および卒業論文の執筆ができたが、その過程においては大きな個人差が見受けられた。授業中の活動や個人とのやり取りにおいても、習得したスキルや課題に取り組む時期などに差異がみられたため、特に今年度は卒業論文執筆に向けたライティングの学習内容を再検討し、充実させて行きたいと考えている。

【その他の重要事項】

- ・シラバスの内容については、授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
- ・授業の運営方針や受講に際しての注意点を説明しますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

平野 裕一

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて、改めて研究デザインを検討、作成し、必要となる測定・調査を実施する。並行して先行研究を読み進め、論文の緒言、方法を作成し、測定・調査の分析をもとに結果、考察、結論と書き進める。

【到達目標】

- ・研究デザインの検討・作成
- ・測定・調査の実施
- ・先行研究の検討
- ・論文の緒言、方法の作成
- ・測定・調査の分析
- ・結果、考察、結論の作成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

個別対応で到達目標をクリアしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	卒論作成へ向けてのスケジュール確認 個別対応の方法確認
2	卒業論文の作成に向けて1	研究デザインのプレゼンテーションと検討
3	卒業論文の作成に向けて2	研究デザインの再プレゼンテーションと検討
4	卒業論文の作成に向けて3	研究デザインの再々プレゼンテーションと検討
5	デザインの検討を受けて1	研究デザインの作成と検討 先行研究の調査 緒言の作成
6	デザインの検討を受けて2	研究デザインの修正と検討 先行研究の調査 緒言の作成
7	デザインの検討を受けて3	研究デザインの完成 先行研究の調査 緒言の完成
8	調査・測定法の習得1	調査・測定法の確認と練習
9	調査・測定法の習得2	調査・測定法の習得
10	調査・測定法の習得3	調査・測定法の習得
11	調査・測定データの分析1	データの分析法の確認と練習
12	調査・測定データの分析2	データの分析法の習得
13	調査・測定データの分析3	データの分析法の習得
14	事前の調査・測定・分析1	トライアルとしての調査・測定の実施と検討
15	事前の調査・測定・分析2	トライアルとしての調査・測定データの分析と検討

16	事前の調査・測定・分析3	トライアルとしての調査・測定データの総括
17	実際の調査・測定・分析1	実際の調査・測定の実施と検討 方法の作成
18	実際の調査・測定・分析2	実際の調査・測定の実施と検討 方法の作成
19	実際の調査・測定・分析3	実際の調査・測定の実施と検討 方法の完成
20	緒言と方法を受けて1	改めての緒言と方法の検討
21	緒言と方法を受けて2	方法に使う図の作成
22	緒言と方法を受けて3	調査・測定データ（結果）の記述 結果の図表の作成
23	考察1	結果を受けての考察すべき内容の検討
24	考察2	必要な箇所への先行研究の引用
25	考察3	考察全体の精査
26	結果・考察を受けて1	全体の構成を確認し、結論を導く
27	結果・考察を受けて2	全体の論旨を確認する
28	結果・考察を受けて3	卒論の完成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別対応になるので、対応の前後には各自課題を検討して臨む

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

研究計画の作成（40点）と卒業論文（60点）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できる限りオフィスアワーを増やして個々との対応を密にする。

【学生が準備すべき機器他】

PC

管理 ID：
1813474
授業コード：
M5224

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813475
授業コード：M5226

4年次を対象とした授業。メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、組織論。いずれかの視点をひとつの足がかりにテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱにおいて掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。

自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】

研究テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、実際に試すという能動的な対応を加えて、より深い成果に結びつける。ことにこの先に開けた新しい社会に近いところにテーマを設定することが、意欲があって、他人の及ばない研究成果にたどり着く一つの道だ。論文は、最低目標 20000 字。そこから抄録を用意する。卒論提出のあと、プレゼンテーションの場が設けられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

集中講義の形式で、随時指導を基本原則とする。順序立てて言えば、①テーマの設定、②工程表の設計、③先行研究のチェックと読み込み、④研究方法の構築、⑤資料や調査の方法検討、⑥執筆と進んでいく。追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもういちど見渡すこと。しかも自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れない。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない筆致で成果が示されるかを問う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	3年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出（必須）。
4	調査・研究①	実際の調査、研究、文献購読に入る。
5	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究③	調査、研究、文献購読を継続する。工程表チェック（必須）。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、問題点や新たな発見を整理し報告する。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象のポイントをチェックし手を加える。
14	方向検証と夏季休暇中の計画	中間のとりまとめをし、大きなくくりで全体像を検証する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	進捗状況報告①	全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。

16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を継続する。
18	継続研究④	研究を継続する。
19	継続研究⑤	研究を継続する。
20	継続研究⑥	研究を継続する。
21	継続研究⑦	研究を継続する。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
26	審査と発表②	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
27	審査と発表③	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
28	審査と発表④	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマが設定され、分野と方向性が決まれば、そこにかかわる組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつの組織に限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。講義の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】

主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にパワーポイントなどを使ってプレゼンテーションをする。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼した上で論理的整合性を保ちながら取り込んでいるかどうか。一方的であったり、思い込みで資料を強引にあわせるような論法に陥らないこと。研究を待つまでもなく誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないこと。

評価配分：卒業論文 70 % プレゼンテーション作成 15 % 工程表 15%

【学生の意見等からの気づき】

「取り組みをもう少し早くしていれば」良く聞かれる専門演習Ⅲ履修生の言葉である。「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒業執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは自分の関心とこれまでの積み重ねで、それなりの推力を発揮できる。

後手後手になりがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意することで、エンジンの回転数を準備よく上げていきたい。一人一人のテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

研究室で、随時スクリーンを使っての講義が設定できる。必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くこと。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告すること。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については、担当教官からの指示もありうる。

【その他の重要事項】

③引用に対しては、必ず出典や URL を残しておくこと。⑥写真や材料をことあるごとに集めておくこと。⑦人の声を聞いたなら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておくこと。

そうした材料が、論文の執筆で大きな助けになることが少なくない。

専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。

とかく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気が傾くからだ。論文のテーマを、自分の将来設計と連携させることが、論文への深いところでの接点を形成してくれることがある。テーマ設定には、熟考を求めたい。

執筆方法に迷いや不安が生じた場合は、担当教官、ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。

就活に追われて、研究に滞りが生じないよう、工程表を間断なくチェックすること。

【特記事項】

今年度、春学期には担当教官がサバティカル（海外研究活動）のため、大学を空けている。海老名徳雪先生が代わりにサポートに入る。なお春学期は、インターネット、メールを使っての遠隔指導を前提としている。

【研究テーマに関して】

就活との同時並行は避けて通れないところだ。内定を受けた場合には、その先の世界に、自分の研究を重ね合わせることができるのかどうか検討してみると良い。少しでも重なる部分があれば、意欲的な研究を引っ張る牽引車になってくれることがある。

HSS400IA

専門演習Ⅲ

吉田 政幸

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：4 年次 / 4 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

卒業論文の執筆では、学生自身が選んだ研究テーマについて深く考え、計画的に研究を実施し、4 年間の学びの集大成として研究成果をまとめ発表する。本演習では卒業研究の意義、内容と構成、実施方法、結果の分析・考察、アカデミック・ライティングについて総合的に学習する。

【到達目標】

本演習の到達目標は以下のとおりとする：

1. 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
2. 研究の目的、重要性、要因の定義、仮説を適切に記述できる。
3. 目的に応じて研究方法を適切に設定し、データを収集できる。
4. データを分析し、標本の特性と仮説の検証結果を詳細に報告できる。
5. 結果を深く考察し、結論を導き出すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1 年をととして計画的に卒業論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーションおよび卒業論文の説明	本演習の目的および進め方を理解するとともに、卒業研究の内容と構成、意義、執筆をとおして高められる能力について学ぶ。各自が1年を通して取り組む研究計画を立てる。
2 回	序論：研究の背景と問題点の整理	スポーツ産業界が抱える疑問に関して理解が深まるような研究テーマを設定するとともに、未解明の研究課題を特定する。
3 回	序論：研究の目的および重要性	研究課題を受け、卒業研究の目的を設定する。併せて、その目的を達成することでどのような学術的貢献を果たすことができるのかについても述べる。
4 回	序論：概念的枠組み	卒業研究で扱う重要概念や分析において測定する主な要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
5 回	序論：仮説の設定	グループ間の比較や要因間の関係性などに関する仮説を理論的根拠とともに導出する。
6 回	方法：研究環境および対象	卒業論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
7 回	方法：質問項目 (基本属性)	調査対象者の人口動態的特性や行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
8 回	方法：質問項目 (心理的要因)	調査対象者の心理的要因を測定するため、心理的尺度を観測変数として設定する。
9 回	方法：調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成する。
10 回	方法：記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計について学習し、本文にその分析方法を記述する。
11 回	方法：推計統計	研究の目的および仮説に応じて必要とされる記述統計と推計統計を見極め、記述する。
12 回	調査計画の発表準備 (抄録)	卒業論文の緒言と方法を要約し、研究計画をまとめた抄録を作成する。
13 回	調査計画の発表準備 (スライド)	卒業論文の緒言と方法に関して発表するためのスライド資料を作成する。
14 回	調査計画の発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文の緒言と方法を発表し、他の受講生と議論する。発表後は指摘された点を踏まえ、緒言および方法を修正する。

15 回	オリエンテーションおよび後期の概要の説明	卒業研究の進捗状況を確認するとともに、完成に向けた流れを理解する。
16 回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
17 回	結果：人口動態的特性と行動的特性の集計	対象者の人口動態的特性と行動的特性を集計した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
18 回	結果：心理的特性の分析	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
19 回	卒業論文の中間発表	研究計画に基づいてデータを収集し、基本属性を集計した結果を発表する。
20 回	結果：仮説の検証 (基本的な統計分析)	推計統計を用いて仮説を検証し、その結果を説明する文章を記述する。
21 回	結果：仮説の検証 (発展的な統計分析)	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の重回帰分析などを行い、その結果を説明する文章を記述する。
22 回	考察：全体の考察	分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に理解し、記述する。
23 回	考察：セグメント別の考察	より深い考察を行うため、仮説検証を顧客セグメント間で実施し、場合によっては追加分析を行う。
24 回	考察：実践的貢献	研究テーマの実践に関わる実務担当者の業務の遂行をさらに促進するための提案を行う。
25 回	考察：研究の限界と今後の展望	実施した卒業研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
26 回	結論、引用文献、巻末資料	研究の目的と結果として示した科学的証左との対応の中で結論を導き出す。併せて、引用文献や巻末資料も整え、卒業論文を完成させる。
27 回	最終発表の準備	卒業論文を発表するためのパワーポイントスライドを作成するとともに、卒業論文の要約を抄録としてまとめる。
28 回	最終発表	パワーポイントスライドを用いて卒業論文を発表し、他の受講生と議論する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。演習ではその内容を添削するとともに、次の課題を説明します。

【テキスト (教科書)】

特になし (毎回資料を配布する)

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する過去の卒業論文や一般の論文

【成績評価の方法と基準】

テーマ発表：10 点
 調査計画の発表：10 点
 中間発表：10 点
 最終発表：20 点
 卒業論文 (①緒言、②方法、③結果、④考察、⑤その他文章力、論理性、書式など)：50 点
 合計：100 点
 【評価基準】

4 回の発表と卒業論文の本文の執筆によって獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表 (または記述) している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

論文の執筆やデータ分析を行うためのパソコン、マイクロソフト・オフィス (ワード、エクセル、パワーポイント)

【その他の重要事項】

研究 (research) とは、繰り返し (re) 探求 (search) を続けることです。1 年を通じて計画的に取り組んでください。

LNG2001A

英語演習 I

相馬 美明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 4 単位

曜日・時限：火・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まず何より数多くの問題をこなすことで問題に慣れ、その問題の傾向と対策について自ら考える。

【到達目標】

精読、多読の両面から、短時間で確実に英文を読み取る能力を養うこと。また、複雑な英文を読み解くことを通じ、さらなる自信をつけていくこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書の順序にしたがって進められるが、教科書のみならず、学生の興味のわきそうなトピックをさまざま扱っていく予定である。授業は、学生の理解度を主体に進めていきたいと考える。要は、一年かけて自分がどれくらい伸びたかである。その点では、なにより学生のやる気が大切となろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、年間計画、諸注意など	イントロダクション、年間計画、諸注意など
2	Pre-test (1)	Pre-test (1)
3	Pre-test (2)	Pre-test (2)
4	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
5	Racial Discrimination Problem	Racial Discrimination Problem
6	Short Conversations	Short Conversations
7	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
8	The Discovery of a New Medicine	The Discovery of a New Medicine
9	Looking for Reference books in the library	Looking for Reference books in the library
10	American Insurance System	American Insurance System
11	American Insurance System	American Insurance System
12	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
13	Instructions on Class by a Professor	Instructions on Class by a Professor
14	まとめ	まとめ

秋学期

回	テーマ	内容
15	学期末まとめ	試験、学期末まとめ
16	秋学期予定確認	秋学期予定確認
17	Financial Crisis	Financial Crisis

18	Financial Crisis	Financial Crisis
19	Conversation between a Professor and a Student	Conversation between a Professor and a Student
20	Native American	Native American
21	Native American	Native American
22	The Civil War	The Civil War
23	Environmental Problem	Environmental Problem
24	Environmental Problem	Environmental Problem
25	Astronomy	Astronomy
26	Astronomy	Astronomy
27	Post-test (1)	Post-test (1)
28	Post-test (2)	Post-test (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習は必須であり、また出席についても基本的に全出席が原則となる。学生は自らの無限の可能性を信じ、授業に臨んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

Power-up Trainer for the TOEFL ITP (CENGAGE Learning), およびプリント使用

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (60%), レポート (10%), 平常点 (20%), 発表点 (10%) など、それらを総合的に評価する。懸命に努力する姿を評価したい。出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。

学期末試験：春学期・秋学期とも必ず受験すること。

レポート：授業中に指示する内容にそって提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発する「わからない」こそ、学生からの大切なメッセージであり、教員はこれを真摯に受け止め、対処していかなければならないと感じている。また、このメッセージを忌憚なく発せられる雰囲気作りにも配慮がなされるべきであろうと考える。

LNG2001A

英語演習Ⅱ

松下 晴彦

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：通年 | 配当年次／単位：2～4 年次／4 単位

曜日・時限：水・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの上手な取り方を習得すること、国際ビジネスで使われる英語を身につけることを目標としている。秋学期には TOEIC テストの対策もする。

【到達目標】

学生は、ビジネスに相応しい上品な英語を使うことができる。国際的なビジネスマナーを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

ビジネス英語といっても特別な英語を使うのではなく、場面にふさわしい英語、大人らしい英語を学習していく。テキスト・プリントにて基本的なビジネス英語を学び、演習を行っていく。英語力の定着を目指し、復習の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要説明
2	Lesson 1	初めて会う人と待ち合わせ
3	Lesson 2	会議・商談で自己紹介する
4	Lesson 3	客先を同僚に紹介する
5	Lesson 4	電話で：ヴォイスメール
6	Lesson 5	電話で：初めての人と
7	Lesson 6	客先に訪問して
8	Lesson 7	海外出張：飛行場でチェックイン
9	Lesson 8	入国審査・通関
10	Lesson 9	ホテルで
11	Lesson 10	会議で
12	Lesson 11	アポをとる
13	Lesson 12	雑談
14	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

秋学期

回	テーマ	内容
15	ガイダンス	授業の紹介等
16	Unit 1	Entertainment
17	Unit 2	Transportation
18	Unit 3	Technology
19	Unit 4	Housing
20	Unit 5	Sightseeing
21	Unit 6	Eating Out
22	Unit 7	Health
23	Unit 8	Finance
24	Unit 9	Sports
25	Unit 10	Education
26	Unit 11	Service
27	Unit 12	Purchases
28	試験・学期末のまとめ	読解、単語、表現、リスニングの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特になし

第2～13回：付属 CD のリスニング、テキストの予習、前回授業の復習

第14回：春学期試験対策の総復習

第15～27回：自習用 CD を使いリスニングする、およびテキストの予習、前回授業の復習

第28回：秋学期試験対策の総復習

テキストの予習は必須である。未知の単語は意味・用法を調べ、本文の全訳、問題の解答をしておく。

【テキスト（教科書）】

春学期『ビジネス会話で学ぶアメリカ文化』Todd Jay Leonard（成美堂）税込：2,160 円

秋学期『TOEIC テスト 究極アプローチ』松本恵美子（成美堂）2,200 円+税

【参考書】

『敬語の英語』デイヴィッド・セイン他（ジャパントイムズ）

『敬語の英語:実践編』デイヴィッド・セイン他（ジャパントイムズ）

『スーパーアンカー和英辞典』（学研）を自習用の辞典としてお薦めする。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度：30%

授業内小テスト：30%

定期試験：40%

これをもとに総合的に評価する。積極的な姿勢が高く評価される。

【学生の意見等からの気づき】

ビジネスで役立つ英語、知識が学べた、という意見が頂いた。学生の役に立つ授業を展開できるように今後も努力します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム。

【その他の重要事項】

大学生に相応しい英語力は必須である。

受講を希望する学生、興味がある学生は必ず初回の授業に出席すること。

演習が主となるので全出席が期待されている。

なお、授業の展開によって、若干の変更があり得る。

EDU2001A

保健体育科教育法 I

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804345
授業コード：M9010

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野)学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領変遷(1)	法的根拠(憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領変遷(2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領要点(1)	教科及び科目の目標(中学校・高等学校)
7	学習指導要領要点(2)	領域及び内容の取扱い
8	授業づくり①	授業時数 学習形態の考え方と具体的な展開方法(人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方(運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫(ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画(年間・単元・単元時間/導入・展開・整理)
13	学習指導案作成(1)	単元目標・単元時間計画/単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成(2)	本時の目標・本時案/学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎授業ごとに、A4一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

・『保健体育科教育法』（大修館書店）

・『新版体育科教育入門』（大修館書店）
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【中学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』【高等学校 保健体育】（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

・試験 40%
・小レポート・小テスト 30%
・学習指導案 20%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など1回1回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

EDU2001A

保健体育科教育法 I

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826721
授業コード：M9011

学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科教育の目的・目標・学習内容、学習指導の留意事項、学習評価等を理解し、将来の体育教師として勤めるための知識や能力、態度を身につける。また、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした体育の授業づくりの基礎知識について学び、体育(分野)学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに生涯スポーツの推進などに貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校・高等学校における保健体育科教育の目的・目標、役割を明らかにし、学習指導の基本的・実務的事項について検討する。講義内容としては、学校教育の法的関係、保健体育科教育の変遷より「体育」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	体育科教育の必要性	体育科教育とはなにか
2	体育科教育の概念	教育課程における位置づけ
3	保健体育教師の心得	姿勢・態度、服装、生徒との関わり方
4	学習指導要領 変遷 (1)	法的根拠 (憲法・教育基本法・学校教育法・施行規則等)
5	学習指導要領 変遷 (2)	戦前から現在の体育の捉え方
6	学習指導要領 要点 (1)	教科及び科目の目標 (中学校・高等学校)
7	学習指導要領 要点 (2)	領域及び内容の取扱い
8	授業づくり①	授業時数 学習形態の考え方と具体的な展開方法 (人的条件・物的条件)
9	授業づくり②	学習過程の効果的な進め方 (運動の特性に触れる)
10	授業づくり③	学習環境の具体的な工夫 (ICT・学習カード・視聴覚教材等の活用方法を含む)
11	授業づくり④	学習評価のねらい、方法、観点
12	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/導入・展開・整理)
13	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元時間計画/単元における評価規準の設定方法
14	学習指導案作成 (2)	本時の目標・本時案/学習活動における評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎授業ごとに、A4一枚程度の内容要約を行っておくこと
・学習指導要領の各領域について熟読すること
以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

・『保健体育科教育法』（大修館書店）

・『新版体育科教育入門』（大修館書店）
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【高等学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

・試験 40%
・小レポート・小テスト 30%
・学習指導案 20%
・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

・授業の展開によっては、若干の変更があり得る

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅱ**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1804346
授業コード：M9020

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領	中学校（保健分野）目標
4	学習指導要領 要点(1)	高等学校（科目保健）の目標
5	保健における 各単元内容(1)	ヘルスプロモーションの意義 中学校（4 単元）における 主なねらい・留意点
6	保健における 各単元内容(2)	高等学校（3 単元）における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成(1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成(2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

(文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター)

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 20 %
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

EDU2001A

保健体育科教育法Ⅱ**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：木・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826722
授業コード：M9021

学習指導要領の示す中学校及び高等学校の「保健」の目標・内容・評価等について講述する。また、学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。

【到達目標】

中等教育における保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解し、授業論・指導論を中心とした授業研究及び分析、ICT(PCやタブレット)や教材を活かした保健の授業づくりの基礎的知識について学び、学習指導計画の作成によって「生きる力」の育成並びに個人・社会生活における健康・安全に貢献することのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

「保健」における教授法や指導論などに関する概論を学び、各単元の授業づくりのためのポイントについて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	保健科教育の概念及び必要性	保健科教育とはなにか
2	学校における保健教育	教育課程における位置づけ・歴史
3	学習指導要領	中学校（保健分野）目標
4	学習指導要領 要点(1)	高等学校（科目保健）の目標
5	保健における 各単元内容(1)	ヘルスプロモーションの意義 中学校（4 単元）における 主なねらい・留意点
6	保健における 各単元内容(2)	高等学校（3 単元）における 主なねらい・留意点
7	授業づくり①	学習形態 (効果的な展開方法)
8	授業づくり②	学習過程 (種類と利点・欠点)
9	授業づくり③	学習環境 (実習・実験などを効果的に行うための ICT 活用方法)
10	授業づくり④	学習評価 (テスト作成方法/発問方法)
11	授業づくり⑤	指導計画 (年間・単元・単元時間/ 導入・展開・整理)
12	保健科学習指導の課題	現状と問題点、役割、特質
13	学習指導案作成(1)	単元目標と単元における 評価規準の設定方法
14	学習指導案作成(2)	本時の目標・本時案と 学習活動における 評価規準の設定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎授業ごとに、A4 一枚程度の内容要約を行っておくこと
- ・中学校及び高等学校の保健の教科書を熟読しておくこと
- ・新聞やインターネットなどで、最近の病気、けが、事故や健康にまつわる新しい情報を収集すること
- ・以上について、疑問点がある場合は質問の用意をして臨むこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
【中学校 保健体育】
（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・試験 40 %
- ・小レポート・小テスト 30 %
- ・学習指導案 20 %
- ・授業で求める発言・発表 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・試験のみの評価ではないため、毎回のプリント・レポートや学習指導案作成の取り組み方、授業態度など 1 回 1 回の授業を自分なりに精一杯参加すること

【その他の重要事項】

- ・授業の進展状況によっては、講義内容の若干の変更があり得る

EDU3001A

保健体育科教育法Ⅲ

永木 耕介

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：3～4 年次 / 2 単位

曜日・時限：水・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校・高等学校における体育科教育について、模擬授業を通じた具体的な授業づくりと実践的指導力の養成を目指す。

【到達目標】

学習指導案の作成、評価法等の検討ができるようになるとともに、模擬授業を通して、説明力やコミュニケーション能力の向上等、実践につながる指導力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

①グループによって選択した運動領域について、目標の設定、教材・教具、指導法、評価法等を検討し、単元計画を踏まえた学習指導案の作成を行う。②グループごとで指導案にもとづいた模擬授業を実施し、受講者全員による振り返りによって各模擬授業を評価し合う。それらを踏まえ、最終的に各自が改善した学習指導案を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、成績評価等について説明、グループ分け
2	学習指導案の作成①	各グループによる運動領域の選択、単元目標の設定、単元計画の作成
3	学習指導案の作成②	各グループによる効果的な教材・教具、指導方法、指導形態等の検討
4	模擬授業の準備①	各グループによる模擬授業のシミュレーションと時間計画の練り上げ
5	模擬授業① 「体づくり運動」	グループ①による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
6	模擬授業② 「器械運動」	グループ②による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
7	模擬授業③ 「陸上競技」	グループ③による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
8	模擬授業④ 「水泳」	グループ④による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
9	模擬授業⑤ 「球技」	グループ⑤による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
10	模擬授業⑥ 「武道」	グループ⑥による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
11	模擬授業⑦ 「ダンス」	グループ⑦による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
12	模擬授業⑧ 「体育理論」	グループ⑧による模擬授業の実施。実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
13	模擬授業の振り返り	各グループで模擬授業実施後に調査した授業評価、授業記録等を分析・検討

14 総括

各グループで模擬授業のまとめをプレゼンテーション、グループ間による相互評価、改善指導案の提出（後日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業の準備についてはグループ毎で授業時間外も打ち合わせを必要とする。模擬授業の実施後、グループ毎で授業評価、授業記録等にもとづいた振り返りを行うこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編（東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（東山書房）

中学保健体育（学研）

最新高等保健体育（大修館書店）

【参考書】

体育科教育学入門（大修館書店）

保健体育科教育法（大修館書店）

体育授業を観察評価する（明和出版）

内容学と架橋する保健体育科教育論（晃洋書房）

体育の教材を創る（大修館書店）

楽しい体育理論の授業をつくろう（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

参加状況・態度による平常点（60%）、プレゼンテーション（20%）、レポート点（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も受講生が積極的に参加しながら理解を深めることができる講義を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出については授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

「保健体育科教育法Ⅰ」を履修していること。本授業計画は履修者数や授業展開によって若干の変更があり得る。

管理 ID：
1804347
授業コード：
M9030

EDU3001A

保健体育科教育法Ⅳ**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：春学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：木・3

管理 ID：1804348
授業コード：M9040

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学校及び高等学校「保健」における学習指導要領の示す目標・内容・学習指導計画・学習評価などを踏まえて学習指導案を作成し、模擬授業の経験を通して教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

保健体育科の教科及び科目の目標、学習内容の留意事項、学習評価などを理解した上で、実際に「保健」における学習指導計画の作成及び授業展開を行うことで、教育的実践力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校及び高等学校「保健」において、学習指導要領の示す目標・指導内容・評価などを踏まえて、ICT(PC やタブレット) や教材を活かした保健の授業づくりの基礎知識など保健体育科教育法Ⅱで学んだ内容を発展・具体化して学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。その後、学生同士で互いに評価し振り返りを行い、教師としての資質や態度、責任などを認識・理解する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**春学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の進め方 成績評価 各担当単元の班編成 学習指導案立案手順方法
2	学習指導案作成 (1)	単元目標・単元計画・単元における評価規準の設定方法
3	学習指導案作成 (2)	教材 (実習・実験を行うために必要な ICT 活用、グループワーク、討議法)、指導方法、指導形態の選定
4	模擬授業準備	黒板や教壇、教材を用いた模擬授業のシミュレーション及び学習指導案の修正
5	模擬授業及び省察①	健康の考え方、生活習慣病 (中学校：4 単元 高等学校：1 単元)
6	模擬授業及び省察②	飲酒・喫煙、薬物乱用 (中学校：4 単元 高等学校：1 単元)
7	模擬授業及び省察③	応急手当、心肺蘇生法 (中学校：3 単元 高等学校：1 単元)
8	模擬授業及び省察④	性への関心、性行動 (中学校：1 単元 高等学校：2 単元)
9	模擬授業及び省察⑤	妊娠・出産、結婚生活 (中学校：1 単元 高等学校：2 単元)
10	模擬授業及び省察⑥	労働、加齢 (高等学校：2 単元)
11	模擬授業及び省察⑦	大気汚染、水質汚濁・土壌汚染 (高等学校：3 単元)
12	模擬授業及び省察⑧	ごみ処理・上下水道 (飲料水)、食品安全、環境の取り組み (中学校：2 単元 高等学校：3 単元)
13	模擬授業振り返り	各模擬授業後に課した学生への授業評価記録や録画による分析・検討
14	まとめ	各班における模擬授業反省のプレゼンテーション、振り返りを踏まえた学習指導案の修正作業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学校及び高等学校における学習指導要領及び教科書（保健部分）を熟読し、担当分野の資料を常日頃から収集しておくこと

【テキスト（教科書）】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【参考書】

- ・『保健科教育の基礎』（教育出版）
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【中学校 保健体育】

（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』

【高等学校 保健体育】

（文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案（模擬授業前/振り返り後）40%
- ・模擬授業に対する意欲・態度及び教材の工夫 20%
- ・模擬授業者への授業評価（コメント）20%
- ・模擬授業反省のプレゼンテーション 10%
- ・毎回の授業を受けるにあたっての参加態度 10%

【学生の意見等からの気づき】

- ・模擬授業を行う場合、展開部分はどこがポイントになるのか 明確にして進めること
- ・模擬授業を受ける学生は、毎回の授業者が行う授業より、参考になったこと（良かった点）、改善すべきこと（改善点）を具体的に見つけながら参加すること

【その他の重要事項】

授業の進行状況によっては、内容の若干の変更があり得る

EDU3001A

教育実習（事前指導）

林 園子

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1813477
授業コード：M9120

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方）担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品）担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育）担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境）担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
- ・模擬授業（40%）
- ・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成（20%）
- ・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度（10%）
- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる（×の評価を受けると、次年度の実習が行えない）

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

EDU3001A

教育実習（事前指導）**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次／単位：3～4 年次／単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：1826724
授業コード：M9121

次年度の教育実習に向けて、教育実習の意義や重要性、教師である態度や責任などを認識・理解する。

【到達目標】

教材研究、学習指導案の作成、教壇実習（模擬授業）の実施により、実習に取り組む姿勢を自覚し、基本的な指導方法、指導技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

模擬授業の準備、実施、省察を中心に進める。また、教育実習を経験した4年生から教育実習の様子を伺い、自分の実習をイメージする機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価、出欠等の説明、グループ分け
2	模擬授業準備（指導案作成）	教材研究の進め方 学習指導案作成・用具確認（4年生とともに）
3	模擬授業準備（教壇指導練習）	学習指導案作成 教壇指導練習（4年生とともに）
4	模擬授業1：体育（体づくり運動）及び省察	領域：体づくり運動の担当グループによる模擬授業及び講評
5	模擬授業2：体育（器械運動）及び省察	領域：器械運動の担当グループによる模擬授業及び講評
6	模擬授業3：体育（陸上競技）及び省察	領域：陸上競技の担当グループによる模擬授業及び講評
7	模擬授業4：体育（水泳）及び省察	領域：水泳の担当グループによる模擬授業及び講評
8	模擬授業5：体育（球技）及び省察	領域：球技の担当グループによる模擬授業及び講評
9	模擬授業6：体育（ダンス）及び省察	領域：ダンスの担当グループによる模擬授業及び講評
10	模擬授業7：保健（食事、運動・休養）	保健（主に日常生活の在り方）担当者による模擬授業及び講評
11	模擬授業8：保健（喫煙、飲酒、薬物乱用）	保健（主に嗜好品）担当者による模擬授業及び講評
12	模擬授業9：保健（結婚、妊娠・出産、避妊法）	保健（主に性教育）担当者による模擬授業及び講評
13	模擬授業10：保健（大気汚染、水質汚濁・土壌汚染、環境への取り組み）	保健（主に環境）担当者による模擬授業及び講評
14	模擬授業のまとめ	模擬授業の振り返りと教育実習に向けての取り組みについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習指導案の作成、模擬授業のための準備作業、模擬授業後の評価シート作成、模擬授業を行ってからの学習指導案修正作業

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

- ・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
- ・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
- ・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
- ・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案作成（模擬授業前＋模擬授業後）(30%)
- ・模擬授業（40%）
- ・他学生の模擬授業のリアクションペーパー作成（20%）
- ・4年生からの指導・アドバイスに対する姿勢・態度（10%）
- ・7月のオリエンテーションにて、模擬授業の担当分野（体育・保健）を決めるため参加必須
- ・教育実習事前指導は、○×の評価となる（×の評価を受けると、次年度の実習が行えない）

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業において保健体育科教員として人の前に立つことを体験することで、より体育教師として必要な知識・能力・態度を実感できるような場づくりを提供する

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用します

EDU4001A

教育実習（高）

林 園子

カテゴリ：

開講時期：通年 | 配当年次／単位：4 年次／3 単位

曜日・時限：集中・その他

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育現場に学ぶ

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（2～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

・3 年次事前指導評価（20%）

- ・実習校の指導教員による採点（50%）
- ・事後指導（事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート）(20%)
- ・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート（10%）

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するよう導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断欠席はしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

管理 ID：
1813478授業コード：
M9310

EDU4001A

教育実習（中・高）**林 園子**

カテゴリ：

開講時期：**通年** | 配当年次／単位：**4 年次／5 単位**曜日・時限：**集中・その他****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

教育現場に学ぶ

【到達目標】

教育現場における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②高等学校における現場実習
- ③実習後の反省と総括（次年度実習予定者への助言も含む）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**【授業計画】**

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導（3 年次）	模擬授業を中心に、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につける。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象に現職教員より、教科指導・生活指導に関するアドバイス・諸注意などの指導を受ける。
実習中①	教育実習校におけるオリエンテーション	実習担当教員及び指導教員と実習校の概要や特色、指導方針等の確認、打ち合わせを行う。
実習中②	教育実習（3～4 週間）	・現職の先生方の授業見学 ・学習指導案の作成 ・教壇実習 ・学校行事等のお手伝い ・研究授業（教育実習総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、教科の先生方からの講評・指導）
実習後	事後指導	教育実習の体験を総括し、共有することで、今後教壇に立つための更なる課題を自覚する。 ①実習体験から得たもの、反省点などの振り返り ②次年度教育実習を迎える 3 年生へのアドバイス ③実際に行った授業を改めて模擬授業を行うことによるまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する単元内容の学習指導案作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスにおいて必要に応じて指示する

【参考書】

必要に応じて指示する

【成績評価の方法と基準】

・3 年次事前指導評価（20%）

・実習校の指導教員による採点（50%）

・事後指導（事前指導を受ける 3 年生への指導・サポート）(20%)

・実習日誌、実習後にまとめる実習レポート（10%）

【学生の意見等からの気づき】

事前指導、教育実習、事後指導を通し、最終的に教員として求められているものは何であるのかについて自分なりの考えを確立するように導く。

【その他の重要事項】

定期授業以外でガイダンス等の出席は必須である。無断欠席はしないこと。特に 4 年次で行われる事後指導は不定期であるため、必ずガイダンス・授業日を掲示板などで確認し、教員免許を取得するという自覚を持って出席すること。

管理 ID：1813479

1813479

授業コード：

M9320

EDU4001A

教職実践演習**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：4 年次 / 2 単位

曜日・時限：火・2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、姿勢の理解を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下のことを到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション（人の前に立つこと）の技能向上を目指す

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」

13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は3年生の「教育実習（事前指導）」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

管理 ID：
1813476
授業コード：
M9120

EDU4001A

教職実践演習**林 園子**

カテゴリ：教職講義

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：4 年次 / 2 単位

曜日・時限：金・4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来、中学校及び高等学校の保健体育教員になる上で、自己の課題を把握し、必要に応じて不足している知識、技能、姿勢の理解を補い、その定着を図ることにより 4 年間の大学における教職課程履修の総仕上げを行う。

【到達目標】

「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」について以下のことを到達できるようにする。①教育における使命感や責任感、熱意・愛情について自分の課題を見出す②教員としての社会性や対人関係能力を身につける③生徒理解や学級経営等の問題点を挙げて解決方法を考える④専門教科領域における教材研究・教材作成及び指導力について知識を深める⑤コミュニケーションと発表・プレゼンテーション（人の前に立つこと）の技能向上を目指す

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

演習形式でおこなう。「到達目標」に記された内容を踏まえ、教育実習を通して考えさせられたこと・課題になったことを具体的な議題として挙げ、それらについて討議を行い様々な意見をもとに解決策をみつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・本講義の性格、課題、到達目標の確認 ・進め方、成績評価、出席、グループ分け
2	ディスカッション (起案)	「これからの時代、社会の教職に求められる専門職性」をめぐるテーマ設定を行う
3	ディスカッション (準備)	討議法・テーマに沿った具体的な議題の立案・役割を決める
4	ディスカッション (模擬)	グループ内で模擬討議を行い、円滑に進行できるように組み立てる
5	ディスカッション (保健体育教員)	テーマ：「学校における保健体育科教員の役割」
6	ディスカッション (教科-保健・体育-)	テーマ：「教科の指導力」
7	ディスカッション (安全管理)	テーマ：「生徒に対する責任」
8	ディスカッション (生徒理解)	テーマ：「生徒理解の重要性」
9	ディスカッション (学級経営)	テーマ：「学級崩壊・生徒の進路・学級担任の在り方」
10	ディスカッション (特別活動)	テーマ：「部活動顧問」
11	ディスカッション (社会適応力)	テーマ：「社会的態度の育成」
12	ディスカッション (職務内容)	テーマ：「生徒指導」

13	ディスカッション (対人関係能力)	テーマ：「生徒・保護者・地域住民・他の教員との関わり方」
14	まとめ	ディスカッションの振り返り、最終課題提出に向けての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・7月の事前オリエンテーションへの参加必須
・この科目の一時限前は3年生の「教育実習（事前指導）」になっていることから、その場にも参加することがあるため、できる限り、「教育実習（事前指導）」「教職実践演習」を連続で参加できるようにすること。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

・『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（東山書房）
・『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』（東山書房）
・中学校検定教科書『新中学保健体育』（学研）
・高等学校検定教科書『最新高等保健体育』（大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

・ディスカッション起案と内容等のグループワーク、役割の遂行 (40%)
・討論の参加及びリアクションペーパー作成 (30%)
・最終レポート (30%)

【学生の意見等からの気づき】

4年間の教職課程の講義、介護等体験、教育実習などを通して改めて将来教員になるうえで必要なこと、課題などを討論の中で、クラスの皆で考える場を提供していく

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、プロジェクターを使用する

管理 ID：
1826723
授業コード：
M9121

HSS200IA

野外教育指導論演習（マリン）

井上 尊寛

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：集中 | 配当年次／単位：2～4年次／2単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において我々のライフスタイルは、余暇時間の増大や可処分所得の増加などに伴い、変容および多様化を遂げている。スポーツを受容する人間にとってこのライフスタイルの変化や多様性は、新たなマーケットを創出し、スポーツに対する需要も変容を遂げているといえる。

今後スポーツのさらなる多様化や拡大する重要に対応するためには、競技として確立されているスポーツだけではなく、拡大している身体活動に関する広い見識が求められる。

【到達目標】

本講義及び実習では、野外活動におけるマリンスポーツについて、競技としての野外活動としてだけでなく、自然体験としての活動も視野に入れながら、その特性や意義・役割を提示し、運動学、方法論、指導論に関する講義と実習を行い、その技術と危機管理（身体的、環境的）についても正しい知識を深め、将来、青少年教育に従事する際に必要な実技・知見の習得のみならず、都市化や消費社会において、生活の質的向上の追求や健康および教育的観点からも重要性が増しつつある野外活動を通して、広い見識を持った指導者として活動しうる基盤の養成を目的とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、キャンパスでの講義および現場での実習により構成される。講義では、現代におけるスポーツの意義・役割とマリンスポーツの位置づけを示し、特に自然環境の中で行われる活動としての環境倫理的視点および危機管理に着目した内容で展開する。また、水中・水上の、あるいはそれを利用した活動はただ単に泳ぐだけではなく、環境や利用する道具によって、水辺における活動の幅が広がることを理解し、基本的な水の特性を理解するとともに青少年教育におけるスポーツ体育指導としての在り方を前提とした、水辺および水中の危険性や水中における身体的な状態について物理学、生理学、医学に関する知識を習得することにより、指導を行うための基礎的な知見や経験をつけることも目的とする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	実習における注意点や意義、本講義の内容についての理解を深める
2	講義 1	野外スポーツとしてのマリンスポーツの歴史
3	講義 2	水上および水中での活動環境について
4	講義 3	水辺および水中における身体運動学
5	プール実習 1	シュノーケリングの用具・技術について フィンやマスク、シュノーケルの役割と機能を理解する

6	プール実習 2	スキューバダイビングの機材について ダイビングに必要な機材とそれぞれの役割について理解する
7	プール実習 3	スキューバダイビングの技術について 1 タンクを背負った状態での泳法や水中での活動について理解する
8	プール実習 4	スキューバダイビングの技術について 2 水中でのコミュニケーションや、トラブルの際の対応について理解する
9	現地実習 1 ボードセイリング	機材の役割や、動力となる風と、動く原理について理解を深め、操作技術について学習する
10	現地実習 2 スキューバダイビング	水中で自由に移動する技術の獲得（中性浮力）、さらに、教育的な側面から、指導上のリスクや意義について検討する
11	現地実習 3 シーカヤック	カヤックやパドルの形状や機能、および潮の満ち引きや川の流れ、風との関係についても理解し、自由に操れるような操作技術について学習する
12	現地実習 4 ウェイクボード	器具の役割と、ジェットスキーとの関係についても理解し、水面に立ち、ボードをコントロールするための技術について学習する
13	現地実習 5 スタンドアップパドル	用具の理解や特徴を捉え、自由に海面を進めるような技術について学習する
14	総括	それぞれの種目の特徴やリスクを踏まえ、指導する際の問題点や、教育的な意義について検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて資料を配布する

【テキスト（教科書）】

特に設けない

【参考書】

授業内で適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度、授業内に行う小レポート (30%) や実習参加状況 (40%)、終了後の課題レポート (30%) などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

特になし

HSS200IA

野外教育指導論演習（スノー）

高見 京太

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：集中 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 3 単位

曜日・時限：

旧うか科目名：ウィンタースポーツ指導論（実習）[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウィンタースポーツとして人気の高い、スキーおよびスノーボードを生涯にわたって楽しむことができるための知識と技術を習得するとともに、ウィンタースポーツの指導者として活動できるための基盤を身につける。

【到達目標】

ウィンタースポーツについて、その特性や意義・役割を理解し、方法論、指導論を現場での実習によって行うことにより、ウィンタースポーツの技術と指導及び青少年教育のあり方について学ぶ。

具体的な到達目標としては、①受講者全てがスキーまたはスノーボードを体験し、その素晴らしさ、魅力を体得する。②SAJ（全日本スキー連盟）のバッジテストに基づいた客観的エビデンスを得る。③将来、青少年教育に従事するときに必要な実技・ライフ・マネジメント・ディビジョンマーケティング・リーダーとしての必要な資質と心構えを身につけた指導者を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

2月の第一月曜日から5日間（4泊5日）の日程で、白馬八方尾根スキー場で実施することを想定し、八方尾根スキー学校のインストラクターのサポートを得て行う。受講者は、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択し、レベルに合わせた班編成によって、スキーまたはスノーボードの楽しみ方や安全面も含め、技術の習得をねらう。実習期間中は日誌に実習内容と反省ならびに翌日の目標を記載し、自らの能力向上とスノースポーツキャンプの指導者として活動できる基盤の養成に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	事前学習	スノースポーツの特性を理解し、野外教育活動としてのスキー・スノーボードの役割と実施の仕方を学習する。
2	開講式、1日目午後の実技講習	実習のガイダンス、実習開始時の実技評価を実施する。種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
3	1日目夜の全体講義（スキー・スノーボードの技術）	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
4	2日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
5	2日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
6	2日目夜の種目別講義（スキー・スノーボードの技術）	基本技術のワークショップを行う。
7	3日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。

8	3日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
9	3日目夜の種目別講義（スキー・スノーボードのコンディショニング）	スキー・スノーボード実施時のストレッチ、マッサージについて学ぶ。
10	4日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
11	4日目午後の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
12	4日目夜の全体講義（スキー・スノーボードの技術）	ビデオ映像による実技ワークショップを行う。
13	5日目午前の実技講習	種目および技術別のグループによる実技レッスンをを行う。
14	実技テスト・閉講式	S A J の評価基準に基づいた実技評価を行い、実習開始時からの技術の向上を確認する。また、実習全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間が始まる前に、スキー、スノーボードの図書や映像教材によって技術や理論の理解を深めるとともに、必要な体力を身に付け、万全の体調で実習に望めるようにする。

実習期間中は、毎日、実習日誌への記述を通して、滑走技術や野外教育の指導法などについて振り返りをする。

【テキスト（教科書）】

本授業用に作成したテキストおよび実習日誌を配布する

【参考書】

- ・『スキー教程』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『スキーへの誘い』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）
- ・『資格検定受検者のために』全日本スキー連盟（スキージャーナル社）

【成績評価の方法と基準】

・実習前講義を、正当な理由無く欠席した者はスキー場での実習参加を認めない。したがって、単位の取得はできない。

・事前学習の平常点 (10%)

・実習の平常点 (50%)

・ワークショップの平常点 (20%)

・実技テスト (10%)

・実習日誌 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

現場からの学びを大切にすることを心がける。

管理 ID：
1809228

授業コード：

HSS200IA

体づくり運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実技を通して「体づくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の理解と実践力を習得します。

【到達目標】

様々なねらいに応じた動きの習得に取り組むと共に、帯状学習や単元学習として実践的に指導が出来る能力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいをバランスよく実施します。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開していきます。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の科目としての意義を考え、その必要性と役割を確認していきます。授業の最終段階では、一連の動きを構成し、ねらいに応じた体操の作品づくりにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の歴史とその特性	スウェーデンのリングやドイツのボーデなどを取り上げて、これまでの体操の歴史とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本	テンポよくリズムカルに動くための基礎的な技能を身につける
6	音楽に合わせた動きの発展	様々な曲調の音楽に合わせて、運動を継続するための発展的な技能を身につける
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	用具を組み合わせて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ

12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験（各グループによる演技発表を含む）	これまでに習得した各技能を組み合わせて、演技を発表する
15	1 5 回目は実施しません	1 5 回目は実施しません

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で実施した内容を、自らが指導する立場になったらどのように展開するか、想定して振り返りましょう。体づくり運動の様々な実践例を調べてみましょう。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－、2000

長谷川聖修：これは簡単！表現運動・体づくり運動、学事出版、1996
 高橋健夫編：ビジュアル新しい体育実技、東京書籍、2001

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された体操作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くします。

LANe100IA

総合英語 I (a)

出縄 貴良

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語を訳す際に、何となくで訳したことはありませんか？ 時には、英語の語順を無視して、単語の意味だけをつなげて都合良く訳してしまったことはありませんか？ 訳は解説になってはいけません。正しく英文の構造を理解し、「自然な」日本語に訳せるようになることが目的の一つです。また一文だけで理解するのではなく、文脈から流れを捉えられるようにこころがけましょう。更に、言語の基本は音声ですので、英語の音声と日本語の音声の違いも学びます。

【到達目標】

- ・英文の構造を正しく捉えられる
- ・文脈を理解し、自然な日本語に訳することができる
- ・正しく辞書を引けるようにする
- ・英文を通して文法を復習する
- ・英語音声の基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業中に次回の授業範囲をお伝えします。その範囲を予習して授業に臨んでください。授業ではランダムに指名し、予習範囲を和訳してもらいます。訳だけでなく、文の解釈や文法的なことについても聞くことがあります。訳してもらった後に解説をします。皆さんが授業範囲をしっかりと予習してきているという前提で授業は進みます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方, 必要な学習, 評価方法, 注意事項などについて詳しく説明する。
2	Unit1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	Word Match Getting into details 本文和訳
3	Unit1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	本文和訳 Summary Conversation in Action
4	Unit2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags	Word Match Getting into details 本文和訳
5	Unit2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags	本文和訳 Summary Conversation in Action
6	Unit3 How a Dog Can Improve Your Health	Word Match Getting into details 本文和訳
7	Unit3 How a Dog Can Improve Your Health	本文和訳 Summary Conversation in Action

8	Unit4 The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet	Word Match Getting into details 本文和訳
9	Unit4 The Shoe That Grows: Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet	本文和訳 Summary Conversation in Action
10	Unit5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	Word Match Getting into details 本文和訳
11	Unit5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	本文和訳 Summary Conversation in Action
12	Unit6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	Word Match Getting into details 本文和訳
13	Unit6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	本文和訳 Summary Conversation in Action
14	試験・春学期まとめ	試験 試験解説及び春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定した範囲の英文を読み、丁寧に辞書をひき日本語に訳せるようにしておいてください。場合によっては分からないということもあるでしょうが、ただ分からないとするのではなく、何が分からないのかを明確にしておいてください。

【テキスト (教科書)】

熊井 信弘 / Stephen Timson 『CBS NewsBreak 3』 (成美堂, 2017 年) ¥2,592

【参考書】

特に指定はありませんが、高校で使った参考書は取っておくと役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

・評価の方法
平常点 (予習の有無・授業態度など。出席点はありません。) 40%
春学期試験 60%
授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としません。遅刻や私語や居眠りなどは平常点から減点します。その他、授業を受けるうえで適切でない行為も減点対象です。詳しくは4月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

HSS2001A

器械運動指導論実習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目である、マット・鉄棒・跳び箱・平均台における基礎的な技術を習得します。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要な安全な補助方法を身につけることを目指します。

【到達目標】

教員採用試験の受験課題に合格するための技能を習得します。最終目標は、器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感し、生徒へその楽しさを安全に指導できる力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な4つの器具を用いて、実技の学習をします。

<マット運動>接転系の運動（前後転、倒立前転、後転倒立等）と翻転系の運動（ヘッドスプリング、ハンドスプリング等）の技術を習得します。その後、巧技系の運動も交えて、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

<鉄棒運動>支持回転系と懸垂振動系の基本技術の習得とその発展技に取り組みます。

<跳び箱運動>切り返し系の技と回転系の技の基本的な技術を身につけます。

<平均台運動>歩く、跳ぶ、ターン、バランス、回転等の基本的な技術を習得した後に、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の歴史とその特性	ヤーンがドイツ・ハイゼンハイデで行われた当時の社会的背景と Turnen の歴史的意義を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 翻転系技群の基本技	マット運動における翻転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	鉄棒運動 支持回転系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の習得を目指す
8	鉄棒運動 懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における懸垂振動系の基本技と発展技の習得を目指す
9	跳び箱運動 切り返し系の基本技	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す

10	跳び箱運動 回転系の基本技	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	平均台運動 基本技	平均台運動における歩走系、跳躍系、ターン系基本技の習得を目指す
12	平均台運動 技の組み合わせ	平均台運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
13	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する
15	15 回目は実施しません	15 回目は実施しません

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログン）運動体験を積極的に実践しておいください。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり、大修館書店、2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）、大修館書店、1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり、大修館書店、2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり、大修館書店、2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30% とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、実技テストです。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技術を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

管理 ID：
1809222
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅲ 【2017年度以前入学生】

出縄 貴良

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理 ID：
1826568

授業コード：

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

HSS2001A

体づくり運動指導論演習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
 開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2～4 年次 / 1 単位
 曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実技を通して「体づくり運動」の学習内容である「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の理解と実践力を習得します。

【到達目標】

様々なねらいに応じた動きの習得に取り組むと共に、帯状学習や単元学習として実践的に指導が出来る能力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業では、「体ほぐしの運動」と「体力を高める運動」の二つのねらいをバランスよく実施します。そのため、気付き・調整・交流の観点を大切にしつつ、様々な手具や音楽を用いて、複合的に構成した運動内容を展開していきます。自らの動きの世界を広げていくことで、「体づくり運動」の科目としての意義を考え、その必要性と役割を確認していきます。授業の最終段階では、一連の動きを構成し、ねらいに応じた体操の作品づくりにも取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「体づくり運動」の歴史とその特性	スウェーデンのリングやドイツのボーデなどを取り上げて、これまでの体操の歴史とその特性を理解する
2	学習指導要領における「体づくり運動」の意義	学校体育における体づくり運動の特性を理解した上で、その役割と意義についての洞察を深める
3	「体ほぐしの運動」の実践例（1）	気付き・調整するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
4	「体ほぐしの運動」の実践例（2）	交流するという課題を中心に「体ほぐしの運動」の実践を行う
5	音楽に合わせた動きの基本	テンポよくリズムカルに動くための基礎的な技能を身につける
6	音楽に合わせた動きの発展	様々な曲調の音楽に合わせて、運動を継続するための発展的な技能を身につける
7	手具を用いた動きの基本と発展（1）	体操ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
8	手具を用いた動きの基本と発展（2）	G ボールを用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
9	手具を用いた動きの基本と発展（3）	短縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
10	手具を用いた動きの基本と発展（4）	長縄を用いて、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ
11	手具を用いた動きの基本と発展（5）	用具を組み合わせ、その特性に応じた体づくり運動の基本と発展方法を学ぶ

12	小グループによる指導演習 1	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
13	小グループによる指導演習 2	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する発展的な能力を身につける
14	試験（各グループによる演技発表を含む）	これまでに習得した各技能を組み合わせ、演技を発表する
15	15 回目は実施しません	15 回目は実施しません

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で実施した内容を、自らが指導する立場になったらどのように展開するか、想定して振り返りましょう。体づくり運動の様々な実践例を調べてみましょう。

【テキスト（教科書）】

新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい体づくり運動の授業づくり、大修館書店、2009

【参考書】

文部省 学校体育実技指導資料第 7 集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－、2000

長谷川聖修：これは簡単！表現運動・体づくり運動、学事出版、1996
 高橋健夫編：ビジュアル新しい体育実技、東京書籍、2001

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、一連の動きで構成された体操作品（グループワーク）の発表です。作品への取り組みや発表態度、作品の創意・工夫を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一定のねらいに応じて運動内容を構成するので、単に運動内容を学習するだけでなく、学習者自身も運動内容を創意工夫する場面を多くします。

LANe100IA

総合英語 I (b)

出縄 貴良

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：1 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語を訳す際に、何となくで訳したことはありませんか？ 時には、英語の語順を無視して、単語の意味だけをつなげて都合良く訳してしまっことはありますか？ 訳は解説になってはいけません。正しく英文の構造を理解し、「自然な」日本語に訳せるようになることが目的の一つです。また一文だけで理解するのではなく、文脈から流れを捉えられるようにこころがけましょう。更に、言語の基本は音声ですので、英語の音声と日本語の音声の違いも学びます。

【到達目標】

- ・英文の構造を正しく捉えられる
- ・文脈を理解し、自然な日本語に訳することができる
- ・正しく辞書を引けるようにする
- ・英文を通して文法を復習する
- ・英語音声の基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業中に次回の授業範囲をお伝えします。その範囲を予習して授業に臨んでください。授業ではランダムに指名し、予習範囲を和訳してもらいます。訳だけでなく、文の解釈や文法的なことについても聞くことがあります。訳してもらった後に解説をします。皆さんが授業範囲をしっかりと予習してきているという前提で授業は進みます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と進め方、必要な学習、評価方法、注意事項などについて詳しく説明する。
2	Unit7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	Listen to the Dialogue Write and Speak!
3	Unit7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
4	Unit8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search	Listen to the Dialogue Write and Speak!
5	Unit8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
6	Unit9 Is Sitting the New Smoking?	Listen to the Dialogue Write and Speak!
7	Unit9 Is Sitting the New Smoking?	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
8	Unit10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze	Listen to the Dialogue Write and Speak!

9	Unit10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
10	Unit11 Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers	Listen to the Dialogue Write and Speak!
11	Unit11 Daddy Duty: Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
12	Unit12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	Listen to the Dialogue Write and Speak!
13	Unit12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
14	試験・秋学期まとめ	試験 試験解説及び秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定した範囲の英文を読み、丁寧に辞書をひき日本語に訳せるようにしておいてください。場合によっては分からないということもあるでしょうが、ただ分からないとするのではなく、何が分からないのかを明確にしておいてください。

【テキスト (教科書)】

熊井 信弘 / Stephen Timson 『CBS NewsBreak 3』 (成美堂, 2017 年) ¥2,592

【参考書】

特に指定はありませんが、高校で使った参考書は取っておくと役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

・評価の方法
平常点 (予習の有無・授業態度など。出席点はありせん。) 40%
秋学期試験 60%

授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としません。遅刻や私語や居眠りなどは平常点から減点します。その他、授業を受けるうえで適切でない行為も減点対象です。詳しくは9月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

管理 ID:
1804269

授業コード:

HSS2001A

器械運動指導論演習

高橋 靖彦

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2~4 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

器械運動の種目である、マット・鉄棒・跳び箱・平均台における基礎的な技術を習得します。加えて、各種目の特性を理解しつつ、各技の段階的な教授法と技の習得の際に必要な安全な補助方法を身につけることを目指します。

【到達目標】

教員採用試験の受験課題に合格するための技能を習得します。最終目標は、器械運動の有する非日常的な身体動作の楽しさを体感し、生徒へその楽しさを安全に指導できる力を身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の概要

器械運動の主要な4つの器具を用いて、実技の学習をします。

<マット運動>接転系の運動（前後転、倒立前転、後転倒立等）と翻転系の運動（ヘッドスプリング、ハンドスプリング等）の技術を習得します。その後、巧技系の運動も交えて、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

<鉄棒運動>支持回転系と懸垂振動系の基本技術の習得とその発展技に取り組みます。

<跳び箱運動>切り返し系の技と回転系の技の基本的な技術を身につけます。

<平均台運動>歩く、跳ぶ、ターン、バランス、回転等の基本的な技術を習得した後に、技を組み合わせ、一連の動きとして構成する方法を学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「器械運動」の歴史とその特性	ヤーンがドイツ・ハイゼンハイデで行われた当時の社会的背景とTurnenの歴史的意義を理解する
2	学習指導要領における器械運動の意義	体操競技と器械運動の違いを理解する
3	マット運動 接転系技群の基本技	マット運動における接転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
4	マット運動 翻転系技群の基本技	マット運動における翻転系技群の特性を理解するとともに、基本的な技の習得を目指す
5	マット運動 技の組み合わせ 1	マット運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
6	マット運動 技の組み合わせ 2	マット運動における技の組み合わせの方法と発展的な技の習得を目指す
7	鉄棒運動 支持回転系の基本技と発展技	鉄棒運動における支持回転系の基本技と発展技の習得を目指す
8	鉄棒運動 懸垂振動系の基本技と発展技	鉄棒運動における懸垂振動系の基本技と発展技の習得を目指す
9	跳び箱運動 切り返し系の基本技	跳び箱運動における切り返し系の基本技の習得を目指す

10	跳び箱運動 回転系の基本技	跳び箱運動における回転系の基本技の習得を目指す
11	平均台運動 基本技	平均台運動における歩走系、跳躍系、ターン系基本技の習得を目指す
12	平均台運動 技の組み合わせ	平均台運動における技の組み合わせの方法と基本的な技の習得を目指す
13	小グループによる指導演習	これまで習得した各技能を小グループで相互に指導することで、指導方法に関する基礎的な能力を身につける
14	試験（実技テスト）	教員採用試験で実施されている器械運動の課題を試験する
15	15 回目は実施しません	15 回目は実施しません

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

倒立運動など、特に用具を使わなくとも可能な器械運動と類縁性のある（アナログン）運動体験を積極的に実践しておいて下さい。

【テキスト（教科書）】

文部科学省 動画サイト

<http://www.youtube.com/playlist?list=PLC97AFF40C4281B24>

【参考書】

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しいマット運動の授業づくり、大修館書店、2008

金子明友：教師のための器械運動指導法シリーズ（マット運動、跳び箱、平均台、鉄棒運動）、大修館書店、1984

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい跳び箱運動の授業づくり、大修館書店、2009

高橋健夫他 共著：体育科教育別冊 新学習指導要領準拠 新しい鉄棒運動の授業づくり、大修館書店、2009

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、試験（実技テスト）結果を 30%とします。平常点は、主に授業での取り組みを評価します。加えて、随時設定をした課題の達成度も評価の対象とします。試験は、実技テストです。

【学生の意見等からの気づき】

学習者が各学習課題の技術を習得するだけでなく、よりグループ学習の機会を増やして、他の学習者を支援・指導できる場面を増やしていきたい。

管理 ID：
1804325
授業コード：

LANe200IA

総合英語Ⅲ (b)

出縄 貴良

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：秋学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語を訳す際に、何となくで訳したことはありませんか？ 時には、英語の語順を無視して、単語の意味だけをつなげて都合良く訳してしまっことはありますか？ 訳は解説になってはいけません。正しく英文の構造を理解し、「自然な」日本語に訳せるようになることが目的の一つです。また一文だけで理解するのではなく、文脈から流れを捉えられるようにここがけましょう。

【到達目標】

- ・英文の構造を正しく捉えられる
- ・文脈を理解し、自然な日本語に訳すことができる
- ・正しく辞書を引けるようにする
- ・英文を通して文法を復習する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業中に次回の授業範囲をお伝えします。その範囲を予習して授業に臨んでください。授業ではランダムに指名し、予習範囲を和訳してもらいます。訳だけでなく、文の解釈や文法的なことについても聞くことがあります。訳してもらった後に解説をします。皆さんが授業範囲をしっかりと予習してきているという前提で授業は進みます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit8 Ghost Goals 幻のゴールと白熱する議論	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
2	Unit8 Ghost Goals 幻のゴールと白熱する議論	Listen to the Dialogue Write and Speak!
3	Unit9 Rituals and Superstitions ゲンを担いでもう 1 勝!	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
4	Unit9 Rituals and Superstitions ゲンを担いでもう 1 勝!	Listen to the Dialogue Write and Speak!
5	Unit10 The Cutting Edge 剣の最先端に歴史を見よ	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
6	Unit10 The Cutting Edge 剣の最先端に歴史を見よ	Listen to the Dialogue Write and Speak!
7	Unit11 Match-Fixing 賭け事と八百長問題	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
8	Unit11 Match-Fixing 賭け事と八百長問題	Listen to the Dialogue Write and Speak!

9	Unit12 Heroes Inspire Heroes 名声を活かして	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
10	Unit12 Heroes Inspire Heroes 名声を活かして	Listen to the Dialogue Write and Speak!
11	Unit13 Peach Baskets 冬に生まれた人気屋内競技	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
12	Unit13 Peach Baskets 冬に生まれた人気屋内競技	Listen to the Dialogue Write and Speak!
13	Unit14 Mandela's Miracle 南アフリカを変えたスポーツの力	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
14	試験・秋学期まとめ	試験 試験解説及び秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定した範囲の英文を読み、丁寧に辞書をひき日本語に訳せるようにしておいてください。場合によっては分からないということもあるでしょうが、ただ分からないとするのではなく、何が分からないのかを明確にしておいてください。

【テキスト (教科書)】

Spotlight on Sports. Anthony Allan 他. 金星堂. 2016 年. 1900 円 (税別)

【参考書】

特に指定はありませんが、高校で使った参考書は取っておくと役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

・評価の方法
平常点 (予習の有無・授業態度など。出席点はありません。) 40%
春学期 60%

授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としません。遅刻や私語や居眠りなどは平常点から減点します。その他、授業を受けるうえで適切でない行為も減点対象です。詳しくは9月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

管理 ID:
1804295

授業コード:

LANe100IA

総合英語 I 【2017 年度以前入学生】

出縄 貴良

サブタイトル：(6)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：通年 | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

管理 ID：
1826556

授業コード：

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)
の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【テキスト (教科書)】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

LANe200IA

総合英語Ⅲ (a)

出縄 貴良

サブタイトル：(4)

カテゴリ：外国語科目・語学

開講時期：春学期 | 配当年次/単位：2 年次 / 1 単位

曜日・時限：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語を訳す際に、何となくで訳したことはありませんか？ 時には、英語の語順を無視して、単語の意味だけをつなげて都合良く訳してしまったことはありませんか？ 訳は解説になってはいけません。正しく英文の構造を理解し、「自然な」日本語に訳せるようになることが目的の一つです。また一文だけで理解するのではなく、文脈から流れを捉えられるようにこころがけましょう。

【到達目標】

- ・英文の構造を正しく捉えられる
- ・文脈を理解し、自然な日本語に訳すことができる
- ・正しく辞書を引けるようにする
- ・英文を通して文法を復習する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業中に次回の授業範囲をお伝えします。その範囲を予習して授業に臨んでください。授業ではランダムに指名し、予習範囲を和訳してもらいます。訳だけでなく、文の解釈や文法的なことについても聞くことがあります。訳してもらった後に解説をします。皆さんが授業範囲をしっかりと予習してきているという前提で授業は進みます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit1 The Long Wait 聖地が待ちわびた勝利	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
2	Unit1 The Long Wait 聖地が待ちわびた勝利	Listen to the Dialogue Write and Speak!
3	Unit2 Olympic Volunteers 世界が東京にやってくる	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
4	Unit2 Olympic Volunteers 世界が東京にやってくる	Listen to the Dialogue Write and Speak!
5	Unit3 Male Sports? Female Sports? 男女の垣根を越えて	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
6	Unit3 Male Sports? Female Sports? 男女の垣根を越えて	Listen to the Dialogue Write and Speak!
7	Unit4 Competition スポーツだけにあらず、競争の原理	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
8	Unit4 Competition スポーツだけにあらず、競争の原理	Listen to the Dialogue Write and Speak!

9	Unit5 A Glamorous Life? けがと背中合わせの栄光	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
10	Unit5 A Glamorous Life? けがと背中合わせの栄光	Listen to the Dialogue Write and Speak!
11	Unit6 Energy Drinks スポーツドリンクで勝利をつかめ	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
12	Unit6 Energy Drinks スポーツドリンクで勝利をつかめ	Listen to the Dialogue Write and Speak!
13	Unit7 Helping Your Opponent 勝者の定義	Vocabulary Quiz Pre-reading Preparation Reading
14	試験・春学期まとめ	試験 試験解説及び春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定した範囲の英文を読み、丁寧に辞書をひき日本語に訳せるようにしておいてください。場合によっては分からないということもあるでしょうが、ただ分からないとするのではなく、何が分からないのかを明確にしておいてください。

【テキスト (教科書)】

Spotlight on Sports. Anthony Allan 他. 金星堂. 2016 年. 1900 円 (税別)

【参考書】

特に指定はありませんが、高校で使った参考書は取っておくと役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

・評価の方法
平常点 (予習の有無・授業態度など。出席点はありません。) 40%
春学期 60%
授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としません。遅刻や私語や居眠りなどは平常点から減点します。その他、授業を受けるうえで適切でない行為も減点対象です。詳しくは4月初回の授業で説明しますので必ず出席してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

管理 ID:
1804288

授業コード: